

豊中市第六次障害者長期計画及び
第7期豊中市障害福祉計画・
第3期豊中市障害児福祉計画策定に
向けた市民アンケート調査
報告書

令和5年（2023年）3月

豊中市

目次

I	調査の実施概要	1
II	調査の結果概要	4
1	回答者の属性	4
2	政策指標に関わる状況	6
3	長期計画の施策に関わる状況	9
III	調査の結果の詳細	83
1.	あなたやご家族について	83
2.	あなたの生活環境について	86
3.	情報の入手と相談について	105
4.	療育・教育について	124
5.	災害など緊急時の対応について	129
6.	障害や難病のある人の人権・理解促進について	132
7.	学校等教育現場での障害理解や合理的配慮について	147
8.	福祉サービスについて	148
9.	将来の暮らしについて	161
10.	障害や難病のある人に対する意識、かかわりについて	172

I 調査の実施概要

1 調査の目的・対象・方法・期間

調査目的	令和6年度（2024年度）～令和11年度（2029年度）を計画期間とする『豊中市第六次障害者長期計画』、令和6年度（2024年度）～令和8年度（2026年度）を計画期間とする『第7期豊中市障害福祉計画・第3期豊中市障害児福祉計画』策定にあたり、市内障害児者の状況やニーズを把握するために行うもの。	
調査対象	調査① 18歳以上の障害福祉サービス利用者	1,500人
	調査② 18歳以上の障害福祉サービス未利用者	1,000人
	調査③ 18歳未満の障害のある市民	500人
	調査④ 18歳以上の障害のない市民	1,000人
	調査⑤ 施設入所者	230人
	調査⑥ 通所支援受給者証を持つ児童	499人
調査方法	郵送による配布・回収（礼状兼督促1回） インターネットによる回答を併用	
調査期間	令和4年8月9日～8月30日	

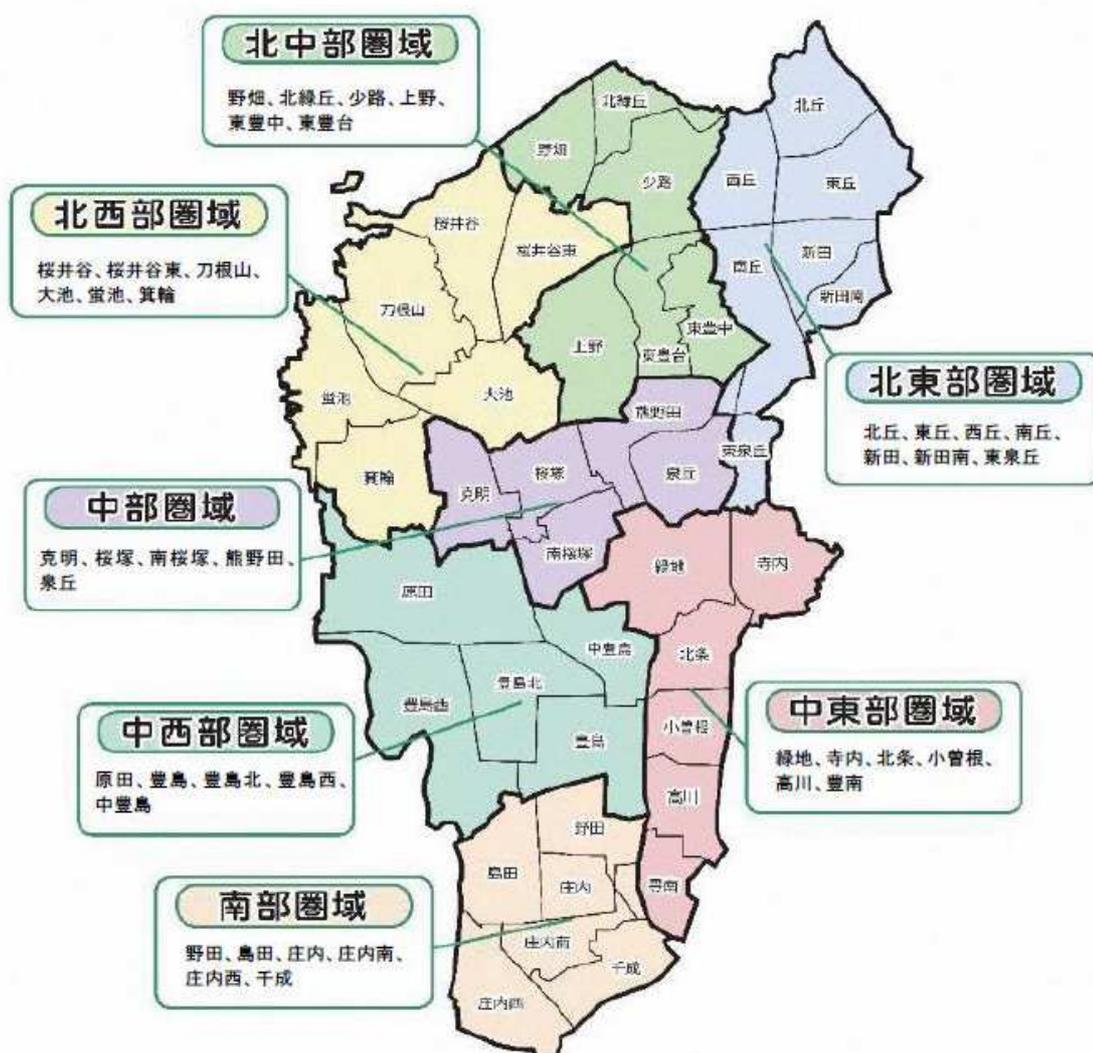
2 回収状況

	有効回答数	有効回答率
調査① 18歳以上の障害福祉サービス利用者	745人(内、Web回答103人)	49.7%
調査② 18歳以上の障害福祉サービス未利用者	522人(内、Web回答63人)	52.2%
調査③ 18歳未満の障害のある市民	262人(内、Web回答96人)	52.4%
調査④ 18歳以上の障害のない市民	427人(内、Web回答138人)	42.7%
調査⑤ 施設入所者	142人(内、Web回答18人)	61.7%
調査⑥ 通所支援受給者証を持つ児童	266人(内、Web回答114人)	53.3%

3 調査結果を見る上での留意点

- 回答は、各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答を求めた質問では、回答者数の合計は全体を超え、合計回答比率の合計も100.0%を超えます。
- 属性別のクロス集計分析におけるサンプル誤差は、50サンプルで最大13.9%、30サンプルで最大17.9%発生します。この誤差を考慮して、30サンプル未満については参考値として扱います。
- グラフにおける「n」(number of case)は、設問に対する有効回答数を意味します。
- 居住地別のクロス集計は「日常生活圏域」単位で比較を行っています。

「日常生活圏域」とは、一人ひとりが安心して生活を継続できるよう住み慣れた身近な地域のことです。本市においては、7つの日常生活圏域を設定しています。(図参照)日常生活圏域の設定にあたっては、小学校区を単位とした活動が活発であるため、小学校区を基準単位とし、地域の特性や民生・児童委員の地域割り等を考慮して設定しています。



- 本調査における「障害」とは、障害者基本法及び障害者総合支援法の定義に従い、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、その他の心身の機能の障害（政令で定める難病等による障害を含む）をさすものとし、「障害者」（障害のある人）とは、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活、社会生活に相当な制限を受ける状態にある人をさすものとしします。
- 行政施策上の対象としての「難病」とは、「難病患者に対する医療等に関する法律」により、①発病の機構が明らかでなく、②治療方法が確立していない、③希少な疾病であって、④長期の療養を必要とするものと定義づけられています。

表記について

以下の用語について、本文や図表では便宜的に簡略化して、以下に示す用語で表記することがあります。

- 18歳以上の障害福祉サービス利用者 ： 「サービス利用者」
- 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 ： 「サービス未利用者」
- 18歳未満の障害のある市民 ： 「障害児」
- 18歳以上の障害のない市民 ： 「障害のない市民」
- 施設入所者 ： 「施設入所者」
- 通所支援受給者証を持つ児童 ： 「通所支援受給者証を持つ児童」

II 調査の結果概要

1 回答者の属性

1. 回答者、年齢、障害種別、住まい、その他

- 手帳の種別や診断名をみると、サービス利用者では知的障害（療育手帳）が45.3%、サービス未利用者では身体障害が65.7%、障害児では知的障害が77.5%、施設入所者では知的障害が85.9%で最も高くなっています。
- 日常生活で介助や支援を必要とする人は、サービス利用者では67.6%、障害児では82.9%、通所支援受給者証を持つ児童では77.8%を占めています。一方、サービス未利用者では34.4%となっています。
- 施設入所者の71.8%が5年以上入所しています。

	18歳以上の障害のある市民				18歳未満の障害のある市民	
	サービス利用者 (有効回答数=745)		サービス未利用者 (有効回答数=522)		18歳未満の障害のある市民 (有効回答数=262)	
回答者	本人 48.5%	家族 43.5%	本人 74.9%	家族 20.0%	本人 2.7%	家族 94.7%
手帳の種別や 診断名 〔複数回答〕	身体障害者手帳 37.4%	療育手帳 45.3%	精神障害者保健福祉手帳 33.1%	難病(特定疾患) 5.8%	発達障害 12.3%	高次脳機能障害 2.3%
	身体障害者手帳 65.7%	療育手帳 4.6%	精神障害者保健福祉手帳 12.5%	難病(特定疾患) 17.4%	発達障害 3.1%	高次脳機能障害 1.7%
	身体障害者手帳 24.7%	療育手帳 77.5%	精神障害者保健福祉手帳 10.0%	難病(特定疾患) 11.5%	発達障害 33.2%	高次脳機能障害 0.4%
住まい	自宅で家族と一緒に 63.0%	自宅で一人暮らし 24.4%	自宅で家族と一緒に 69.3%	自宅で一人暮らし 22.0%	自宅で家族と一緒に 97.7%	自宅で一人暮らし 0.4%
その他	介助や支援を必要とする人 67.6%		介助や支援を必要とする人 34.4%		介助や支援を必要とする人 82.9%	

	施設入所者 (有効回答数=142)	通所支援受給者証を持つ児童 (有効回答数=266)
回答者	本人 2.1% 家族 8.5% 職員 46.5%	本人 2.6% 家族 95.9%
手帳の種別や 診断名 〔複数回答〕	身体障害者手帳 29.5%	
	療育手帳 85.9%	
	精神障害者保健福祉手帳 5.6%	
	難病(特定疾患) 0.7%	
	発達障害 11.3%	
	高次脳機能障害 0.0%	
その他	入所年数	介助や支援を必要とする人 77.8%
	5年未満 25.3%	
	5~20年未満 34.5%	
	20年以上 37.3%	

	18歳以上の障害のない市民 (有効回答数=427)
性別	男性 41.9% 女性 56.4% その他 0.2%
職業	就業者 65.5% 学生 0.9%
	家事専業 6.8% 無職 23.7%

2. 介助・支援を必要とする人の介護・支援状況

- 主に介助・支援をしてくれる人は18歳以上のサービス利用者では父や母が61.1%で最も多く、サービス未利用者では子ども・子どもの配偶者・孫が45.1%が最も多くなっています。
- 主に介助・支援をしてくれる人の年齢は65歳以上が18歳以上のサービス利用者で35.4%、サービス未利用者で50.0%を占めており、健康状態についても、いずれも30%以上が通院中としています。

	18歳以上の障害のある市民				18歳未満の障害のある市民 (有効回答数=262)	
	サービス利用者 (有効回答数=745)		サービス未利用者 (有効回答数=522)			
介助・支援を受けている時間	1時間未満	18.9%	1時間未満	33.5%	1時間未満	15.0%
	1時間～3時間未満	26.8%	1時間～3時間未満	22.6%	1時間～3時間未満	18.3%
	3時間～6時間未満	17.5%	3時間～6時間未満	11.0%	3時間～6時間未満	23.0%
	6時間～12時間未満	8.2%	6時間～12時間未満	4.3%	6時間～12時間未満	15.5%
	12時間以上	13.9%	12時間以上	3.0%	12時間以上	24.4%
	介助や支援は受けていない	6.8%	介助や支援は受けていない	12.8%	介助や支援は受けていない	1.9%
主に介助・支援をしてくれる人	父や母	61.1%	父や母	17.7%	父や母	98.6%
	きょうだい	24.8%	きょうだい	9.8%	きょうだい	37.1%
	祖父母	3.9%	祖父母	1.2%	祖父母	24.4%
	配偶者・パートナー	13.2%	配偶者・パートナー	40.9%	その他の親族	3.3%
	子ども・子どもの配偶者・孫	8.0%	子ども・子どもの配偶者・孫	45.1%	友人・知人・近所の人	2.3%
	その他の親族	2.7%	その他の親族	1.2%	ボランティア	0.5%
	友人・知人・近所の人	6.1%	友人・知人・近所の人	10.4%		
ボランティア	4.8%	ボランティア	0.6%			
主に介助・支援をしてくれる人の年齢	18歳以上40歳未満	3.4%	18歳未満	0.6%	18歳未満	0.5%
	40歳以上65歳未満	50.5%	18歳以上40歳未満	1.8%	18歳以上40歳未満	27.7%
	65歳以上75歳未満	19.3%	40歳以上65歳未満	35.4%	40歳以上65歳未満	70.0%
	75歳以上	16.1%	65歳以上75歳未満	25.6%	65歳以上75歳未満	0.0%
			75歳以上	24.4%	75歳以上	0.5%
主に介助・支援をしてくれる人の健康状態	特に問題はない	46.8%	特に問題はない	39.0%	特に問題はない	74.2%
	通院していないが体調がすぐれない	7.3%	通院していないが体調がすぐれない	7.3%	通院していないが体調がすぐれない	6.1%
	通院中	32.3%	通院中	39.0%	通院中	17.8%
主に介助・支援をしてくれる人の介護状況	している	24.8%	している	13.4%	している	14.6%
	していない	63.9%	していない	71.3%	していない	84.0%
主に介助・支援をしてくれる人の就労状況	働いている	37.5%	働いている	36.0%	働いている	54.5%
	働いていない	48.6%	働いていない	47.6%	働いていない	44.1%

	通所支援受給者証を持つ児童 (有効回答数=266)	
介助・支援を受けている時間	1時間未満	26.6%
	1時間～3時間未満	32.4%
	3時間～6時間未満	17.9%
	6時間～12時間未満	9.7%
	12時間以上	9.2%
主に介助・支援をしてくれる人	父や母	99.0%
主に介助・支援をしてくれる人の年齢	18歳未満	0.5%
	18歳以上40歳未満	41.1%
主に介助・支援をしてくれる人の健康状態	40歳以上65歳未満	57.0%
	特に問題はない	73.4%
	通院していないが体調がすぐれない	11.1%
主に介助・支援をしてくれる人の介護状況	通院中	13.5%
	している	5.8%
主に介助・支援をしてくれる人の就労状況	していない	92.3%
	働いている	50.7%
	働いていない	47.8%

2 政策指標に関わる状況

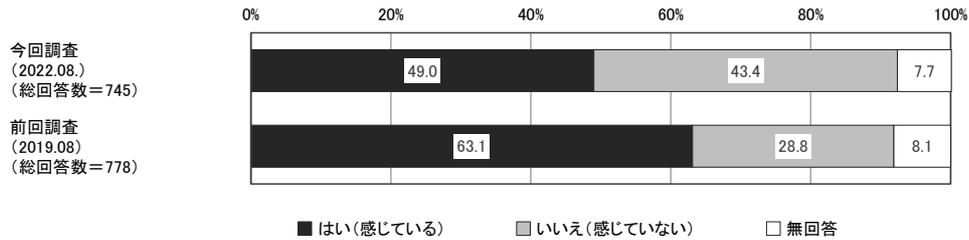
(1) ライフスタイルに応じた生活ができているか

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者の49.0%がライフスタイルに応じた生活ができていると感じていますが、ライフスタイルに応じた生活ができていると感じている比率は前回調査から14.1ポイント低下しています。

回答者別でみると、回答者本人では感じている比率が53.8%であるのに対し、本人以外では37.9%と本人と周囲の人による実感の違いが見られます。

年齢別でみると、65歳以上は感じているが高くなっています。



問 17. あなたは、障害や難病があっても、ライフスタイルに応じた生活ができると感じていますか。		サンプル数	はい(感じている)	いいえ(感じていない)	無回答
全 体		745	49.0	43.4	7.7
回答者別	本人	424	53.8	40.1	6.1
	本人以外	261	37.9	53.3	8.8
性別	男性	421	49.2	43.9	6.9
	女性	313	48.6	43.1	8.3
居住地別	北東部圏域	79	44.3	50.6	5.1
	北中部圏域	91	44.0	48.4	7.7
	北西部圏域	118	46.6	44.1	9.3
	中部圏域	106	45.3	46.2	8.5
	中東部圏域	88	55.7	35.2	9.1
	中西部圏域	96	51.0	39.6	9.4
	南部圏域	121	52.9	42.1	5.0
年齢別	18～39歳	254	50.4	44.9	4.7
	40～64歳	383	43.6	46.7	9.7
	65歳以上	99	65.7	28.3	6.1
障害種別	身体障害	274	46.0	45.3	8.8
	知的障害	337	45.7	45.1	9.2
	精神障害	247	49.8	44.9	5.3
	難病	43	55.8	44.2	-
	発達障害	92	41.3	53.3	5.4
	高次脳機能障害	17	47.1	41.2	11.8
身障種別	視覚障害	46	52.2	39.1	8.7
	聴覚障害・平衡機能障害	23	30.4	60.9	8.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	48	29.2	54.2	16.7
	肢体不自由	168	48.2	43.5	8.3
	内部障害	19	52.6	42.1	5.3

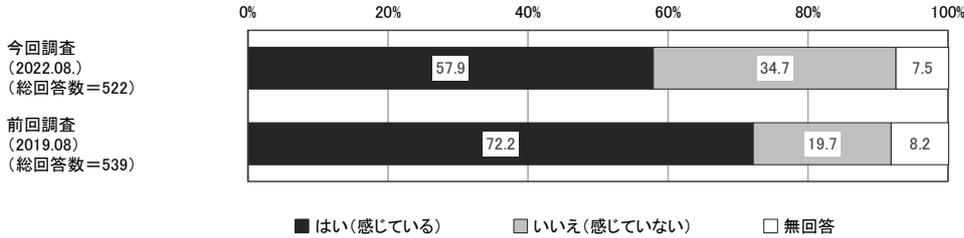
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者の57.9%がライフスタイルに応じた生活ができていると感じていますが、ライフスタイルに応じた生活ができていると感じている比率は前回調査から14.3ポイント低下しています。

回答者別でみると、回答者本人では感じている比率が62.3%であるのに対し、本人以外の回答では38.5%と差がみられ、未利用者においても本人と家族による実感の違いがみられます。



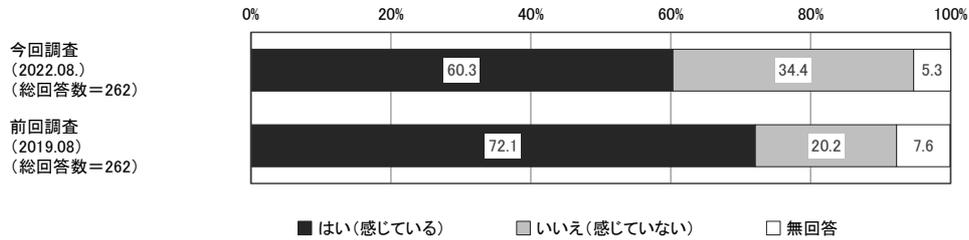
問 16. あなたは、障害や難病があっても、ライフスタイルに応じた生活ができていると感じていますか。		サンプル数	はい (感じている)	いいえ (感じていない)	無回答
全 体		522	57.9	34.7	7.5
回答者別	本人	430	62.3	31.9	5.8
	本人以外	65	38.5	47.7	13.8
性別	男性	238	56.7	36.6	6.7
	女性	277	59.6	32.5	7.9
居住地別	北東部圏域	68	63.2	26.5	10.3
	北中部圏域	80	68.8	28.8	2.5
	北西部圏域	89	51.7	43.8	4.5
	中部圏域	60	60.0	35.0	5.0
	中東部圏域	58	50.0	37.9	12.1
	中西部圏域	66	53.0	34.8	12.1
	南部圏域	78	56.4	35.9	7.7
年齢別	18～39歳	39	66.7	30.8	2.6
	40～64歳	143	62.9	31.5	5.6
	65歳以上	334	55.1	35.9	9.0
障害種別	身体障害	339	56.0	36.0	8.0
	知的障害	24	54.2	37.5	8.3
	精神障害	65	52.3	38.5	9.2
	難病	91	65.9	31.9	2.2
	発達障害	16	43.8	56.3	-
	高次脳機能障害	9	44.4	55.6	-
身障種別	視覚障害	22	40.9	40.9	18.2
	聴覚障害・平衡機能障害	44	50.0	40.9	9.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	50.0	40.0	10.0
	肢体不自由	149	55.7	36.9	7.4
	内部障害	112	61.6	35.7	2.7

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位: %

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児の60.3%がライフスタイルに応じた生活ができていると感じていますが、ライフスタイルに応じた生活ができていると感じている比率は前回調査から11.8ポイント低下しています。

障害種別でみると、身体障害のある人、難病のある人はライフスタイルに応じた生活ができていると感じている比率が高くなっています。



問 15. あなたは、障害や難病があっても、ライフスタイルに応じた生活ができると感じていますか。		サンプル数	はい (感じている)	いいえ (感じていない)	無回答
全 体		262	60.3	34.4	5.3
回答者別	本人	47	61.7	36.2	2.1
	本人以外	208	60.6	33.7	5.8
性別	男性	167	58.1	34.7	7.2
	女性	91	65.9	33.0	1.1
居住地別	北東部圏域	41	58.5	41.5	-
	北中部圏域	45	64.4	26.7	8.9
	北西部圏域	43	55.8	41.9	2.3
	中部圏域	33	63.6	27.3	9.1
	中東部圏域	27	63.0	29.6	7.4
	中西部圏域	30	70.0	23.3	6.7
	南部圏域	26	50.0	46.2	3.8
年齢別	0～4歳	26	65.4	34.6	-
	5～9歳	78	53.8	39.7	6.4
	10～14歳	97	64.9	27.8	7.2
	15～17歳	57	61.4	36.8	1.8
障害種別	身体障害	63	71.4	23.8	4.8
	知的障害	203	56.7	37.9	5.4
	精神障害	26	57.7	30.8	11.5
	難病	30	73.3	20.0	6.7
	発達障害	87	55.2	43.7	1.1
	高次脳機能障害	1	-	100.0	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位:%

3 長期計画の施策に関わる状況

(1) 相談支援

1. 家族・親戚以外への相談状況

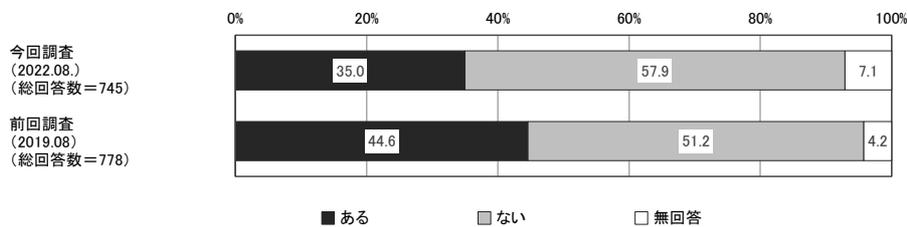
18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者のうち、家族・親戚や日ごろ通う場所以外に相談をしたことが「ある」のは、35.0%で、前回調査と比べると9.6ポイント低下しています。

居住地別でみると、北東部圏域、北西部圏域、中東部圏域では「ない」が全体と比べてやや高くなっています。

年齢別でみると、18～39歳では「ない」が63.0%で、40歳以上と比べてやや高くなっています。

障害種別でみると、精神障害のある人、発達障害のある人は40%以上が相談しており、全体と比べて高い一方で、身体障害のある人、知的障害のある人は「ない」が60%以上と他の障害と比べて高くなっています。



問 28. 困ったことや心配に思っていることを、家族や親戚、日ごろ通う場所（職場や学校、通所施設など）以外の人に相談したことがありますか。		サンプル数	ある	ない	無回答
全 体		745	35.0	57.9	7.1
居住地別	北東部圏域	79	29.1	63.3	7.6
	北中部圏域	91	33.0	62.6	4.4
	北西部圏域	118	31.4	63.6	5.1
	中部圏域	106	40.6	47.2	12.3
	中東部圏域	88	27.3	65.9	6.8
	中西部圏域	96	43.8	50.0	6.3
	南部圏域	121	33.9	58.7	7.4
年齢別	18～39歳	254	32.3	63.0	4.7
	40～64歳	383	37.3	55.4	7.3
	65歳以上	99	33.3	56.6	10.1
障害種別	身体障害	274	27.7	63.1	9.1
	知的障害	337	28.8	65.3	5.9
	精神障害	247	47.4	47.0	5.7
	難病	43	34.9	58.1	7.0
	発達障害	92	44.6	50.0	5.4
	高次脳機能障害	17	47.1	47.1	5.9
	内部障害	19	47.4	52.6	-
身障種別	視覚障害	46	19.6	67.4	13.0
	聴覚障害・平衡機能障害	23	47.8	43.5	8.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	48	22.9	60.4	16.7
	肢体不自由	168	29.2	63.7	7.1
	内部障害	19	47.4	52.6	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位:%

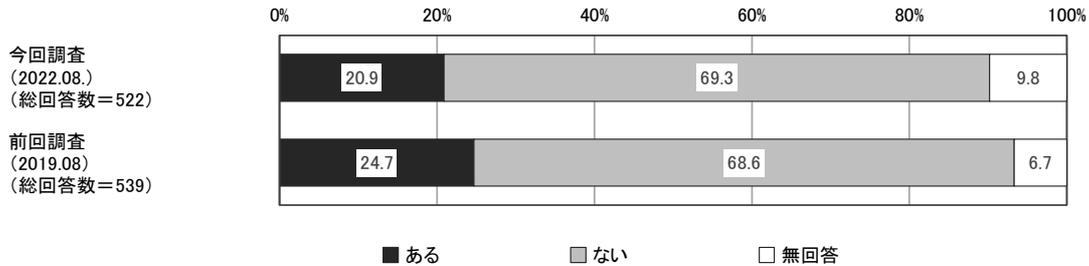
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者のうち、家族・親戚や日ごろ通う場所以外に相談をしたことが「ある」のは、20.9%です。

居住地別でみると、北中部圏域、中部圏域では「ない」が全体と比べてやや高くなっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるほど「ある」が低くなる傾向がみられます。

障害種別でみると、精神障害のある人は29.2%が相談しており、全体と比べてやや高くなっています。



問 27. 困ったことや心配に思っていることを、家族や親戚、日ごろ通う場所（職場や学校、通所施設など）以外の人に相談したことがありますか。		サンプル数	ある	ない	無回答
全 体		522	20.9	69.3	9.8
居住地別	北東部圏域	68	20.6	70.6	8.8
	北中部圏域	80	18.8	75.0	6.3
	北西部圏域	89	16.9	74.2	9.0
	中部圏域	60	11.7	76.7	11.7
	中東部圏域	58	25.9	56.9	17.2
	中西部圏域	66	24.2	63.6	12.1
	南部圏域	78	25.6	66.7	7.7
年齢別	18～39歳	39	35.9	64.1	-
	40～64歳	143	21.7	73.4	4.9
	65歳以上	334	18.9	68.0	13.2
障害種別	身体障害	339	19.2	69.3	11.5
	知的障害	24	33.3	54.2	12.5
	精神障害	65	29.2	63.1	7.7
	難病	91	22.0	75.8	2.2
	発達障害	16	31.3	62.5	6.3
	高次脳機能障害	9	22.2	66.7	11.1
身障種別	視覚障害	22	9.1	63.6	27.3
	聴覚障害・平衡機能障害	44	15.9	63.6	20.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	60.0	30.0
	肢体不自由	149	16.8	76.5	6.7
	内部障害	112	23.2	67.0	9.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位：%

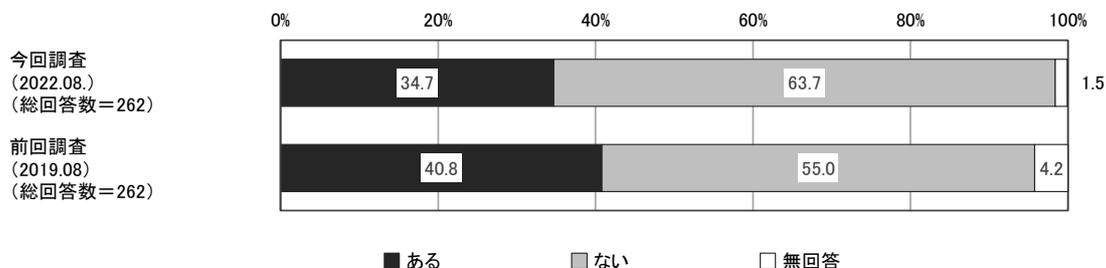
18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児のうち、家族・親戚や日ごろ通う場所以外に相談をしたことが「ある」のは、34.7%で、前回調査と比べると6.1ポイント低下しています。

居住地別でみると、北東部圏域では「ある」が全体と比べて高くなっている一方で、中部圏域、中西部圏域では「ない」が全体と比べてやや高くなっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるほど「ある」が低くなる傾向が見られます。

障害種別でみると、難病のある人は「ない」が全体と比べて高くなっています。



問 26. 困ったことや心配に思っていることを、家族や親戚、日ごろ通う場所（職場や学校、通所施設など）以外の人に相談したことがありますか。		サンプル数	ある	ない	無回答
全 体		262	34.7	63.7	1.5
居住地別	北東部圏域	41	48.8	51.2	-
	北中部圏域	45	37.8	55.6	6.7
	北西部圏域	43	37.2	62.8	-
	中部圏域	33	30.3	69.7	-
	中東部圏域	27	33.3	66.7	-
	中西部圏域	30	26.7	70.0	3.3
	南部圏域	26	26.9	73.1	-
年齢別	0～4歳	26	34.6	61.5	3.8
	5～9歳	78	42.3	57.7	-
	10～14歳	97	33.0	64.9	2.1
	15～17歳	57	28.1	70.2	1.8
障害種別	身体障害	63	30.2	68.3	1.6
	知的障害	203	34.5	64.5	1.0
	精神障害	26	50.0	46.2	3.8
	難病	30	23.3	76.7	-
	発達障害	87	40.2	58.6	1.1
	高次脳機能障害	1	-	100.0	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位:%

2. 今、気にかかっていること

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

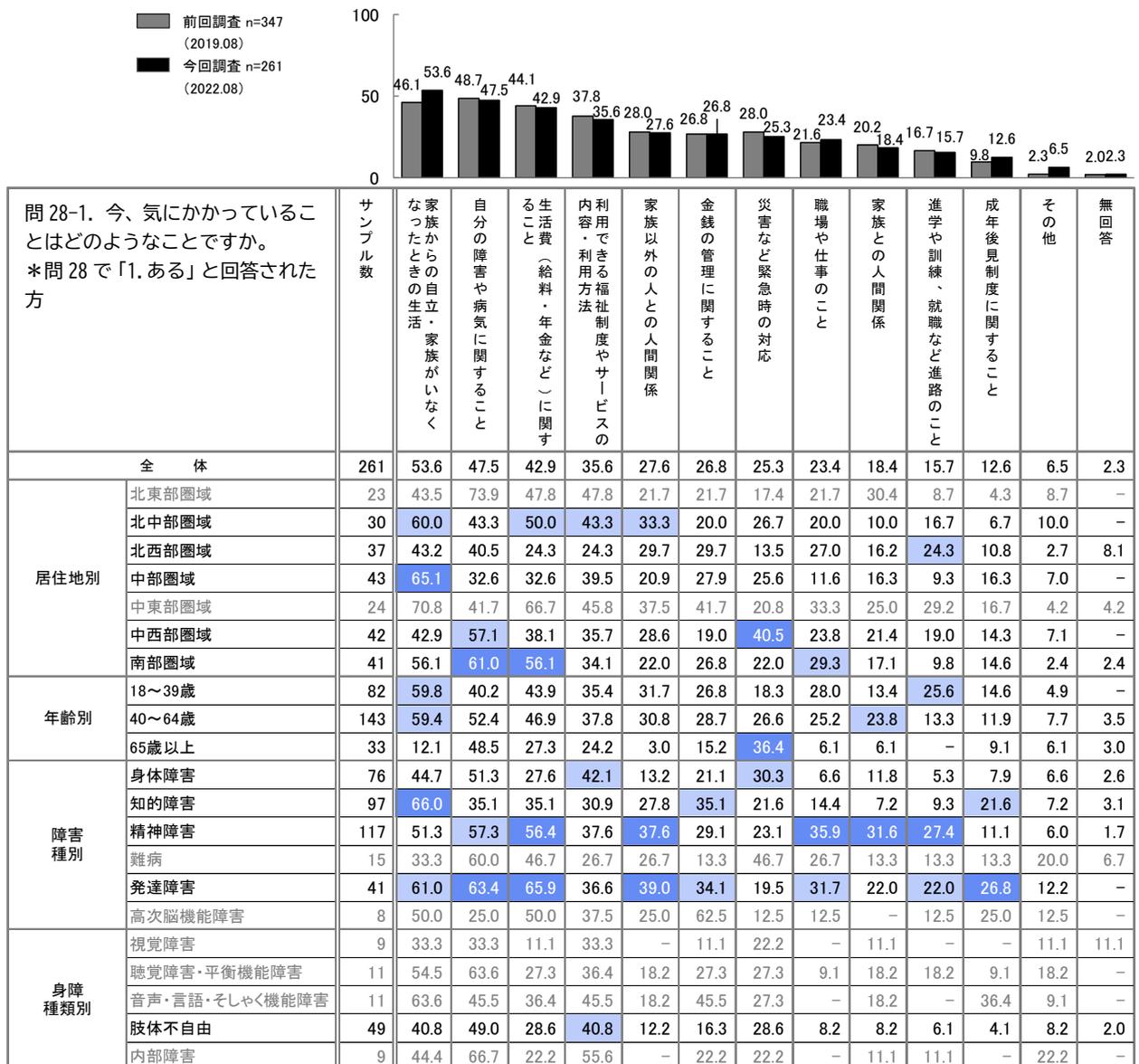
サービス利用者が今、気にかかっていることは、「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」（53.6%）、「自分の障害や病気に関すること」（47.5%）、「生活費（給料・年金など）に関すること」（42.9%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」が7.5ポイント上昇しています。

居住地別でみると、中部圏域では「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」、中西部圏域では、「災害など緊急時の対応」、南部圏域では「自分の障害や病気に関すること」「生活費（給料・年金など）に関すること」が高くなっています。

年齢別でみると、65歳以上は「災害など緊急時の対応」が全体と比べて高くなっています。

障害種別でみると、精神障害のある人、発達障害のある人はどちらも多くのことが気にかかっている様子がうかがえます。



※ 濃い青は全体より10ポイント以上、薄い青は全体より5ポイント以上高い

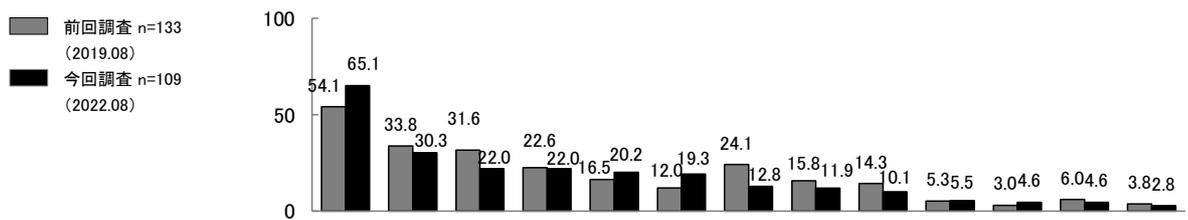
単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が今、気にかかっていることは、「自分の障害や病気に関すること」（65.1%）、「生活費（給料・年金など）に関すること」（30.3%）、「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」（どちらも22.0%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「自分の障害や病気に関すること」が11.0ポイント、「家族との人間関係」が7.3ポイント上昇しています。一方、「災害など緊急時の対応」は11.3ポイント、「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」は9.6ポイント低下しています。

年齢別でみると、40～64歳は多くのことが気にかかっている様子がうかがえます。



問 27-1. 今、気にかかっていることはどのようなことですか。 *問 27 で「1. ある」と回答された方		サンプル数	自分の障害や病気に関すること	生活費（給料・年金など）に関すること	利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法	家族からの自立・家族がいなくなったときの生活	家族以外の人との人間関係	家族との人間関係	災害など緊急時の対応	職場や仕事のこと	金銭の管理に関すること	進学や訓練、就職など進路のこと	成年後見制度に関すること	その他	無回答
全 体		109	65.1	30.3	22.0	22.0	20.2	19.3	12.8	11.9	10.1	5.5	4.6	4.6	2.8
居住地別	北東部圏域	14	50.0	21.4	14.3	21.4	28.6	42.9	7.1	7.1	7.1	-	7.1	14.3	-
	北中部圏域	15	66.7	20.0	13.3	20.0	26.7	20.0	26.7	6.7	-	6.7	-	-	6.7
	北西部圏域	15	73.3	40.0	6.7	20.0	26.7	20.0	26.7	6.7	13.3	20.0	20.0	-	-
	中部圏域	7	57.1	42.9	28.6	42.9	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6	-	14.3	-	-
	中東部圏域	15	46.7	26.7	20.0	20.0	13.3	20.0	13.3	20.0	6.7	6.7	-	-	6.7
	中西部圏域	16	68.8	37.5	25.0	18.8	12.5	6.3	6.3	6.3	12.5	-	-	6.3	-
	南部圏域	20	80.0	30.0	40.0	25.0	15.0	20.0	5.0	25.0	10.0	5.0	-	5.0	-
年齢別	18～39歳	14	50.0	28.6	28.6	21.4	35.7	57.1	-	50.0	21.4	28.6	14.3	-	7.1
	40～64歳	31	71.0	41.9	12.9	35.5	25.8	19.4	16.1	19.4	12.9	6.5	3.2	12.9	3.2
	65歳以上	63	65.1	25.4	23.8	15.9	14.3	11.1	14.3	-	6.3	-	3.2	1.6	1.6
障害種別	身体障害	65	73.8	20.0	20.0	15.4	15.4	13.8	15.4	6.2	4.6	3.1	3.1	1.5	1.5
	知的障害	8	50.0	50.0	37.5	37.5	12.5	50.0	-	37.5	37.5	-	12.5	-	-
	精神障害	19	57.9	47.4	36.8	36.8	47.4	36.8	15.8	31.6	26.3	21.1	10.5	5.3	5.3
	難病	20	55.0	40.0	10.0	20.0	-	10.0	10.0	5.0	-	-	-	15.0	5.0
	発達障害	5	80.0	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	20.0	60.0	40.0	40.0	40.0	-	-
	高次脳機能障害	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
身障種類別	視覚障害	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-
	聴覚障害・平衡機能障害	7	71.4	-	-	28.6	14.3	14.3	28.6	-	-	-	-	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	1	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	肢体不自由	25	76.0	24.0	28.0	16.0	24.0	12.0	16.0	4.0	4.0	-	4.0	4.0	-
	内部障害	26	84.6	23.1	15.4	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	7.7	3.8	-	-	3.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

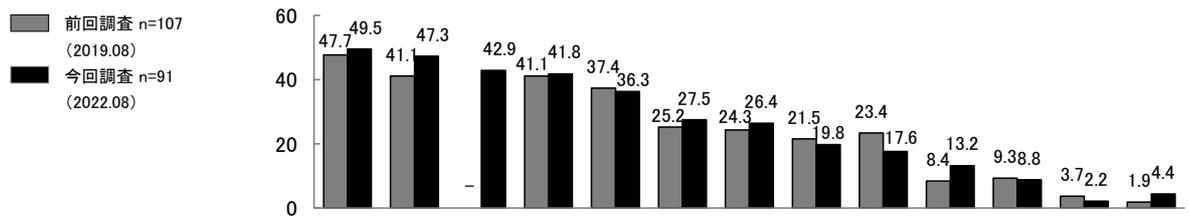
単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が今、気にかかっていることは、「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」（49.5%）「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」、（47.3%）、「学校など昼間に通っている場でのこと」（42.9%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」が6.2ポイント上昇しています。一方、「成年後見制度に関すること」は5.8ポイント低下しています。

障害種別でみると、発達障害のある人は多くのことが気にかかっている様子がうかがえます。



問 26-1. 今、気にかかっていることはどのようなことですか。 *問 27 で「1. ある」と回答された方		サンプル数	利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法	家族からの自立・家族がいなくなったときの生活	学校など昼間に通っている場でのこと	自分の障害や病気に関すること	家族以外の人との人間関係	金銭の管理に関すること	生活費（給料・年金など）に関すること	災害など緊急時の対応	成年後見制度に関すること	職場や仕事のこと	家族との人間関係	その他	無回答
全 体		91	49.5	47.3	42.9	41.8	36.3	27.5	26.4	19.8	17.6	13.2	8.8	2.2	4.4
居住地別	北東部圏域	20	55.0	40.0	30.0	45.0	25.0	25.0	30.0	20.0	15.0	25.0	20.0	5.0	10.0
	北中部圏域	17	47.1	52.9	41.2	29.4	35.3	29.4	29.4	11.8	23.5	5.9	5.9	-	-
	北西部圏域	16	50.0	37.5	43.8	37.5	37.5	18.8	12.5	25.0	18.8	12.5	-	-	-
	中部圏域	10	40.0	40.0	60.0	40.0	40.0	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	-	10.0	20.0
	中東部圏域	9	44.4	55.6	33.3	66.7	33.3	44.4	44.4	22.2	22.2	22.2	22.2	-	-
	中西部圏域	8	50.0	37.5	50.0	37.5	62.5	25.0	25.0	12.5	12.5	-	12.5	-	-
	南部圏域	7	57.1	71.4	71.4	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	-	-	-	-	-
年齢別	0～4歳	9	88.9	33.3	55.6	77.8	44.4	11.1	22.2	22.2	-	22.2	11.1	-	-
	5～9歳	33	51.5	45.5	45.5	33.3	42.4	24.2	24.2	30.3	24.2	6.1	15.2	-	6.1
	10～14歳	32	46.9	59.4	40.6	37.5	31.3	40.6	31.3	12.5	21.9	15.6	6.3	6.3	6.3
	15～17歳	16	25.0	37.5	37.5	50.0	25.0	18.8	18.8	12.5	6.3	18.8	-	-	-
障害種別	身体障害	19	57.9	42.1	31.6	57.9	31.6	21.1	31.6	31.6	21.1	21.1	15.8	-	10.5
	知的障害	70	58.6	45.7	41.4	44.3	35.7	27.1	25.7	20.0	22.9	12.9	10.0	1.4	2.9
	精神障害	13	23.1	53.8	38.5	30.8	53.8	46.2	46.2	15.4	-	15.4	7.7	7.7	7.7
	難病	7	57.1	28.6	-	85.7	14.3	28.6	28.6	-	-	28.6	14.3	-	-
	発達障害	35	65.7	62.9	48.6	48.6	37.1	42.9	42.9	28.6	20.0	22.9	5.7	-	2.9
	高次脳機能障害	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

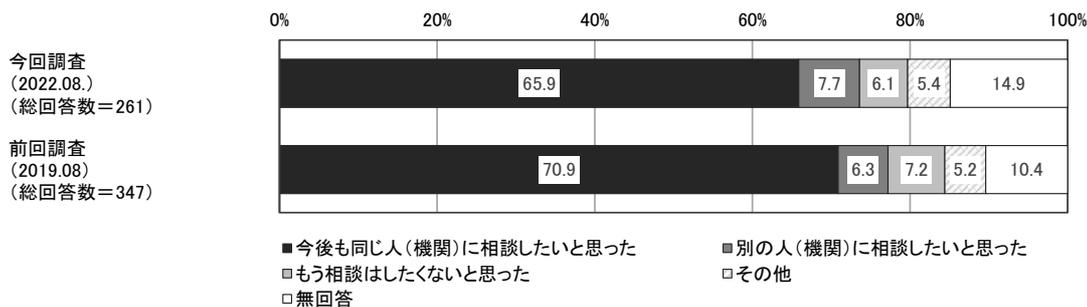
単位：％

3. 相談した際の評価

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者が、家族・親戚や日ごろ通う場所以外に相談をした際の評価をみると、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」が 65.9%で、「別の人（機関）に相談したいと思った」（7.7%）、「もう相談はしたくないと思った」（6.1%）はいずれも1割未満でしたが、前回調査と比べると「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」は5.0ポイント低下しています。

また、居住地別でみると中部圏域が、障害種別でみると、発達障害のある人が、「もう相談はしたくないと思った」が全体と比べてやや高くなっています。



問 28-2. 相談したとき、どのように思いましたか。 *問 28 で「1.ある」と回答された方		サンプル数	思関今 つ）に も同 じ人 （機 関） に相 談し たい （機 関） と	談別 した 人 （機 関） に相 談し たい （機 関） と	と も う 相 談 し た く な い	そ の 他	無 回 答
全 体		261	65.9	7.7	6.1	5.4	14.9
居住地別	北東部圏域	23	73.9	13.0	4.3	4.3	4.3
	北中部圏域	30	63.3	6.7	6.7	3.3	20.0
	北西部圏域	37	75.7	8.1	2.7	-	13.5
	中部圏域	43	62.8	-	11.6	4.7	20.9
	中東部圏域	24	33.3	25.0	8.3	-	33.3
	中西部圏域	42	73.8	2.4	2.4	11.9	9.5
	南部圏域	41	73.2	7.3	9.8	2.4	7.3
障害種別	身体障害	76	60.5	9.2	5.3	3.9	21.1
	知的障害	97	64.9	7.2	3.1	6.2	18.6
	精神障害	117	69.2	7.7	9.4	5.1	8.5
	難病	15	33.3	6.7	13.3	13.3	33.3
	発達障害	41	68.3	2.4	12.2	7.3	9.8
	高次脳機能障害	8	50.0	-	12.5	12.5	25.0
身障種別	視覚障害	9	66.7	11.1	11.1	-	11.1
	聴覚障害・平衡機能障害	11	63.6	9.1	-	9.1	18.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	11	36.4	18.2	9.1	-	36.4
	肢体不自由	49	63.3	4.1	6.1	6.1	20.4
	内部障害	9	66.7	11.1	-	-	22.2

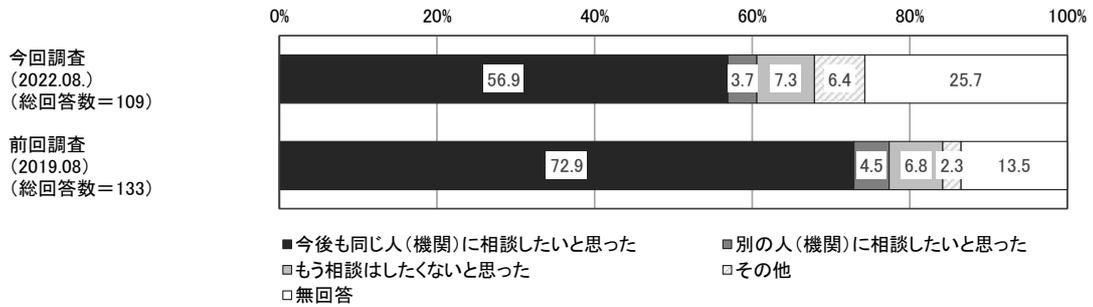
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が、家族・親戚や日ごろ通う場所以外に相談をした際の評価をみると、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」が56.9%で、「別の人（機関）に相談したいと思った」（3.7%）、「もう相談はしたくないと思った」（7.3%）はいずれも1割未満でした。

ただし、前回調査と比べると「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」が16.0ポイント低下しています。



問 27-2. 相談したとき、どのように思いましたか。 *問 27で「1.ある」と回答された方		サンプル数	今後も同じ人(機関)に相談したいと思った	別の人(機関)に相談したいと思った	もう相談はしたくないと思った	その他	無回答
全 体		109	56.9	3.7	7.3	6.4	25.7
居住地別	北東部圏域	14	35.7	7.1	14.3	7.1	35.7
	北中部圏域	15	73.3	6.7	6.7	-	13.3
	北西部圏域	15	66.7	-	6.7	6.7	20.0
	中部圏域	7	28.6	-	-	14.3	57.1
	中東部圏域	15	60.0	-	6.7	6.7	26.7
	中西部圏域	16	62.5	6.3	6.3	12.5	12.5
	南部圏域	20	50.0	-	10.0	5.0	35.0
障害種別	身体障害	65	55.4	4.6	9.2	3.1	27.7
	知的障害	8	62.5	12.5	12.5	12.5	-
	精神障害	19	52.6	-	15.8	15.8	15.8
	難病	20	60.0	-	-	5.0	35.0
	発達障害	5	80.0	-	-	20.0	-
	高次脳機能障害	2	100.0	-	-	-	-
身障種別	視覚障害	2	50.0	-	50.0	-	-
	聴覚障害・平衡機能障害	7	28.6	28.6	14.3	-	28.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	1	100.0	-	-	-	-
	肢体不自由	25	56.0	4.0	4.0	4.0	32.0
	内部障害	26	73.1	-	7.7	-	19.2

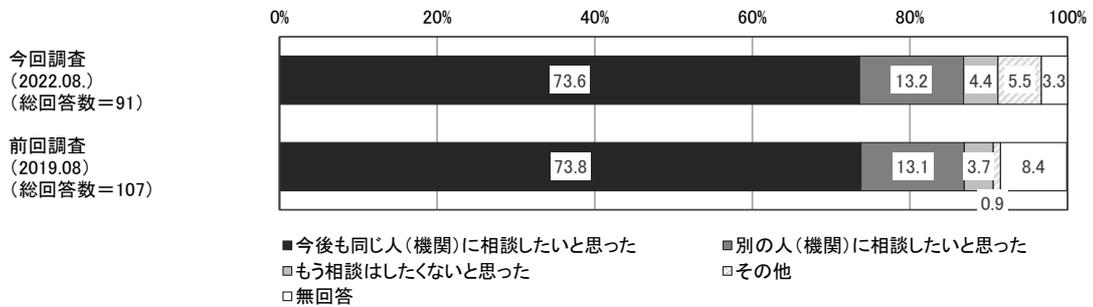
※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が、家族・親戚や日ごろ通う場所以外に相談をした際の評価をみると、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」が73.6%でしたが、「別の人（機関）に相談したいと思った」は13.2%でした。「もう相談はしたくないと思った」は4.4%とわずかでした。

障害種別でみると、発達障害のある人は「別の人（機関）に相談したいと思った」が全体と比べてやや高くなっています。



問 26-2. 相談したとき、どのように思いましたか。 *問 26 で「1. ある」と回答された方		サンプル数	思 今 談 別 関 後 の っ た に した た も 同 人 相 相 じ い 談 談 機 し じ 関 た 人 い 機 た 関 い 機 機 と	談 別 の た 人 い と 機 関 っ た に 相	と 思 う 相 談 し た く な い	そ の 他	無 回 答
全 体		91	73.6	13.2	4.4	5.5	3.3
居住地別	北東部圏域	20	60.0	15.0	10.0	10.0	5.0
	北中部圏域	17	70.6	11.8	11.8	5.9	-
	北西部圏域	16	75.0	18.8	-	6.3	-
	中部圏域	10	80.0	10.0	-	-	10.0
	中東部圏域	9	77.8	22.2	-	-	-
	中西部圏域	8	87.5	-	-	12.5	-
	南部圏域	7	85.7	-	-	-	14.3
障害種別	身体障害	19	78.9	5.3	10.5	5.3	-
	知的障害	70	70.0	14.3	5.7	7.1	2.9
	精神障害	13	76.9	15.4	-	-	7.7
	難病	7	85.7	-	14.3	-	-
	発達障害	35	74.3	20.0	-	2.9	2.9
	高次脳機能障害	0	-	-	-	-	-

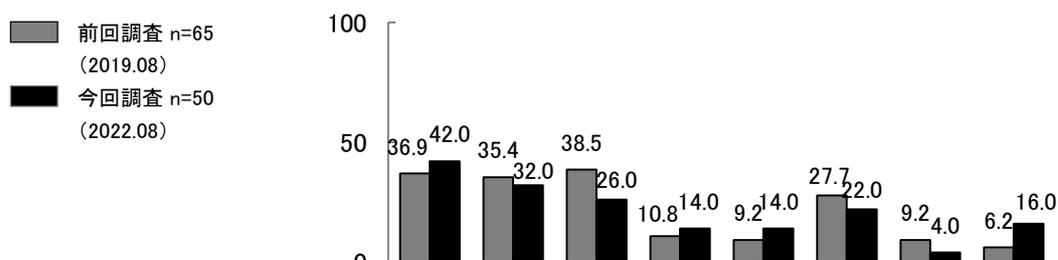
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位：%

4. 評価理由

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者が別のの人に相談したい、もう相談はしたくないと思った理由は、「障害への理解がたりないと感じた」（42.0%）、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」（32.0%）、「専門的な助言を受けられなかった」（26.0%）が上位となっています。

前回調査と比べると「障害への理解がたりないと感じた」が5.1ポイント上昇しています。一方、「専門的な助言を受けられなかった」は12.5ポイント低下しています。



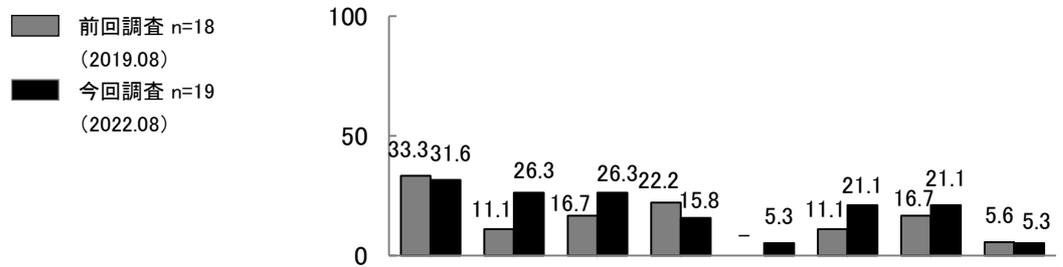
問 28-3. そう思ったのはなぜですか。 *問 28-2 で「1. 今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」以外の回答をされた方		サンプル数	障害への理解がたりないと感じた	困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった	専門的な助言を受けられなかった	話を聞いてもらえなかった	別の相談窓口を紹介された	その他	特に理由はない	無回答
全 体		50	42.0	32.0	26.0	14.0	14.0	22.0	4.0	16.0
居住地別	北東部圏域	5	20.0	-	-	-	-	20.0	20.0	40.0
	北中部圏域	5	20.0	20.0	20.0	-	20.0	60.0	-	-
	北西部圏域	4	25.0	25.0	-	-	50.0	-	-	25.0
	中部圏域	7	85.7	42.9	71.4	28.6	-	28.6	-	14.3
	中東部圏域	8	62.5	37.5	37.5	12.5	25.0	25.0	-	-
	中西部圏域	7	14.3	14.3	-	-	14.3	14.3	-	42.9
	南部圏域	8	50.0	75.0	25.0	37.5	12.5	-	-	12.5
障害種別	身体障害	14	35.7	35.7	35.7	7.1	14.3	14.3	7.1	14.3
	知的障害	16	37.5	18.8	25.0	6.3	25.0	25.0	6.3	18.8
	精神障害	26	46.2	42.3	30.8	23.1	7.7	26.9	-	11.5
	難病	5	40.0	-	20.0	-	-	60.0	-	20.0
	発達障害	9	33.3	22.2	22.2	11.1	-	33.3	-	22.2
	高次脳機能障害	2	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
身障種別	視覚障害	2	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	聴覚障害・平衡機能障害	2	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	3	33.3	66.7	33.3	-	66.7	-	-	-
	肢体不自由	8	37.5	37.5	37.5	12.5	-	25.0	-	12.5
	内部障害	1	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が別のの人に相談したい、もう相談はしたくないと思った理由は、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」（31.6%）、「話を聞いてもらえなかった」「専門的な助言を受けられなかった」（いずれも 26.3%）、「障害への理解がたりないと感じた」（15.8%）が上位となっていますがサンプル数が少ないため、参考値となります。



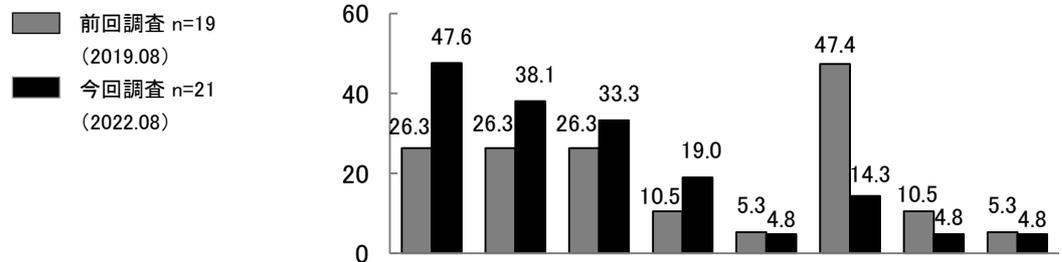
問 27-3. そう思ったのはなぜですか。 *問 27-2 で「1. 今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」以外の回答をされた方		サンプル数	困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった	話を聞いてもらえなかった	専門的な助言を受けられなかった	障害への理解がたりないと感じた	別の相談窓口を紹介された	その他	特に理由はない	無回答
全 体		19	31.6	26.3	26.3	15.8	5.3	21.1	21.1	5.3
居住地別	北東部圏域	4	25.0	50.0	75.0	25.0	-	25.0	-	25.0
	北中部圏域	2	100.0	-	-	50.0	-	-	-	-
	北西部圏域	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-
	中部圏域	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	中東部圏域	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-
	中西部圏域	4	-	25.0	25.0	-	-	25.0	50.0	-
	南部圏域	3	33.3	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-
障害種別	身体障害	11	45.5	27.3	18.2	9.1	9.1	18.2	9.1	9.1
	知的障害	3	33.3	33.3	66.7	33.3	-	-	-	-
	精神障害	6	16.7	33.3	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-
	難病	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	発達障害	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	高次脳機能障害	0	-	-	-	-	-	-	-	-
身障種別	視覚障害	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
	聴覚障害・平衡機能障害	3	66.7	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	0	-	-	-	-	-	-	-	-
	肢体不自由	3	33.3	-	-	-	33.3	-	-	33.3
	内部障害	2	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が別の人に相談したい、もう相談はしたくないと思った理由は、「専門的な助言を受けられなかった」（47.6%）、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」（38.1%）、「障害への理解がたりないと感じた」（33.3%）が上位となっていますがサンプル数が少ないため、参考値となります。



問 26-3. そう思ったのはなぜですか。 *問 26-2 で「1. 今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」以外の回答をされた方		サンプル数	専門的な助言を受けられなかった	困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった	障害への理解がたりないと感じた	別の相談窓口を紹介された	話を聞いてもらえなかった	その他	特に理由はない	無回答
全 体		21	47.6	38.1	33.3	19.0	4.8	14.3	4.8	4.8
居住地別	北東部圏域	7	42.9	42.9	57.1	-	-	28.6	14.3	-
	北中部圏域	5	40.0	60.0	40.0	40.0	20.0	-	-	20.0
	北西部圏域	4	50.0	-	-	25.0	-	25.0	-	-
	中部圏域	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	中東部圏域	2	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-
	中西部圏域	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	南部圏域	0	-	-	-	-	-	-	-	-
障害種別	身体障害	4	25.0	75.0	75.0	-	-	25.0	-	-
	知的障害	19	42.1	42.1	36.8	15.8	5.3	15.8	5.3	5.3
	精神障害	2	100.0	-	-	50.0	-	-	-	-
	難病	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-
	発達障害	8	37.5	25.0	12.5	37.5	-	12.5	12.5	-
	高次脳機能障害	0	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

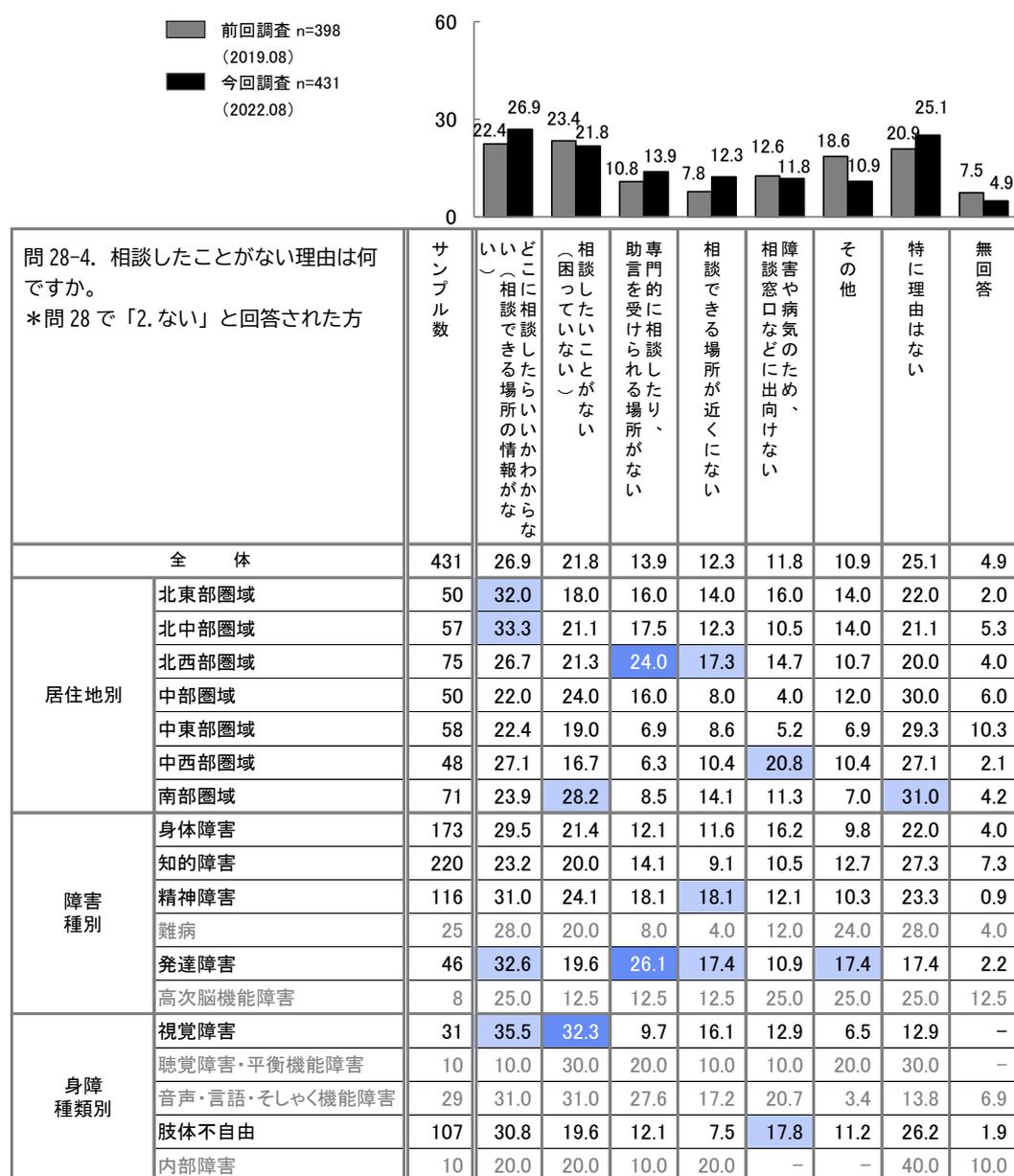
5. 相談しない理由

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者が相談しない理由は、「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」（26.9%）、「相談したいことがない（困っていない）」（21.8%）、「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」（13.9%）が上位となっています。

居住地別で見ると、北東部圏域と北中部圏域では「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」が30%以上で全体よりやや高くなっています。北西部圏域では「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」、「相談できる場所が近くにない」が他圏域と比べて高くなっています。

障害種別で見ると、発達障害のある人は「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」が全体と比べて高くなっています。



※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

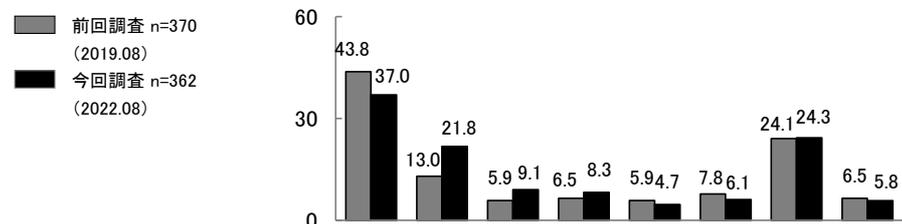
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が相談しない理由は、「相談したいことがない（困っていない）」（37.0%）、「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」（21.8%）、「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」（9.1%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」が8.8ポイント上昇している一方で、「相談したいことがない（困っていない）」が6.8ポイント低下しています。

居住地別でみると、北西部圏域では「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」が、北中部圏域では「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」が、北東部圏域では「障害や病気のため、相談窓口などに出向けない」が他の圏域より高くなっています。

障害種別でみると、精神障害のある人は「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」が全体と比べて高くなっています。



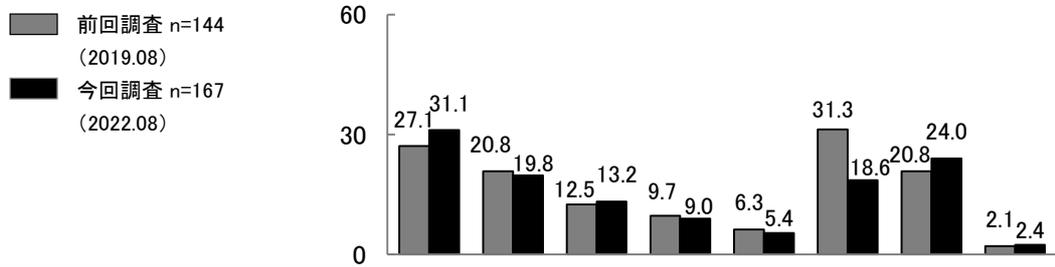
問 27-4. 相談したことがない理由は何ですか。 *問 27 で「2. ない」と回答された方		サンプル数	相談したいことがない	どこに相談したらいいかわからない	専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない	相談できる場所が近くにない	障害や病気のため、相談窓口などに出向けない	その他	特に理由はない	無回答
全 体		362	37.0	21.8	9.1	8.3	4.7	6.1	24.3	5.8
居住地別	北東部圏域	48	37.5	22.9	10.4	4.2	10.4	6.3	25.0	6.3
	北中部圏域	60	50.0	21.7	16.7	10.0	5.0	5.0	16.7	5.0
	北西部圏域	66	27.3	28.8	6.1	12.1	1.5	4.5	30.3	3.0
	中部圏域	46	45.7	15.2	8.7	4.3	4.3	4.3	21.7	6.5
	中東部圏域	33	33.3	24.2	3.0	3.0	6.1	15.2	24.2	-
	中西部圏域	42	38.1	23.8	9.5	7.1	4.8	7.1	23.8	2.4
	南部圏域	52	30.8	13.5	5.8	9.6	-	3.8	32.7	13.5
障害種別	身体障害	235	39.1	19.1	6.8	7.2	4.3	6.0	24.3	7.2
	知的障害	13	38.5	15.4	-	-	15.4	-	30.8	-
	精神障害	41	22.0	43.9	17.1	17.1	4.9	4.9	14.6	4.9
	難病	69	40.6	17.4	11.6	5.8	5.8	5.8	21.7	4.3
	発達障害	10	20.0	60.0	-	20.0	-	10.0	10.0	-
	高次脳機能障害	6	33.3	50.0	16.7	33.3	-	-	16.7	-
身障種別	視覚障害	14	21.4	28.6	7.1	14.3	14.3	7.1	21.4	14.3
	聴覚障害・平衡機能障害	28	21.4	25.0	17.9	10.7	17.9	10.7	21.4	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	6	50.0	16.7	-	16.7	16.7	-	16.7	-
	肢体不自由	114	36.8	18.4	5.3	7.0	3.5	5.3	27.2	7.0
	内部障害	75	52.0	14.7	5.3	5.3	2.7	5.3	20.0	6.7

※ 濃い青は全体より10ポイント以上、薄い青は全体より5ポイント以上高い

単位:%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が相談しない理由は、「どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)」(31.1%)、「相談したいことがない(困っていない)」(19.8%)、「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」(13.2%)が上位となっています。



問 26-4. 相談したことがない理由は何ですか。 *問 26 で「2. ない」と回答された方		サンプル数	いいどこに相談できたらいいかわからない (相談したいことがない)	相談したいことがない	専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない	相談できる場所が近くにない	相談窓口などに出向けない	障害や病気のため、	その他	特に理由はない	無回答
全 体		167	31.1	19.8	13.2	9.0	5.4	18.6	24.0	2.4	
居住地別	北東部圏域	21	33.3	23.8	9.5	14.3	-	14.3	33.3	-	
	北中部圏域	25	20.0	28.0	16.0	8.0	12.0	20.0	24.0	4.0	
	北西部圏域	27	48.1	11.1	18.5	22.2	11.1	18.5	18.5	-	
	中部圏域	23	34.8	26.1	8.7	-	-	13.0	17.4	-	
	中東部圏域	18	11.1	27.8	16.7	-	-	16.7	27.8	5.6	
	中西部圏域	21	23.8	23.8	4.8	-	4.8	23.8	28.6	-	
	南部圏域	19	31.6	5.3	10.5	15.8	10.5	21.1	31.6	-	
障害種別	身体障害	43	27.9	27.9	7.0	9.3	9.3	11.6	25.6	2.3	
	知的障害	131	35.1	16.0	15.3	9.2	6.1	16.8	23.7	2.3	
	精神障害	12	16.7	16.7	-	16.7	-	41.7	25.0	-	
	難病	23	43.5	8.7	8.7	4.3	13.0	4.3	21.7	8.7	
	発達障害	51	29.4	15.7	13.7	9.8	9.8	25.5	17.6	2.0	
	高次脳機能障害	1	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

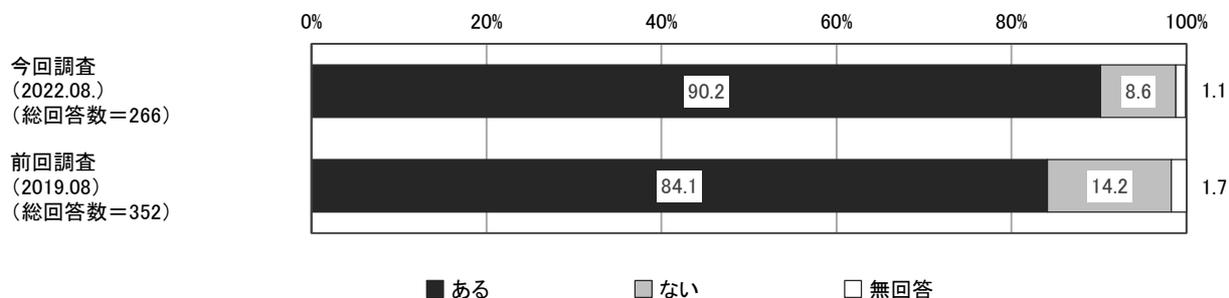
単位: %

6. 家族・親戚以外への相談状況（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童のうち、家族・親戚以外に相談をしたことが「ある」のは、90.2%で、前回調査と比べると6.1ポイント上昇しています。

年齢別で見ると、10～17歳では「ない」が全体よりやや高くなっています。



問 14. 困ったことや心配に思っていることを、家族や親戚以外の人に相談したことがありますか。		サンプル数	ある	ない	無回答
全 体		266	90.2	8.6	1.1
年齢別	0～4歳	82	91.5	7.3	1.2
	5～9歳	120	92.5	5.8	1.7
	10～17歳	59	84.7	15.3	-
所属先別	小学校入学前	129	91.5	7.0	1.6
	小学校入学後	130	90.0	9.2	0.8

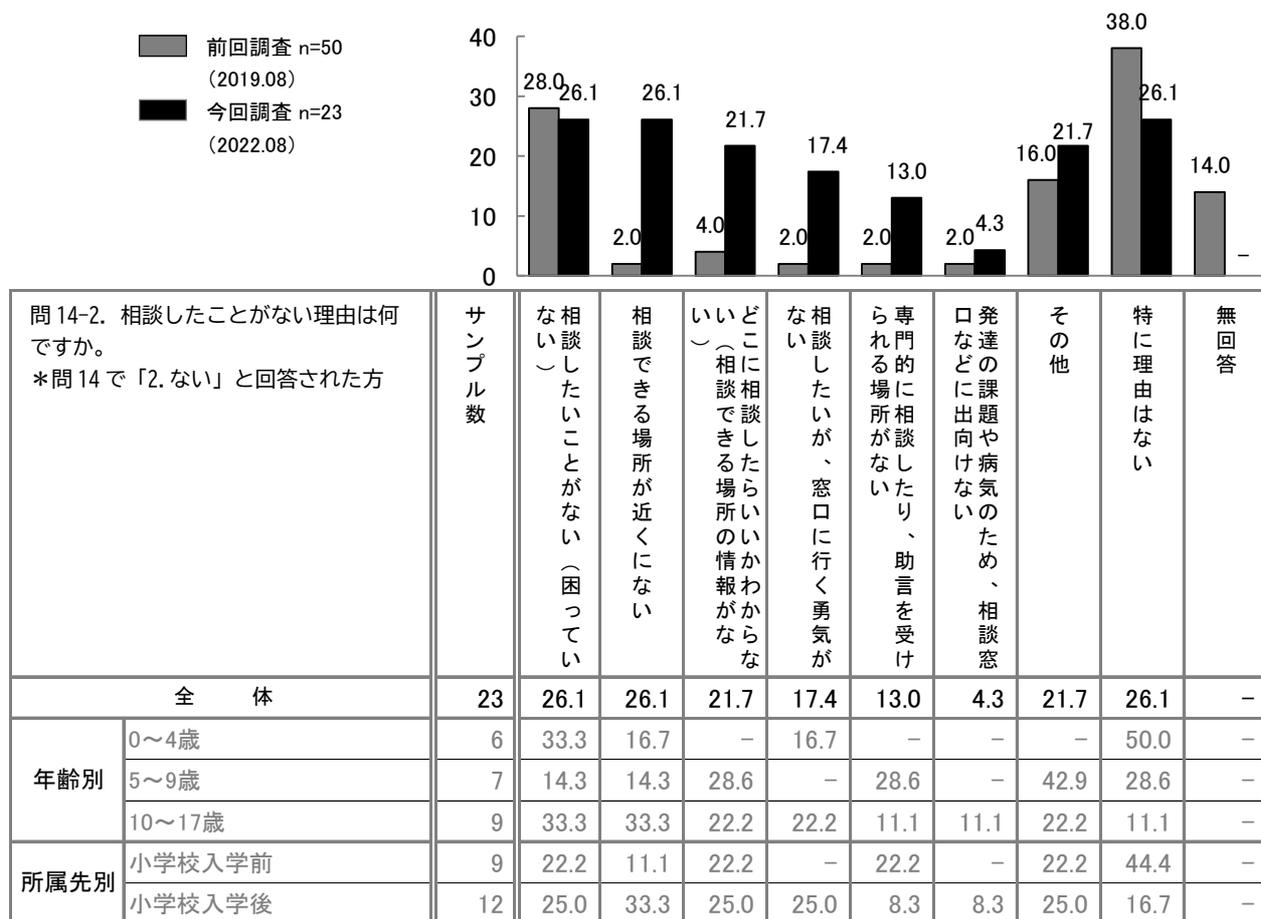
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

7. 相談しない理由（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童が困ったことを家族・親戚以外に相談しない理由は、「相談したいことがない」「相談できる場所が近くにない」「特に理由はない」がいずれも26.1%で上位となっていますが、サンプルが少ないため参考値となります。



問 14-2. 相談したことがない理由は何ですか。 *問 14 で「2. ない」と回答された方		サンプル数	ない相談したいことがない（困っていない）	相談できる場所が近くにない	どこに相談できる場所の情報がわからない	相談したいが、窓口に行く勇気がない	専門的に相談したり、助言を受けられない場所がない	発達の課題や病気のため、相談窓口に出向けない	その他	特に理由はない	無回答
全 体		23	26.1	26.1	21.7	17.4	13.0	4.3	21.7	26.1	-
年齢別	0～4歳	6	33.3	16.7	-	16.7	-	-	-	50.0	-
	5～9歳	7	14.3	14.3	28.6	-	28.6	-	42.9	28.6	-
	10～17歳	9	33.3	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	-
所属先別	小学校入学前	9	22.2	11.1	22.2	-	22.2	-	22.2	44.4	-
	小学校入学後	12	25.0	33.3	25.0	25.0	8.3	8.3	25.0	16.7	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

(2) 権利擁護

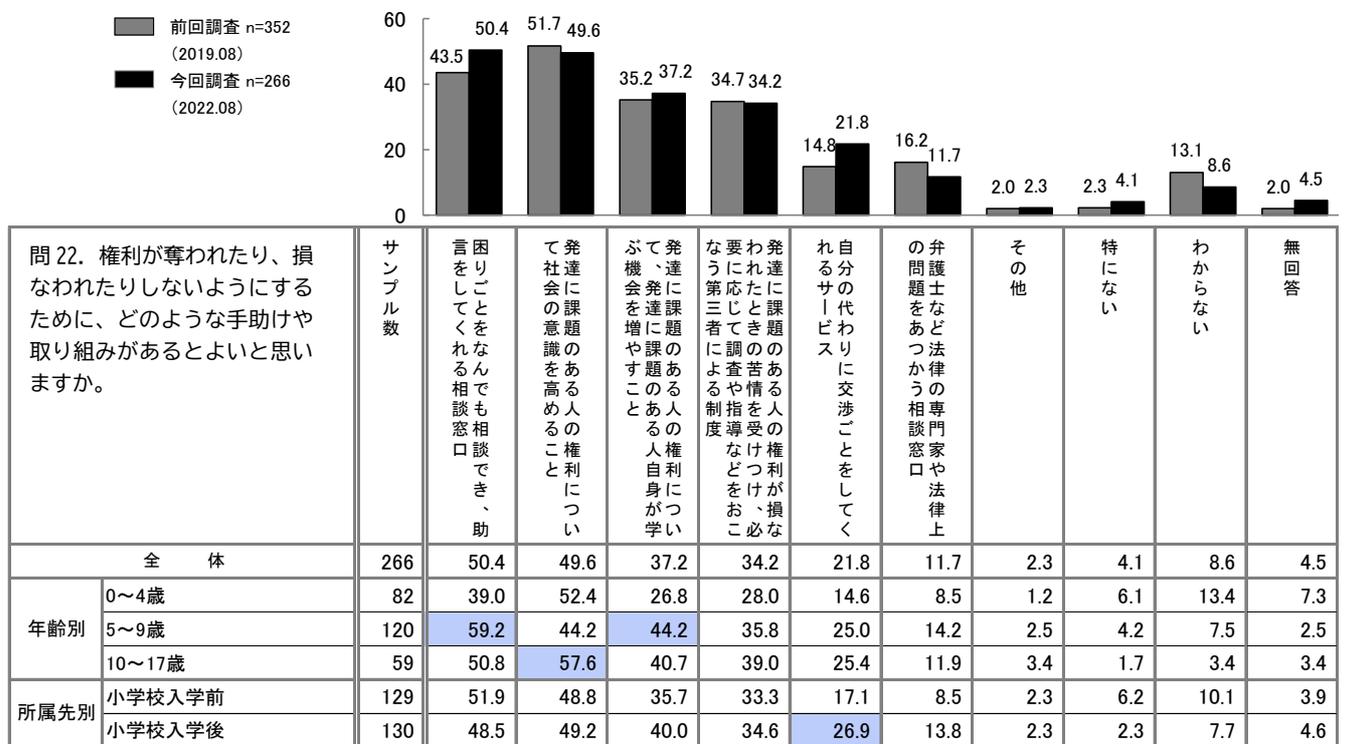
1. 権利を守るために必要だと思う手助けや取り組み

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童が権利を守るために必要だと思う手助けや取り組みは、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」（50.4%）、「発達に課題のある人の権利について社会の意識を高めること」（49.6%）、「発達に課題のある人の権利について、発達に課題のある人自身が学ぶ機会を増やすこと」（37.2%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「自分の代わりに交渉ごとをしてくれるサービス」は7.0ポイント、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」は6.9ポイント上昇しています。

所属先別にみると、「自分の代わりに交渉ごとをしてくれるサービス」と「弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口」は小学校入学前より小学校入学後の方が高くなっています。



※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

(3) 障害者差別解消の取組・啓発交流

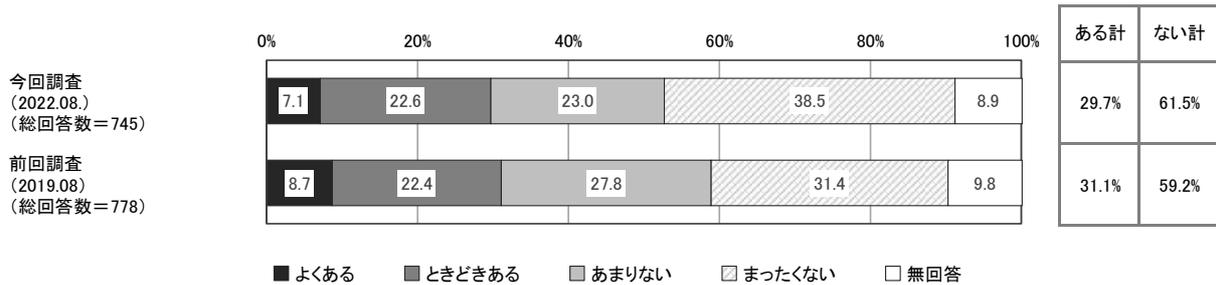
1. ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者が差別を受けたり嫌な思いをしたことがあるかについては「よくある」が7.1%、「ときどきある」(22.6%)と合わせると29.7%となっています。

障害種別でみると、精神障害のある人、発達障害のある人は「ある計」が40%と高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができていないと感じている方(38.4%)は、できていると感じている方(22.7%)と比べて差別を受けた経験が「ある計」が15.7ポイント高くなっています。



問 34. ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか。		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全 体		745	7.1	22.6	23.0	38.5	8.9	29.7	61.5
居住地別	北東部圏域	79	7.6	22.8	25.3	35.4	8.9	30.4	60.7
	北中部圏域	91	7.7	22.0	23.1	40.7	6.6	29.7	63.8
	北西部圏域	118	8.5	19.5	16.9	44.9	10.2	28.0	61.8
	中部圏域	106	6.6	22.6	26.4	33.0	11.3	29.2	59.4
	中東部圏域	88	6.8	19.3	26.1	38.6	9.1	26.1	64.7
	中西部圏域	96	6.3	22.9	24.0	39.6	7.3	29.2	63.6
	南部圏域	121	5.8	24.8	19.8	40.5	9.1	30.6	60.3
障害種別	身体障害	274	5.5	16.8	25.5	39.1	13.1	22.3	64.6
	知的障害	337	5.6	23.1	25.8	36.5	8.9	28.7	62.3
	精神障害	247	11.7	28.3	19.4	34.8	5.7	40.0	54.2
	難病	43	9.3	14.0	27.9	44.2	4.7	23.3	72.1
	発達障害	92	14.1	27.2	18.5	33.7	6.5	41.3	52.2
	高次脳機能障害	17	11.8	-	35.3	23.5	29.4	11.8	58.8
身障種類別	視覚障害	46	6.5	13.0	26.1	41.3	13.0	19.5	67.4
	聴覚障害・平衡機能障害	23	17.4	26.1	21.7	21.7	13.0	43.5	43.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	48	4.2	18.8	27.1	22.9	27.1	23.0	50.0
	肢体不自由	168	6.5	17.9	24.4	38.1	13.1	24.4	62.5
	内部障害	19	-	15.8	31.6	47.4	5.3	15.8	79.0
ライフスタイルに応じた生活ができていないか別	はい	365	3.0	19.7	21.9	49.6	5.8	22.7	71.5
	いいえ	323	12.1	26.3	24.1	30.3	7.1	38.4	54.4

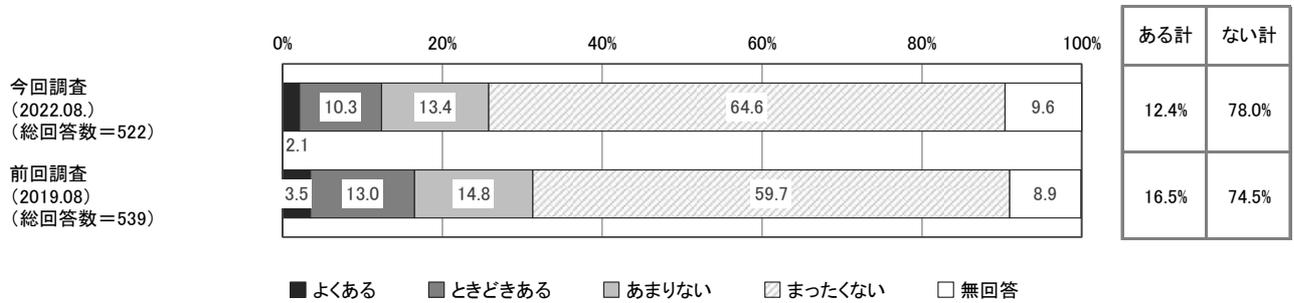
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が差別を受けたり嫌な思いをしたことがあるかについては「よくある」が2.1%、「ときどきある」（10.3%）と合わせると12.4%となっており、サービス利用者と比べると低くなっています。

障害種別でみると、精神障害のある人は「ある計」が38.5%と他の障害のある人と比べて高くなっています。



問33. ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか。		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全 体		522	2.1	10.3	13.4	64.6	9.6	12.4	78.0
居住地別	北東部圏域	68	-	14.7	14.7	61.8	8.8	14.7	76.5
	北中部圏域	80	1.3	10.0	10.0	71.3	7.5	11.3	81.3
	北西部圏域	89	2.2	7.9	18.0	66.3	5.6	10.1	84.3
	中部圏域	60	1.7	6.7	13.3	70.0	8.3	8.4	83.3
	中東部圏域	58	-	10.3	13.8	62.1	13.8	10.3	75.9
	中西部圏域	66	4.5	10.6	9.1	65.2	10.6	15.1	74.3
	南部圏域	78	2.6	12.8	12.8	60.3	11.5	15.4	73.1
障害種別	身体障害	339	1.5	7.1	11.5	67.8	12.1	8.6	79.3
	知的障害	24	8.3	8.3	12.5	62.5	8.3	16.6	75.0
	精神障害	65	6.2	32.3	23.1	33.8	4.6	38.5	56.9
	難病	91	-	8.8	15.4	73.6	2.2	8.8	89.0
	発達障害	16	18.8	37.5	25.0	12.5	6.3	56.3	37.5
	高次脳機能障害	9	11.1	33.3	11.1	44.4	-	44.4	55.5
身障種別	視覚障害	22	4.5	9.1	4.5	72.7	9.1	13.6	77.2
	聴覚障害・平衡機能障害	44	2.3	11.4	9.1	47.7	29.5	13.7	56.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	-	10.0	10.0	60.0	20.0	10.0	70.0
	肢体不自由	149	1.3	7.4	14.8	66.4	10.1	8.7	81.2
	内部障害	112	-	5.4	7.1	78.6	8.9	5.4	85.7
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい	302	1.0	8.3	11.6	74.8	4.3	9.3	86.4
	いいえ	181	4.4	14.9	17.7	53.0	9.9	19.3	70.7

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

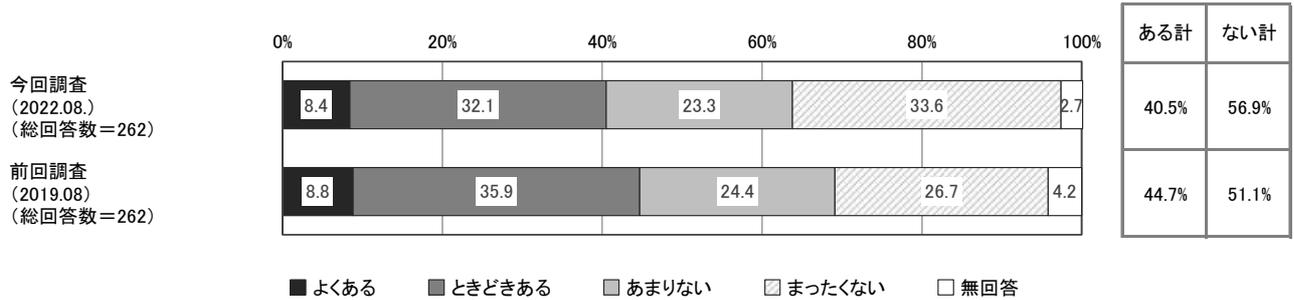
18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が差別を受けたり嫌な思いをしたことがあるかについては「よくある」が8.4%、「ときどきある」（32.1%）と合わせると40.5%で、18歳以上の人と比べて高くなっています。

ただし、前回調査と比べると、差別を受けた経験が「ない計」は5.8ポイント上昇しています。

居住地別にみると、北東部圏域では「ある計」が他の圏域と比べて高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていないと感じている方（54.4%）は、できていると感じている方（34.2%）と比べて差別を受けた経験が20.2ポイントも高くなっています。



問 37. ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか。		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全 体		262	8.4	32.1	23.3	33.6	2.7	40.5	56.9
居住地別	北東部圏域	41	7.3	43.9	26.8	22.0	-	51.2	48.8
	北中部圏域	45	6.7	35.6	24.4	31.1	2.2	42.3	55.5
	北西部圏域	43	11.6	23.3	23.3	37.2	4.7	34.9	60.5
	中部圏域	33	9.1	24.2	30.3	33.3	3.0	33.3	63.6
	中東部圏域	27	3.7	44.4	11.1	37.0	3.7	48.1	48.1
	中西部圏域	30	3.3	26.7	23.3	43.3	3.3	30.0	66.6
	南部圏域	26	11.5	30.8	11.5	42.3	3.8	42.3	53.8
障害種別	身体障害	63	1.6	39.7	15.9	38.1	4.8	41.3	54.0
	知的障害	203	8.4	30.0	25.6	34.0	2.0	38.4	59.6
	精神障害	26	15.4	34.6	15.4	26.9	7.7	50.0	42.3
	難病	30	3.3	30.0	16.7	50.0	-	33.3	66.7
	発達障害	87	11.5	35.6	26.4	25.3	1.1	47.1	51.7
	高次脳機能障害	1	-	-	100.0	-	-	-	100.0
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい	158	5.7	28.5	27.2	36.7	1.9	34.2	63.9
	いいえ	90	14.4	40.0	16.7	28.9	-	54.4	45.6

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

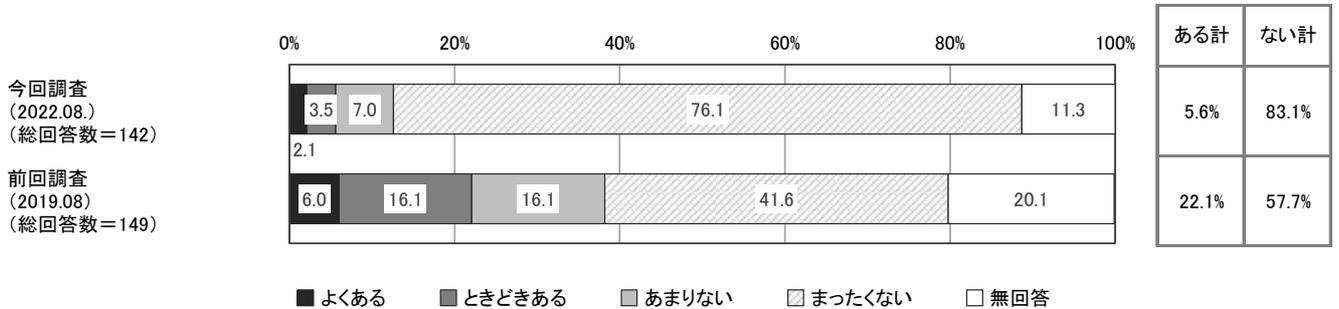
単位：%

施設入所者（調査⑤）

施設入所者が差別を受けたり嫌な思いをしたことがあるかについては「よくある」が2.1%、「ときどきある」（3.5%）と合わせると5.6%と1割未満となっています。

前回調査と比べると「ある計」が16.5ポイント低下しています。

入所年数別でみると、「ある計」は入所年数が長くなるほど低下する傾向がみられます。



問 16. ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか。		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全 体		142	2.1	3.5	7.0	76.1	11.3	5.6	83.1
障害種別	身体障害	42	2.4	2.4	9.5	66.7	19.0	4.8	76.2
	知的障害	122	1.6	3.3	7.4	78.7	9.0	4.9	86.1
	その他の障害	25	4.0	4.0	4.0	72.0	16.0	8.0	76.0
入所年数別	5年未満	36	5.6	2.8	5.6	75.0	11.1	8.4	80.6
	5～20年未満	49	-	6.1	-	85.7	8.2	6.1	85.7
	20年以上	53	1.9	1.9	15.1	67.9	13.2	3.8	83.0
退所の意向別	はい	24	-	4.2	16.7	66.7	12.5	4.2	83.4
	いいえ・わからない	114	2.6	3.5	5.3	79.8	8.8	6.1	85.1

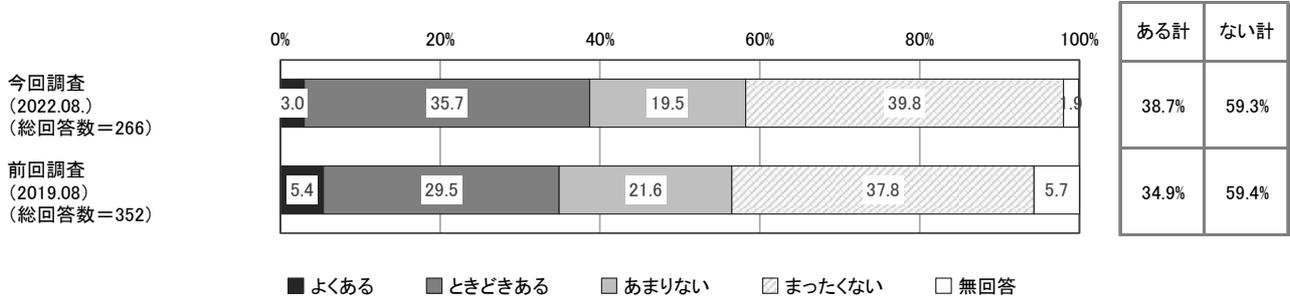
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童が差別を受けたり嫌な思いをしたことがあるかについては「よくある」が3.0%、「ときどきある」（35.7%）と合わせると38.7%となっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「ある計」が高くなる傾向がみられ、所属先別でも、小学校入学後の「ある計」は、小学校入学前（32.5%）と比べて12.8ポイント上昇して45.3%と半数近くを占めています。



問 21. ここ3年において、発達に課題があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか。		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全 体		266	3.0	35.7	19.5	39.8	1.9	38.7	59.3
年齢別	0～4歳	82	-	34.1	17.1	47.6	1.2	34.1	64.7
	5～9歳	120	4.2	34.2	20.0	40.0	1.7	38.4	60.0
	10～17歳	59	5.1	40.7	22.0	28.8	3.4	45.8	50.8
所属先別	小学校入学前	129	2.3	30.2	14.7	50.4	2.3	32.5	65.1
	小学校入学後	130	3.8	41.5	23.1	30.0	1.5	45.3	53.1

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

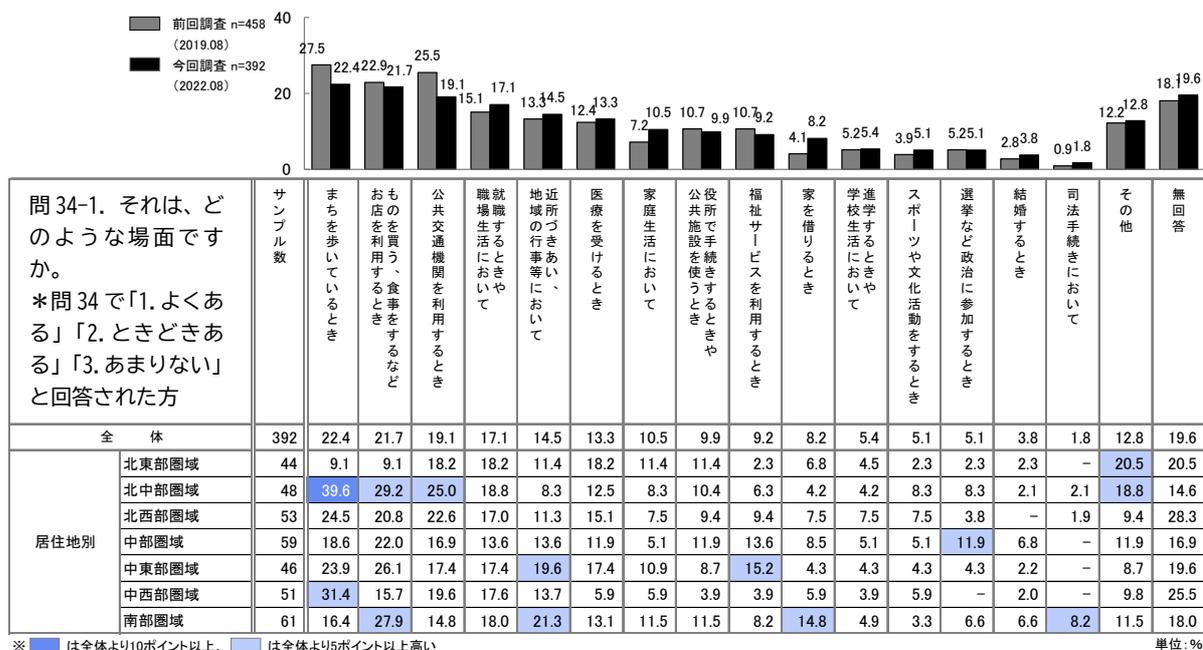
単位：%

2. 差別を受けた場面

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者が差別を受けた場面は、「まちを歩いているとき」（22.4%）、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」（21.7%）、「公共交通機関を利用するとき」（19.1%）が上位となっています。前回調査と比べると、「公共交通機関を利用するとき」が6.4ポイント、「まちを歩いているとき」が5.1ポイント低下しています。

居住地別でみると、北中部圏域では「まちを歩いているとき」が全体と比べて高くなっています。



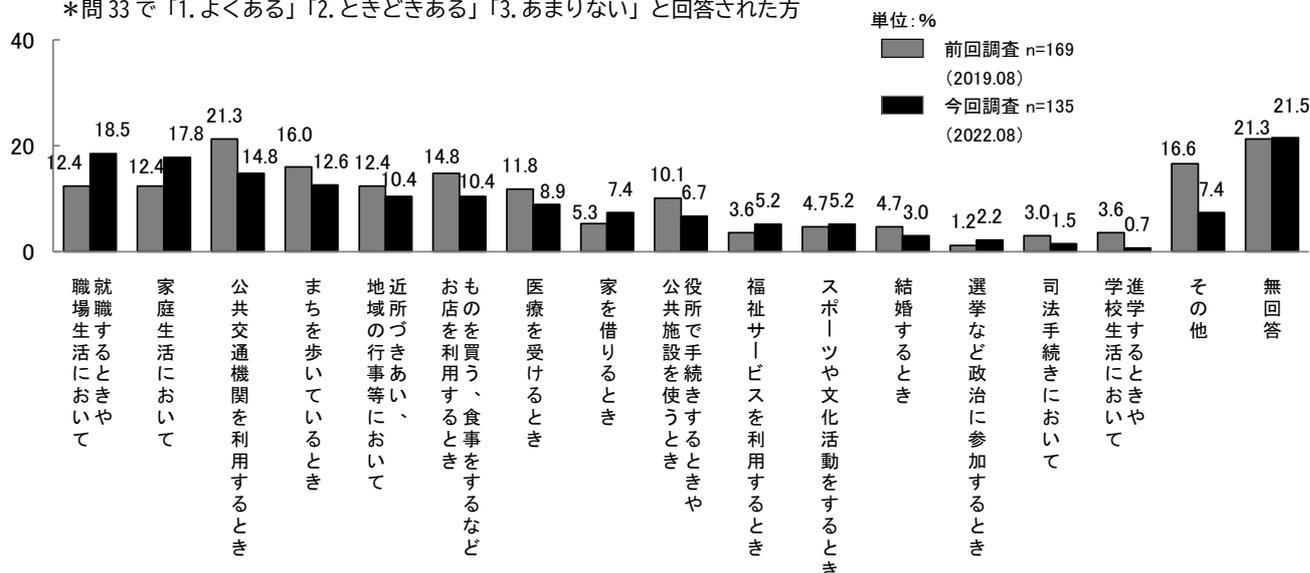
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が差別を受けた場面は、「就職するときや職場生活において」（18.5%）、「家庭生活において」（17.8%）、「公共交通機関を利用するとき」（14.8%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「公共交通機関を利用するとき」は6.5ポイント低下していますが、「就職するときや職場生活において」は6.1ポイント、「家庭生活において」は5.4ポイント上昇しています。

問33-1. それは、どのような場面ですか。

*問33で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方

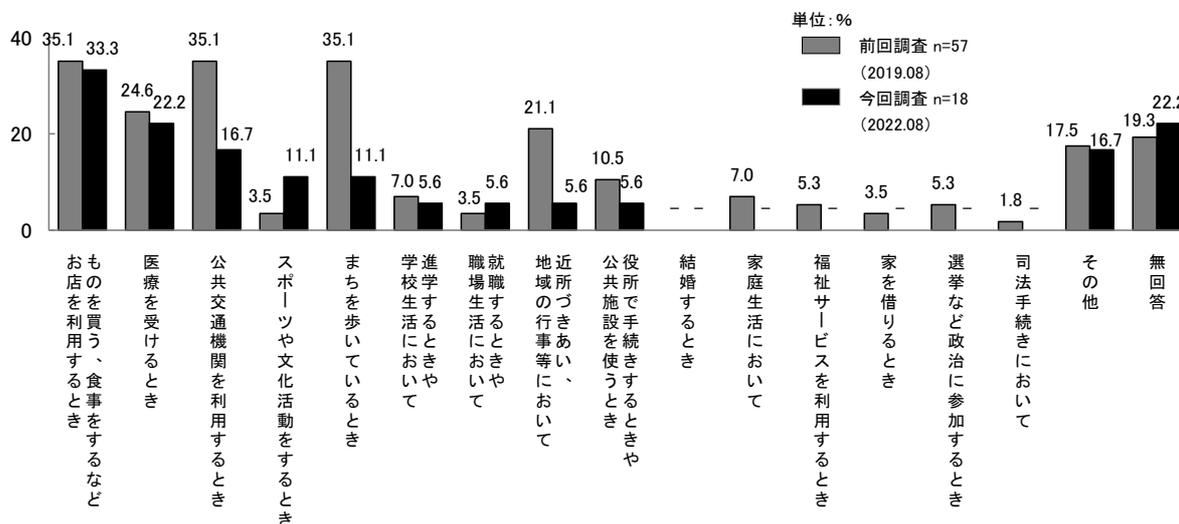


施設入所者（調査⑤）

施設入所者が差別を受けた場面は、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」33.3%、「医療を受けるとき」22.2%で、「公共交通機関を利用するとき」が16.7%と上位ですが、サンプルが少ないため参考値となります。

問16-1. それは、どのような場面ですか。

*問16で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方



3. 差別を受けた場面（18歳未満）

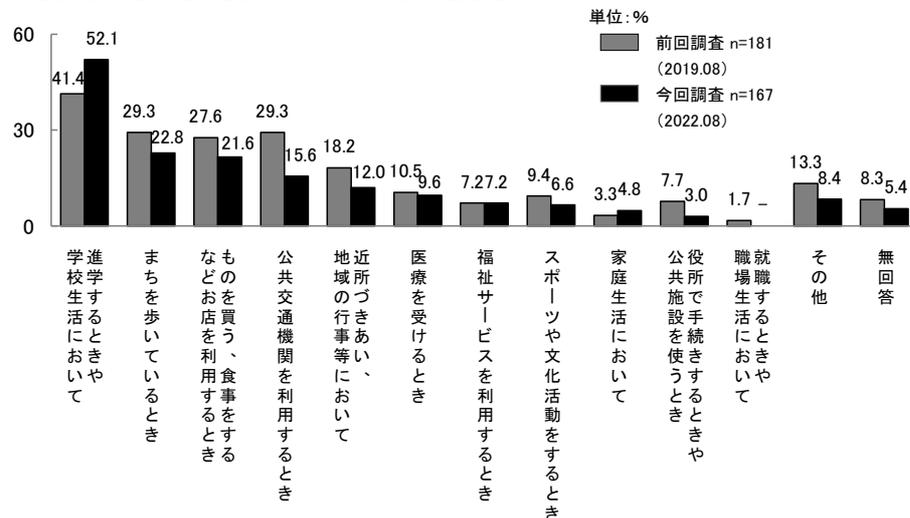
18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が差別を受けた場面は、「進学するときや学校生活において」（52.1%）、「まちを歩いているとき」（22.8%）、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」（21.6%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「進学するときや学校生活において」が10.7ポイント上昇しています。一方、「公共交通機関を利用するとき」は13.7ポイント、「まちを歩いているとき」は6.5ポイント、「近所づきあい、地域の行事等において」は6.2ポイント、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」は6.0ポイント低下しています。

問37-1. それは、どのような場面ですか。

*問37で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方



4. 差別を受けた場面（児童）

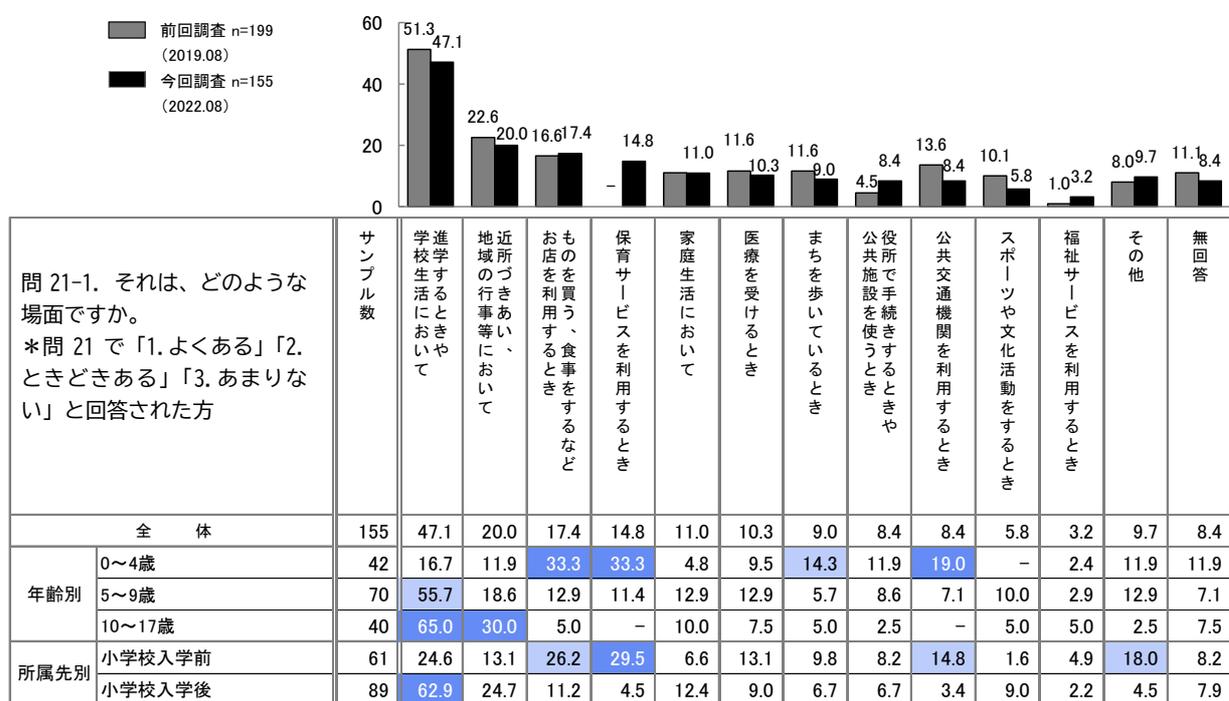
通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童が差別を受けた場面は、「進学するときや学校生活において」(47.1%)、「近所づきあい、地域の行事等において」(20.0%)、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」(17.4%)が上位となっています。

前回調査と比べると、「公共交通機関を利用するとき」は5.2ポイント低下しています。

年齢別でみると、0～4歳では、「ものを買う、食事をするなど」、「保育サービスを利用するとき」、「公共交通機関を利用するとき」が、10～17歳では、「進学するときや学校生活において」、「近所づきあい、地域の行事等において」が全体よりも高くなっています。

所属先別でみると、小学校入学前では、「保育サービスを利用するとき」が、小学校入学後では、「進学するときや学校生活において」が全体よりも高くなっています。



※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

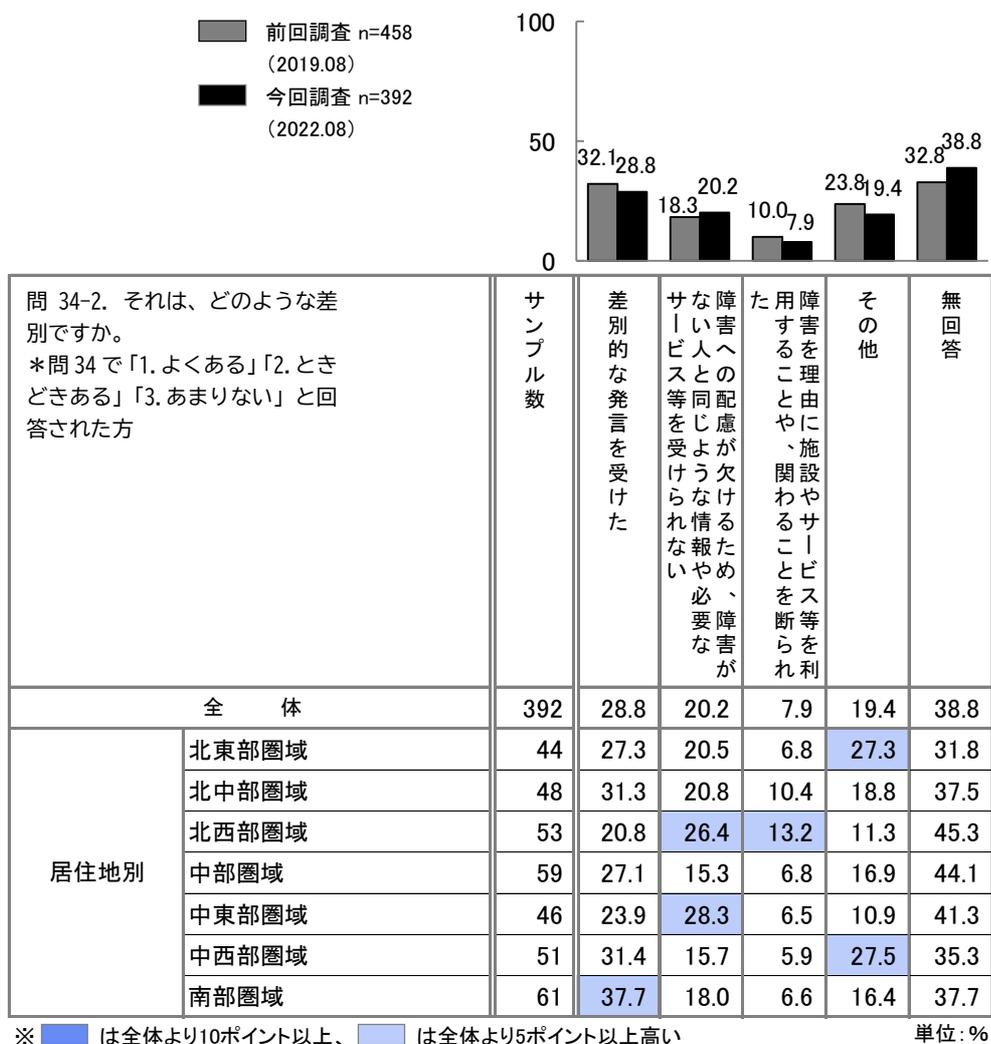
単位: %

*「保育サービスを利用するとき」は前回調査では未聴取

5. 受けた差別の内容

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者が受けた差別の内容をみると、「差別的な発言を受けた」が28.8%で最も高く、「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」（20.2%）、「障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」（7.9%）が続いています。



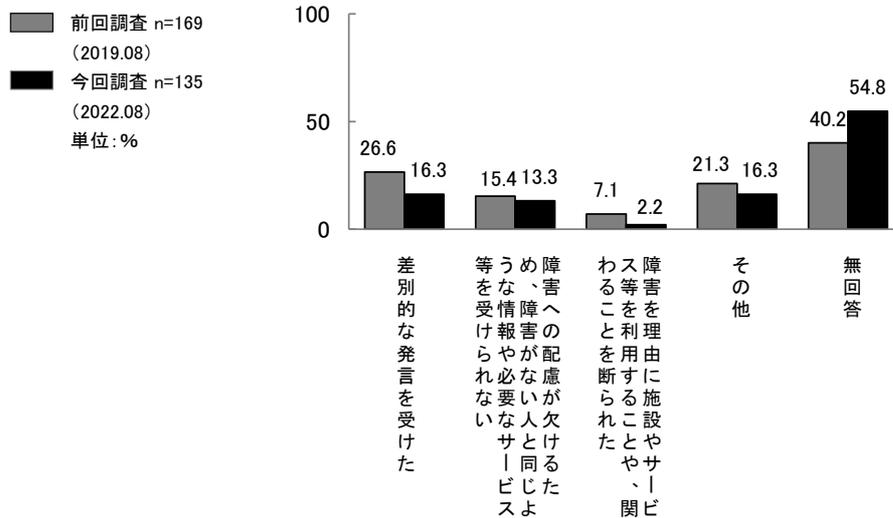
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が受けた差別の内容をみると、「差別的な発言を受けた」が16.3%で最も高く、「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」(13.3%)、「障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」(2.2%)が続いています。

前回調査と比べると「差別的な発言を受けた」は10.3ポイント低下しています。

問33-2. それは、どのような差別ですか。

*問33で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方



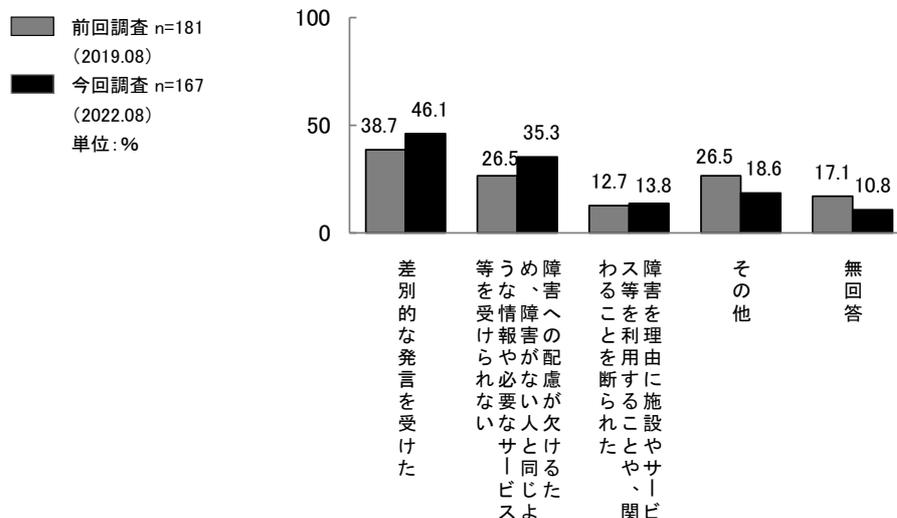
18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が受けた差別の内容をみると、「差別的な発言を受けた」が46.1%で最も高く、「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」(35.3%)、「障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」(13.8%)が続いています。

前回調査と比べると、「差別的な発言を受けた」は7.4ポイント、「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」は8.8ポイント上昇しています。

問37-2. それは、どのような差別ですか。

*問37で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方

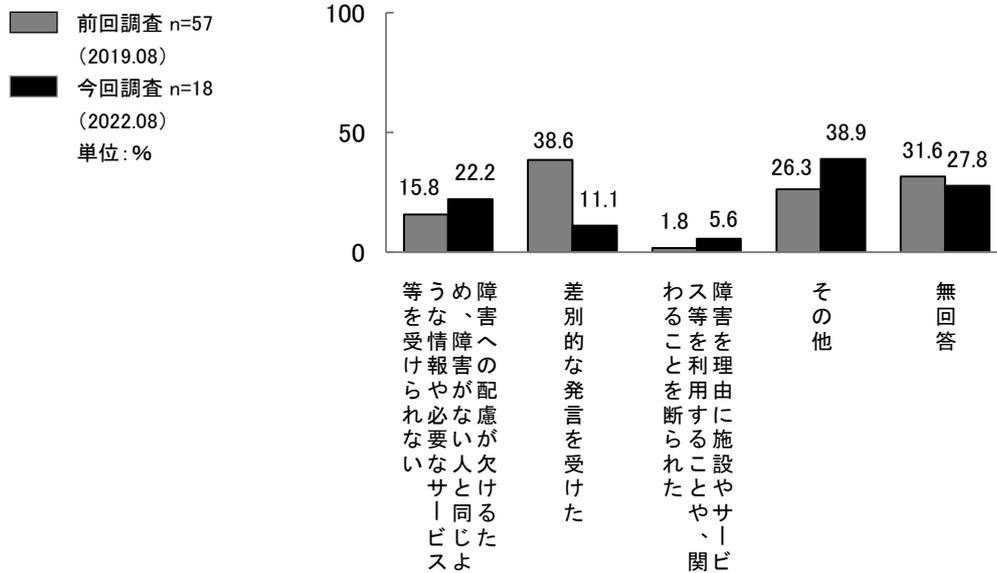


施設入所者（調査⑤）

施設入所者が受けた差別の内容をみると、「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が22.2%と最も高く、「差別的な発言を受けた」（11.1%）、「障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」（5.6%）が続いていますが、サンプル数が少ないため参考値となります。

問16-2. それは、どのような差別ですか。

*問16で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方



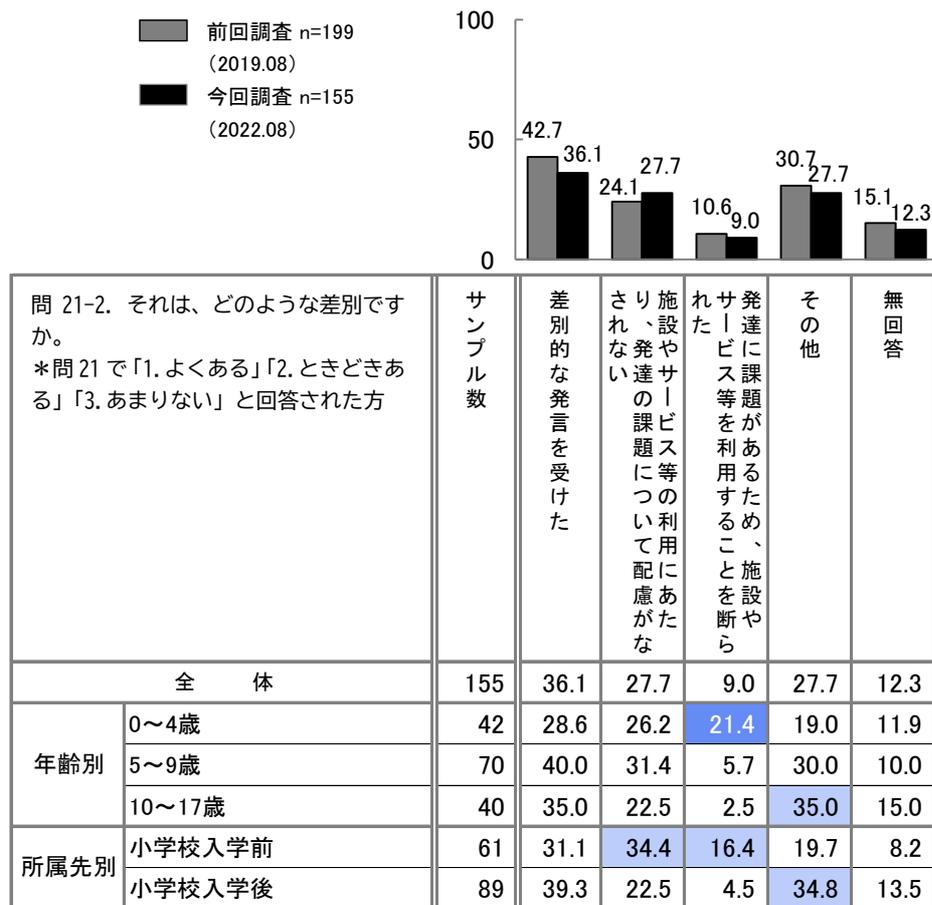
6. 受けた差別の内容（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童が受けた差別の内容をみると、「差別的な発言を受けた」が 36.1%で最も高く、「施設やサービス等の利用にあたり、発達に課題があることについて、配慮がなされない」（27.7%）、「発達に課題があるため、施設やサービス等を利用することを断られた」（9.0%）が続いています。

前回調査と比べると「差別的な発言を受けた」は 6.6 ポイント低下しています。

年齢別でみると、0～4歳では「発達に課題があるため、施設やサービス等を利用することを断られた」が全体と比べて高くなっています。



※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

7. 「障害」「発達課題」「難病」に対する市民の理解（児童）

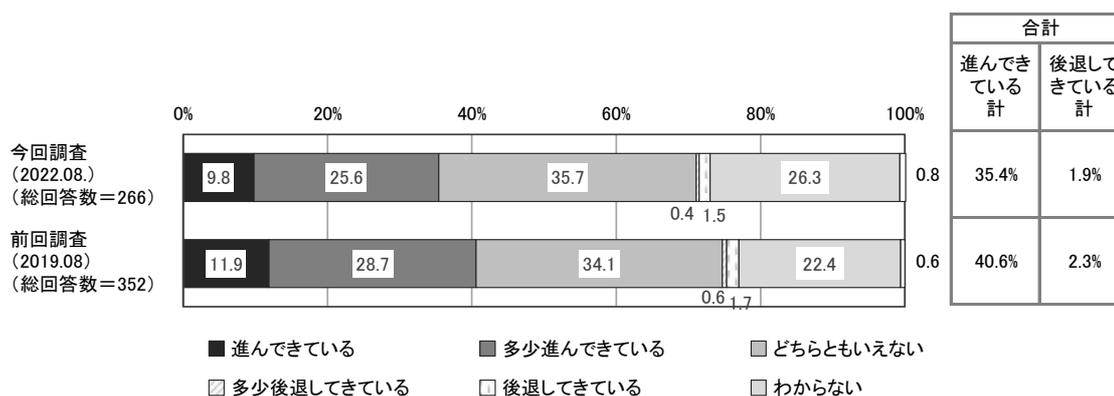
【3年前と比べて】

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童において3年前と比べて「障害」「発達課題」「難病」に対する市民の理解は「進んできている」は9.8%、「多少進んできている」(25.6%)も含めると35.4%が進んできていると回答しています。

ただし、前回調査と比べると、「進んできている計」は5.2ポイント低下しています。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「どちらともいえない」が高くなる傾向がみられます。



問 23. 「障害」「発達課題」「難病」に対して、広く市民の理解が進んできていると思いますか。(1) 3年前と比べて		サンプル数	進んできている	多少進んできている	どちらともいえない	多少後退してきている	後退してきている	わからない	無回答	進んできている計	後退してきている計
全 体		266	9.8	25.6	35.7	0.4	1.5	26.3	0.8	35.4	1.9
年齢別	0～4歳	82	7.3	22.0	24.4	-	1.2	43.9	1.2	29.3	1.2
	5～9歳	120	13.3	27.5	35.0	0.8	0.8	21.7	0.8	40.8	1.6
	10～17歳	59	6.8	25.4	52.5	-	3.4	11.9	-	32.2	3.4
所属先別	小学校入学前	129	10.1	24.0	26.4	-	1.6	36.4	1.6	34.1	1.6
	小学校入学後	130	10.0	27.7	43.8	0.8	1.5	16.2	-	37.7	2.3

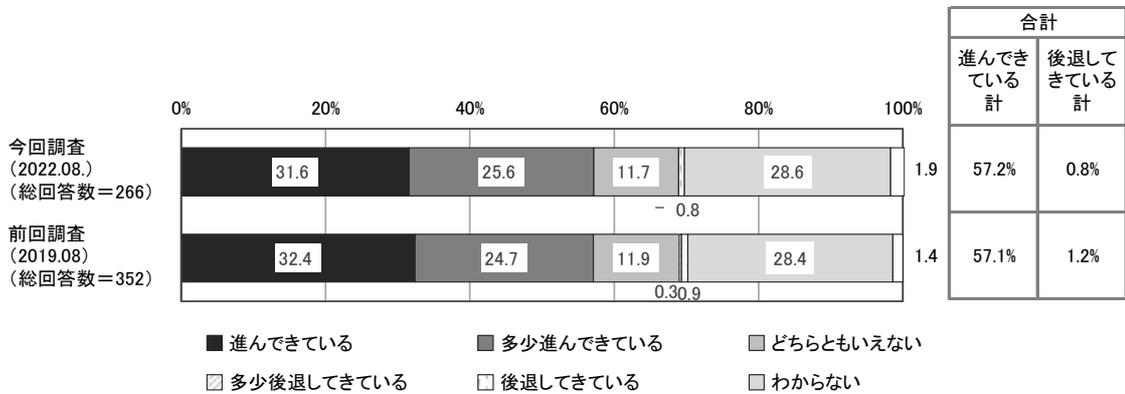
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

【10年前と比べて】

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

10年前と比べると「障害」「発達の課題」「難病」に対する市民の理解は「進んでいる」は31.6%、「多少進んでいる」（25.6%）も含めると57.2%が進んでいると回答しており、長期的には理解が進んでいる様子がうかがえます。



問 23. 「障害」「発達の課題」「難病」に対して、広く市民の理解が進んできていると思いますか。(2) 10年前と比べて		サンプル数	進んできている	多少進んできている	どちらともいえない	多少後退してきている	後退してきている	わからない	無回答	進んできている計	後退してきている計
全 体		266	31.6	25.6	11.7	-	0.8	28.6	1.9	57.2	0.8
年齢別	0～4歳	82	30.5	17.1	9.8	-	-	40.2	2.4	47.6	-
	5～9歳	120	38.3	27.5	5.8	-	0.8	25.0	2.5	65.8	0.8
	10～17歳	59	18.6	33.9	27.1	-	1.7	18.6	-	52.5	1.7
所属先別	小学校入学前	129	34.1	20.2	7.0	-	0.8	34.1	3.9	54.3	0.8
	小学校入学後	130	29.2	29.2	16.9	-	0.8	23.8	-	58.4	0.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

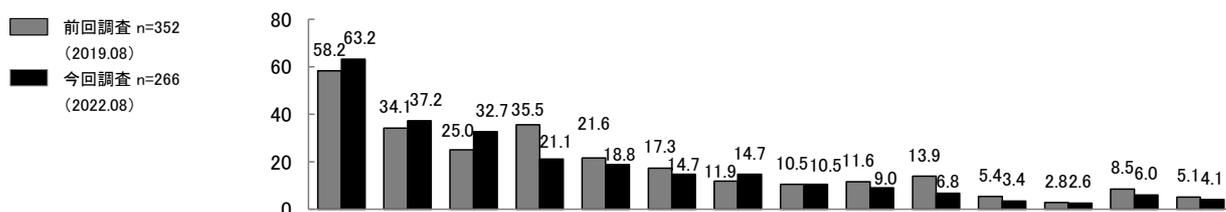
8. 情報の取得方法・媒体（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童における情報の取得方法・媒体は、「広報とよなか」（63.2%）、「ホームページ」（37.2%）、「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」（32.7%）が上位となっています。

前回調査と比べると「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」は7.7ポイント、「広報とよなか」は5.0ポイント上昇していますが、「テレビ・ラジオ」は14.4ポイント、「講演会、講座」は7.1ポイント低下しています。

年齢別にみると、子どもの年齢が低くなるほど「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」が高くなる傾向がみられ、子どもの年齢が高くなるほど「行政の出版物（パンフレット、行政計画、報告書等）」が高くなる傾向がみられます。



問 25. どのような方法で情報を得ていますか。		サンプル数	広報とよなか	ホームページ	SNS (フェイスブック、ツイッターなど)	テレビ・ラジオ	ロコミ	雑誌・書籍	ポスター・チラシ	行政の出版物 (パンフレット、報告書等)	新聞	講演会・講座	イベント	メールマガジン	その他	無回答
全 体		266	63.2	37.2	32.7	21.1	18.8	14.7	14.7	10.5	9.0	6.8	3.4	2.6	6.0	4.1
年齢別	0～4歳	82	64.6	37.8	39.0	15.9	11.0	9.8	12.2	7.3	4.9	4.9	1.2	1.2	3.7	4.9
	5～9歳	120	59.2	39.2	36.7	28.3	21.7	20.8	17.5	10.8	10.0	8.3	3.3	2.5	9.2	3.3
	10～17歳	59	67.8	33.9	16.9	15.3	23.7	10.2	11.9	13.6	13.6	6.8	6.8	5.1	3.4	5.1
所属先別	小学校入学前	129	59.7	38.8	38.0	19.4	15.5	14.0	13.2	9.3	7.0	7.0	2.3	0.8	3.1	4.7
	小学校入学後	130	64.6	34.6	26.9	23.1	21.5	14.6	15.4	12.3	11.5	6.9	4.6	4.6	8.5	3.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

9. 「障害者差別解消法」の認知状況

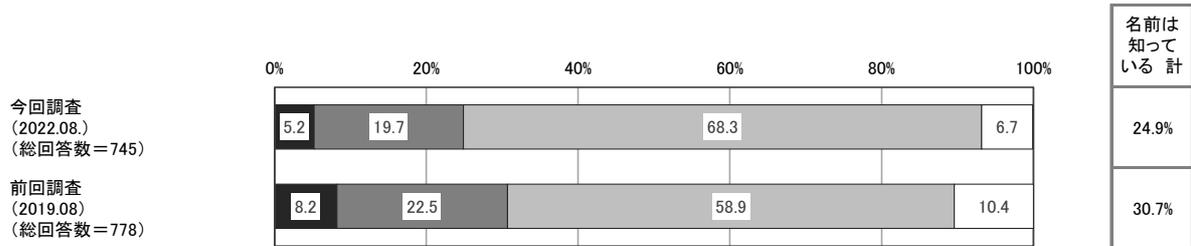
18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者における「障害者差別解消法」の認知状況は、「名前も内容も知っている」は5.2%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」は19.7%で、「名前は知っている計」が24.9%、「名前も内容も知らない」が68.3%となっています。内容まで知っている人は10%未満となっています。

前回調査と比べると、「名前も内容も知らない」が9.4ポイント上昇しています。

居住地別でみると、北中部圏域では「名前は知っている計」が全体よりも高くなっています。

身障種別でみると、視覚障害のある人は「名前は知っている計」が全体よりも高くなっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない □ 名前も内容も知らない □ 無回答

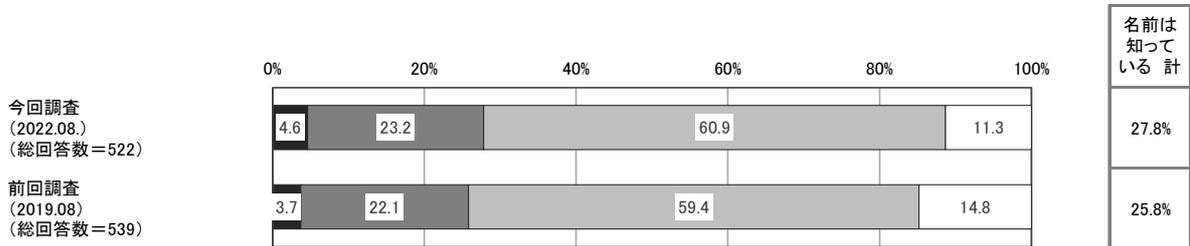
問 39. あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）について知っていますか。		サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答	名前を知っている計
全 体		745	5.2	19.7	68.3	6.7	24.9
居住地別	北東部圏域	79	5.1	19.0	68.4	7.6	24.1
	北中部圏域	91	5.5	29.7	57.1	7.7	35.2
	北西部圏域	118	6.8	22.9	64.4	5.9	29.7
	中部圏域	106	8.5	19.8	61.3	10.4	28.3
	中東部圏域	88	3.4	17.0	75.0	4.5	20.4
	中西部圏域	96	5.2	16.7	72.9	5.2	21.9
	南部圏域	121	4.1	13.2	76.0	6.6	17.3
年齢別	18～39歳	254	5.1	19.7	72.0	3.1	24.8
	40～64歳	383	4.2	20.1	67.6	8.1	24.3
	65歳以上	99	9.1	19.2	61.6	10.1	28.3
障害種別	身体障害	274	7.3	21.9	62.0	8.8	29.2
	知的障害	337	5.9	22.6	64.7	6.8	28.5
	精神障害	247	2.8	16.6	76.9	3.6	19.4
	難病	43	4.7	16.3	76.7	2.3	21.0
	発達障害	92	10.9	22.8	66.3	-	33.7
	高次脳機能障害	17	-	17.6	82.4	-	17.6
身障種別	視覚障害	46	10.9	28.3	52.2	8.7	39.2
	聴覚障害・平衡機能障害	23	17.4	26.1	47.8	8.7	43.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	48	10.4	12.5	62.5	14.6	22.9
	肢体不自由	168	6.5	21.4	63.7	8.3	27.9
	内部障害	19	-	26.3	68.4	5.3	26.3

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者における「障害者差別解消法」の認知状況は、「名前も内容も知っている」は4.6%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」は23.2%で、「名前は知っている計」が27.8%、「名前も内容も知らない」が60.9%となっています。内容まで知っている人は5%未満となっています。居住地別でみると、北中部圏域では「名前は知っている計」が全体よりも高くなっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

問 38. あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）について知っていますか。		サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答	計 名前を知っている
全 体		522	4.6	23.2	60.9	11.3	27.8
居住地別	北東部圏域	68	2.9	22.1	63.2	11.8	25.0
	北中部圏域	80	10.0	31.3	52.5	6.3	41.3
	北西部圏域	89	1.1	21.3	69.7	7.9	22.4
	中部圏域	60	8.3	28.3	50.0	13.3	36.6
	中東部圏域	58	1.7	29.3	51.7	17.2	31.0
	中西部圏域	66	6.1	10.6	68.2	15.2	16.7
	南部圏域	78	2.6	19.2	67.9	10.3	21.8
年齢別	18～39歳	39	5.1	28.2	64.1	2.6	33.3
	40～64歳	143	7.0	17.5	69.9	5.6	24.5
	65歳以上	334	3.6	25.4	56.6	14.4	29.0
障害種別	身体障害	339	5.0	22.4	59.3	13.3	27.4
	知的障害	24	4.2	25.0	66.7	4.2	29.2
	精神障害	65	7.7	21.5	61.5	9.2	29.2
	難病	91	5.5	27.5	60.4	6.6	33.0
	発達障害	16	18.8	37.5	43.8	-	56.3
	高次脳機能障害	9	11.1	-	88.9	-	11.1
身障種別	視覚障害	22	4.5	9.1	68.2	18.2	13.6
	聴覚障害・平衡機能障害	44	-	31.8	52.3	15.9	31.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	10.0	70.0	10.0	20.0
	肢体不自由	149	2.7	22.8	61.7	12.8	25.5
	内部障害	112	8.9	22.3	60.7	8.0	31.2

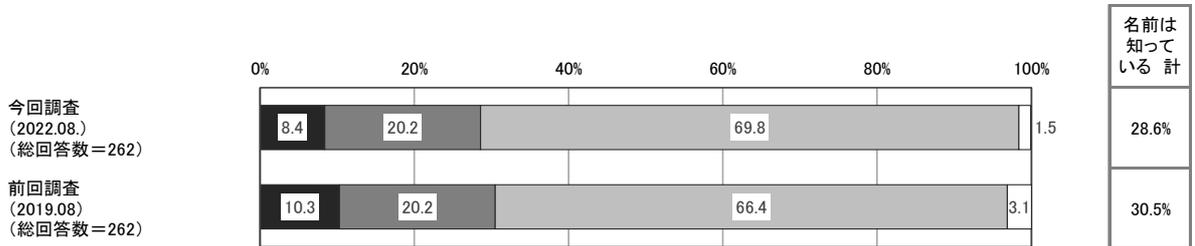
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児における「障害者差別解消法」の認知状況は、「名前も内容も知っている」は8.4%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」は20.2%で、「名前は知っている計」が28.6%、「名前も内容も知らない」が69.8%となっています。内容まで知っている人は10%未満となっています。

障害種別でみると、難病のある人は「名前は知っている計」が全体と比べて高くなっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

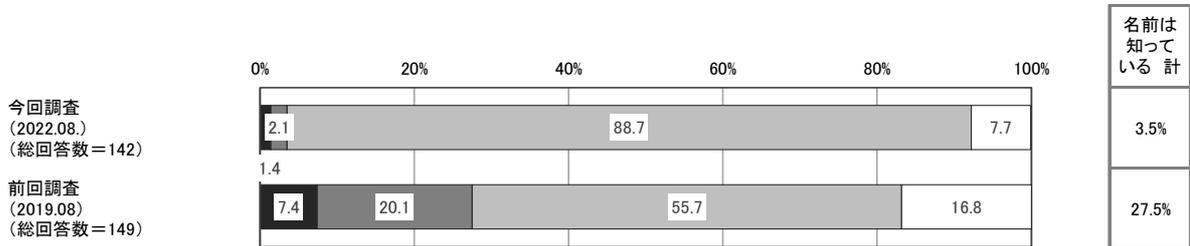
問 42. あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)について知っていますか。		サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答	計 名前は知っている
全 体		262	8.4	20.2	69.8	1.5	28.6
居住地別	北東部圏域	41	7.3	14.6	78.0	-	21.9
	北中部圏域	45	6.7	24.4	68.9	-	31.1
	北西部圏域	43	16.3	14.0	67.4	2.3	30.3
	中部圏域	33	12.1	24.2	60.6	3.0	36.3
	中東部圏域	27	3.7	29.6	66.7	-	33.3
	中西部圏域	30	6.7	16.7	73.3	3.3	23.4
	南部圏域	26	3.8	15.4	80.8	-	19.2
年齢別	0～4歳	26	7.7	19.2	73.1	-	26.9
	5～9歳	78	10.3	19.2	66.7	3.8	29.5
	10～14歳	97	6.2	21.6	71.1	1.0	27.8
	15～17歳	57	10.5	21.1	68.4	-	31.6
障害種別	身体障害	63	4.8	23.8	69.8	1.6	28.6
	知的障害	203	7.9	22.7	67.5	2.0	30.6
	精神障害	26	15.4	7.7	76.9	-	23.1
	難病	30	3.3	43.3	53.3	-	46.6
	発達障害	87	4.6	27.6	66.7	1.1	32.2
	高次脳機能障害	1	-	100.0	-	-	100.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位：%

施設入所者（調査⑤）

施設入所者における「障害者差別解消法」の認知状況は、「名前も内容も知っている」は1.4%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」は2.1%で、「名前は知っている計」が3.5%、「名前も内容も知らない」が88.7%となっています。

前回調査と比べると「名前は知っている計」が24.0ポイントも低下しています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

問 17. あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）について知っていますか。		サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答	名前も内容も知らない	計名前は知っている
全 体		142	1.4	2.1	88.7	7.7	3.5	
年齢別	18～39歳	25	-	-	84.0	16.0	-	
	40～64歳	93	2.2	3.2	89.2	5.4	5.4	
	65歳以上	20	-	-	100.0	-	-	
障害種別	身体障害	42	2.4	4.8	85.7	7.1	7.2	
	知的障害	122	0.8	1.6	91.8	5.7	2.4	
	その他の障害	25	-	-	84.0	16.0	-	
入所年数別	5年未満	36	2.8	-	91.7	5.6	2.8	
	5～20年未満	49	2.0	2.0	87.8	8.2	4.0	
	20年以上	53	-	3.8	88.7	7.5	3.8	
退所の意向別	はい	24	-	8.3	83.3	8.3	8.3	
	いいえ・わからない	114	1.8	0.9	91.2	6.1	2.7	

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

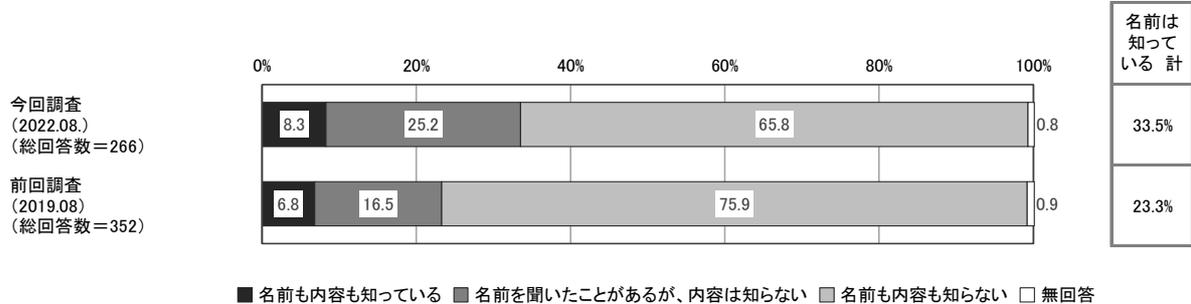
単位：%

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童における「障害者差別解消法」の認知状況は、「名前も内容も知っている」は8.3%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」は25.2%で、「名前は知っている計」が33.5%、「名前も内容も知らない」が65.8%となっています。

前回調査と比べると、「名前は知っている計」は10.2ポイント上昇しています。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど認知度が高くなる傾向がみられます。



問 26. 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)について知っていますか。		サンプル数	名前も内容も知っています	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答	名前を知っている計
全 体		266	8.3	25.2	65.8	0.8	33.5
年齢別	0～4歳	82	4.9	18.3	75.6	1.2	23.2
	5～9歳	120	10.0	24.2	65.8	-	34.2
	10～17歳	59	10.2	39.0	49.2	1.7	49.2
所属先別	小学校入学前	129	7.0	17.1	75.2	0.8	24.1
	小学校入学後	130	10.0	33.1	56.2	0.8	43.1

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

(4) 療育・教育

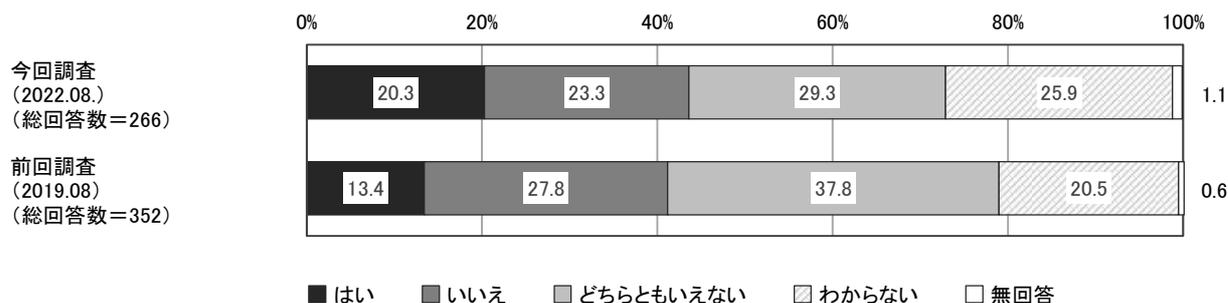
1. 教育現場における発達課題についての理解度

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童における、教育現場において障害理解が十分と考えるかについて、「はい」は20.3%、「いいえ」が23.3%、「どちらともいえない」が29.3%、「わからない」が25.9%となっています。

前回調査と比べると「はい」は6.9ポイント上昇しています。

所属先別でみると、小学校入学前よりも小学校入学後の方が「はい」が高くなっています。



問 27. 学校等の教育現場では、発達の課題についての理解が充分と考えますか。		サンプル数	はい	いいえ	どちらともいえない	わからない	無回答
全 体		266	20.3	23.3	29.3	25.9	1.1
年齢別	0～4歳	82	12.2	19.5	23.2	42.7	2.4
	5～9歳	120	24.2	21.7	30.8	23.3	-
	10～17歳	59	25.4	32.2	35.6	6.8	-
所属先別	小学校入学前	129	11.6	20.9	25.6	40.3	1.6
	小学校入学後	130	30.0	25.4	32.3	11.5	0.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

(5) 雇用・就労

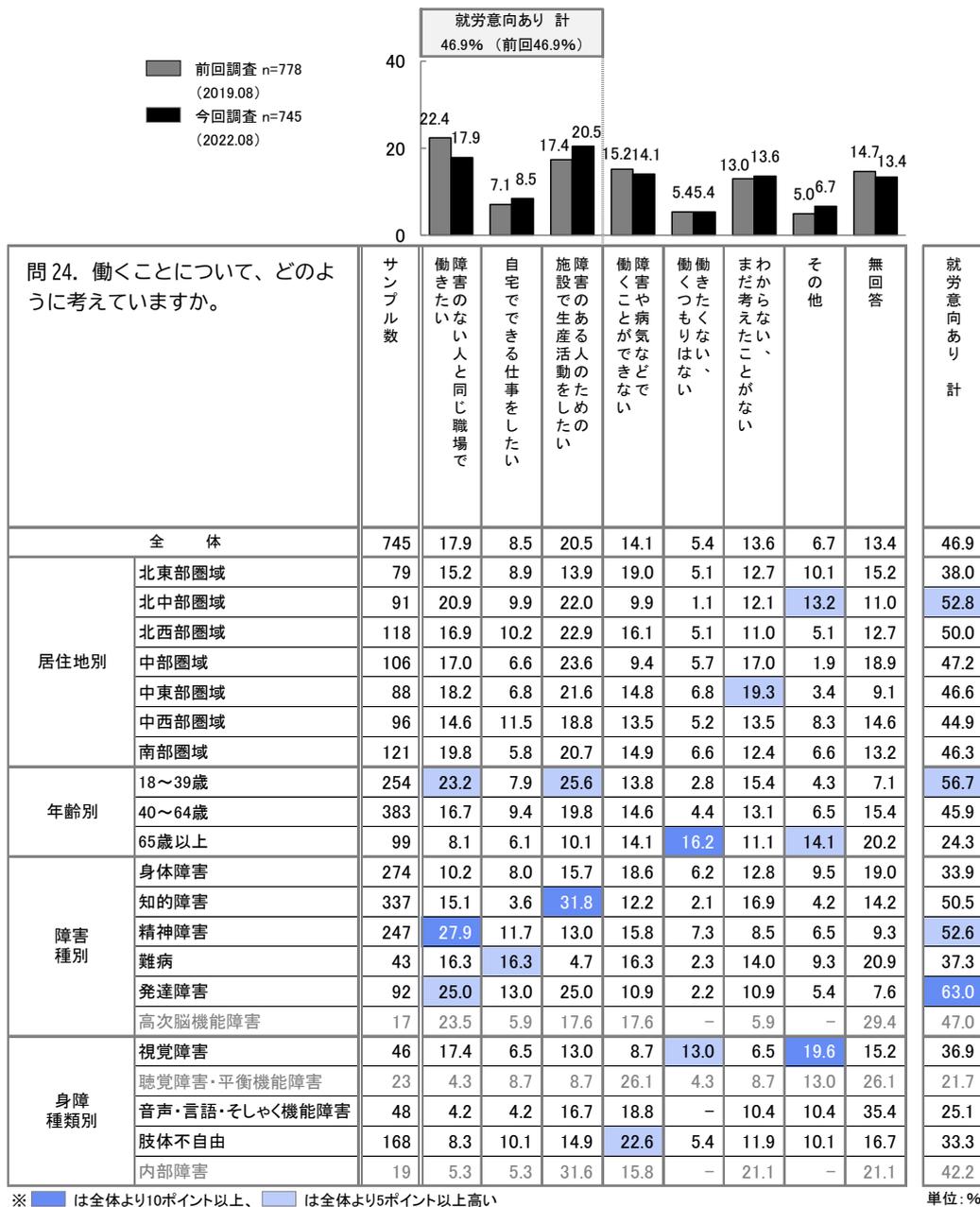
1. 働くことへの意識

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者の就労意向をみると、「障害のない人と同じ職場で働きたい」（17.9%）、「自宅でできる仕事をしたい」（8.5%）、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」（20.5%）を合わせて46.9%がいずれかの形で働く、もしくは生産活動をしたいと考えています。

年齢別でみると、18～39歳では56.7%が就労意向をしめしており、他の年代と比べて高くなっていますが、年齢が高くなるにつれて就労意向が低下する傾向がみられます。

障害種別でみると、精神障害のある人、発達障害のある人は「障害のない人と同じ職場で働きたい」という意向が他層よりも高く、知的障害のある人は「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」という意向が他層よりも高くなっています。

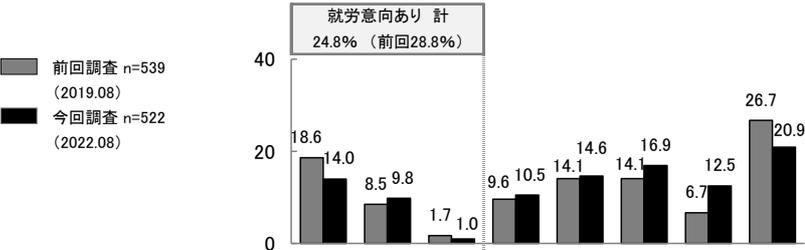


18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者の就労意向をみると、「障害のない人と同じ職場で働きたい」（14.0%）、「自宅でできる仕事をしたい」（9.8%）、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」（1.0%）を合わせて24.8%がいずれかの形で働く、もしくは生産活動をしたいと考えています。

年齢別でみると、18～64歳は50%以上が就労意向をしめています。

障害種別でみると、精神障害のある人は就労意向が44.6%と他の障害のある人と比べて高く、その中でも「自宅でできる仕事をしたい」が他の障害のある人よりも高くなっています。



問23. 働くことについて、どのように考えていますか。		サンプル数	働きたい 障害のない 人と同じ 職場で	自宅 でできる 仕事を したい	施設 で生産 活動 をしたい	障害 や病気 などで 働く ことが でき ない	働く つも り は な い	まだ 考 え た こ と が な い	そ の 他	無 回 答	就 労 意 向 あ り 計
全 体		522	14.0	9.8	1.0	10.5	14.6	16.9	12.5	20.9	24.8
居住地別	北東部圏域	68	7.4	11.8	-	14.7	16.2	17.6	13.2	19.1	19.2
	北中部圏域	80	13.8	11.3	-	11.3	18.8	12.5	15.0	17.5	25.1
	北西部圏域	89	16.9	7.9	1.1	9.0	15.7	19.1	12.4	18.0	25.9
	中部圏域	60	15.0	8.3	-	6.7	20.0	20.0	3.3	26.7	23.3
	中東部圏域	58	15.5	15.5	3.4	8.6	12.1	12.1	13.8	19.0	34.4
	中西部圏域	66	15.2	7.6	1.5	13.6	10.6	15.2	18.2	18.2	24.3
	南部圏域	78	14.1	3.8	1.3	11.5	10.3	21.8	9.0	28.2	19.2
年齢別	18～39歳	39	35.9	10.3	5.1	2.6	5.1	23.1	10.3	7.7	51.3
	40～64歳	143	30.8	18.9	1.4	6.3	8.4	15.4	11.2	7.7	51.1
	65歳以上	334	4.5	5.4	0.3	13.2	18.3	17.1	13.5	27.8	10.2
障害種別	身体障害	339	9.1	8.3	0.6	12.1	15.6	15.6	14.7	23.9	18.0
	知的障害	24	29.2	-	12.5	4.2	8.3	33.3	-	12.5	41.7
	精神障害	65	23.1	21.5	-	9.2	9.2	12.3	9.2	15.4	44.6
	難病	91	19.8	13.2	-	8.8	19.8	15.4	8.8	14.3	33.0
	発達障害	16	31.3	18.8	-	12.5	18.8	6.3	6.3	6.3	50.1
	高次脳機能障害	9	22.2	-	-	22.2	-	44.4	-	11.1	22.2
	身障種類別	視覚障害	22	9.1	4.5	-	4.5	9.1	18.2	9.1	45.5
聴覚障害・平衡機能障害	44	6.8	15.9	-	6.8	20.5	11.4	13.6	25.0	22.7	
音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	-	-	20.0	20.0	10.0	10.0	30.0	10.0	
肢体不自由	149	7.4	7.4	1.3	11.4	11.4	19.5	16.1	25.5	16.1	
内部障害	112	12.5	7.1	-	16.1	19.6	11.6	13.4	19.6	19.6	

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

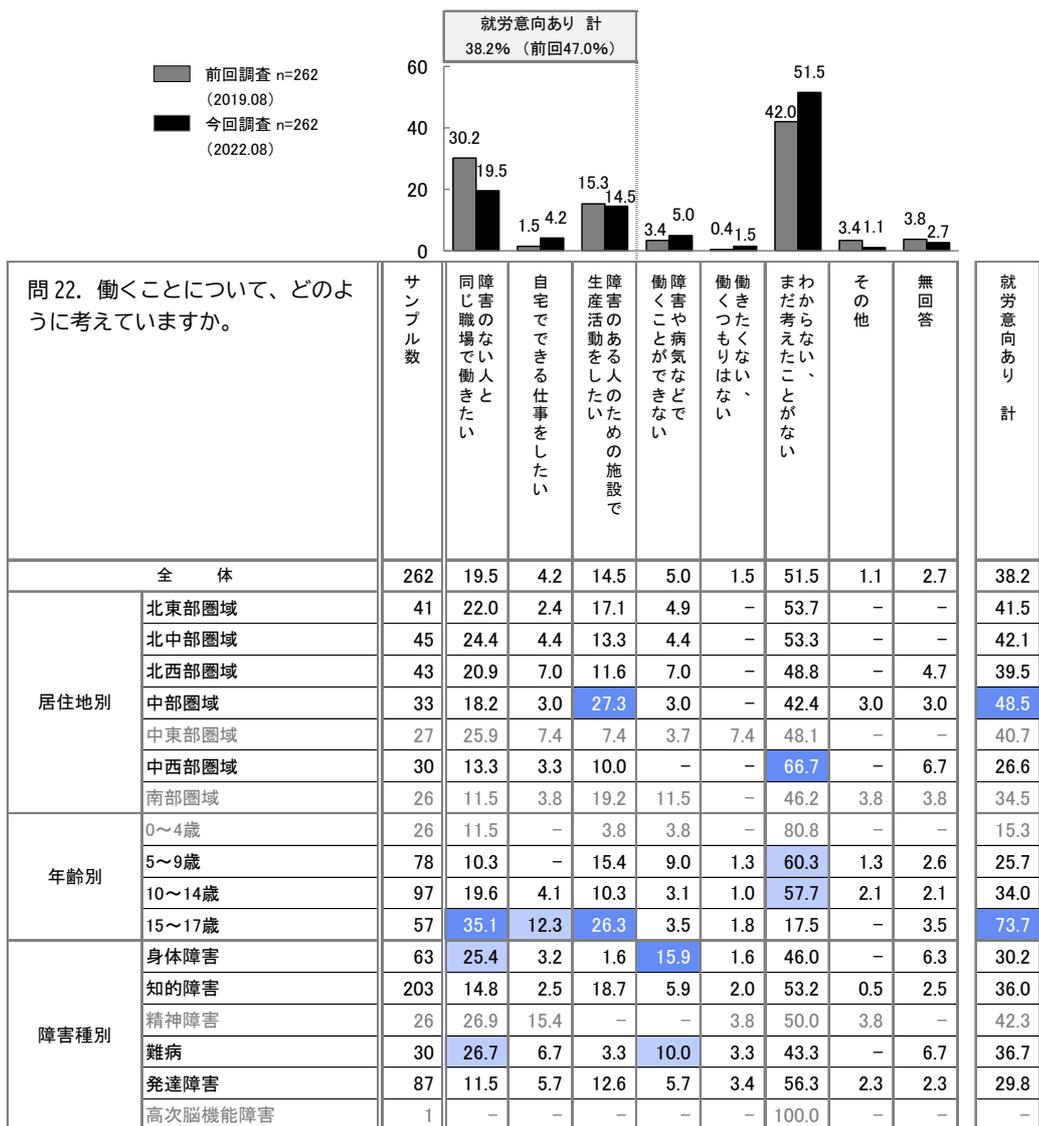
単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児の就労意向をみると、年齢的にも「わからない、まだ考えたことがない」が51.5%みられますが、「障害のない人と同じ職場で働きたい」（19.5%）、「自宅でできる仕事をしたい」（4.2%）、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」（14.5%）を合わせて38.2%がいずれかの形で働く、もしくは生産活動をしたいと考えていますが、前回調査と比べると、8.8ポイント低下しています。

年齢別でみると、年齢が高くなるほど就労意向が高くなっていき、15～17歳では73.7%が就労意向をしめています。

障害種別でみると、身体障害のある人は「障害や病気などで働くことができない」が全体より高くなっています。



問 22. 働くことについて、どのように考えていますか。		サンプル数	同じ職場で働きたい	自宅でできる仕事をしたい	障害のある人のための施設で生産活動をしたい	障害や病気などで働くことができない	働きたくはない	わからない、まだ考えたことがない	その他	無回答	就労意向あり計
全 体		262	19.5	4.2	14.5	5.0	1.5	51.5	1.1	2.7	38.2
居住地別	北東部圏域	41	22.0	2.4	17.1	4.9	-	53.7	-	-	41.5
	北中部圏域	45	24.4	4.4	13.3	4.4	-	53.3	-	-	42.1
	北西部圏域	43	20.9	7.0	11.6	7.0	-	48.8	-	4.7	39.5
	中部圏域	33	18.2	3.0	27.3	3.0	-	42.4	3.0	3.0	48.5
	中東部圏域	27	25.9	7.4	7.4	3.7	7.4	48.1	-	-	40.7
	中西部圏域	30	13.3	3.3	10.0	-	-	66.7	-	6.7	26.6
	南部圏域	26	11.5	3.8	19.2	11.5	-	46.2	3.8	3.8	34.5
年齢別	0～4歳	26	11.5	-	3.8	3.8	-	80.8	-	-	15.3
	5～9歳	78	10.3	-	15.4	9.0	1.3	60.3	1.3	2.6	25.7
	10～14歳	97	19.6	4.1	10.3	3.1	1.0	57.7	2.1	2.1	34.0
	15～17歳	57	35.1	12.3	26.3	3.5	1.8	17.5	-	3.5	73.7
障害種別	身体障害	63	25.4	3.2	1.6	15.9	1.6	46.0	-	6.3	30.2
	知的障害	203	14.8	2.5	18.7	5.9	2.0	53.2	0.5	2.5	36.0
	精神障害	26	26.9	15.4	-	-	3.8	50.0	3.8	-	42.3
	難病	30	26.7	6.7	3.3	10.0	3.3	43.3	-	6.7	36.7
	発達障害	87	11.5	5.7	12.6	5.7	3.4	56.3	2.3	2.3	29.8
	高次脳機能障害	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

2. 希望する支援

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者が仕事に就くために希望する支援は、「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」（56.1%）、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」（40.3%）、「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」（43.4%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」は8.2ポイント、「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」は6.4ポイント低下しています。

年齢別でみると、18～39歳は「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が高くなっています。



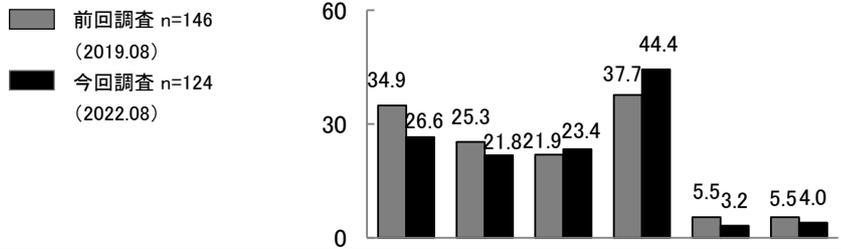
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が仕事に就くために希望する支援は、「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が26.6%で最も高く、「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」（23.4%）、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」（21.8%）が続いています。

前回調査と比べると、「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」は8.3ポイント低下しており、「特にない」は6.7ポイント上昇しています。



問 23-1. 仕事に就くために受けたい支援がありますか。 *問 23 で「1. 障害のない人と同じ職場で働きたい」「2. 自宅でできる仕事をしたい」と回答された方		サンプル数	探働くしたたりと紹介してほしをい	ら働ったたりと訓練を受けたい	相働くしたたりと助言がほし進路について	特にない	その他	無回答
全 体		124	26.6	21.8	23.4	44.4	3.2	4.0
居住地別	北東部圏域	13	23.1	15.4	38.5	61.5	-	-
	北中部圏域	20	30.0	20.0	25.0	45.0	5.0	-
	北西部圏域	22	36.4	9.1	27.3	40.9	4.5	4.5
	中部圏域	14	21.4	7.1	14.3	64.3	-	-
	中東部圏域	18	16.7	44.4	22.2	33.3	-	5.6
	中西部圏域	15	26.7	40.0	13.3	40.0	6.7	13.3
	南部圏域	14	28.6	14.3	14.3	42.9	7.1	-
年齢別	18～39歳	18	55.6	33.3	50.0	16.7	5.6	-
	40～64歳	71	22.5	16.9	18.3	56.3	2.8	1.4
	65歳以上	33	21.2	27.3	18.2	36.4	3.0	9.1
障害種別	身体障害	59	20.3	22.0	23.7	44.1	3.4	5.1
	知的障害	7	42.9	57.1	42.9	28.6	-	14.3
	精神障害	29	31.0	27.6	31.0	34.5	3.4	-
	難病	30	33.3	10.0	13.3	46.7	6.7	6.7
	発達障害	8	37.5	37.5	37.5	12.5	-	-
	高次脳機能障害	2	-	-	-	100.0	-	-
	視覚障害	3	33.3	-	33.3	66.7	-	-
身障種別	聴覚障害・平衡機能障害	10	20.0	40.0	40.0	30.0	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	1	-	-	-	100.0	-	-
	肢体不自由	22	4.5	27.3	18.2	50.0	4.5	4.5
	内部障害	22	36.4	13.6	22.7	40.9	4.5	4.5

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位:%

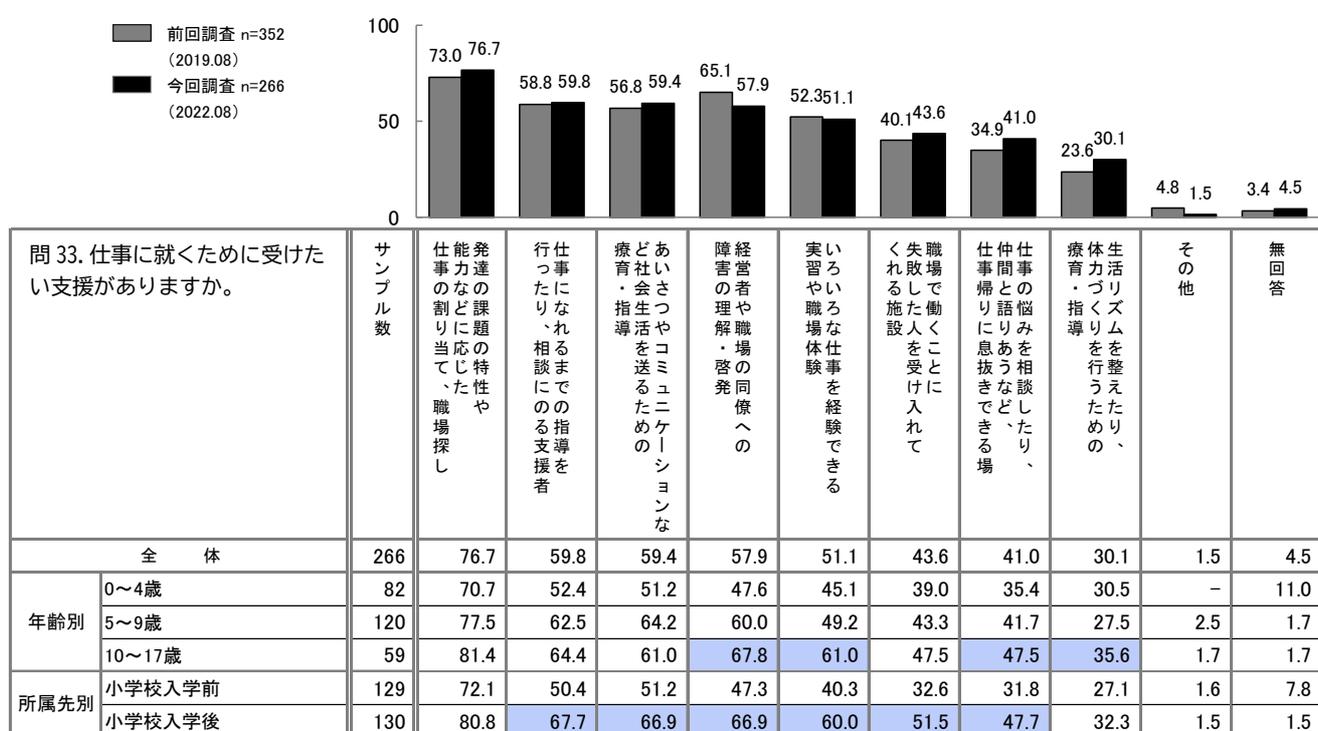
3. 働き続けるのに必要な支援

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童が働き続けるために必要だと思う支援は、「発達の課題の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」（76.7%）、「仕事になれるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」（59.8%）、「あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための療育・指導」（59.4%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「経営者や職場の同僚への障害の理解・啓発」は 7.2 ポイント低下しています。

所属先別でみると、小学校入学後は小学校入学前と比べて多くの支援を必要としていることがうかがえます。



※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

(6) 生涯学習、文化・スポーツ活動

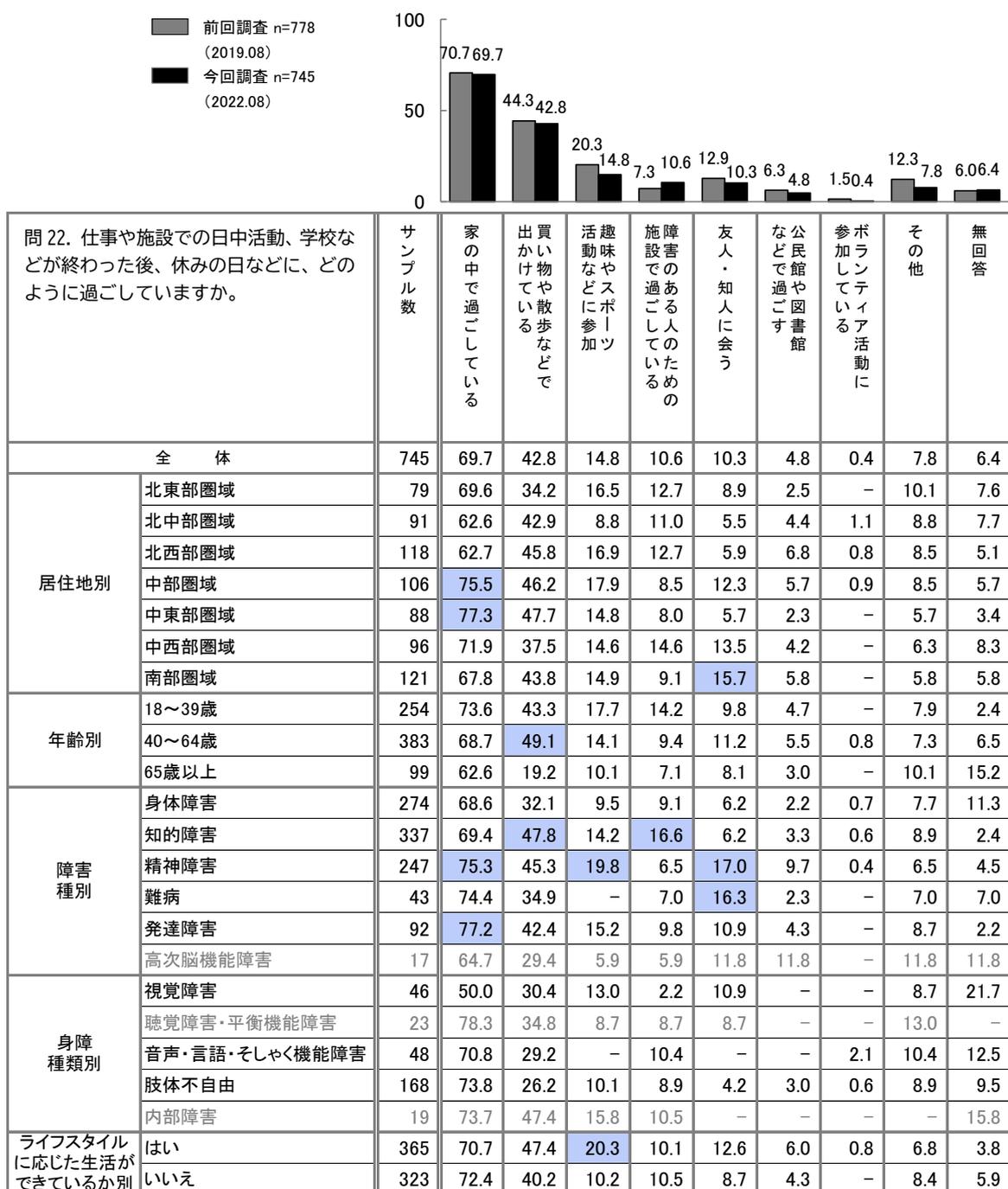
1. 休日などの過ごし方

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者の休日などの過ごし方をみると、「家の中で過ごしている」が69.7%で突出して高く、「買い物や散歩などで出かけている」(42.8%)、「趣味やスポーツ活動などに参加」(14.8%)が続いています。

前回調査と比べると、「趣味やスポーツ活動などに参加」は5.5ポイント低下しています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていると感じている方は「趣味やスポーツ活動などに参加」ができていないと感じる方よりも10ポイント以上高くなっています。



※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

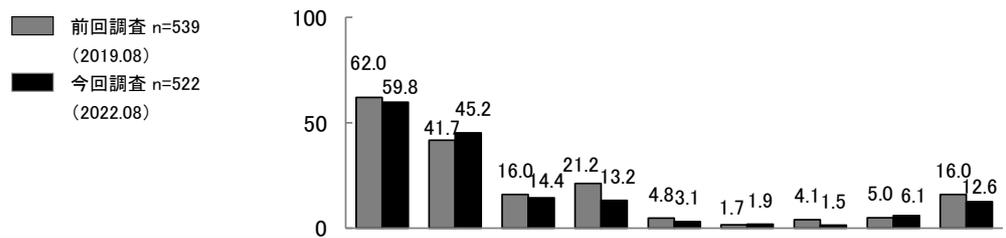
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者の休日などの過ごし方をみると、「家の中で過ごしている」（59.8%）、「買い物や散歩などで出かけている」（45.2%）が目立って高く、「趣味やスポーツ活動などに参加」（14.4%）が続いています。

前回調査と比べると、「友人・知人に会う」は8.0ポイント低下しています。

年齢別でみると、18～39歳は「趣味やスポーツ活動などに参加」が高くなっています。40～64歳は様々な過ごし方をしている様子がうかがえます。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていると感じている方は「買い物や散歩などで出かけている」、「趣味やスポーツ活動などに参加」、「友人・知人に会う」ができていないと感じる方よりも高くなっています。



問 21. 仕事や施設での日中活動、学校などが終わった後、休みの日などに、どのように過ごしていますか。		サンプル数	家の中で過ごしている	買い物や散歩などで出かけている	趣味やスポーツ活動などに参加	友人・知人に会う	公民館や図書館などで過ごす	障害のある人のための施設で過ごしている	ボランティア活動に参加している	その他	無回答
全 体		522	59.8	45.2	14.4	13.2	3.1	1.9	1.5	6.1	12.6
居住地別	北東部圏域	68	58.8	50.0	13.2	5.9	4.4	2.9	1.5	10.3	8.8
	北中部圏域	80	62.5	48.8	12.5	15.0	3.8	2.5	6.3	6.3	7.5
	北西部圏域	89	70.8	44.9	14.6	14.6	4.5	-	-	4.5	11.2
	中部圏域	60	66.7	38.3	10.0	21.7	5.0	3.3	1.7	3.3	11.7
	中東部圏域	58	60.3	48.3	17.2	12.1	3.4	-	-	8.6	12.1
	中西部圏域	66	59.1	47.0	22.7	16.7	-	4.5	-	6.1	7.6
	南部圏域	78	41.0	43.6	9.0	6.4	-	1.3	-	5.1	29.5
年齢別	18～39歳	39	59.0	43.6	33.3	15.4	7.7	-	-	7.7	5.1
	40～64歳	143	68.5	58.7	23.1	21.7	4.9	2.1	2.8	6.3	2.8
	65歳以上	334	55.7	40.4	8.7	9.3	1.8	2.1	1.2	6.0	17.7
障害種別	身体障害	339	59.6	42.8	10.9	12.7	2.4	2.7	1.5	5.6	16.2
	知的障害	24	54.2	29.2	29.2	-	4.2	-	-	4.2	4.2
	精神障害	65	66.2	49.2	20.0	15.4	6.2	1.5	3.1	9.2	7.7
	難病	91	59.3	47.3	22.0	15.4	2.2	-	1.1	8.8	6.6
	発達障害	16	68.8	56.3	25.0	6.3	6.3	-	6.3	12.5	6.3
	高次脳機能障害	9	55.6	44.4	-	11.1	-	11.1	-	33.3	-
身障種別	視覚障害	22	54.5	45.5	-	18.2	4.5	-	4.5	4.5	18.2
	聴覚障害・平衡機能障害	44	52.3	45.5	6.8	2.3	2.3	-	-	9.1	20.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	60.0	50.0	10.0	10.0	-	-	-	20.0	10.0
	肢体不自由	149	54.4	38.3	14.1	12.8	2.0	5.4	-	6.0	20.1
	内部障害	112	69.6	42.0	10.7	13.4	2.7	1.8	3.6	6.3	9.8
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい	302	61.6	52.3	19.2	17.2	4.0	1.3	2.3	4.6	8.3
	いいえ	181	60.8	35.4	8.8	7.7	1.7	2.8	-	9.4	13.3

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

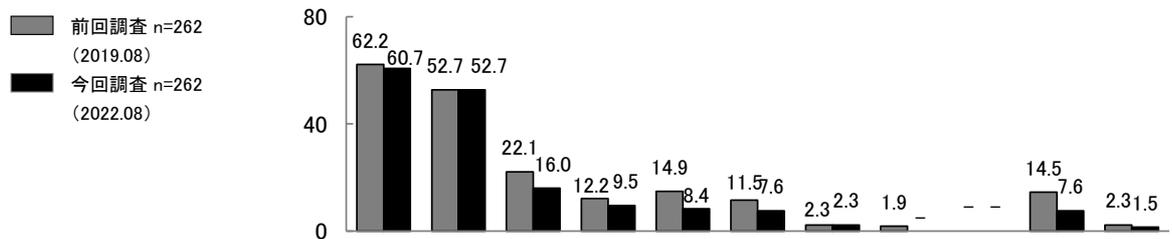
2. 休日などの過ごし方（18歳未満）（児童）

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児の休日などの過ごし方をみると、「家や施設の中で過ごしている」（60.7%）、「通所施設（放課後等デイサービスなど）、訓練に通っている」（52.7%）が目立って高く、「塾や習い事に行く」（16.0%）が続いています。

前回調査と比べると、「友だちと外で遊んだり、スポーツをする」は6.5ポイント、「塾や習い事に行く」は6.1ポイント低下しています。

年齢別でみると、5～9歳は「通所施設（放課後等デイサービスなど）、訓練に通っている」、「放課後子どもクラブ」が高くなっています。



問 19. 学校や通園施設などの放課後や休みの日には、どのように過ごしていますか。		サンプル数	家や施設の中で過ごしている	通所施設(放課後等デイサービスなど)、訓練に通っている	塾や習い事に行く	放課後子どもクラブ	友だちと外で遊んだり、スポーツをする	部活やサークル活動に参加	公民館や図書館などで過ごす	日中一時支援を利用している	ボランティア活動に参加している	その他	無回答
全 体		262	60.7	52.7	16.0	9.5	8.4	7.6	2.3	-	-	7.6	1.5
居住地別	北東部圏域	41	61.0	39.0	17.1	2.4	12.2	14.6	7.3	-	-	7.3	-
	北中部圏域	45	57.8	51.1	26.7	11.1	8.9	6.7	2.2	-	-	6.7	2.2
	北西部圏域	43	69.8	55.8	14.0	7.0	11.6	9.3	2.3	-	-	11.6	-
	中部圏域	33	60.6	60.6	15.2	12.1	3.0	6.1	-	-	-	-	-
	中東部圏域	27	59.3	51.9	3.7	11.1	7.4	3.7	-	-	-	14.8	-
	中西部圏域	30	60.0	53.3	16.7	16.7	3.3	3.3	3.3	-	-	3.3	6.7
	南部圏域	26	65.4	53.8	11.5	11.5	11.5	3.8	-	-	-	11.5	3.8
年齢別	0～4歳	26	69.2	30.8	15.4	-	7.7	-	11.5	-	-	19.2	-
	5～9歳	78	56.4	64.1	10.3	21.8	10.3	-	-	-	-	12.8	1.3
	10～14歳	97	62.9	52.6	20.6	8.2	5.2	11.3	2.1	-	-	1.0	1.0
	15～17歳	57	59.6	47.4	17.5	-	12.3	14.0	1.8	-	-	7.0	3.5
障害種別	身体障害	63	73.0	36.5	17.5	3.2	9.5	9.5	6.3	-	-	6.3	-
	知的障害	203	58.6	61.6	12.8	10.8	6.9	5.4	1.5	-	-	8.4	2.0
	精神障害	26	65.4	38.5	15.4	3.8	11.5	11.5	-	-	-	3.8	-
	難病	30	60.0	46.7	6.7	-	6.7	10.0	6.7	-	-	10.0	-
	発達障害	87	58.6	62.1	10.3	12.6	8.0	6.9	1.1	-	-	10.3	-
	高次脳機能障害	1	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
ライフスタイルに応じた生活ができるか別	はい	158	60.1	50.6	21.5	10.1	8.2	8.9	3.8	-	-	7.6	0.6
	いいえ	90	61.1	58.9	7.8	8.9	10.0	4.4	-	-	-	8.9	1.1

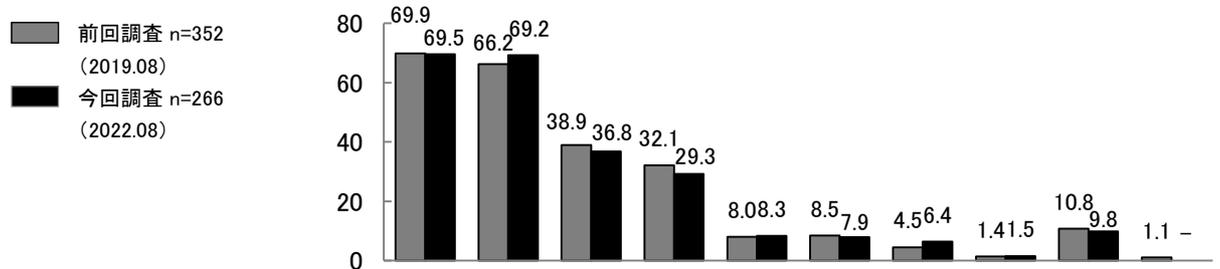
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童の休日などの過ごし方をみると、「家や施設の中で過ごしている」（69.5%）、「通所施設（放課後等デイサービスなど）、訓練に通っている」（69.2%）が目立って高く、「塾や習い事に行く」（36.8%）が続いています。

10～17歳、小学校入学後になると「家や施設の中で過ごしている」が低くなり、家や施設以外で過ごすことが増える様子が見えてくる。



問 10. 学校や通園施設などの放課後や休みの日には、どのように過ごしていますか。		サンプル数	家や施設の中で過ごしている	通所施設（放課後等デイサービスなど）に通っている	塾や習い事に行く	友達と外や家の中で遊ぶ	公民館や図書館などで過ごす	放課後子どもクラブ	部活やサークル活動に参加	日中一時支援を利用している	その他	無回答
全 体		266	69.5	69.2	36.8	29.3	8.3	7.9	6.4	1.5	9.8	-
年齢別	0～4歳	82	72.0	48.8	9.8	15.9	8.5	-	-	3.7	15.9	-
	5～9歳	120	71.7	75.0	40.0	33.3	11.7	15.0	4.2	0.8	9.2	-
	10～17歳	59	61.0	83.1	66.1	35.6	1.7	3.4	20.3	-	3.4	-
所属先別	小学校入学前	129	72.1	55.0	17.8	22.5	12.4	-	2.3	2.3	14.7	-
	小学校入学後	130	66.2	83.1	54.6	34.6	3.8	16.2	10.8	0.8	4.6	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

3. 希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

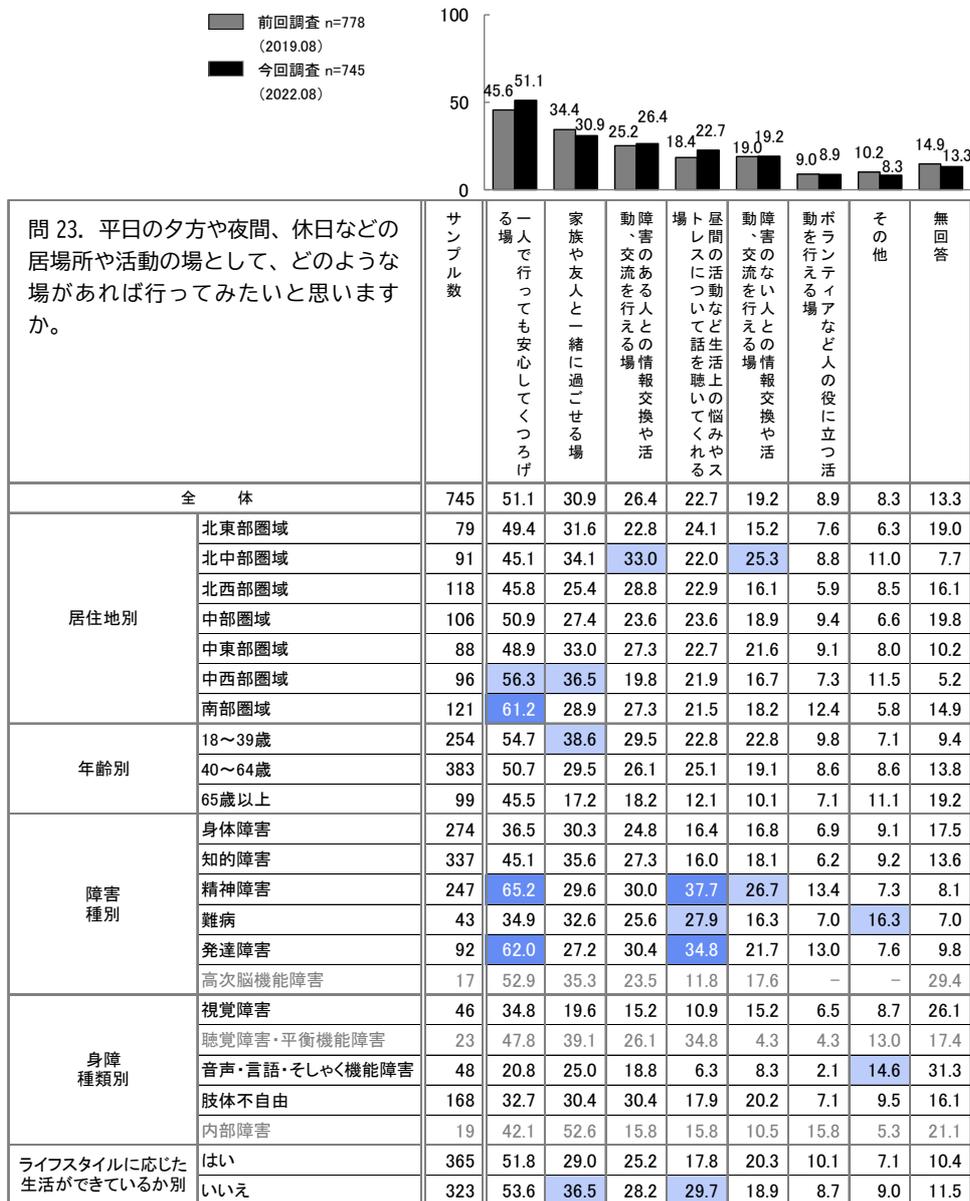
サービス利用者が希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方をみると、「一人で行っても安心してくつろげる場」が51.1%で最も高く、「家族や友人と一緒に過ごせる場」（30.9%）、「障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場」（26.4%）が続いています。

前回調査と比べると、「一人で行っても安心してくつろげる場」は5.5ポイント上昇しています。

年齢別でみると、年齢が若いほど「一人で行っても安心してくつろげる場」が高くなる傾向がみられます。

障害種別でみると、精神障害のある人、発達障害のある人はいずれも「一人で行っても安心してくつろげる場」、「昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場」が高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていないと感じている方は、「家族や友人と一緒に過ごせる場」、「昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場」ができていると感じている方より高くなっています。



※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方をみると、「一人で行っても安心してくつろげる場」が42.1%で最も高く、「家族や友人と一緒に過ごせる場」（32.4%）、「昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場」（11.5%）が続いています。

年齢別でみると、サービス利用者と同様、年齢が若いほど「一人で行っても安心してくつろげる場」が高くなる傾向がみられます。

障害種別でみると、精神障害のある人は「一人で行っても安心してくつろげる場」をはじめ、さまざまな過ごし方を希望している様子が見られます。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていると感じている方は、「一人で行っても安心してくつろげる場」、「家族や友人と一緒に過ごせる場」ができていると感じている方より高くなっています。



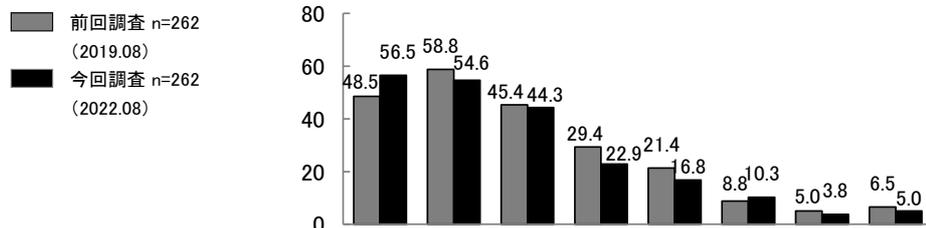
18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方をみると、「一人で行っても安心してくつろげる場」が56.5%で最も高く、「家族や友人と一緒に過ごせる場」（54.6%）、「障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場」（44.3%）が続いています。

前回調査と比べると、「一人で行っても安心してくつろげる場」は8.0ポイント上昇している一方で、「障害のない人との情報交換や活動、交流を行える場」は6.5ポイント低下しています。

障害種別でみると、難病のある人、発達障害のある人は「一人で行っても安心してくつろげる場」が高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていないと感じている方は、できていると感じている方と比べて「一人で行っても安心してくつろげる場」をはじめ、様々な過ごし方を希望している様子が見えます。



問 20. 平日の夕方や夜間、休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。		サンプル数	一人で行っても安心してくつろげる場	家族や友人と一緒に過ごせる場	障害のある人との情報交換や活動	障害のない人との情報交換や活動	場所・居場所について話を聴いての悩みやストレス	動をランティアなど人の役に立つ活動	その他	無回答
全 体		262	56.5	54.6	44.3	22.9	16.8	10.3	3.8	5.0
居住地別	北東部圏域	41	43.9	58.5	34.1	24.4	9.8	7.3	2.4	4.9
	北中部圏域	45	66.7	60.0	44.4	20.0	24.4	8.9	4.4	4.4
	北西部圏域	43	60.5	48.8	62.8	14.0	14.0	18.6	4.7	4.7
	中部圏域	33	60.6	45.5	45.5	30.3	21.2	3.0	-	6.1
	中東部圏域	27	59.3	59.3	51.9	22.2	18.5	22.2	7.4	-
	中西部圏域	30	63.3	60.0	50.0	26.7	13.3	6.7	-	6.7
	南部圏域	26	38.5	61.5	26.9	30.8	23.1	3.8	7.7	3.8
年齢別	0～4歳	26	46.2	69.2	61.5	19.2	15.4	7.7	-	-
	5～9歳	78	59.0	52.6	53.8	26.9	16.7	9.0	3.8	2.6
	10～14歳	97	56.7	52.6	35.1	20.6	18.6	13.4	6.2	7.2
	15～17歳	57	56.1	52.6	40.4	22.8	12.3	7.0	1.8	5.3
障害種別	身体障害	63	49.2	60.3	44.4	17.5	14.3	9.5	-	7.9
	知的障害	203	58.6	53.7	50.2	24.6	15.3	9.9	2.5	3.9
	精神障害	26	46.2	65.4	15.4	11.5	19.2	7.7	15.4	7.7
	難病	30	66.7	60.0	50.0	10.0	13.3	3.3	-	6.7
	発達障害	87	66.7	60.9	44.8	21.8	16.1	13.8	6.9	3.4
	高次脳機能障害	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい	158	53.8	54.4	38.0	17.1	10.8	7.6	3.8	7.0
	いいえ	90	62.2	57.8	57.8	32.2	26.7	15.6	4.4	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

(7) 自立した生活の支援

1. 希望する10年後の暮らし

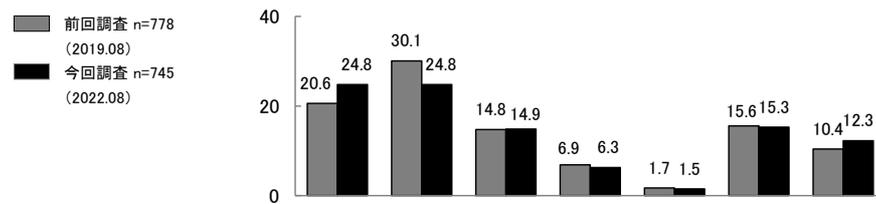
18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者が希望する10年後の暮らしは「自宅（マンション・団地なども含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」、「自宅（マンション・団地なども含む）で、家族などと一緒に暮らす」がいずれも24.8%で自宅での暮らしが最も高くなっています。一方、「先のことはわからない、まだ考えたことがない」も15.3%みられます。

前回調査と比べると、「自宅（マンション・団地なども含む）で、家族などと一緒に暮らす」が5.3ポイント低下しています。

回答者別でみると、本人は「自宅（マンション・団地なども含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」が33.3%であるのに対し、本人以外では9.2%とわずかで、「グループホームなどで、介助や支援を受けながら、他の障害のある人と一緒に暮らす」が本人は5.4%とわずかであるのに対し、本人以外では29.9%と高く、本人の希望と家族や周りの人との考えに大きなギャップがみられます。

年齢別でみると、年齢が高くなるほど「自宅（マンション・団地なども含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」が高くなる傾向がみられます。



問 42. 今から10年くらい経ったときに、どのような生活をしてみたいと思いますか。		サンプル数	独自生活 （自宅・マンション・団地などを含む）	家族共住 （自宅・マンション・団地などを含む）	グループホーム （グループホームなど）	施設生活 （障害のある人や高齢者のための施設で暮らす）	その他	先のこと わからない、 まだ考えたことがない	無回答
全体		745	24.8	24.8	14.9	6.3	1.5	15.3	12.3
回答者別	本人	424	33.3	28.3	5.4	4.2	1.9	15.6	11.3
	本人以外	261	9.2	22.2	29.9	10.3	0.8	14.2	13.4
居住地別	北東部圏域	79	21.5	29.1	15.2	7.6	2.5	15.2	8.9
	北中部圏域	91	20.9	28.6	13.2	5.5	1.1	17.6	13.2
	北西部圏域	118	18.6	23.7	16.9	7.6	4.2	16.9	11.9
	中部圏域	106	20.8	25.5	16.0	4.7	0.9	16.0	16.0
	中東部圏域	88	33.0	20.5	18.2	5.7	1.1	11.4	10.2
	中西部圏域	96	28.1	20.8	11.5	6.3	-	16.7	16.7
	南部圏域	121	29.8	28.1	10.7	6.6	-	15.7	9.1
年齢別	18～39歳	254	19.7	31.1	19.3	5.5	1.2	15.0	8.3
	40～64歳	383	25.3	21.9	14.1	6.8	1.3	15.9	14.6
	65歳以上	99	35.4	20.2	6.1	6.1	3.0	15.2	14.1
障害種別	身体障害	274	23.0	21.9	12.8	8.0	2.2	16.8	15.3
	知的障害	337	12.5	21.4	29.4	8.3	0.9	15.7	11.9
	精神障害	247	38.1	31.2	3.2	3.2	2.0	12.1	10.1
	難病	43	9.3	41.9	7.0	2.3	2.3	18.6	18.6
	発達障害	92	32.6	26.1	14.1	5.4	2.2	7.6	12.0
	高次脳機能障害	17	23.5	29.4	17.6	11.8	-	11.8	5.9
身障種別	視覚障害	46	34.8	15.2	4.3	6.5	6.5	17.4	15.2
	聴覚障害・平衡機能障害	23	21.7	30.4	8.7	17.4	-	8.7	13.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	48	16.7	16.7	18.8	8.3	2.1	10.4	27.1
	肢体不自由	168	19.6	25.0	11.3	10.1	1.8	19.6	12.5
	内部障害	19	26.3	26.3	21.1	-	5.3	15.8	5.3

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

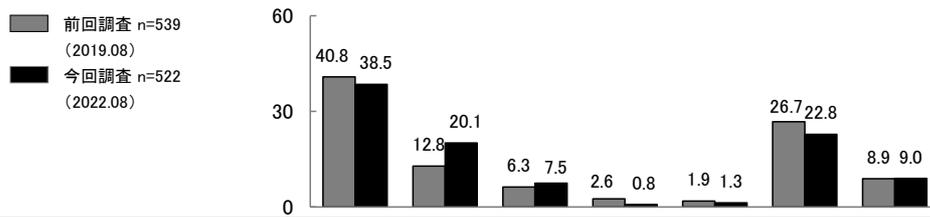
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が希望する10年後の暮らしは「自宅（マンション・団地なども含む）で、家族などと一緒に暮らす」（38.5%）が最も高くなっています。一方、「先のことはわからない、まだ考えたことがない」も22.8%みられます。

前回調査と比べると、「自宅(マンション・団地なども含む)で、(介助や支援を受けて)ひとりで暮らす」が7.3ポイント上昇しています。

回答者別でみると、本人の希望と、家族や周りの人との希望にギャップがみられます。

年齢別でみると、40～64歳では「自宅（マンション・団地なども含む）で、家族などと一緒に暮らす」が全体と比べて高くなっています。



問 42. 今から10年くらい経ったときに、どのような生活をしてみたいと思いますか。		サンプル数	自宅(マンション・団地なども含む)で暮らす	自宅(マンション・団地なども含む)で暮らす(一人暮らし)	障害のある人や高齢者のための施設で暮らす	介護やヘルプサービスを受けたいが、一人暮らしは難しい	その他	先のことはわからない、まだ考えたことがない	無回答
全 体		522	38.5	20.1	7.5	0.8	1.3	22.8	9.0
回答者別	本人	430	41.2	22.8	6.5	0.5	1.2	20.7	7.2
	本人以外	65	29.2	4.6	13.8	3.1	3.1	32.3	13.8
居住地別	北東部圏域	68	42.6	22.1	7.4	1.5	1.5	14.7	10.3
	北中部圏域	80	38.8	22.5	6.3	1.3	2.5	23.8	5.0
	北西部圏域	89	38.2	16.9	11.2	-	-	27.0	6.7
	中部圏域	60	46.7	13.3	10.0	-	-	21.7	8.3
	中東部圏域	58	41.4	12.1	5.2	1.7	-	24.1	15.5
	中西部圏域	66	36.4	15.2	7.6	1.5	3.0	28.8	7.6
	南部圏域	78	29.5	33.3	3.8	-	-	21.8	11.5
	年齢別	18～39歳	39	38.5	20.5	-	5.1	2.6	28.2
	40～64歳	143	62.9	21.0	2.8	-	0.7	10.5	2.1
	65歳以上	334	28.4	19.5	9.9	0.6	1.5	27.8	12.3
障害種別	身体障害	339	33.6	20.1	10.9	0.6	1.2	22.7	10.9
	知的障害	24	29.2	25.0	-	8.3	-	33.3	4.2
	精神障害	65	40.0	27.7	6.2	-	-	18.5	7.7
	難病	91	52.7	17.6	3.3	-	1.1	18.7	6.6
	発達障害	16	50.0	25.0	-	-	-	12.5	12.5
	高次脳機能障害	9	55.6	-	-	-	-	33.3	11.1
身障種類別	視覚障害	22	22.7	13.6	13.6	-	4.5	22.7	22.7
	聴覚障害・平衡機能障害	44	38.6	6.8	18.2	-	-	20.5	15.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	40.0	20.0	10.0	-	-	10.0	20.0
	肢体不自由	149	32.2	28.2	13.4	-	1.3	17.4	7.4
	内部障害	112	34.8	15.2	8.0	1.8	1.8	30.4	8.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位：%

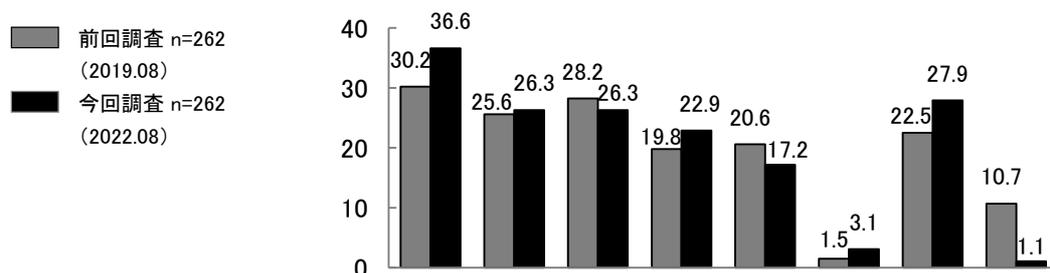
2. 大人になったらしてみたいこと

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が大人になったらしてみたいことは「家族と一緒に暮らすこと」（36.6%）、「介助や支援を受けながら、自分ひとりで暮らすこと」「結婚したり子どもを育てること」（いずれも26.3%）が上位となっています。

回答者別でみると、「結婚したり子どもを育てること」、「大学などで専門的な勉強をすること」、「障害のある人のための住まいで暮らすこと」は本人の希望と、家族や周りの人との希望にギャップがみられます。

年齢別でみると、「家族と一緒に暮らすこと」と「大学などで専門的な勉強をすること」は、年齢が上がるにつれて上昇しています。



問 46. 次のうち、あなたが大人になったらしてみたいと思うことがありますか。		サンプル数	家族と一緒に暮らすこと	介助や支援を受けながら、自分ひとりで暮らすこと	結婚したり子どもを育てること	住まいのある人のための住まいで暮らすこと	大学などで専門的な勉強をすること	その他	わからない	無回答
全 体		262	36.6	26.3	26.3	22.9	17.2	3.1	27.9	1.1
回答者別	本人	47	36.2	25.5	36.2	10.6	34.0	6.4	12.8	4.3
	本人以外	208	37.0	26.9	23.6	25.5	13.5	2.4	30.8	0.5
居住地別	北東部圏域	41	39.0	19.5	24.4	29.3	26.8	2.4	22.0	-
	北中部圏域	45	31.1	26.7	28.9	22.2	24.4	4.4	31.1	-
	北西部圏域	43	32.6	25.6	23.3	14.0	11.6	7.0	32.6	-
	中部圏域	33	39.4	36.4	27.3	30.3	15.2	-	15.2	6.1
	中東部圏域	27	22.2	25.9	37.0	18.5	14.8	3.7	33.3	-
	中西部圏域	30	50.0	43.3	30.0	23.3	16.7	-	26.7	-
	南部圏域	26	38.5	15.4	19.2	26.9	11.5	3.8	30.8	-
年齢別	0～4歳	26	23.1	30.8	23.1	11.5	19.2	3.8	42.3	3.8
	5～9歳	78	35.9	28.2	16.7	29.5	7.7	2.6	35.9	2.6
	10～14歳	97	38.1	25.8	35.1	22.7	17.5	4.1	25.8	-
	15～17歳	57	40.4	22.8	26.3	19.3	28.1	1.8	14.0	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

3. 地域での生活に必要とする支援

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

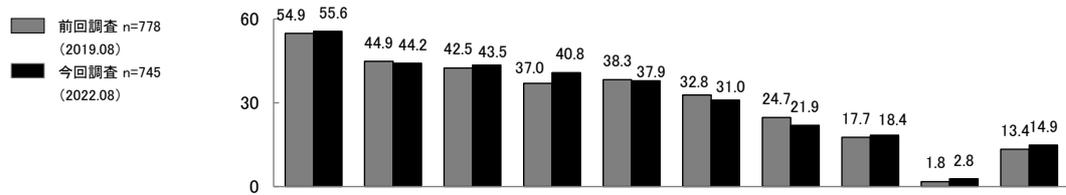
サービス利用者が希望する生活に必要とする支援は、「経済的な負担の軽減」（55.6%）、「障害のある人に適した住居の確保」（44.2%）、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」（43.5%）が上位となっています。

居住地別にみると、北東部圏域では、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が全体と比べて高くなっています。

年齢別でみると、18～39歳では「地域住民等の理解」をはじめ、多くの支援を必要としている様子が見られます。また「経済的な負担の軽減」、「障害のある人に適した住居の確保」など多くの項目では年齢が高くなるほど数値は低下する傾向が見られる一方で、「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含みます）」は年齢が高くなるほど上昇する傾向が見られます。

障害種別でみると、発達障害のある人は多くの支援を必要としている様子が見られます。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていないと感じている方は、全ての項目においてできていると感じている方と比べて高くなっています。



問 44. 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。	サンプル数	経済的な負担の軽減	障害のある人に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含みます）	相談対応等の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	生活訓練等の充実	その他	無回答	
全 体	745	55.6	44.2	43.5	40.8	37.9	31.0	21.9	18.4	2.8	14.9	
居住地別	北東部圏域	79	59.5	46.8	58.2	48.1	40.5	39.2	20.3	19.0	2.5	10.1
	北中部圏域	91	52.7	40.7	45.1	47.3	30.8	31.9	17.6	13.2	4.4	14.3
	北西部圏域	118	50.0	48.3	42.4	38.1	36.4	31.4	21.2	23.7	0.8	18.6
	中部圏域	106	54.7	45.3	44.3	39.6	40.6	32.1	23.6	17.0	3.8	19.8
	中東部圏域	88	62.5	43.2	43.2	37.5	42.0	34.1	28.4	20.5	2.3	11.4
	中西部圏域	96	54.2	39.6	37.5	40.6	35.4	32.3	21.9	15.6	5.2	13.5
	南部圏域	121	56.2	43.8	39.7	37.2	33.1	17.4	18.2	14.9	1.7	14.0
年齢別	18～39歳	254	62.6	52.8	44.5	31.1	42.1	42.5	29.9	25.6	3.1	9.8
	40～64歳	383	54.6	41.5	40.7	43.6	37.6	27.2	20.4	14.9	2.6	18.0
	65歳以上	99	40.4	31.3	50.5	53.5	26.3	15.2	5.1	10.1	3.0	16.2
障害種別	身体障害	274	48.9	46.0	54.7	52.6	34.3	27.4	14.6	17.2	3.6	16.1
	知的障害	337	52.2	49.3	45.7	36.8	35.9	38.3	27.0	22.0	2.1	16.3
	精神障害	247	66.0	39.3	30.4	36.4	40.9	28.3	22.7	15.8	2.8	13.0
	難病	43	62.8	44.2	46.5	46.5	41.9	25.6	18.6	20.9	7.0	16.3
	発達障害	92	62.0	52.2	40.2	35.9	39.1	42.4	31.5	28.3	2.2	14.1
	高次脳機能障害	17	64.7	47.1	64.7	52.9	35.3	29.4	17.6	41.2	-	11.8
身障種類別	視覚障害	46	41.3	32.6	45.7	52.2	32.6	26.1	6.5	13.0	2.2	17.4
	聴覚障害・平衡機能障害	23	43.5	56.5	69.6	65.2	47.8	26.1	30.4	21.7	4.3	8.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	48	41.7	33.3	45.8	41.7	31.3	18.8	20.8	18.8	2.1	25.0
	肢体不自由	168	52.4	53.6	61.3	57.1	32.7	27.4	13.1	18.5	4.2	13.1
	内部障害	19	52.6	68.4	57.9	73.7	42.1	36.8	15.8	31.6	-	-
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい	365	55.3	41.1	41.6	38.4	36.4	30.1	18.6	16.4	1.9	12.6
	いいえ	323	59.1	49.8	48.3	45.5	42.7	33.7	26.9	21.1	3.1	13.3

※ 濃い青は全体より10ポイント以上、薄い青は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が希望する生活に必要なとする支援は、「経済的な負担の軽減」（51.1%）、「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含む）」（50.2%）、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」（39.1%）が上位となっています。

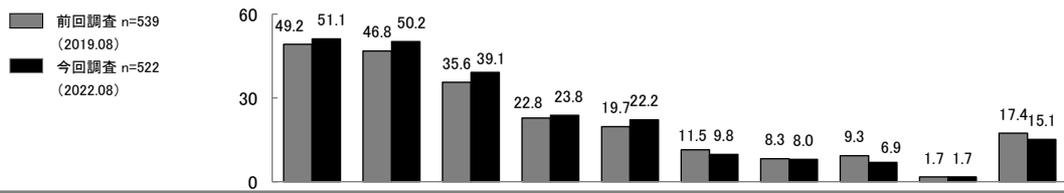
居住地別にみると、北東部圏域では、「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含む）」が全体と比べて高くなっています。

年齢別でみると、18～39歳では「経済的な負担の軽減」をはじめ、多くの支援を必要としている様子がうかがえます。「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含みます）」、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」は年齢が高くなるほど上昇する傾向がみられ、その他の多くの項目は低下する傾向がみられます。

障害種別でみると、精神障害のある人は「経済的な負担の軽減」をはじめ、多くの支援を必要としている様子がうかがえます。

身障種類別でみると内部障害のある人は、「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含む）」が全体と比べて高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていないと感じている方は、「経済的な負担の軽減」ができていると感じている方と比べて11.8ポイント高くなっています。



問 44. 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。		サンプル数	経済的な負担の軽減	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含みます）	必要な在宅サービスが利用できること	障害のある人に適した住居の確保	相談対応等の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	生活訓練等の充実	その他	無回答
全 体		522	51.1	50.2	39.1	23.8	22.2	9.8	8.0	6.9	1.7	15.1
居住地別	北東部圏域	68	50.0	60.3	42.6	29.4	23.5	4.4	2.9	5.9	2.9	10.3
	北中部圏域	80	56.3	50.0	46.3	26.3	27.5	8.8	10.0	3.8	2.5	13.8
	北西部圏域	89	55.1	52.8	41.6	23.6	21.3	10.1	12.4	10.1	1.1	9.0
	中部圏域	60	50.0	56.7	41.7	18.3	18.3	15.0	6.7	8.3	1.7	13.3
	中東部圏域	58	44.8	44.8	27.6	22.4	22.4	6.9	12.1	6.9	1.7	17.2
	中西部圏域	66	59.1	45.5	45.5	27.3	28.8	15.2	7.6	9.1	1.5	19.7
	南部圏域	78	43.6	39.7	29.5	24.4	14.1	7.7	2.6	3.8	-	24.4
年齢別	18～39歳	39	79.5	28.2	28.2	35.9	46.2	23.1	30.8	5.1	-	12.8
	40～64歳	143	64.3	34.3	34.3	28.0	25.2	14.0	7.7	7.0	1.4	10.5
	65歳以上	334	42.2	59.3	42.2	21.0	18.3	6.6	5.7	6.9	2.1	17.1
障害種別	身体障害	339	46.0	55.2	40.1	23.6	21.5	8.6	6.8	7.4	1.8	15.0
	知的障害	24	66.7	33.3	33.3	37.5	37.5	20.8	20.8	-	-	16.7
	精神障害	65	63.1	30.8	26.2	35.4	38.5	15.4	15.4	12.3	-	12.3
	難病	91	56.0	47.3	41.8	17.6	17.6	7.7	3.3	5.5	4.4	13.2
	発達障害	16	81.3	43.8	50.0	37.5	37.5	18.8	31.3	12.5	-	6.3
	高次脳機能障害	9	44.4	11.1	-	11.1	-	-	-	-	-	-
身障種類別	視覚障害	22	31.8	59.1	36.4	22.7	27.3	9.1	4.5	9.1	-	18.2
	聴覚障害・平衡機能障害	44	45.5	52.3	27.3	27.3	15.9	11.4	13.6	4.5	2.3	22.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	50.0	60.0	60.0	20.0	10.0	10.0	-	-	-	20.0
	肢体不自由	149	47.0	50.3	44.3	29.5	23.5	8.7	5.4	8.1	2.7	12.1
	内部障害	112	53.6	64.3	43.8	22.3	21.4	9.8	7.1	8.9	0.9	12.5
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい	302	49.0	52.0	38.7	21.9	22.5	8.3	10.6	5.6	2.0	11.9
	いいえ	181	60.8	48.6	43.1	27.1	24.9	12.2	5.0	9.4	1.7	13.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が希望する生活に必要なとする支援は、「経済的な負担の軽減」（68.3%）、「障害のある人に適した住居の確保」（51.9%）、「生活訓練等の充実」（45.4%）が上位となっています。

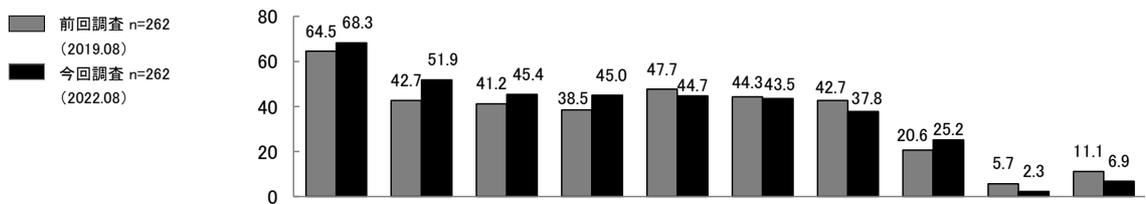
前回調査と比べると、「障害のある人に適した住居の確保」は9.2ポイント、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が6.5ポイント上昇しています。

居住地別にみると、北西部圏域では「生活訓練等の充実」が全体と比べて高くなっています。また、中部圏域、中西部圏域は多くの支援を必要としている様子が見られます。

年齢別でみると5～9歳では「障害のある人に適した住居の確保」をはじめとして、多くの支援を必要としている様子が見られます。

障害種別でみると、身体障害のある人は「必要な在宅サービスが適切に利用できること」、「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含む）」が、難病の人は「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含む）」、発達障害のある人は「コミュニケーションについての支援」が全体と比べて高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、できていないと感じている方は、多くの支援を必要としている様子が見られます。



問 48. 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。	サンプル数	経済的な負担の軽減	障害のある人に適した住居の確保	生活訓練等の充実	必要な在宅サービスが利用できること	地域住民等の理解	相談対応等の充実	コミュニケーションについての支援	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含み得る）	その他	無回答	
全 体	262	68.3	51.9	45.4	45.0	44.7	43.5	37.8	25.2	2.3	6.9	
居住地別	北東部圏域	41	61.0	58.5	29.3	31.7	43.9	43.9	43.9	17.1	7.3	7.3
	北中部圏域	45	73.3	57.8	40.0	44.4	44.4	37.8	28.9	28.9	-	4.4
	北西部圏域	43	60.5	48.8	58.1	51.2	41.9	44.2	37.2	32.6	-	7.0
	中部圏域	33	75.8	45.5	54.5	51.5	48.5	48.5	39.4	27.3	-	-
	中東部圏域	27	77.8	59.3	48.1	44.4	40.7	51.9	37.0	22.2	-	7.4
	中西部圏域	30	73.3	50.0	56.7	50.0	60.0	43.3	40.0	20.0	-	13.3
	南部圏域	26	65.4	50.0	42.3	46.2	38.5	46.2	38.5	26.9	7.7	7.7
年齢別	0～4歳	26	65.4	26.9	46.2	34.6	42.3	42.3	46.2	38.5	7.7	7.7
	5～9歳	78	67.9	67.9	59.0	47.4	59.0	52.6	50.0	28.2	1.3	7.7
	10～14歳	97	68.0	46.4	38.1	47.4	37.1	39.2	28.9	21.6	3.1	6.2
	15～17歳	57	68.4	50.9	38.6	42.1	40.4	38.6	33.3	19.3	-	7.0
障害種別	身体障害	63	63.5	47.6	42.9	55.6	44.4	36.5	27.0	42.9	3.2	9.5
	知的障害	203	69.0	56.2	51.2	50.2	47.3	44.8	41.9	27.6	2.0	5.9
	精神障害	26	80.8	46.2	30.8	23.1	34.6	53.8	34.6	15.4	3.8	3.8
	難病	30	60.0	40.0	40.0	46.7	30.0	30.0	30.0	43.3	6.7	10.0
	発達障害	87	73.6	49.4	44.8	46.0	44.8	51.7	51.7	19.5	3.4	3.4
	高次脳機能障害	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい	158	65.8	46.8	39.2	38.0	40.5	38.0	30.4	24.7	1.3	5.7
	いいえ	90	73.3	63.3	52.2	56.7	51.1	52.2	50.0	27.8	4.4	7.8

※ 濃い青は全体より10ポイント以上、薄い青は全体より5ポイント以上高い

単位：%

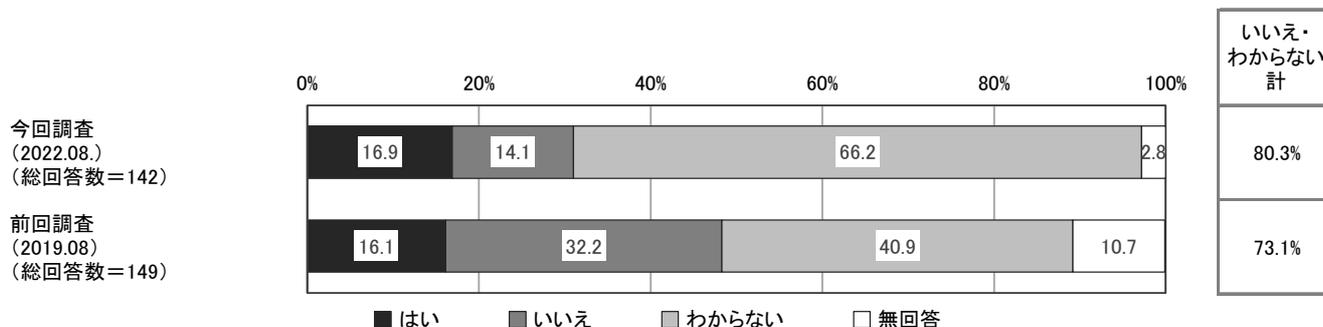
4. 暮らし方（退所して地域で生活したいと思った経験の有無）

施設入所者（調査⑤）

施設入所者が施設を退所して地域で生活したいと思ったかについては、「はい」が16.9%、「いいえ」が14.1%、「わからない」が66.2%でした。前回調査と比べると「いいえ・わからない計」が5.0ポイント低下しています。

障害種別でみると、身体障害のある人は「はい」が全体よりも高くなっています。

入所年数別でみると、入所年数が長くなるほど退所意向が低くなる傾向がみられます。



問 12. 施設から退所して、地域で生活したいと思ったことはありますか。		サンプル数	はい	いいえ	わからない	無回答	わいかい からな ない計
全 体		142	16.9	14.1	66.2	2.8	80.3
年齢別	18～39歳	25	8.0	8.0	80.0	4.0	88.0
	40～64歳	93	16.1	14.0	67.7	2.2	81.7
	65歳以上	20	30.0	25.0	45.0	—	70.0
障害種別	身体障害	42	28.6	11.9	57.1	2.4	69.0
	知的障害	122	13.1	13.9	70.5	2.5	84.4
	その他の障害	25	20.0	12.0	68.0	—	80.0
入所年数別	5年未満	36	30.6	11.1	52.8	5.6	63.9
	5～20年未満	49	12.2	12.2	73.5	2.0	85.7
	20年以上	53	11.3	18.9	69.8	—	88.7

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

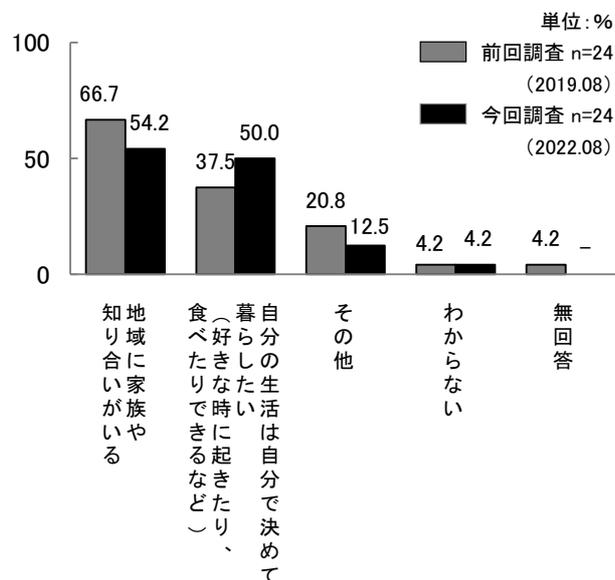
5. 退所したい理由

施設入所者（調査⑤）

施設入所者が退所したい理由は、「地域に家族や知り合いがいる」が 54.2%で最も高くなっていますが、サンプル数が少ないため参考値となります。

問 12-1. それはどうしてですか。

*問 12 で「1. はい」と回答された方



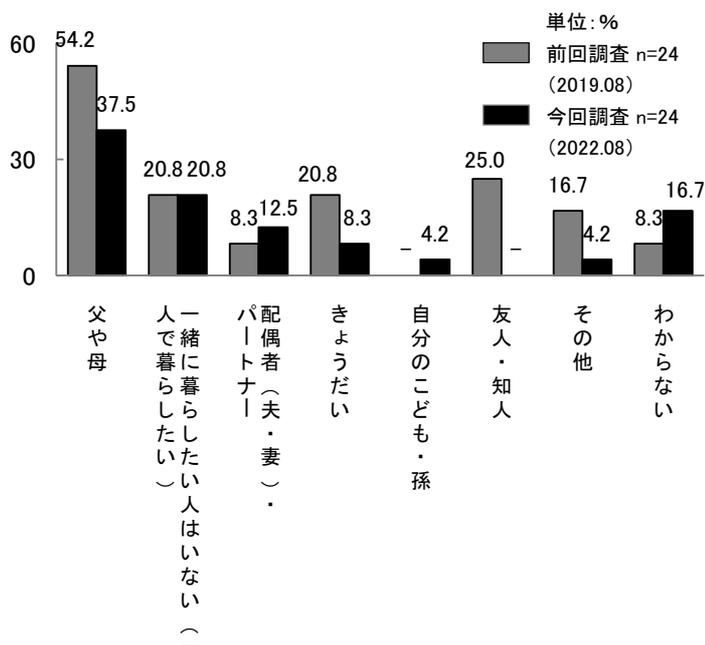
6. 一緒に暮らしたい人

施設入所者（調査⑤）

施設入所者が一緒に暮らしたい人は「父や母」(37.5%)が最も高く、「一緒に暮らしたい人はいない(一人で暮らしたい)」が 20.8%で続いています。サンプル数が少ないため参考値となります。

問 12-2. 誰と一緒に暮らしたいですか。

*問 12 で「1. はい」と回答された方



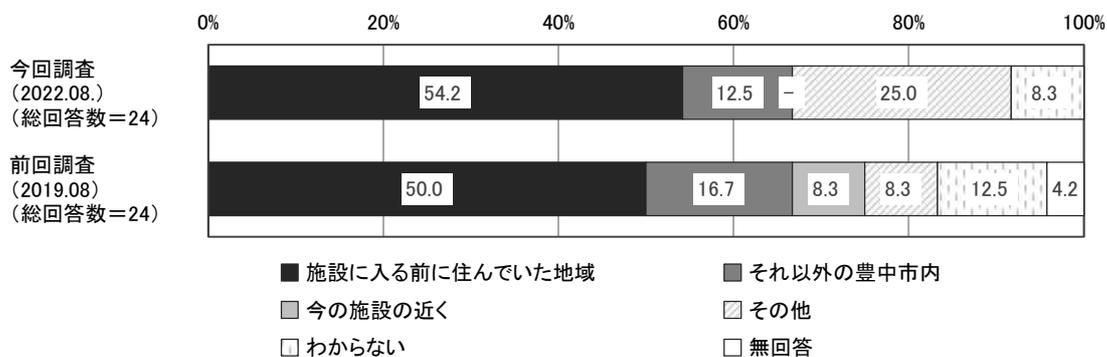
7. 暮らす場所への希望

施設入所者（調査⑤）

施設入所者の暮らす場所への希望は「施設に入る前に住んでいた地域」が 54.2%で最も高く、次いで「それ以外の豊中市内」が 12.5%、となっていますが、サンプル数が少ないため参考値となります。

問 12-3. どこで暮らしたいですか。

*問 12 で「1. はい」と回答された方



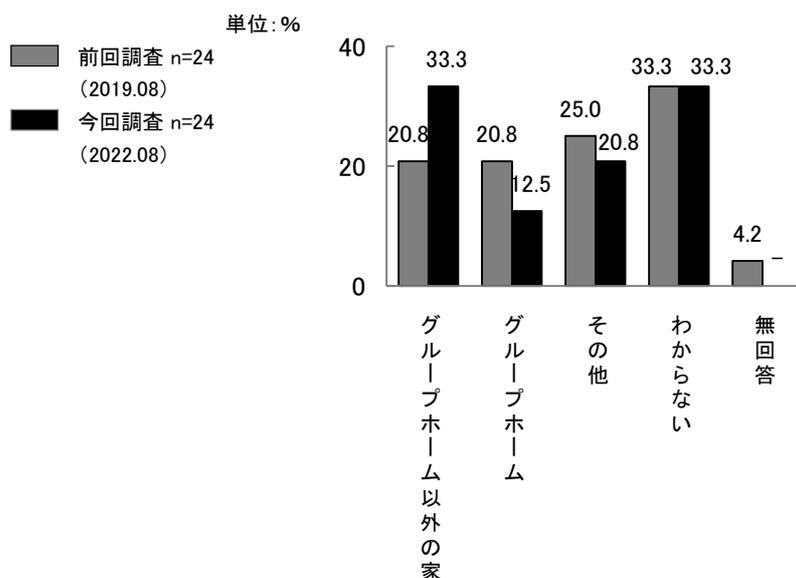
8. 住まいへの希望

施設入所者（調査⑤）

施設入所者の住まいへの希望は「グループホーム以外の家」、「わからない」が 33.3%で並んで最も高くなっていますが、サンプル数が少ないため参考値となります。

問 12-4. どんな住まいで暮らしたいですか。

*問 12 で「1. はい」と回答された方



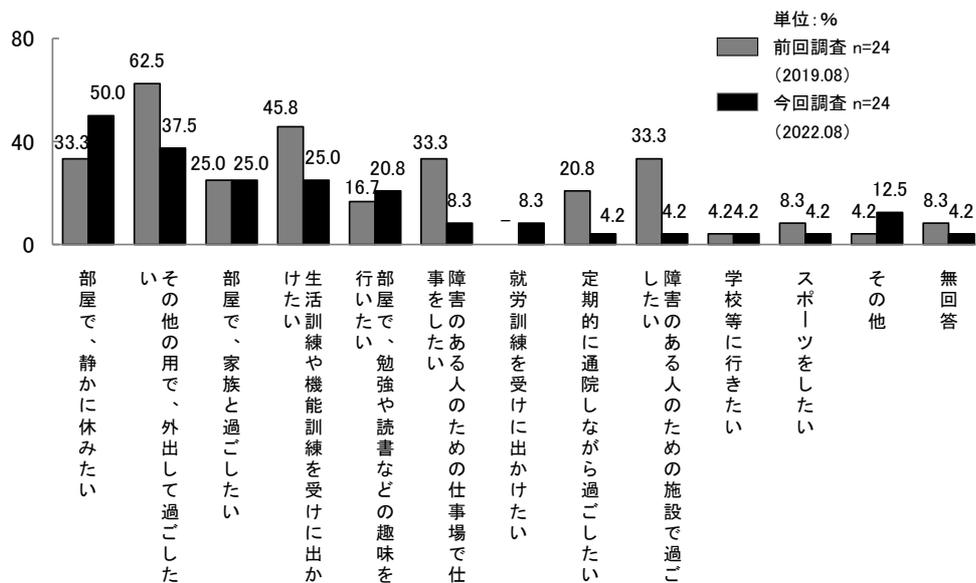
9. 日ごろの昼間の過ごし方への希望

施設入所者（調査⑤）

施設入所者の日ごろの昼間の過ごし方への希望は、「部屋で、静かに休みたい」（50.0%）、「その他の用で、外出して過ごしたい」（37.5%）、「部屋で、家族と過ごしたい」（25.0%）が上位となっていますが、サンプルが少ないため参考値となります。

問 12-5. 地域での暮らしでは、日ごろ昼間の時間はどのように過ごしたいですか。

*問 12 で「1. はい」と回答された方



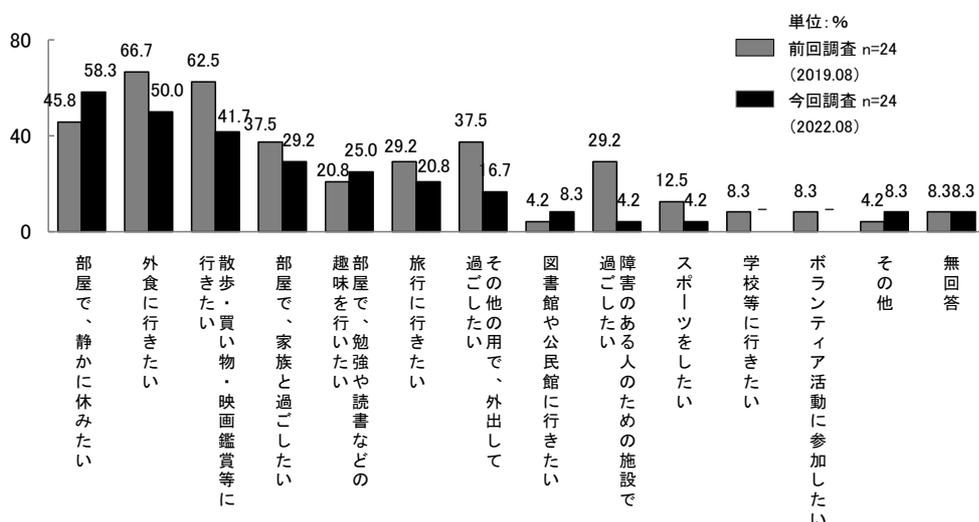
10. 平日の夜間や休みの日の過ごし方への希望

施設入所者（調査⑤）

施設入所者の平日の夜間や休みの日の過ごし方への希望は、「部屋で、静かに休みたい」（58.3%）、「外食に行きたい」（50.0%）、「散歩・買い物・映画鑑賞等に行きたい」（41.7%）が上位となっていますが、サンプルが少ないため参考値となります。

問 12-6. 地域での暮らしでは、平日の夜間や休みの日などはどのように過ごしたいですか。

*問 12 で「1. はい」と回答された方

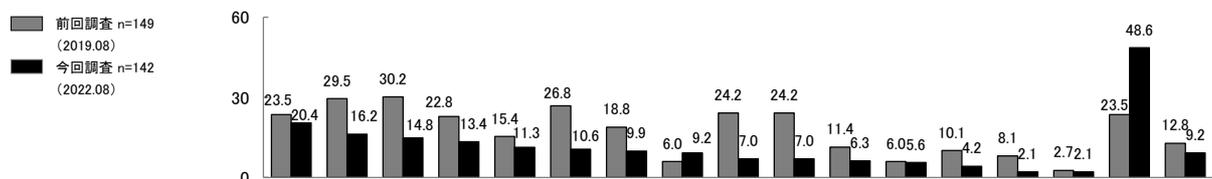


11. 地域での生活に不安に思うこと

施設入所者（調査⑤）

施設入所者が地域での生活に不安に思うことは、「わからない」（48.6%）を除くと、「施設外の生活をよく知らない」（20.4%）、「自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある」（16.2%）、「住みたい場所で、年を重ねても安心して暮らせる医療を受けられるか」（14.8%）が上位となっています。

入所年数別で見ると、年数が長くなるほど不安に思うことが多くなる傾向がみられます。



問 13. 施設を退所して地域で生活することについて不安に思うことは何ですか。		サンプル数	施設外の生活をよく知らない	自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある	住みたい場所で、年を重ねても安心して暮らせるサービスを受けられるか	住みたい場所に、年を重ねても安心して暮らせる住まいがあるか	頼ったりできる人がいないのではないかと	施設外には、安心して相談したり、暮らせる医療を受けられるか	住みたい場所で、年を重ねても安心して暮らせる医療を受けられるか	地域の人が障害について理解してくれない	施設外に、家族や友人がいない	どのような流れで施設を出て地域で暮らすことになるかがわからない	施設外の暮らしは、自分の収入では維持できないのではないかと	施設外に暮らしては、自分が希望しているのではないかと	自分が施設にいないことを家族が希望しているのではないかと	この施設の入所者・職員と会いにくくなるのではないかと	退所について相談したり、施設・家族との調整、引っ越し準備等を手伝ってくれる人に心当たりがない	その他	特に不安はない	わからない	無回答
全 体		142	20.4	16.2	14.8	13.4	11.3	10.6	9.9	9.2	7.0	7.0	6.3	5.6	4.2	2.1	2.1	48.6	9.2		
年齢別	18～39歳	25	16.0	4.0	12.0	12.0	8.0	12.0	8.0	4.0	4.0	12.0	-	8.0	-	-	-	4.0	60.0	8.0	
	40～64歳	93	22.6	12.9	15.1	11.8	7.5	8.6	9.7	5.4	5.4	4.3	5.4	2.2	3.2	3.2	1.1	49.5	8.6		
	65歳以上	20	20.0	45.0	20.0	25.0	35.0	20.0	15.0	35.0	20.0	15.0	20.0	20.0	20.0	15.0	-	5.0	30.0	10.0	
障害種別	身体障害	42	9.5	21.4	9.5	9.5	9.5	4.8	-	9.5	2.4	2.4	9.5	4.8	2.4	-	7.1	57.1	4.8		
	知的障害	122	22.1	14.8	14.8	13.1	12.3	11.5	11.5	9.8	8.2	7.4	5.7	6.6	4.9	2.5	1.6	48.4	9.8		
	その他の障害	25	8.0	16.0	4.0	4.0	4.0	8.0	4.0	4.0	8.0	8.0	-	8.0	-	4.0	-	64.0	12.0		
入所年数別	5年未満	36	8.3	5.6	8.3	5.6	5.6	8.3	5.6	2.8	8.3	11.1	-	5.6	-	2.8	2.8	63.9	8.3		
	5～20年未満	49	18.4	16.3	16.3	16.3	8.2	10.2	6.1	10.2	8.2	6.1	8.2	-	6.1	-	2.0	53.1	10.2		
	20年以上	53	30.2	24.5	18.9	17.0	18.9	13.2	17.0	13.2	5.7	5.7	9.4	11.3	5.7	3.8	1.9	35.8	5.7		
退所の意向別	はい	24	12.5	37.5	8.3	8.3	12.5	4.2	-	8.3	8.3	12.5	8.3	-	4.2	4.2	12.5	29.2	8.3		
	いいえ・わからない	114	22.8	12.3	15.8	14.9	11.4	11.4	11.4	9.6	6.1	6.1	6.1	7.0	4.4	1.8	-	53.5	7.9		

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

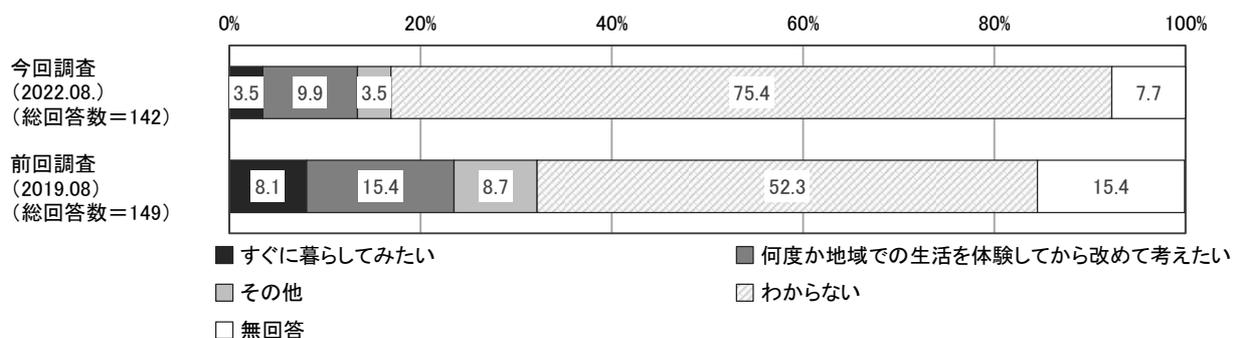
単位：%

12. 地域生活移行等への意識

施設入所者（調査⑤）

施設入所者が地域への不安が解消されたらすぐに地域で暮らしてみたいかについて「すぐに暮らしてみたい」は3.5%とわずかで、「わからない」が75.4%となっています。

入所年数別でみると、5年未満の人は「すぐに暮らしてみたい」8.3%みられますが、5年以上では2.0%以下まで低下しています。



問 14. 地域生活への不安が解消されたら、すぐに地域で暮らしてみたいですか。		サンプル数	すぐに暮らしてみたい	何度か地域での生活を体験してから改めて考えたい	その他	わからない	無回答
全 体		142	3.5	9.9	3.5	75.4	7.7
年齢別	18～39歳	25	12.0	-	4.0	80.0	4.0
	40～64歳	93	1.1	14.0	4.3	73.1	7.5
	65歳以上	20	5.0	-	-	85.0	10.0
障害種別	身体障害	42	7.1	9.5	2.4	76.2	4.8
	知的障害	122	3.3	9.0	3.3	76.2	8.2
	その他の障害	25	-	12.0	8.0	80.0	-
入所年数別	5年未満	36	8.3	2.8	5.6	77.8	5.6
	5～20年未満	49	2.0	14.3	-	71.4	12.2
	20年以上	53	1.9	11.3	5.7	79.2	1.9
退所の意向別	はい	24	16.7	20.8	-	54.2	8.3
	いいえ・わからない	114	-	7.9	4.4	81.6	6.1

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

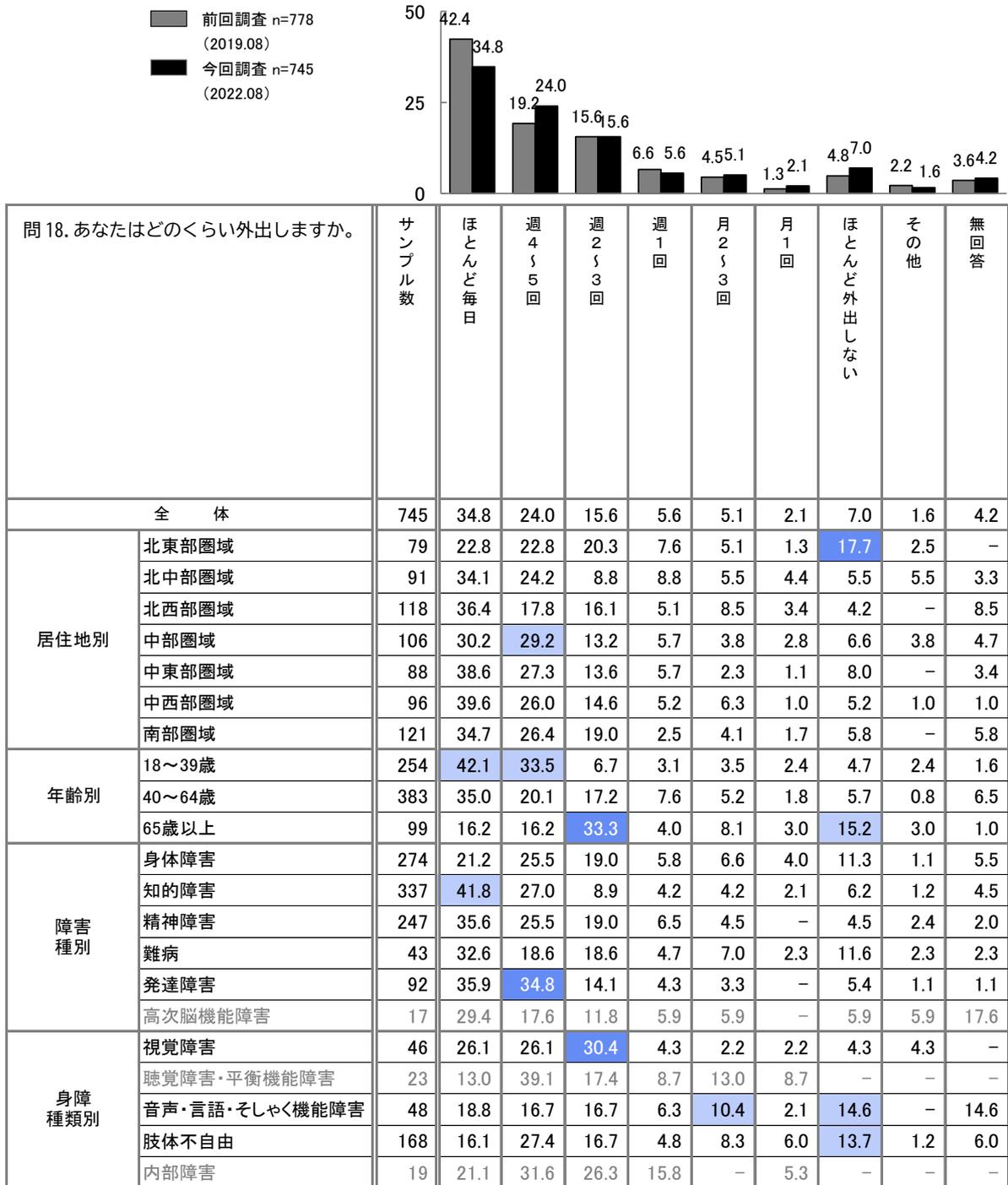
(8) 生活環境

1. 外出の頻度

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

サービス利用者の外出頻度は「ほとんど毎日」が34.8%で最も高くなっていますが、前回調査と比べると7.6ポイント低下しています。

居住地別で見ると、北東部圏域は「ほとんど外出しない」が全体と比べて高くなっています。



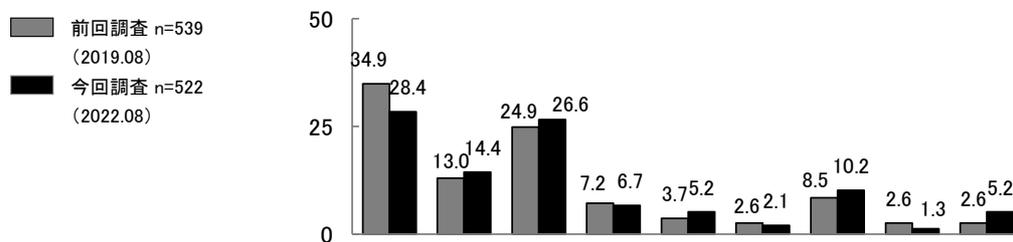
※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者の外出頻度は「ほとんど毎日」が28.4%で最も高くなっていますが、サービス利用者と同様、前回調査と比べると6.5ポイント低下しています。

年齢別で見ると、40～64歳は「ほとんど毎日」が52.4%と高くなっていますが、65歳以上になると17.7%まで低下します。



問 17. あなたはどのくらい外出しますか。		サンプル数	ほとんど毎日	週4～5回	週2～3回	週1回	月2～3回	月1回	ほとんど外出しない	その他	無回答
全 体		522	28.4	14.4	26.6	6.7	5.2	2.1	10.2	1.3	5.2
居住地別	北東部圏域	68	25.0	14.7	29.4	7.4	2.9	2.9	13.2	-	4.4
	北中部圏域	80	26.3	13.8	28.8	7.5	5.0	-	13.8	1.3	3.8
	北西部圏域	89	24.7	15.7	25.8	6.7	7.9	2.2	11.2	2.2	3.4
	中部圏域	60	21.7	15.0	30.0	6.7	10.0	3.3	6.7	1.7	5.0
	中東部圏域	58	32.8	22.4	19.0	3.4	-	3.4	13.8	1.7	3.4
	中西部圏域	66	31.8	15.2	37.9	3.0	1.5	3.0	3.0	1.5	3.0
	南部圏域	78	32.1	9.0	19.2	10.3	7.7	1.3	9.0	1.3	10.3
年齢別	18～39歳	39	33.3	23.1	20.5	2.6	5.1	-	10.3	-	5.1
	40～64歳	143	52.4	9.8	18.2	6.3	2.8	2.8	5.6	-	2.1
	65歳以上	334	17.7	15.6	31.1	7.2	6.3	2.1	11.7	2.1	6.3
障害種別	身体障害	339	22.4	15.0	28.0	8.0	5.6	2.7	10.9	2.1	5.3
	知的障害	24	25.0	20.8	20.8	-	12.5	8.3	8.3	-	4.2
	精神障害	65	43.1	9.2	21.5	4.6	4.6	3.1	7.7	-	6.2
	難病	91	35.2	16.5	24.2	7.7	3.3	-	8.8	1.1	3.3
	発達障害	16	31.3	25.0	6.3	-	12.5	-	18.8	-	6.3
	高次脳機能障害	9	22.2	-	33.3	-	-	-	44.4	-	-
身障種類別	視覚障害	22	22.7	4.5	27.3	-	4.5	-	22.7	4.5	13.6
	聴覚障害・平衡機能障害	44	22.7	9.1	13.6	18.2	6.8	2.3	15.9	4.5	6.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	10.0	50.0	-	-	-	20.0	-	10.0
	肢体不自由	149	24.2	14.1	27.5	6.0	7.4	2.0	12.1	1.3	5.4
	内部障害	112	19.6	19.6	30.4	9.8	2.7	3.6	8.0	2.7	3.6

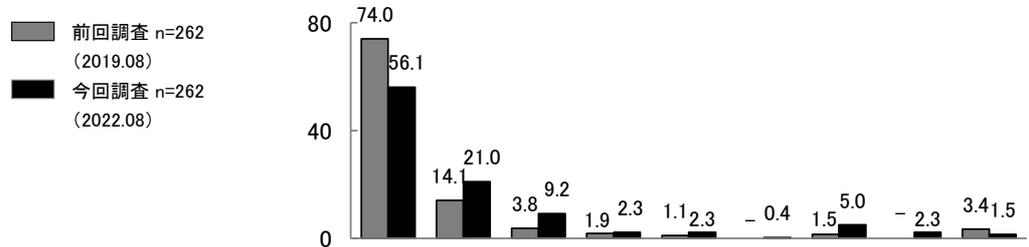
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児の外出頻度は「ほとんど毎日」が56.1%で最も高くなっていますが、前回調査と比べると17.9ポイントと大きく低下しています。

年齢別でみると、年齢が高くなるほど「ほとんど毎日」が低下する傾向がみられます。



問 15. あなたはどのくらい外出しますか。		サンプル数	ほとんど毎日	週4~5回	週2~3回	週1回	月2~3回	月1回	ほとんど外出しない	その他	無回答
全 体		262	56.1	21.0	9.2	2.3	2.3	0.4	5.0	2.3	1.5
居住地別	北東部圏域	41	58.5	22.0	7.3	2.4	4.9	-	2.4	2.4	-
	北中部圏域	45	66.7	15.6	4.4	6.7	2.2	-	2.2	-	2.2
	北西部圏域	43	58.1	20.9	16.3	-	-	2.3	-	2.3	-
	中部圏域	33	48.5	36.4	6.1	6.1	-	-	-	3.0	-
	中東部圏域	27	66.7	14.8	3.7	-	3.7	-	11.1	-	-
	中西部圏域	30	60.0	23.3	3.3	-	3.3	-	6.7	3.3	-
	南部圏域	26	34.6	15.4	15.4	-	3.8	-	15.4	7.7	7.7
年齢別	0~4歳	26	57.7	30.8	11.5	-	-	-	-	-	-
	5~9歳	78	64.1	15.4	11.5	2.6	1.3	-	2.6	1.3	1.3
	10~14歳	97	51.5	23.7	11.3	3.1	2.1	-	5.2	2.1	1.0
	15~17歳	57	50.9	21.1	1.8	1.8	5.3	1.8	10.5	5.3	1.8
障害種別	身体障害	63	49.2	27.0	6.3	1.6	3.2	-	7.9	3.2	1.6
	知的障害	203	57.1	21.2	9.4	2.5	2.0	-	4.4	2.0	1.5
	精神障害	26	46.2	23.1	23.1	-	-	3.8	3.8	-	-
	難病	30	53.3	23.3	10.0	3.3	3.3	-	6.7	-	-
	発達障害	87	56.3	17.2	16.1	1.1	-	1.1	4.6	2.3	1.1
	高次脳機能障害	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

2. 日中の過ごし方（18歳未満）

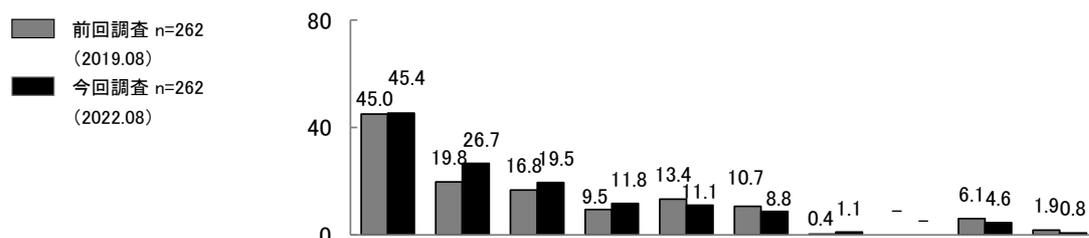
18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児の「小学校・中学校に通っている」（45.4%）、「障害のある子どものための学校に通っている」（26.7%）、「通所施設などに通っている」（19.5%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「障害のある子どものための学校に通っている」が6.9ポイント上昇しています。

年齢別で見ると、10～14歳は「小学校・中学校に通っている」が、15～17歳は「障害のある子どものための学校に通っている」がそれぞれ全体よりも高くなっています。

障害種別で見ると、難病のある人は「障害のある子どものための学校に通っている」が全体よりも高くなっています。



問18. 日ごろ昼間の時間はどのように過ごしていますか。		サンプル数	小学校・中学校に通っている	障害のある子どものための学校に通っている	通所施設などに通っている	自宅や入院先の病室で過ごしている	幼稚園に通っている	高等学校や専門学校に通っている	フリースクールなどに通っている	働いている	その他	無回答
全 体		262	45.4	26.7	19.5	11.8	11.1	8.8	1.1	-	4.6	0.8
居住地別	北東部圏域	41	56.1	14.6	14.6	12.2	12.2	7.3	-	-	7.3	-
	北中部圏域	45	42.2	28.9	15.6	11.1	8.9	11.1	6.7	-	6.7	2.2
	北西部圏域	43	41.9	23.3	25.6	14.0	14.0	11.6	-	-	-	-
	中部圏域	33	51.5	30.3	21.2	12.1	6.1	12.1	-	-	3.0	-
	中東部圏域	27	48.1	29.6	18.5	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-
	中西部圏域	30	46.7	20.0	13.3	3.3	16.7	-	-	-	6.7	-
	南部圏域	26	42.3	30.8	30.8	19.2	15.4	7.7	-	-	7.7	3.8
年齢別	0～4歳	26	-	3.8	46.2	26.9	53.8	-	-	-	11.5	-
	5～9歳	78	50.0	28.2	21.8	9.0	19.2	-	1.3	-	2.6	1.3
	10～14歳	97	71.1	23.7	12.4	13.4	-	1.0	1.0	-	5.2	-
	15～17歳	57	19.3	38.6	17.5	7.0	-	36.8	1.8	-	1.8	1.8
障害種別	身体障害	63	31.7	31.7	17.5	15.9	9.5	14.3	-	-	7.9	-
	知的障害	203	42.9	31.5	22.7	11.3	11.8	6.4	0.5	-	3.4	1.0
	精神障害	26	53.8	11.5	7.7	19.2	3.8	7.7	7.7	-	15.4	-
	難病	30	26.7	36.7	20.0	20.0	3.3	6.7	-	-	10.0	-
	発達障害	87	51.7	29.9	26.4	16.1	9.2	3.4	-	-	4.6	-
	高次脳機能障害	1	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

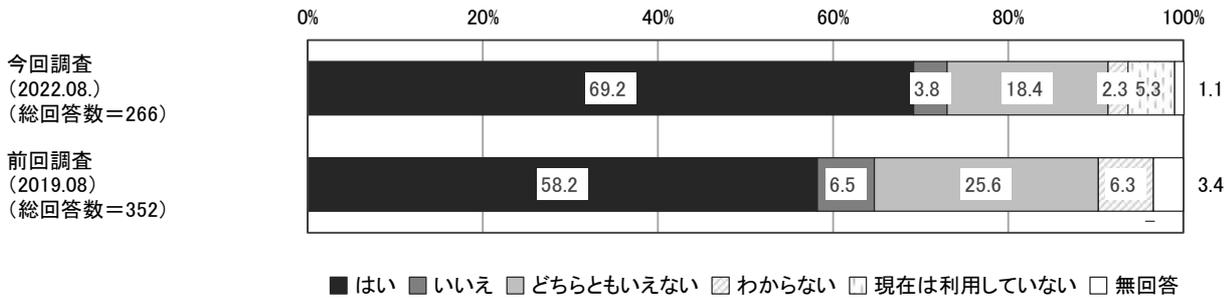
(9) 障害児支援の提供体制の整備等

1. 児童通所支援内容への満足度

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童における児童通所支援内容に満足していますかという問に「はい」と回答した人は69.2%で、前回調査と比べると11.0ポイント上昇しています。

年齢別で見ると、年齢が高くなるほど「はい」が低下する傾向がみられるが、年齢とともに利用率が低下することが大きな要因と考えられます。



問 18. 現在、利用しておられる児童通所支援の療育等の内容に満足していますか。		サンプル数	はい	いいえ	どちらともいえない	わからない	現在は利用していない	無回答
全 体		266	69.2	3.8	18.4	2.3	5.3	1.1
年齢別	0～4歳	82	75.6	2.4	14.6	2.4	2.4	2.4
	5～9歳	120	71.7	3.3	18.3	2.5	4.2	-
	10～17歳	59	52.5	6.8	25.4	1.7	11.9	1.7
所属先別	小学校入学前	129	78.3	3.1	11.6	3.1	3.1	0.8
	小学校入学後	130	60.0	3.8	25.4	1.5	7.7	1.5

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

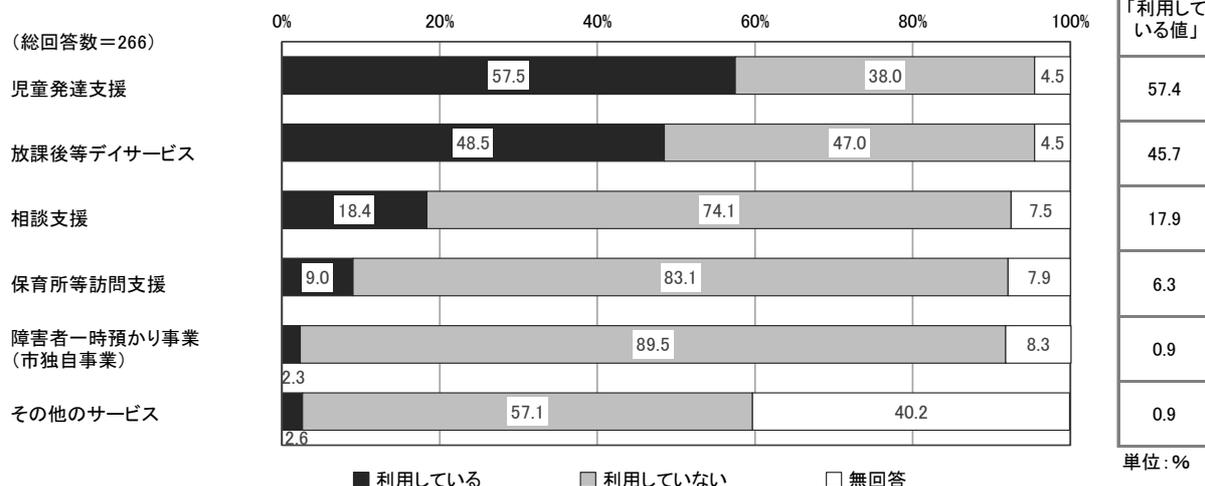
単位：%

2. 障害福祉サービスの利用状況（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童のサービス利用状況をみると、「児童発達支援」（57.5%）、「放課後等デイサービス」（48.5%）が上位となっています。

問 30. 発達に課題のある人のための福祉サービスについて、①現在の利用状況を教えてください。



3. 利用サービスの不満点の有無（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

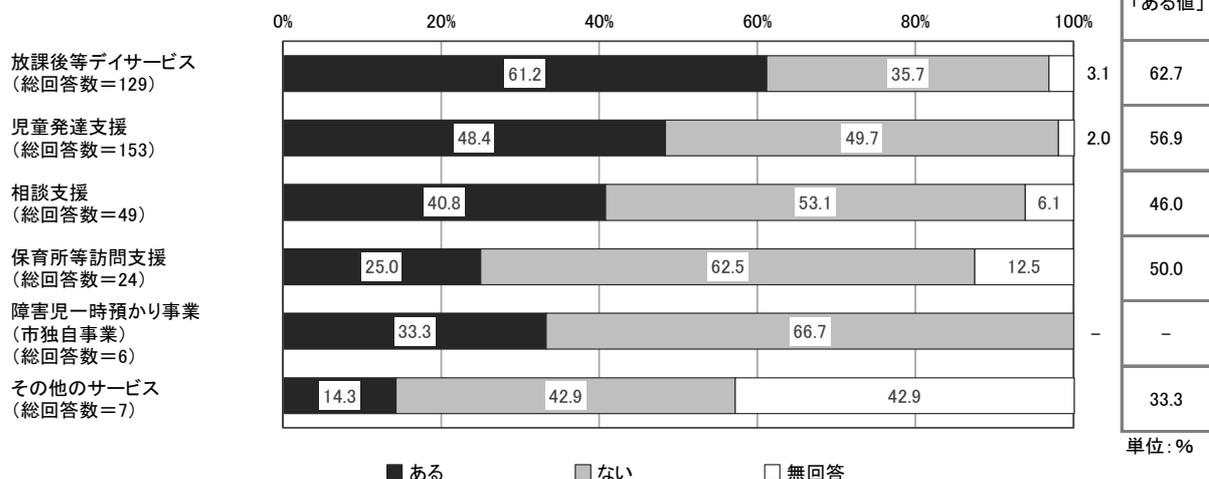
通所支援受給者証を持つ児童が利用したサービスで不満が50%以上のサービスは「放課後等デイサービス」（61.2%）となっています。

前回調査と比べると、「児童発達支援」は8.5ポイント、「相談支援」は5.2ポイント不満が「ある」が低下しています。

総回答数が30サンプル未満のサービスは参考値となります。

問 30. ②(1)利用して気になることや不満に思うことの有無を教えてください。

*問 30①で「1.利用している」と回答された方



4. 不満内容（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

利用者の50%以上が不満を感じている放課後等デイサービスの不満内容をみると、「放課後デイサービス」は、「身近なところでサービスを利用できない」、「利用したい日・時間に利用できない」がいずれも35.4%で最も高く、「サービス内容に関する情報が少ない」（34.2%）、「指導員など支援者の知識・経験が不足している」（31.6%）が上位となっています。

次いで不満度が高い「児童発達支援」は、「利用したい日・時間に利用できない」（40.5%）、「サービス内容に関する情報が少ない」（36.5%）、「身近なところでサービスを利用できない」「利用回数・時間などに制限がある」（いずれも35.1%）が上位となっています。

(%)

問30. ②(2)利用して気になることや不満に思うことの内容を教えてください。 *問30②(1)で「1.ある」と回答された方	全体 (人)	で身近なところでサービスを利用	ない利用したい日・時間に利用でき	る利用回数・時間などに制限があ	多事業所に利用を断られることが	利用料が高い	が指導員など支援者の知識・経験	さ建物や設備が発達の課題に配慮	ないサービス内容に関する情報が少	倒相談や手続きに時間がかかり面	その他	無回答
放課後等デイサービス	79	35.4	35.4	25.3	7.6	5.1	31.6	7.6	34.2	11.4	15.2	1.3
児童発達支援	74	35.1	40.5	35.1	4.1	4.1	23.0	4.1	36.5	13.5	10.8	1.4
保育所等訪問支援	6	16.7	16.7	33.3	16.7	-	33.3	16.7	-	-	50.0	-
相談支援	20	20.0	30.0	10.0	-	-	15.0	-	40.0	25.0	5.0	10.0
障害児一時預かり事業(市独自事業)	2	50.0	50.0	100.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-
その他サービス	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

■ は1位項目 ■ は2位項目 ■ は3位項目

単位:%

5. 今後の利用希望（児童）

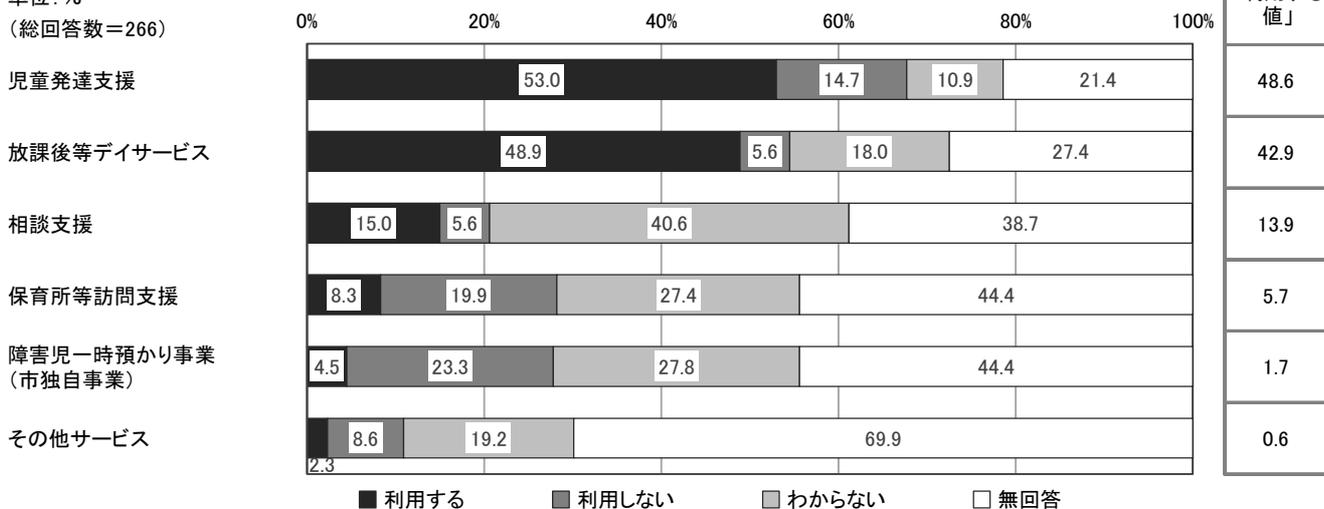
通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童が今後、利用希望をしめすサービスは、「児童発達支援」（53.0%）、「放課後等デイサービス」（48.9%）がいずれも 50%近くで上位となっています。

前回調査と比べると、「放課後等デイサービス」の利用希望は 6.0 ポイント上昇しています。

問 30. ③今後の利用についてのお考えを教えてください。

単位：％
（総回答数＝266）

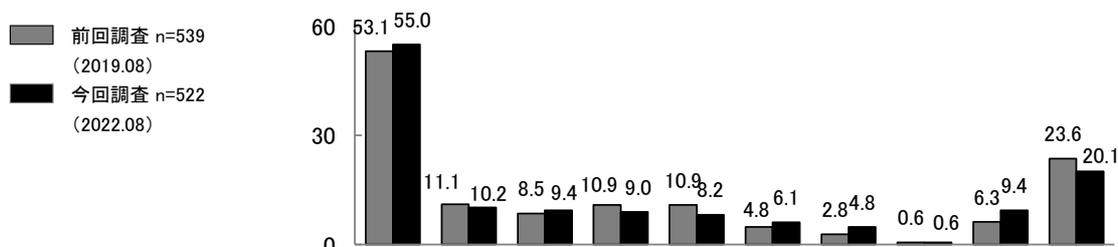


6. 障害福祉サービスを利用しない理由

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

サービス未利用者が障害福祉サービスを利用しない理由は、「必要を感じない」が55.0%で最も高く、その他はいずれも10%程度となっています。

障害種別でみると、精神障害のある人は、「必要を感じない」は38.5%と他層と比べても低く、「利用の仕方がわからない」をはじめとして、必要としているのに様々な理由で利用できない様子がうかがえます。



問 41. 現在、サービスを利用していない理由は何ですか。		サンプル数	必要を感じない	人に世話をかけたくない	知らない	制度やサービスのことを	利用の仕方がわからない	費用がかかる	気がひける	利用したくない	人の目が気になる	家の人が反対する	その他	無回答
全 体		522	55.0	10.2	9.4	9.0	8.2	6.1	4.8	0.6	9.4	20.1		
居住地別	北東部圏域	68	51.5	14.7	7.4	13.2	4.4	8.8	4.4	-	10.3	22.1		
	北中部圏域	80	58.8	8.8	10.0	10.0	8.8	7.5	6.3	2.5	10.0	11.3		
	北西部圏域	89	59.6	13.5	12.4	11.2	9.0	7.9	5.6	-	10.1	14.6		
	中部圏域	60	58.3	5.0	5.0	10.0	11.7	3.3	5.0	-	8.3	20.0		
	中東部圏域	58	48.3	5.2	15.5	6.9	12.1	5.2	5.2	-	8.6	25.9		
	中西部圏域	66	56.1	12.1	9.1	4.5	7.6	3.0	3.0	-	9.1	24.2		
	南部圏域	78	52.6	10.3	5.1	6.4	7.7	3.8	3.8	1.3	10.3	24.4		
年齢別	18～39歳	39	51.3	5.1	10.3	7.7	5.1	7.7	2.6	2.6	15.4	20.5		
	40～64歳	143	66.4	7.0	11.9	15.4	9.8	7.7	6.3	0.7	5.6	8.4		
	65歳以上	334	51.5	12.0	8.1	6.6	8.1	5.1	4.5	0.3	10.5	24.3		
障害種別	身体障害	339	53.1	11.2	8.8	7.7	8.8	6.8	4.7	-	9.4	21.8		
	知的障害	24	58.3	-	4.2	-	-	-	-	-	8.3	29.2		
	精神障害	65	38.5	16.9	13.8	20.0	12.3	10.8	15.4	3.1	16.9	12.3		
	難病	91	63.7	6.6	7.7	6.6	4.4	2.2	2.2	-	4.4	19.8		
	発達障害	16	31.3	6.3	18.8	31.3	12.5	6.3	6.3	12.5	25.0	18.8		
	高次脳機能障害	9	33.3	-	22.2	22.2	11.1	-	-	-	-	33.3		
身障種別	視覚障害	22	36.4	4.5	9.1	13.6	9.1	4.5	4.5	-	9.1	36.4		
	聴覚障害・平衡機能障害	44	52.3	4.5	11.4	11.4	13.6	9.1	11.4	-	9.1	20.5		
	音声・言語・そしゃく機能障害	10	70.0	10.0	-	10.0	20.0	10.0	20.0	-	-	30.0		
	肢体不自由	149	52.3	14.8	7.4	7.4	6.0	8.7	6.0	-	6.7	22.1		
	内部障害	112	58.0	8.0	8.9	5.4	12.5	3.6	0.9	-	12.5	19.6		

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

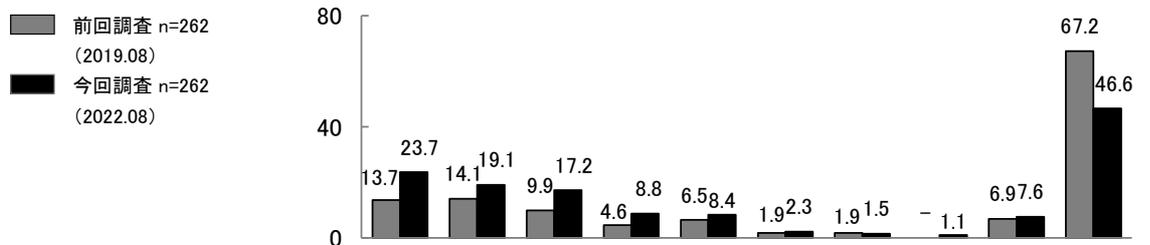
単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

障害児が障害福祉サービスを利用しない理由は、「制度やサービスのことを知らない」（23.7%）、「利用の仕方がわからない」（19.1%）、「必要を感じない」（17.2%）が上位となっています。

前回調査と比べると、「制度やサービスのことを知らない」は 10.0 ポイント、「必要を感じない」7.3 ポイント、「利用の仕方がわからない」は 5.0 ポイント上昇しています。

居住地別でみると、中西部圏域では「利用の仕方がわからない」が全体と比べて高くなっています。年齢別でみると、「必要を感じない」が年齢とともに高くなる傾向がみられます。



問 45. 障害のある人のためのサービスを利用していない人は、その理由であてはまるものを教えてください。		サンプル数	知らない制度やサービスのことを	利用の仕方がわからない	必要を感じない	利用したことがないので気がひける	費用がかかる	人の目が気になる	人に世話をかけたくない	家の人が反対する	その他	無回答
全 体		262	23.7	19.1	17.2	8.8	8.4	2.3	1.5	1.1	7.6	46.6
居住地別	北東部圏域	41	19.5	22.0	24.4	9.8	7.3	-	2.4	-	12.2	39.0
	北中部圏域	45	15.6	13.3	17.8	11.1	8.9	2.2	-	-	8.9	53.3
	北西部圏域	43	27.9	18.6	16.3	16.3	11.6	2.3	4.7	-	9.3	39.5
	中部圏域	33	15.2	12.1	21.2	3.0	9.1	3.0	-	3.0	6.1	57.6
	中東部圏域	27	25.9	22.2	22.2	11.1	7.4	3.7	-	3.7	3.7	37.0
	中西部圏域	30	30.0	30.0	6.7	-	-	3.3	3.3	-	3.3	53.3
	南部圏域	26	38.5	23.1	7.7	7.7	15.4	3.8	-	-	11.5	42.3
年齢別	0～4歳	26	42.3	30.8	19.2	7.7	7.7	-	-	-	3.8	34.6
	5～9歳	78	19.2	17.9	7.7	11.5	5.1	1.3	1.3	1.3	3.8	60.3
	10～14歳	97	22.7	20.6	18.6	6.2	11.3	4.1	1.0	1.0	13.4	43.3
	15～17歳	57	21.1	12.3	26.3	10.5	8.8	1.8	3.5	1.8	5.3	38.6
障害種別	身体障害	63	17.5	15.9	20.6	7.9	14.3	1.6	-	1.6	11.1	39.7
	知的障害	203	24.6	21.7	13.8	9.4	8.9	2.0	2.0	1.5	4.9	49.8
	精神障害	26	23.1	11.5	19.2	7.7	3.8	7.7	-	-	11.5	50.0
	難病	30	13.3	13.3	20.0	3.3	16.7	-	-	3.3	10.0	43.3
	発達障害	87	33.3	26.4	10.3	12.6	11.5	3.4	1.1	1.1	6.9	42.5
	高次脳機能障害	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

Ⅲ 調査の結果の詳細

1. あなたやご家族について

(1) 回答者の属性

障害のある市民 (①②③⑤⑥)

	18歳以上の障害のある市民		18歳未満の障害のある市民 (有効回答数=262)
	サービス利用者 (有効回答数=745)	サービス未利用者 (有効回答数=522)	
回答者	本人 48.5% 家族 43.5%	本人 74.9% 家族 20.0%	本人 2.7% 家族 94.7%
手帳の種別や 診断名 〔複数回答〕	身体障害者手帳 37.4% 療育手帳 45.3% 精神障害者保健福祉手帳 33.1% 難病(特定疾患) 5.8% 発達障害 12.3% 高次脳機能障害 2.3%	身体障害者手帳 65.7% 療育手帳 4.6% 精神障害者保健福祉手帳 12.5% 難病(特定疾患) 17.4% 発達障害 3.1% 高次脳機能障害 1.7%	身体障害者手帳 24.7% 療育手帳 77.5% 精神障害者保健福祉手帳 10.0% 難病(特定疾患) 11.5% 発達障害 33.2% 高次脳機能障害 0.4%
住まい	自宅で家族と一緒に 63.0% 自宅で一人暮らし 24.4%	自宅で家族と一緒に 69.3% 自宅で一人暮らし 22.0%	自宅で家族と一緒に 97.7% 自宅で一人暮らし 0.4%
その他	介助や支援を必要とする人 67.6%	介助や支援を必要とする人 34.4%	介助や支援を必要とする人 82.9%

	施設入所者 (有効回答数=142)	通所支援受給者証を持つ児童 (有効回答数=266)
回答者	本人 2.1% 家族 8.5% 職員 46.5%	本人 2.6% 家族 95.9%
手帳の種別や 診断名 〔複数回答〕	身体障害者手帳 29.5% 療育手帳 85.9% 精神障害者保健福祉手帳 5.6% 難病(特定疾患) 0.7% 発達障害 11.3% 高次脳機能障害 0.0%	
その他	入所年数 10年未満 38.0% 10年以上 59.1%	介助や支援を必要とする人 77.8%

障害のない市民 (④)

	18歳以上の障害のない市民 (有効回答数=427)
性別	男性 41.9% 女性 56.4% その他 0.2%
職業	就業者 65.5% 学生 0.9% 家事専業 6.8% 無職 23.7%

(2) コミュニケーション方法

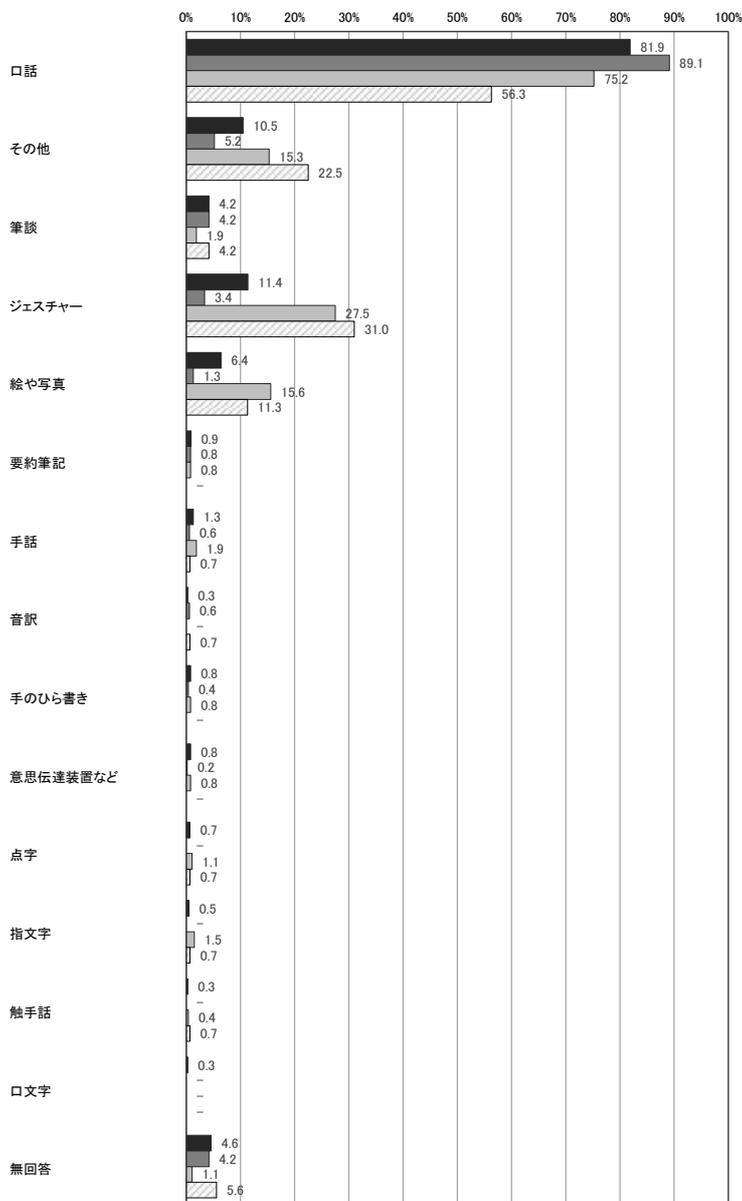
障害のある市民 (①②③⑤)

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「口話」が81.9%で最も多く、次いで「ジェスチャー」が11.4%、「その他」が10.5%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「口話」が89.1%で最も多く、次いで「その他」が5.2%、「筆談」が4.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「口話」が75.2%で最も多く、次いで「ジェスチャー」が27.5%、「絵や写真」が15.6%となっています。

施設入所者では、「口話」が56.3%で最も多く、次いで「ジェスチャー」が31.0%、「その他」が22.5%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)
 ■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)
 □ 施設入所者(総回答数=142)

(3) 新型コロナウイルスにより困ったもの

障害のある市民 (①②③⑤)、障害のない市民 (④)

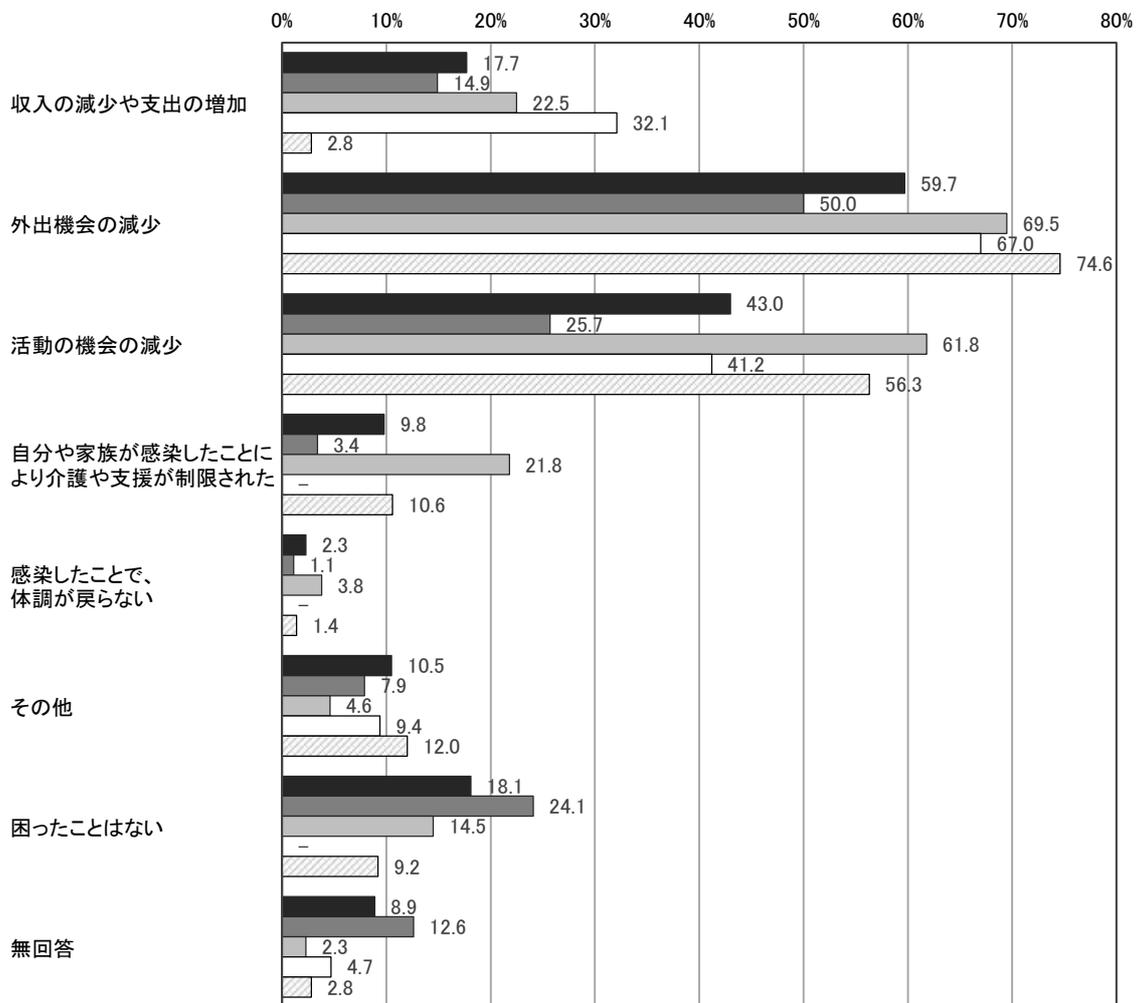
18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「外出機会の減少」が59.7%で最も多く、次いで「活動の機会の減少」が43.0%、「困ったことはない」が18.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「外出機会の減少」が50.0%で最も多く、次いで「活動の機会の減少」が25.7%、「困ったことはない」が24.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「外出機会の減少」が69.5%で最も多く、次いで「活動の機会の減少」が61.8%、「収入の減少や支出の増加」が22.5%となっています。

18歳以上の障害のない市民では、「外出機会の減少」が67.0%で最も多く、次いで「活動の機会の減少」が41.2%、「収入の減少や支出の増加」が32.1%となっています。

施設入所者では、「外出機会の減少」が74.6%で最も多く、次いで「活動の機会の減少」が56.3%、「収入の減少や支出の増加」が22.5%となっています。



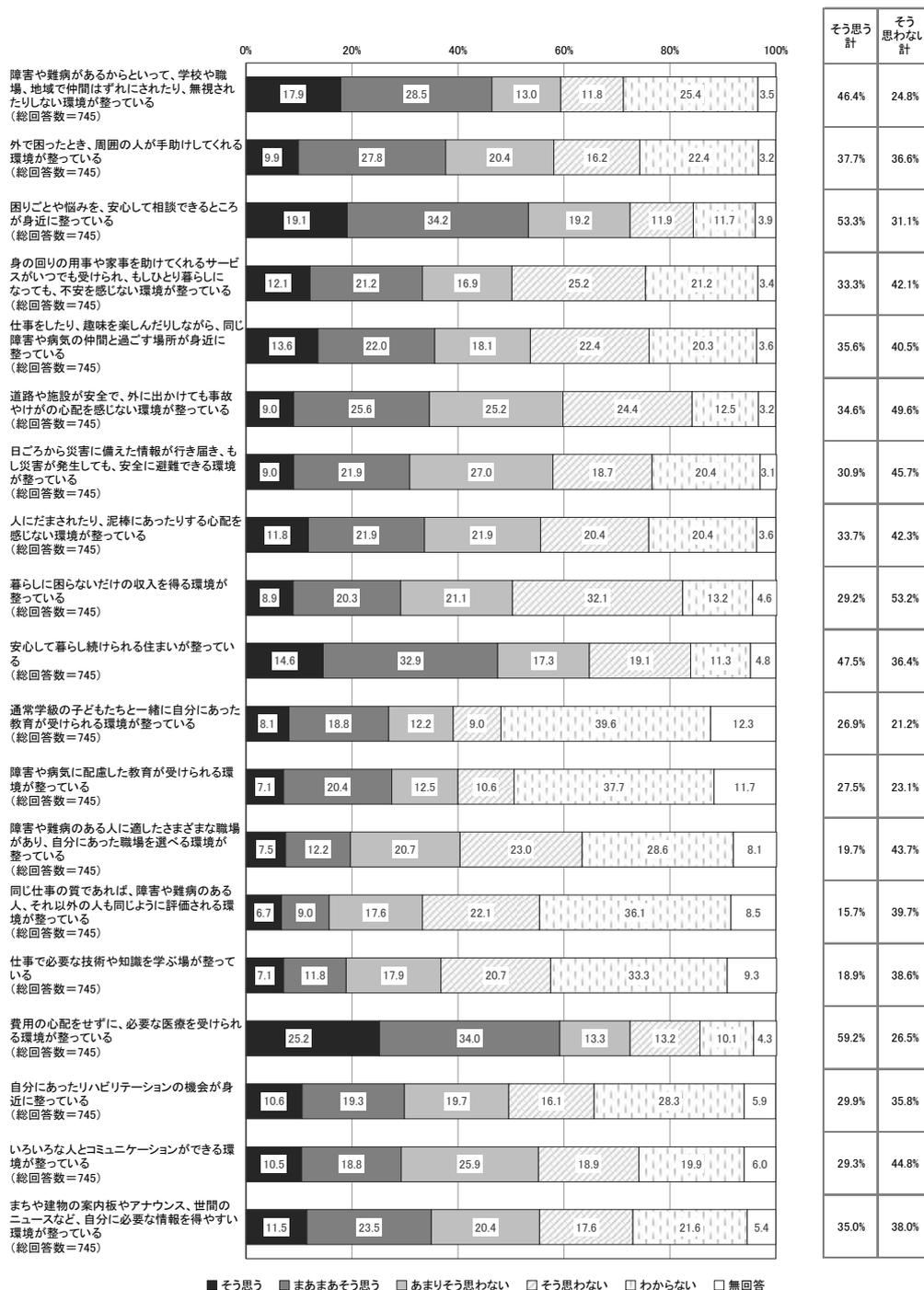
- 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
- 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)
- 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)
- 18歳以上の障害のない市民(総回答数=427)
- ▨ 施設入所者(総回答数=142)

2. あなたの生活環境について

(1) 生活環境について

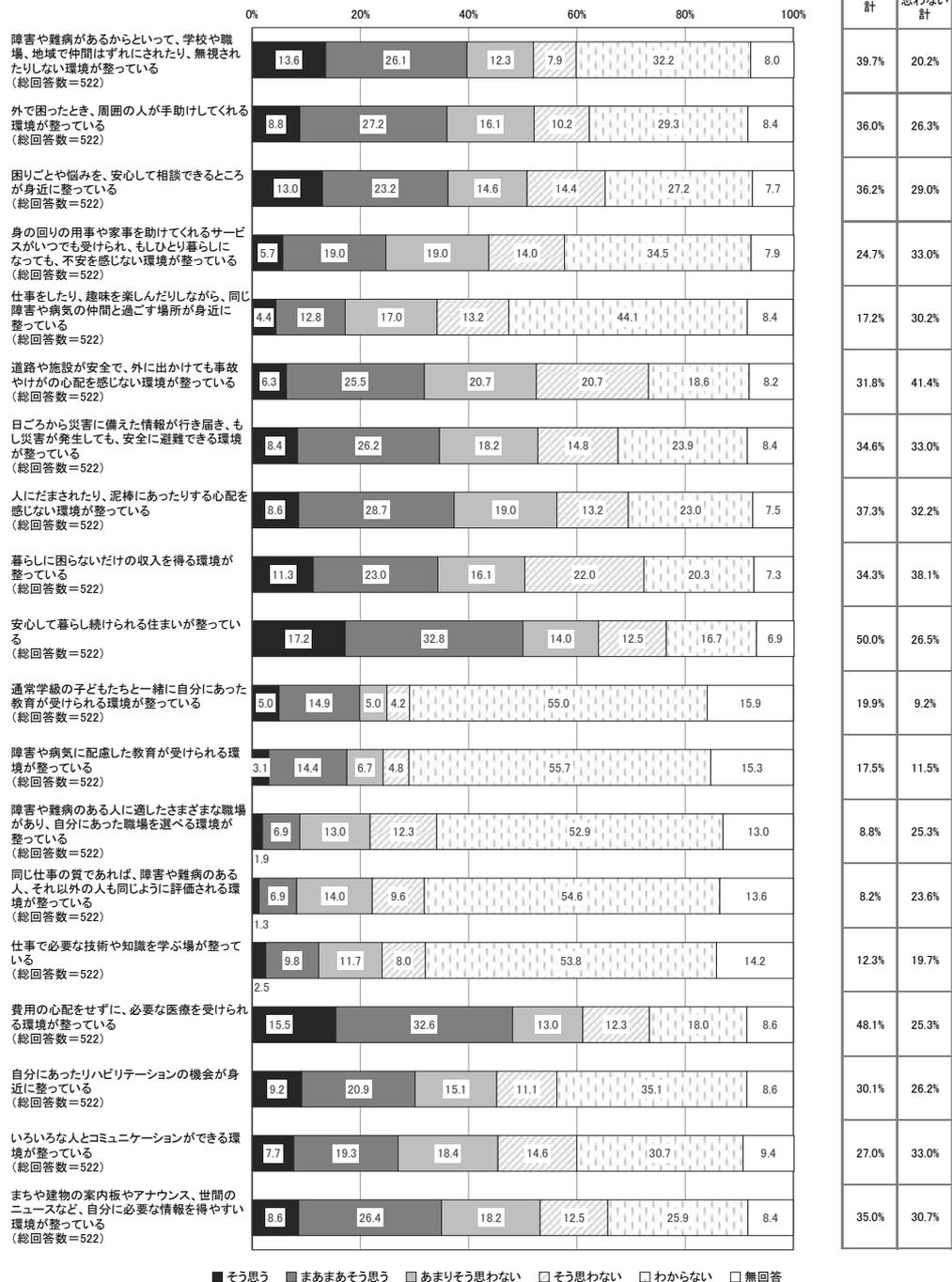
18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民で、「そう思う」+「まあまあそう思う」の「そう思う計」が、「あまりそう思わない」+「そう思わない」の「そう思わない計」を上回っているのは、「費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている」、「困りごとや悩みを、安心して相談できるところが身近に整っている」、「障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている」など7項目で、「そう思わない計」が「そう思う計」を上回っている項目が12項目です。



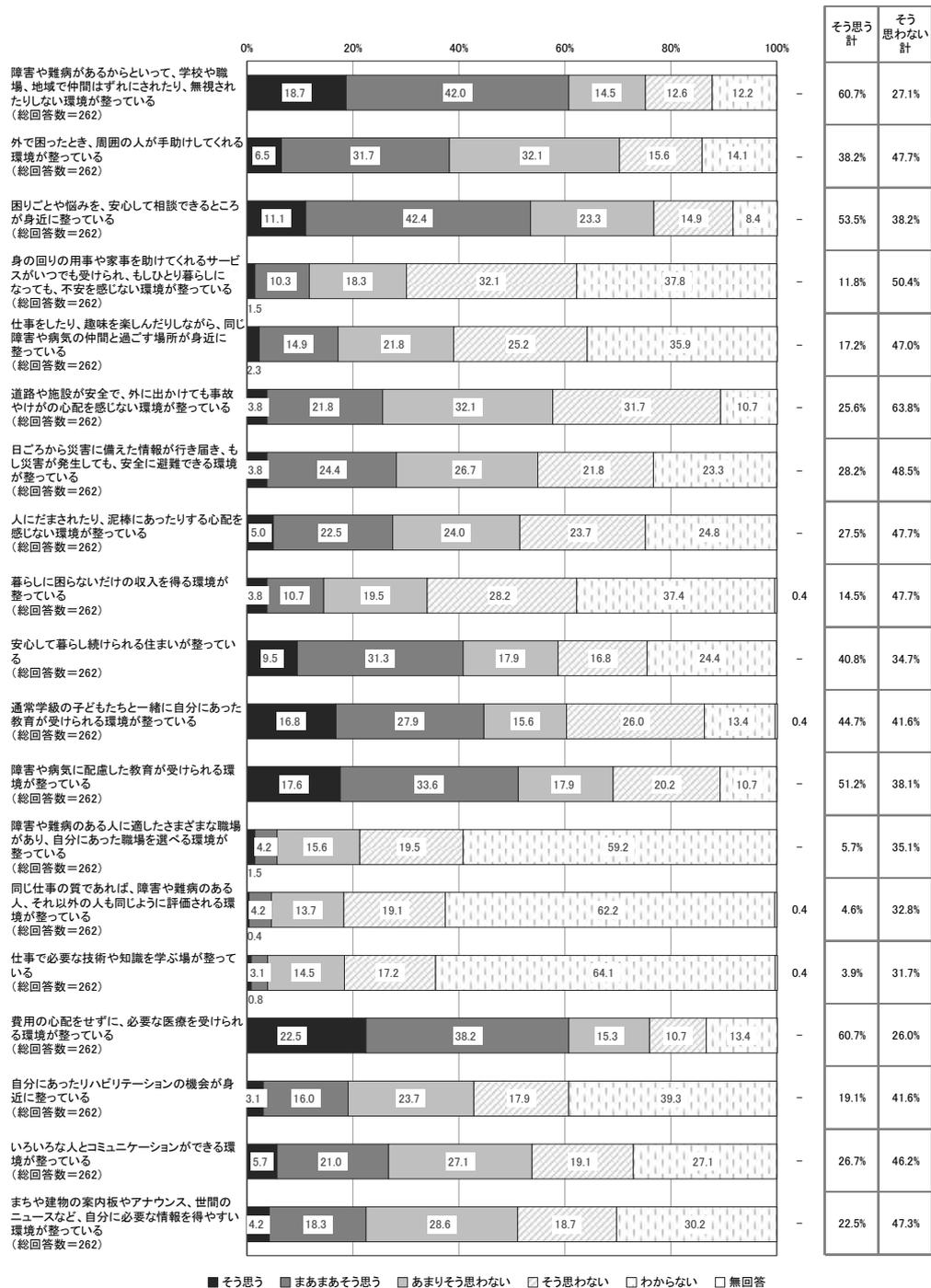
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

18歳以上の障害福祉サービス未利用者で、「そう思う計」が、「そう思わない計」を上回っているのは、「安心して暮らし続けられる住まいが整っている」、「費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている」、「障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたり、無視されたりしない環境が整っている」など11項目で、「そう思わない計」が「そう思う計」を上回っている項目が8項目です。



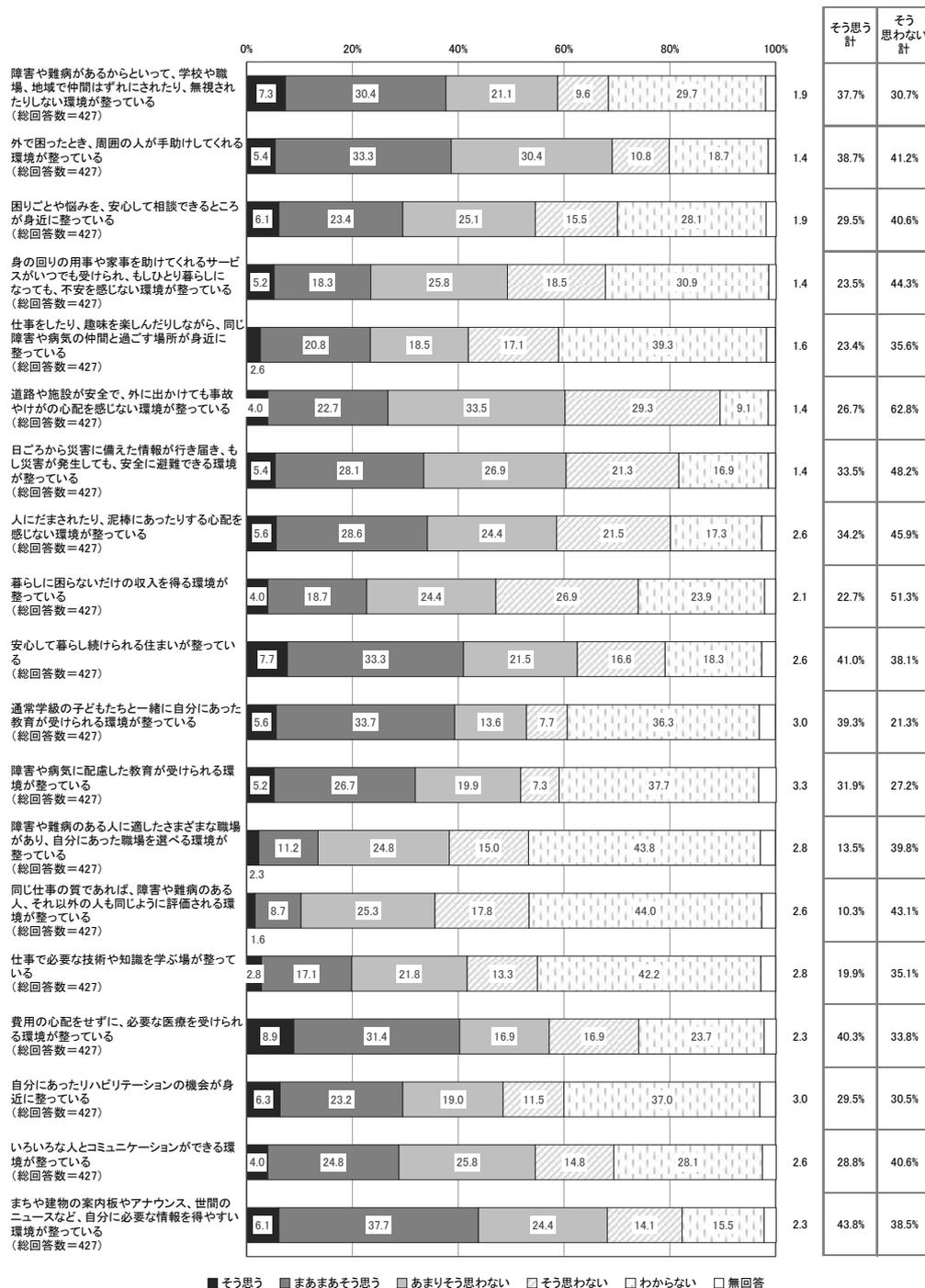
18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民で、「そう思う計」が、「そう思わない計」を上回っているのは、「費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている」、「障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている」、「困りごとや悩みを、安心して相談できるところが身近に整っている」など6項目で、「そう思わない計」が「そう思う計」を上回っている項目が13項目です。



18歳以上の障害のない市民（調査④）

18歳以上の障害のない市民で、「そう思う計」が、「そう思わない計」を上回っているのは、「通常学級の子どもたちと一緒に自分にあった教育が受けられる環境が整っている」、「障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている」、「費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている」など6項目で、「そう思わない計」が「そう思う計」を上回っている項目が13項目です。



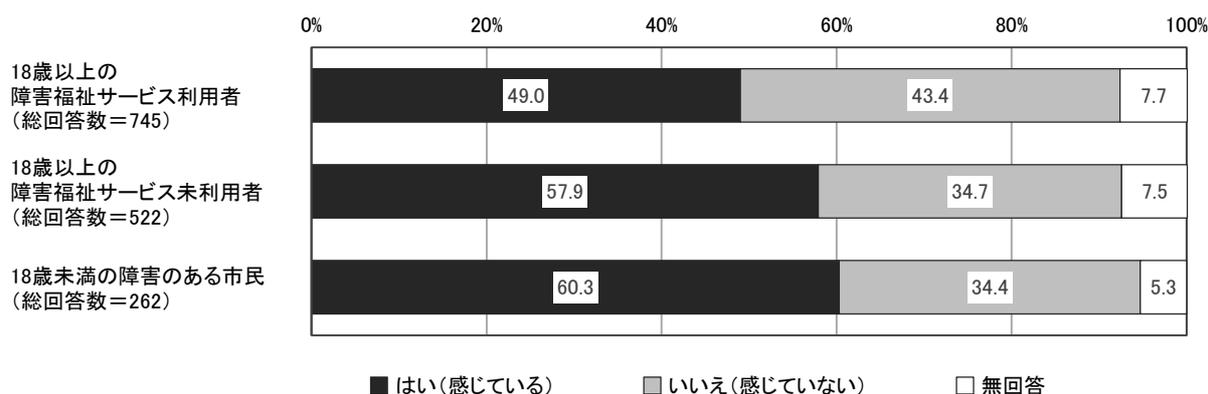
(2) ライフスタイルに応じた生活ができているか

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「はい（感じている）」が49.0%、「いいえ（感じていない）」が43.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「はい（感じている）」が57.9%、「いいえ（感じていない）」が34.7%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「はい（感じている）」が60.3%、「いいえ（感じていない）」が34.4%となっています。



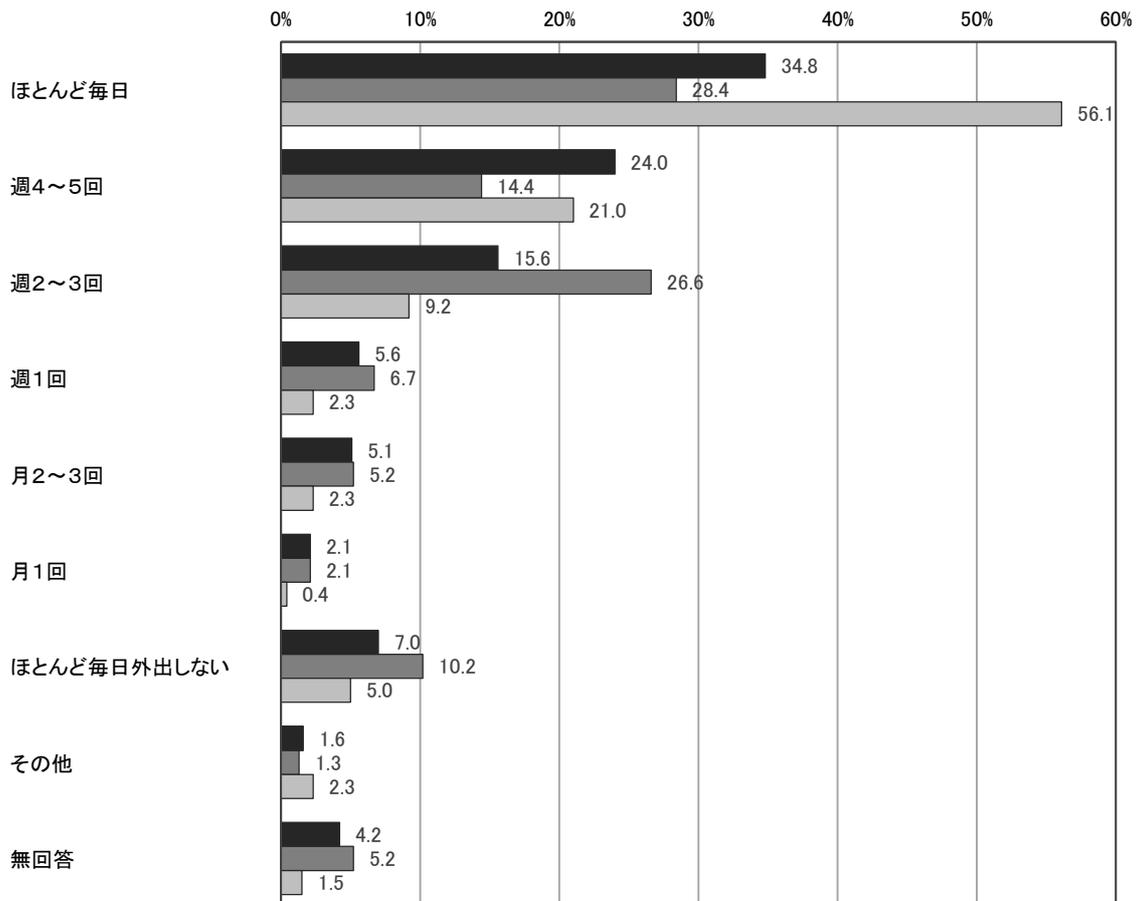
(3) 外出の頻度

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「ほとんど毎日」が34.8%で最も多く、次いで「週4～5回」が24.0%、「週2～3回」が15.6%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「ほとんど毎日」が28.4%で最も多く、次いで「週2～3回」が26.6%、「週4～5回」が14.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「ほとんど毎日」が56.1%で最も多く、次いで「週4～5回」が21.0%、「週2～3回」が9.2%となっています。



- 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
- 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)
- 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

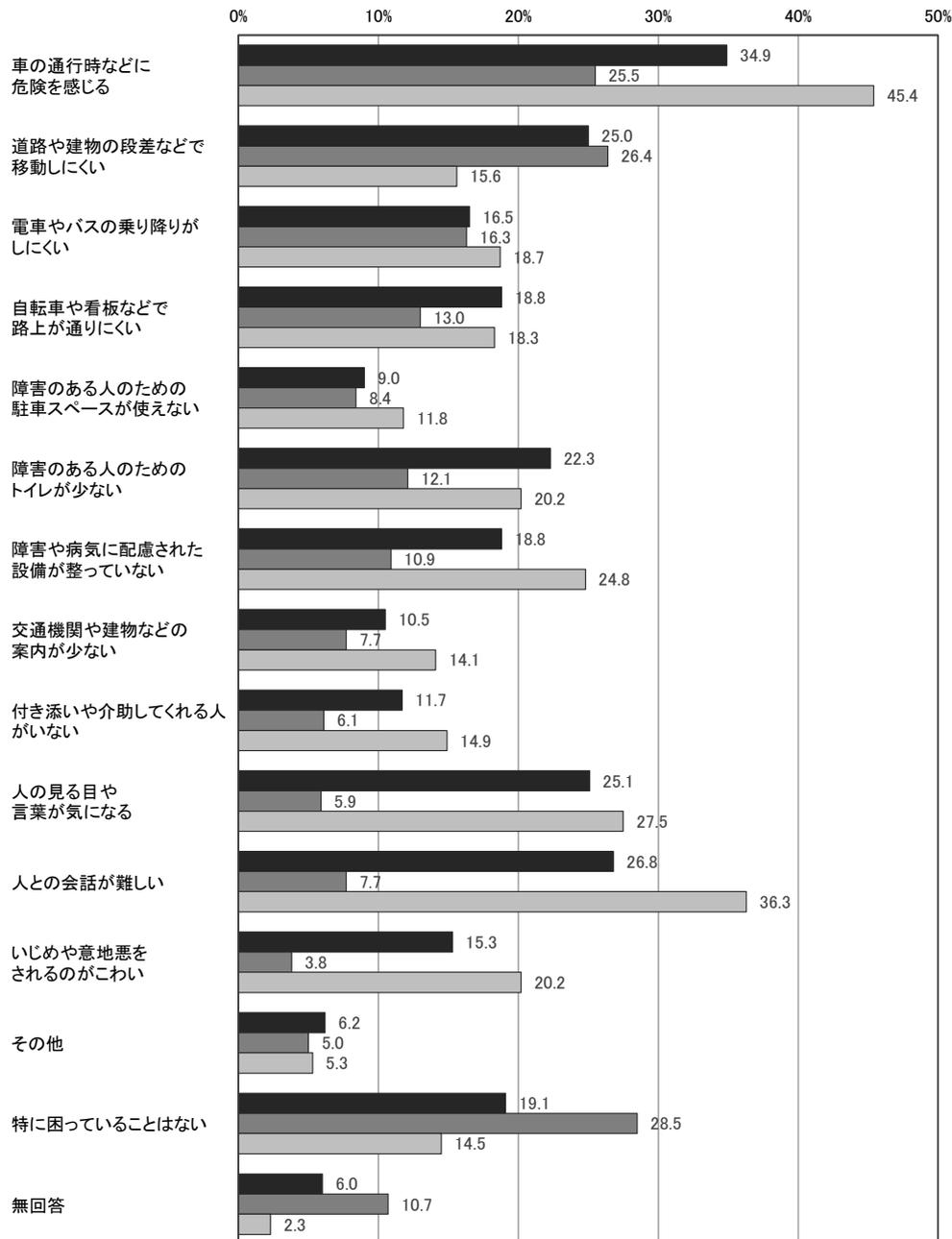
(4) 外出時に困ること〔複数回答〕

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「車の通行時などに危険を感じる」が34.9%で最も多く、次いで「人との会話が難しい」が26.8%、「人の見る目や言葉が気になる」が25.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「特に困っていることはない」が28.5%で最も多く、次いで「道路や建物の段差などで移動しにくい」が26.4%、「車の通行時などに危険を感じる」が25.5%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「車の通行時などに危険を感じる」が45.4%で最も多く、次いで「人との会話が難しい」が36.3%、「人の見る目や言葉が気になる」が27.5%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者 (総回答数=745)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (総回答数=522)
 ■ 18歳未満の障害のある市民 (総回答数=262)

(5) ご近所とのつきあい方

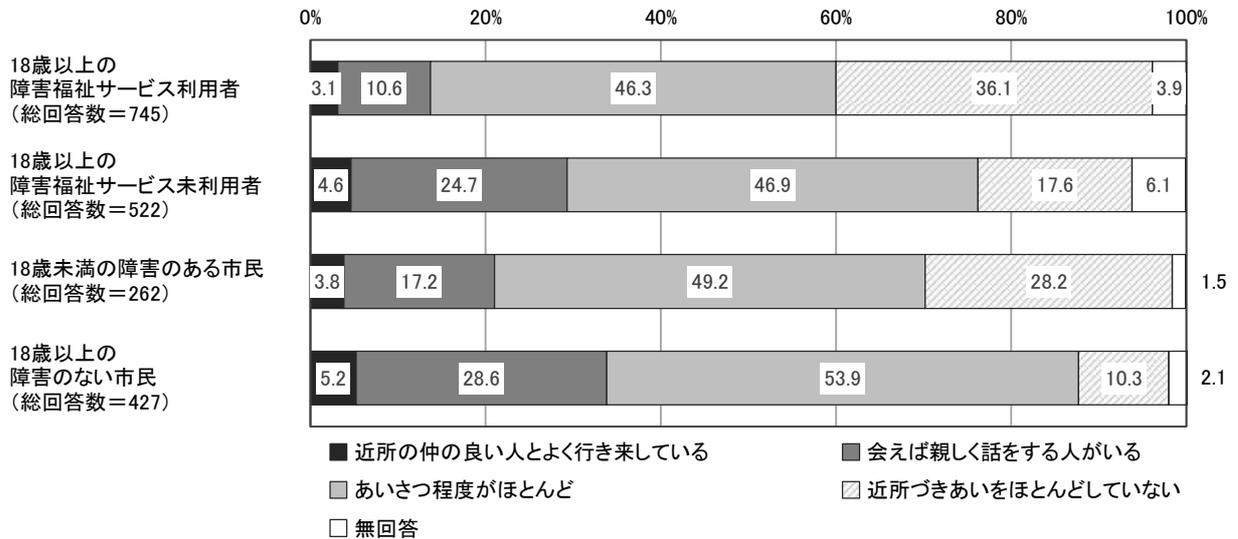
障害のある市民 (①②③)、障害のない市民 (④)

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「近所の仲の良い人とよく行き来している」が3.1%で、「会えば親しく話をする人がいる」が10.6%、「あいさつ程度がほとんど」が46.3%、「近所づきあいをほとんどしていない」が36.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「近所の仲の良い人とよく行き来している」が4.6%で、「会えば親しく話をする人がいる」が24.7%、「あいさつ程度がほとんど」が46.9%、「近所づきあいをほとんどしていない」が17.6%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「近所の仲の良い人とよく行き来している」が3.8%で、「会えば親しく話をする人がいる」が17.2%、「あいさつ程度がほとんど」が49.2%、「近所づきあいをほとんどしていない」が28.2%となっています。

18歳以上の障害のない市民では、「近所の仲の良い人とよく行き来している」が5.2%で、「会えば親しく話をする人がいる」が28.6%、「あいさつ程度がほとんど」が53.9%、「近所づきあいをほとんどしていない」が10.3%となっています。

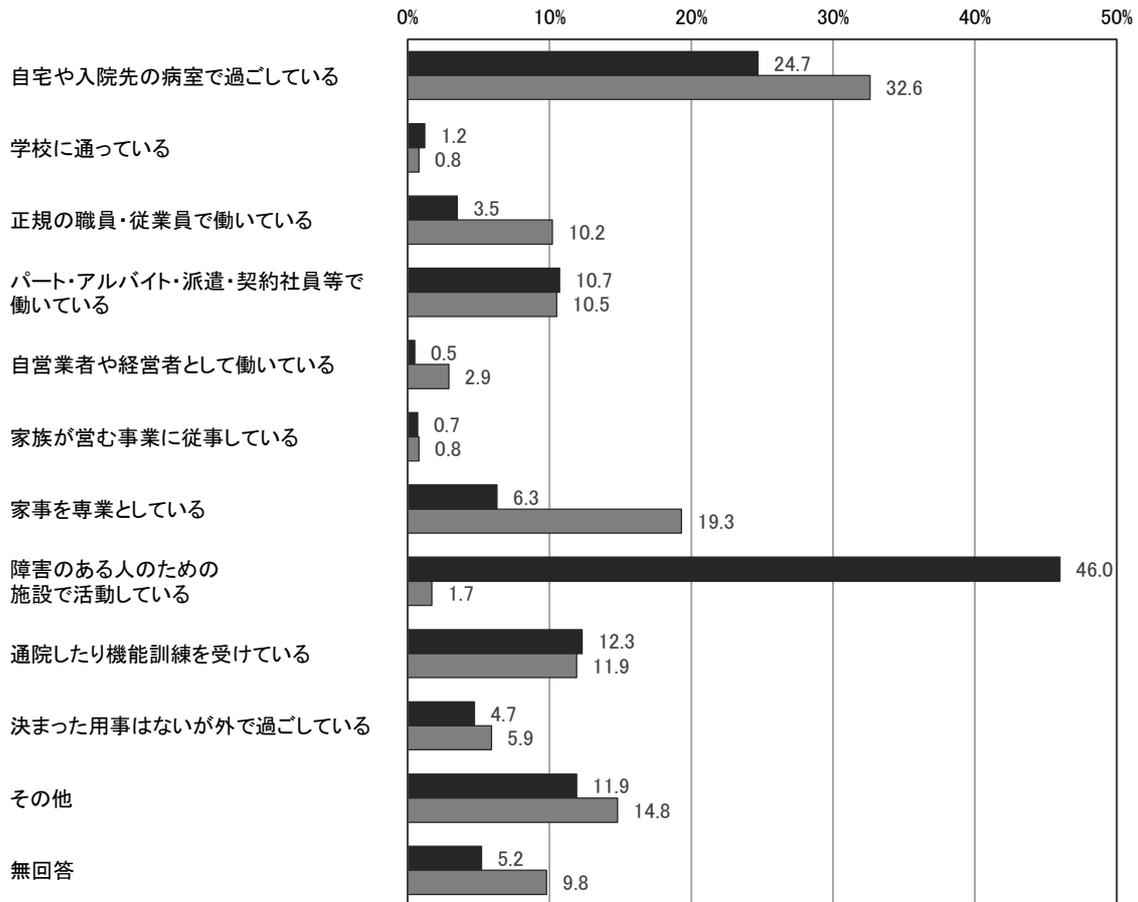


(6) 日中の過ごし方〔複数回答〕

18歳以上の障害のある市民（調査①②）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「障害のある人のための施設で活動している」が46.0%で最も多く、次いで「自宅や入院先の病室で過ごしている」が24.7%、「通院したり機能訓練を受けている」が12.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「自宅や入院先の病室で過ごしている」が32.6%で最も多く、次いで「家事を専業としている」が19.3%、「その他」が14.8%となっています。

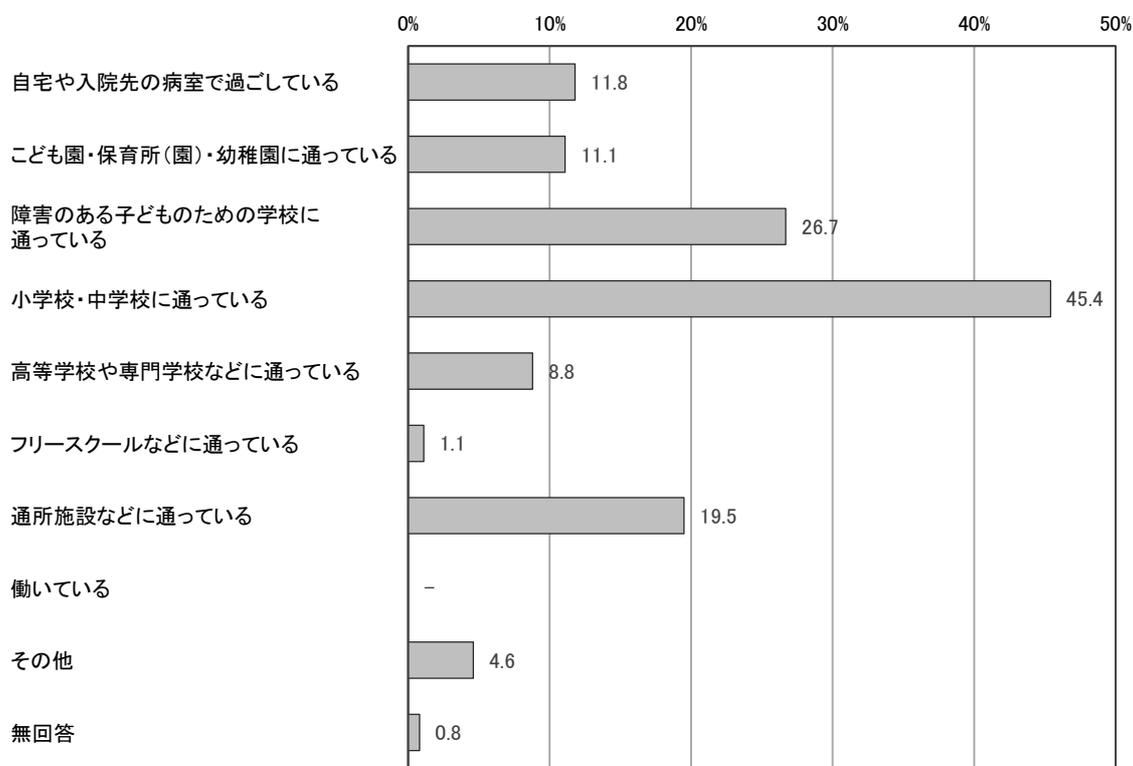


■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)

(7) 日中の過ごし方 (18歳未満) [複数回答]

18歳未満の障害のある市民 (調査③)

「小学校・中学校に通っている」が45.4%で最も多く、次いで「障害のある子どものための学校に通っている」が26.7%、「通所施設などに通っている」が19.5%となっています。



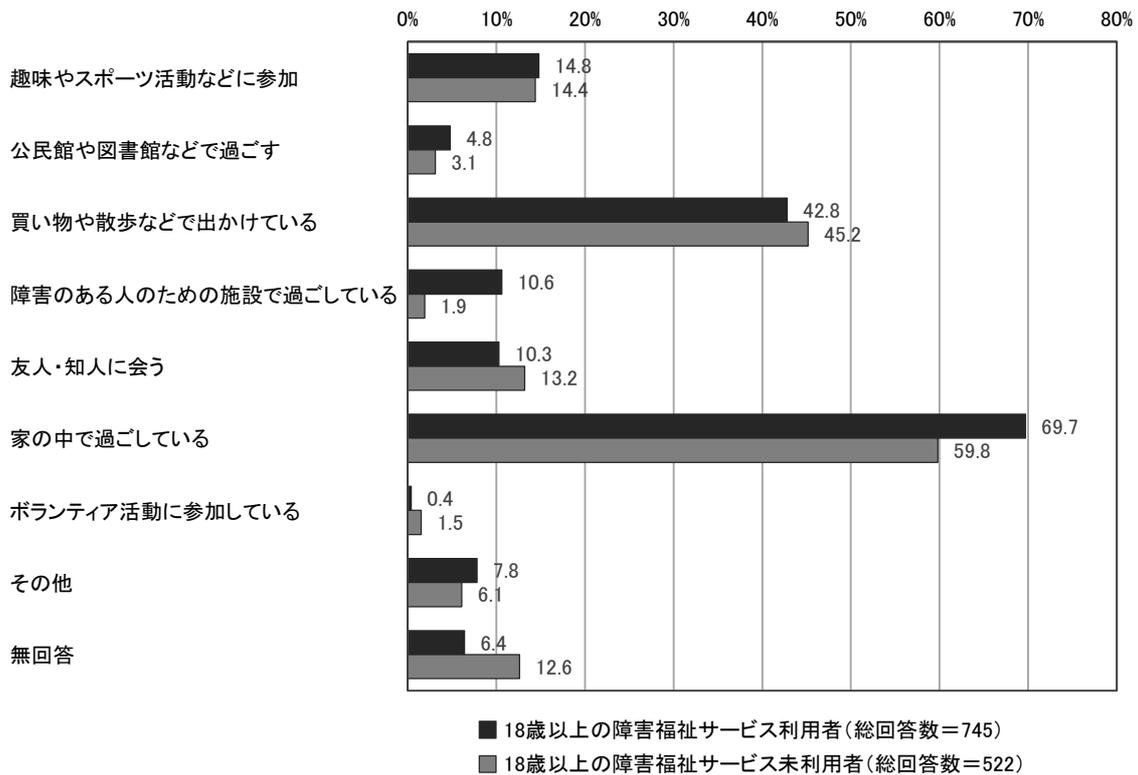
■ 18歳未満の障害のある市民 (総回答数=262)

(8) 休日などの過ごし方〔複数回答〕

18歳以上の障害のある市民（調査①②）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「家の中で過ごしている」が69.7%で最も多く、次いで「買い物や散歩などで出かけている」が42.8%、「趣味やスポーツ活動などに参加」が14.8%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「家の中で過ごしている」が59.8%で最も多く、次いで「買い物や散歩などで出かけている」が45.2%、「趣味やスポーツ活動などに参加」が14.4%となっています。

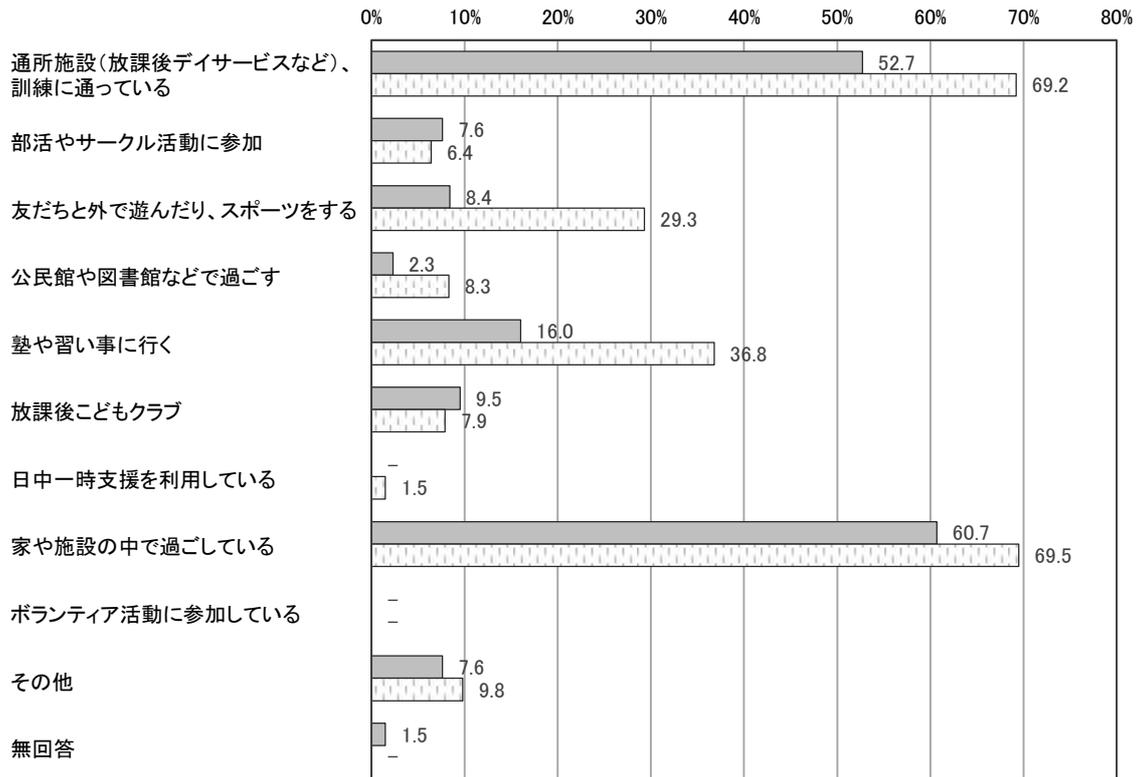


(9) 休日などの過ごし方 (18歳未満) (児童) [複数回答]

18歳未満の障害のある市民、通所支援受給者証を持つ児童 (調査③⑥)

18歳未満の障害のある市民では、「家や施設の中で過ごしている」が60.7%で最も多く、次いで「通所施設 (放課後等デイサービスなど)、訓練に通っている」が52.7%、「塾や習い事に行く」が16.0%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、「家や施設の中で過ごしている」が69.5%で最も多く、次いで「通所施設 (放課後等デイサービスなど)、訓練に通っている」が69.2%、「塾や習い事に行く」が36.8%となっています。



■ 18歳未満の障害のある市民 (総回答数=262)
□ 通所支援受給者証を持つ児童 (総回答数=266)

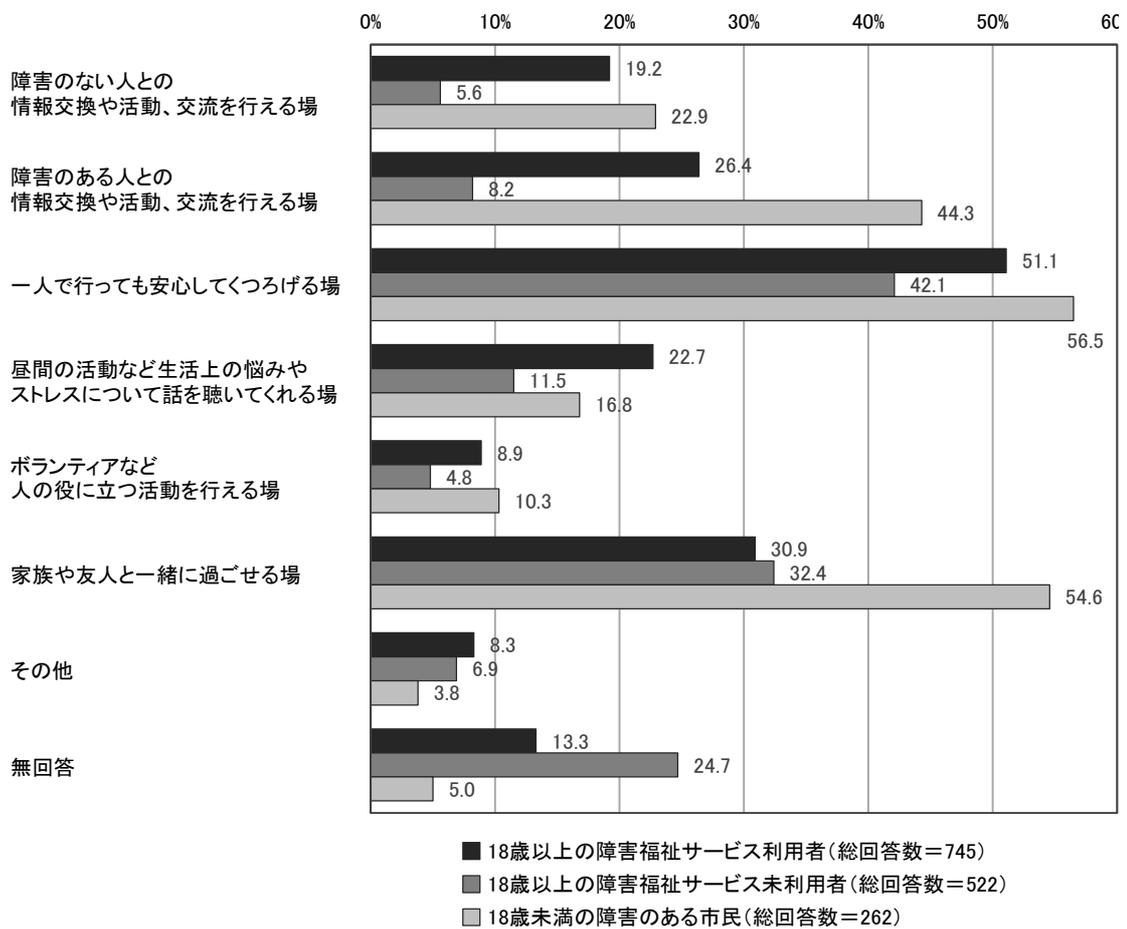
(10) 希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方〔複数回答〕

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が51.1%で最も多く、次いで「家族や友人と一緒に過ごせる場」が30.9%、「障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場」が26.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が42.1%で最も多く、次いで「家族や友人と一緒に過ごせる場」が32.4%、「昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場」が11.5%となっています。

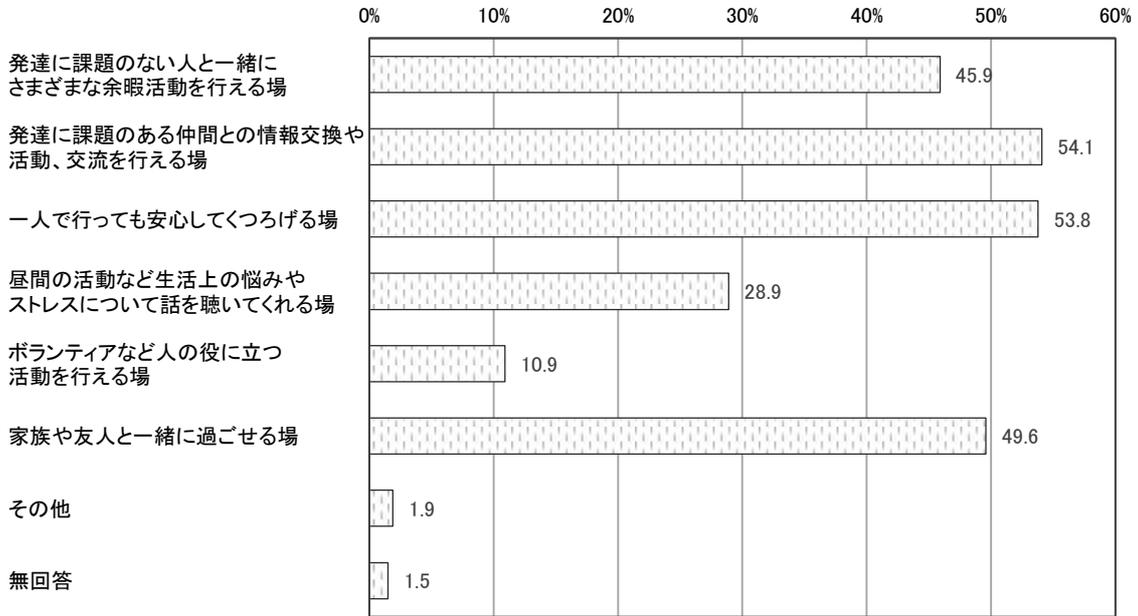
18歳未満の障害のある市民では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が56.5%で最も多く、次いで「家族や友人と一緒に過ごせる場」が54.6%、「障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場」が44.3%となっています。



(11) 希望する休日の過ごし方〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

「発達に課題のある仲間との情報交換や活動、交流を行える場」が 54.1%で最も多く、次いで「一人で行っても安心してくつろげる場」が 53.8%、「家族や友人と一緒に過ごせる場」が 49.6%となっています。

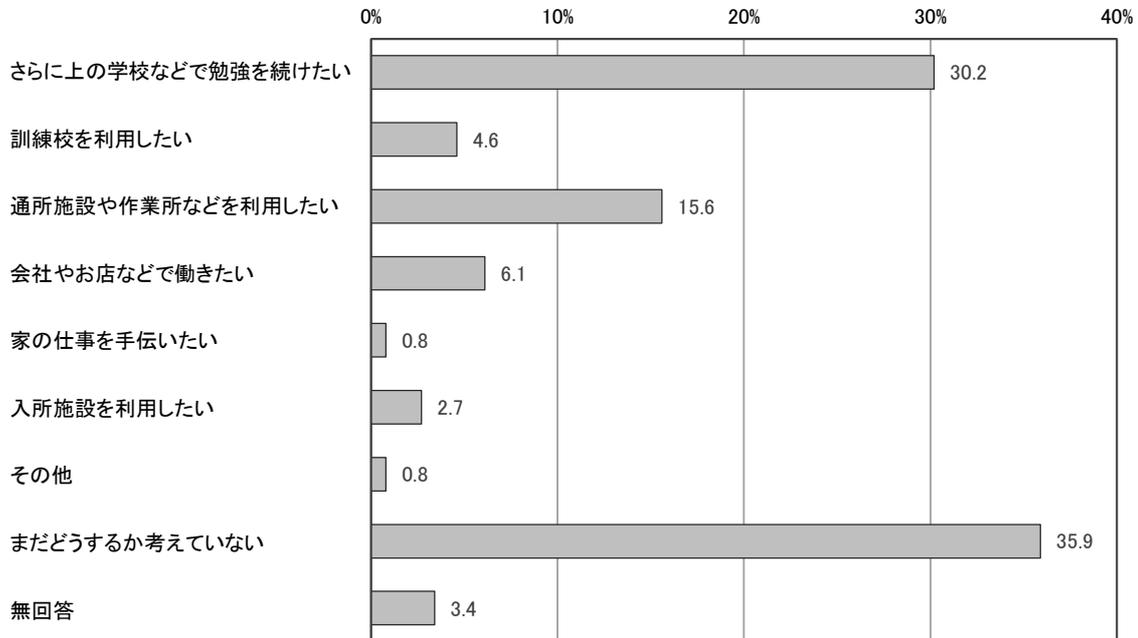


□ 通所支援受給者証を持つ児童(総回答数=266)

(12) 卒業後の進路（18歳未満）

18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「まだどうするか考えていない」が35.9%で最も多く、次いで「さらに上の学校などで勉強を続けたい」が30.2%、「通所施設や作業所などを利用したい」が15.6%となっています。

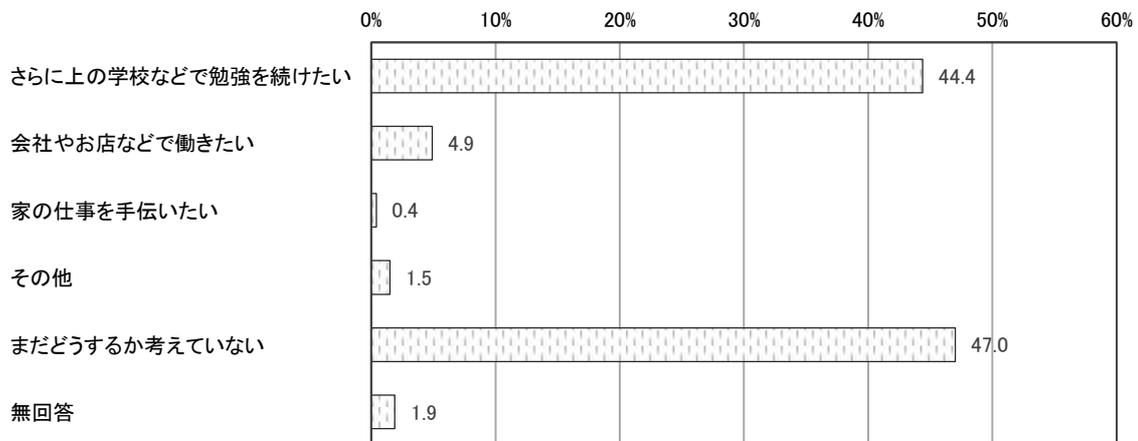


■ 18歳未満の障害のある市民（総回答数=262）

(13) 卒業後の進路（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「まだどうするか考えていない」が47.0%で最も多く、次いで「さらに上の学校などで勉強を続けたい」が44.4%、「会社やお店などで働きたい」が4.9%となっています。



□ 通所支援受給者証を持つ児童（総回答数=266）

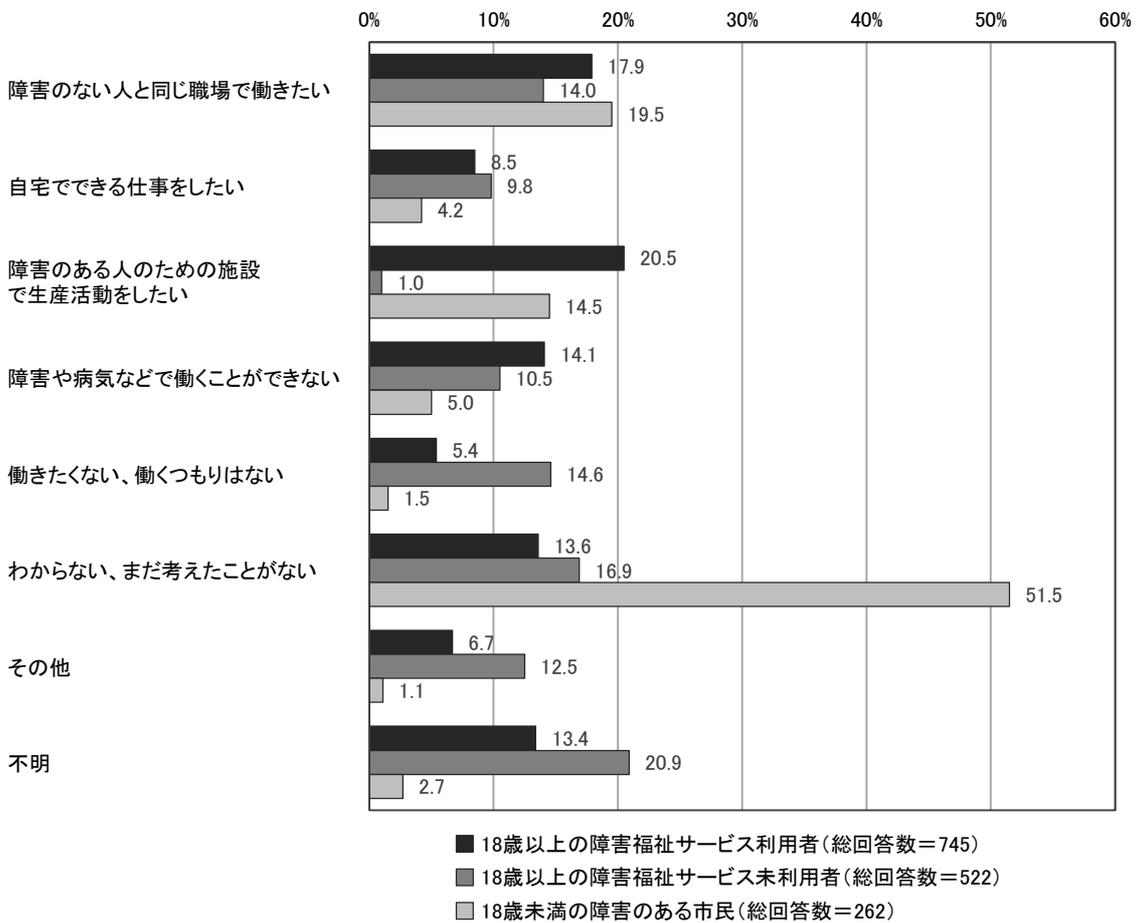
(14) 働くことに対する意識

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」が20.5%で最も多く、次いで「障害のない人と同じ職場で働きたい」が17.9%、「障害や病気などで働くことができない」が14.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「わからない、まだ考えたことがない」が16.9%で最も多く、次いで「働きたくない、働くつもりはない」が14.6%、「障害のない人と同じ職場で働きたい」が14.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「わからない、まだ考えたことがない」が51.5%で最も多く、次いで「障害のない人と同じ職場で働きたい」が19.5%、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」が14.5%となっています。



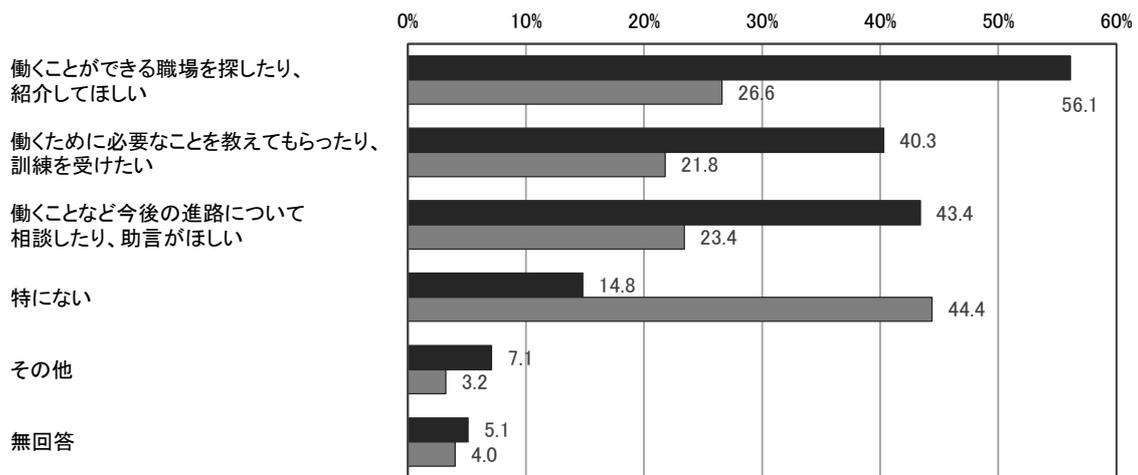
(15) 希望する支援〔複数回答〕

* 『(14) 働くことに対する意識』で「1. 障害のない人と同じ職場で働きたい」「2. 自宅でできる仕事をしたい」と回答された方

18歳以上の障害のある市民（調査①②）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が56.1%で最も多く、次いで「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」が43.4%、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」が40.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「特にない」が44.4%で最も多く、次いで「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が26.6%、「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」が23.4%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=196)

■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=124)

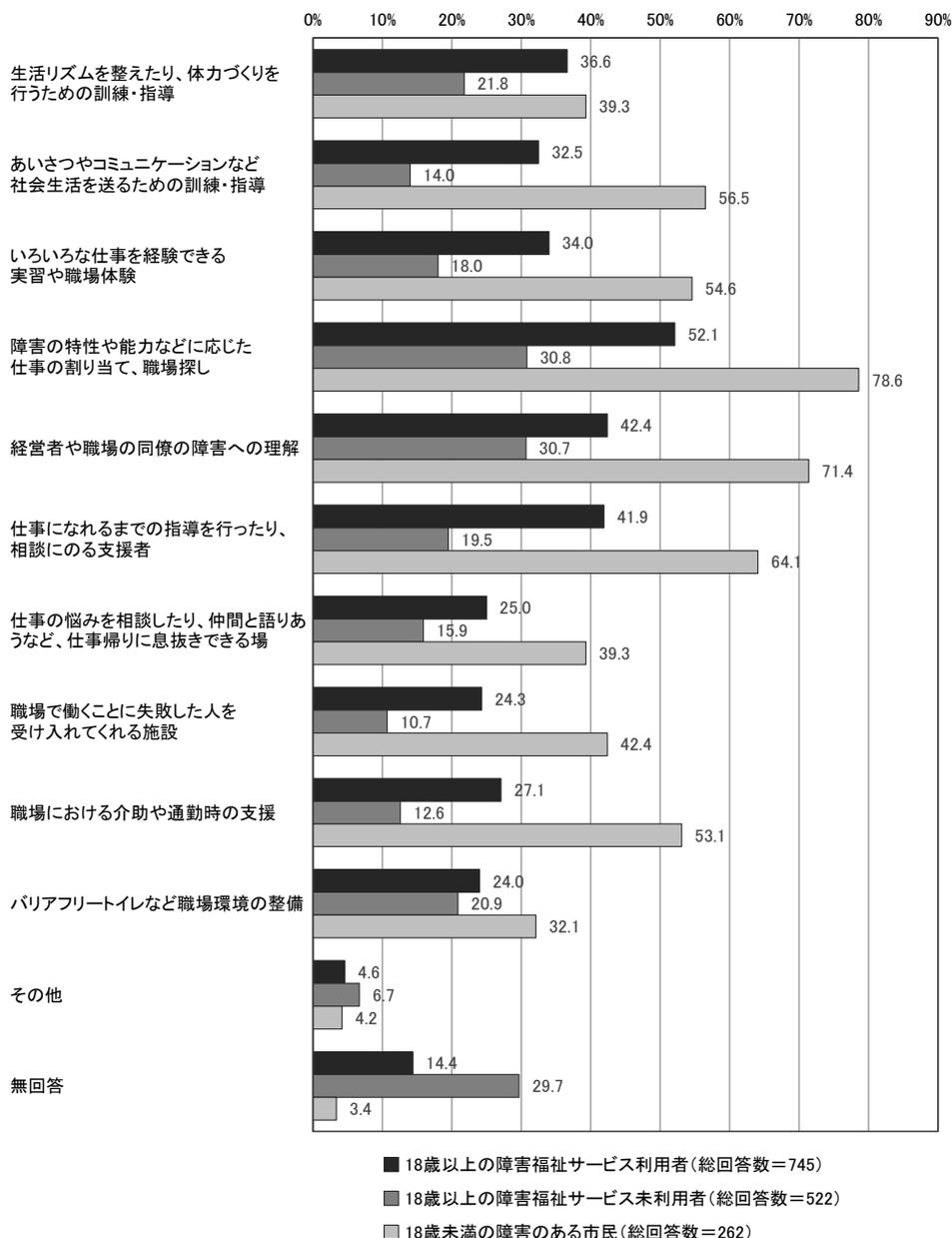
(16) 仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援〔複数回答〕

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が52.1%で最も多く、次いで「経営者や職場の同僚の障害への理解」が42.4%、「仕事になれるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」が41.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が30.8%で最も多く、次いで「経営者や職場の同僚の障害への理解」が30.7%、「生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための訓練・指導」が21.8%となっています。

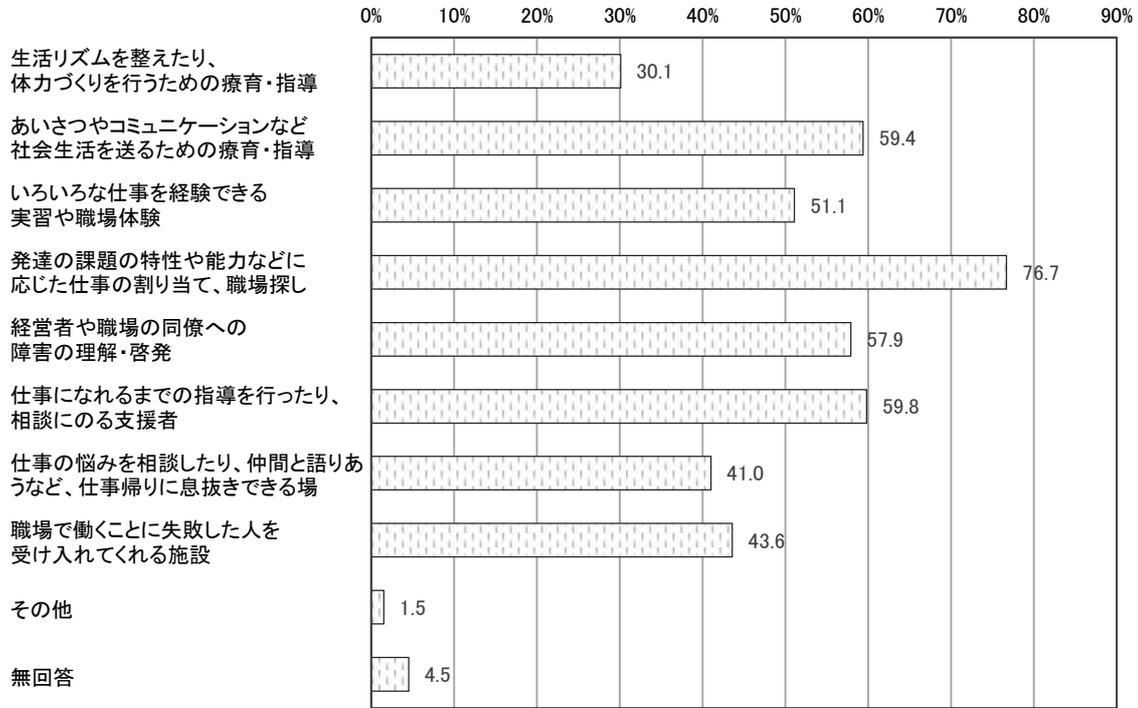
18歳未満の障害のある市民では、「障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が78.6%で最も多く、次いで「経営者や職場の同僚の障害への理解」が71.4%、「仕事になれるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」が64.1%となっています。



(17) 仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「発達課題の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が76.7%で最も多く、「仕事になれるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」が59.8%、「あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための療育・指導」が59.4%となっています。



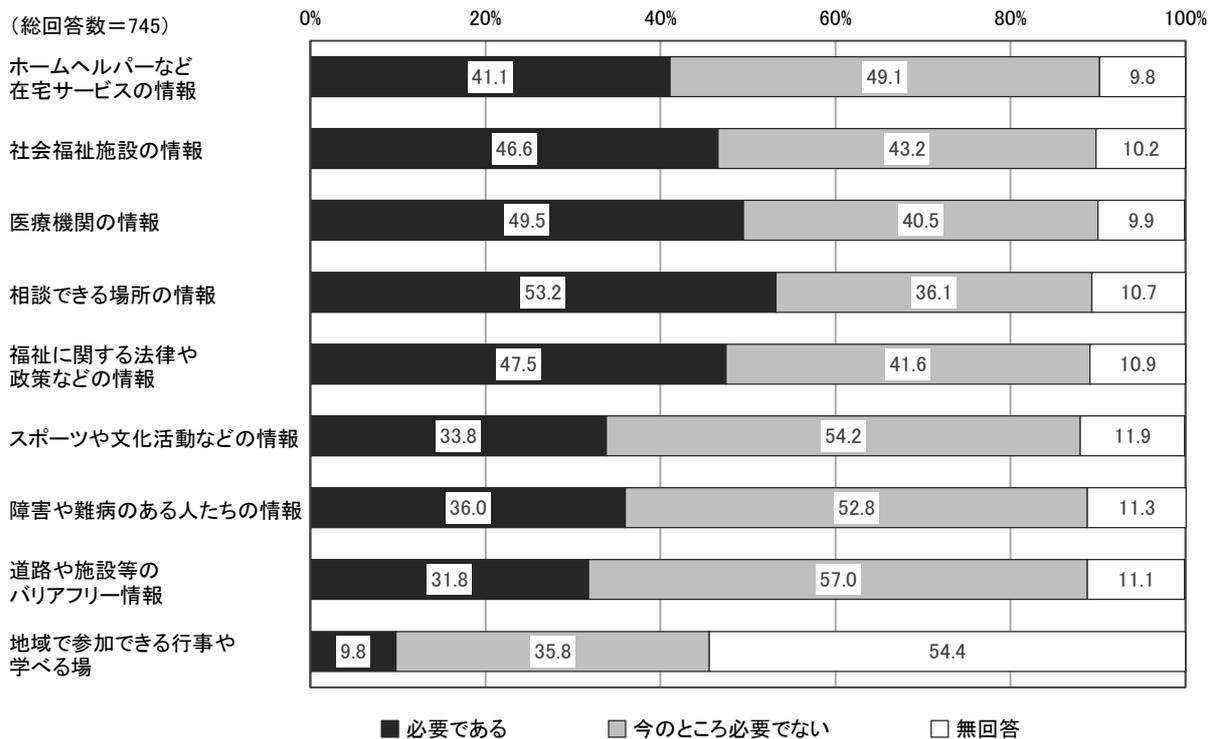
□ 通所支援受給者証を持つ児童（総回答数＝266）

3. 情報の入手と相談について

(1) 情報の必要性

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

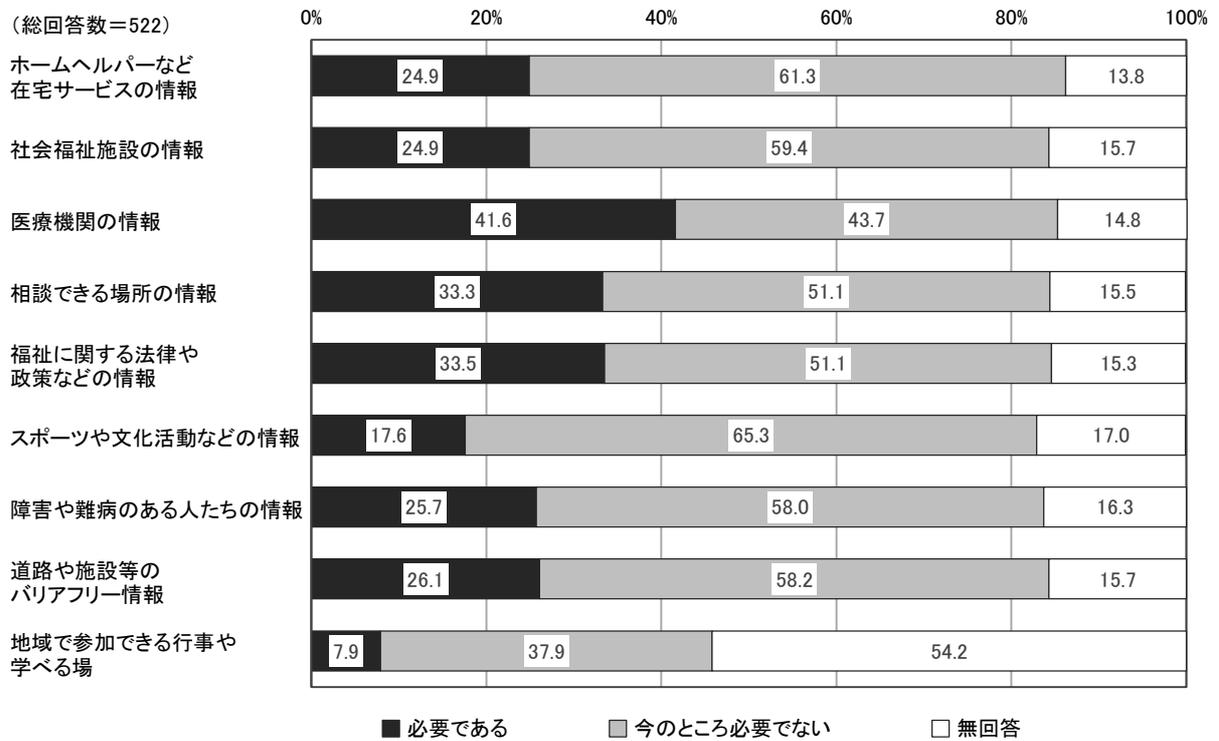
18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「必要である」とされる情報は、「相談できる場所の情報」が53.2%で最も多く、次いで「医療機関の情報」が49.5%、「福祉に関する法律や政策などの情報」が47.5%となっています。一方、「今のところ必要でない」とされる情報は、「道路や施設等のバリアフリー情報」が57.0%で最も多く、「スポーツや文化活動などの情報」が54.2%、「障害や難病のある人たちの情報」が52.8%となっています。



18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「必要である」とされる情報は、「医療機関の情報」が41.6%で最も多く、次いで「福祉に関する法律や政策などの情報」が33.5%、「相談できる場所の情報」が33.3%となっています。一方、「今のところ必要でない」とされる情報は、「スポーツや文化活動などの情報」が65.3%で最も多く、「ホームヘルパーなど在宅サービスの情報」が61.3%、「社会福祉施設の情報」が59.4%となっています。

（総回答数=522）

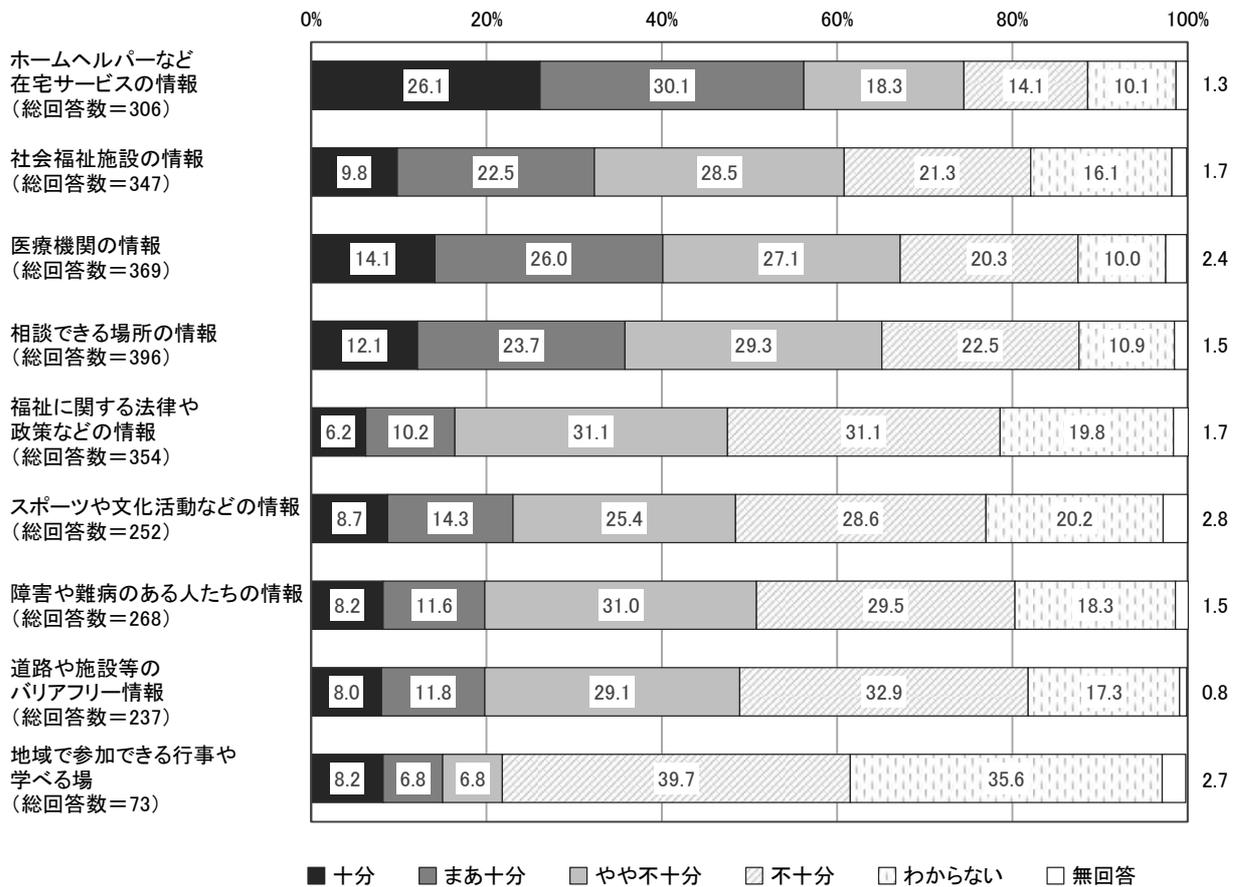


(2) 情報の充足度

*『(1) 情報の必要性』で「1.必要である」と回答された方

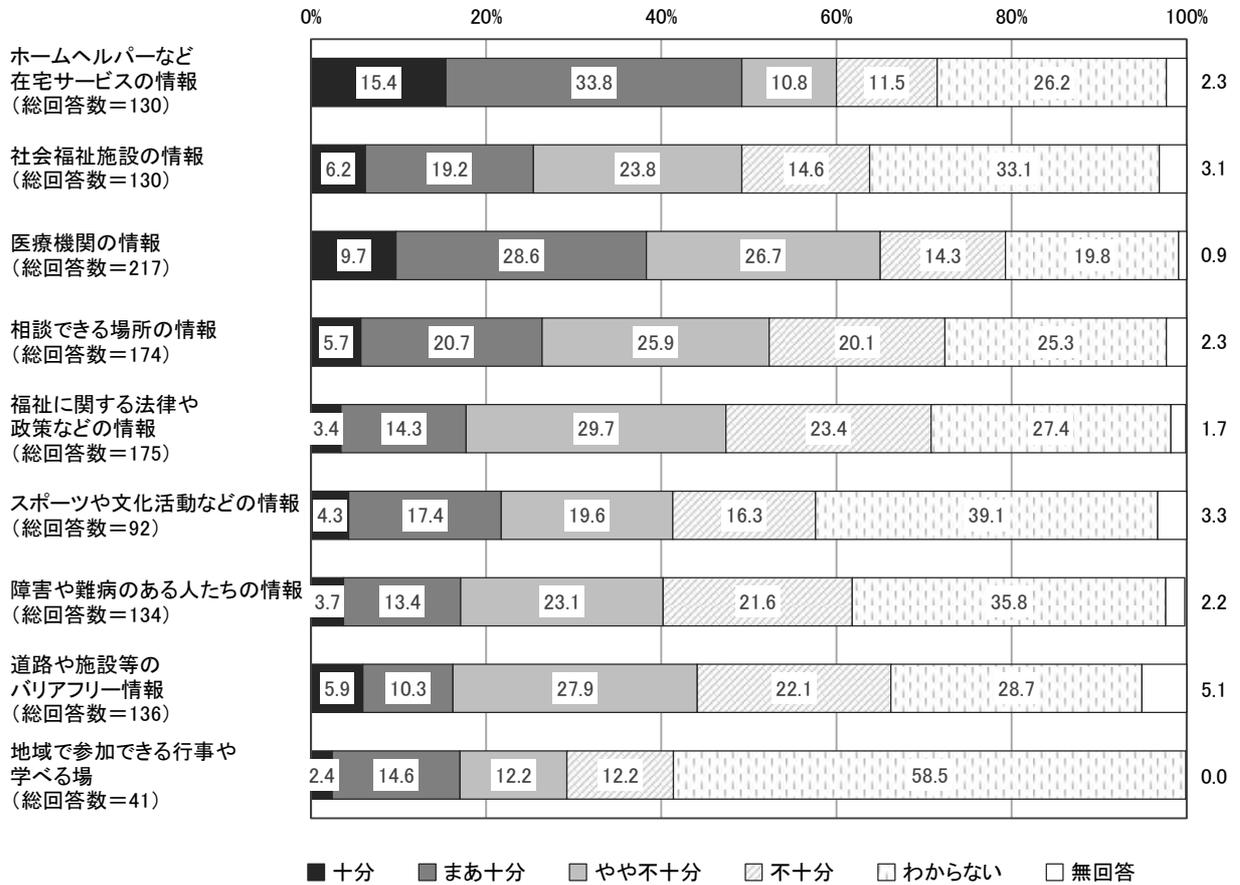
18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民の情報の充足度は、「ホームヘルパーなど在宅サービスの情報」、「医療機関の情報」、「相談できる場所の情報」が高くなっていますが、「ホームヘルパーなど在宅サービスの情報」を除いて、いずれも「やや不十分」、「不十分」とする回答の方が上回っています。



18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

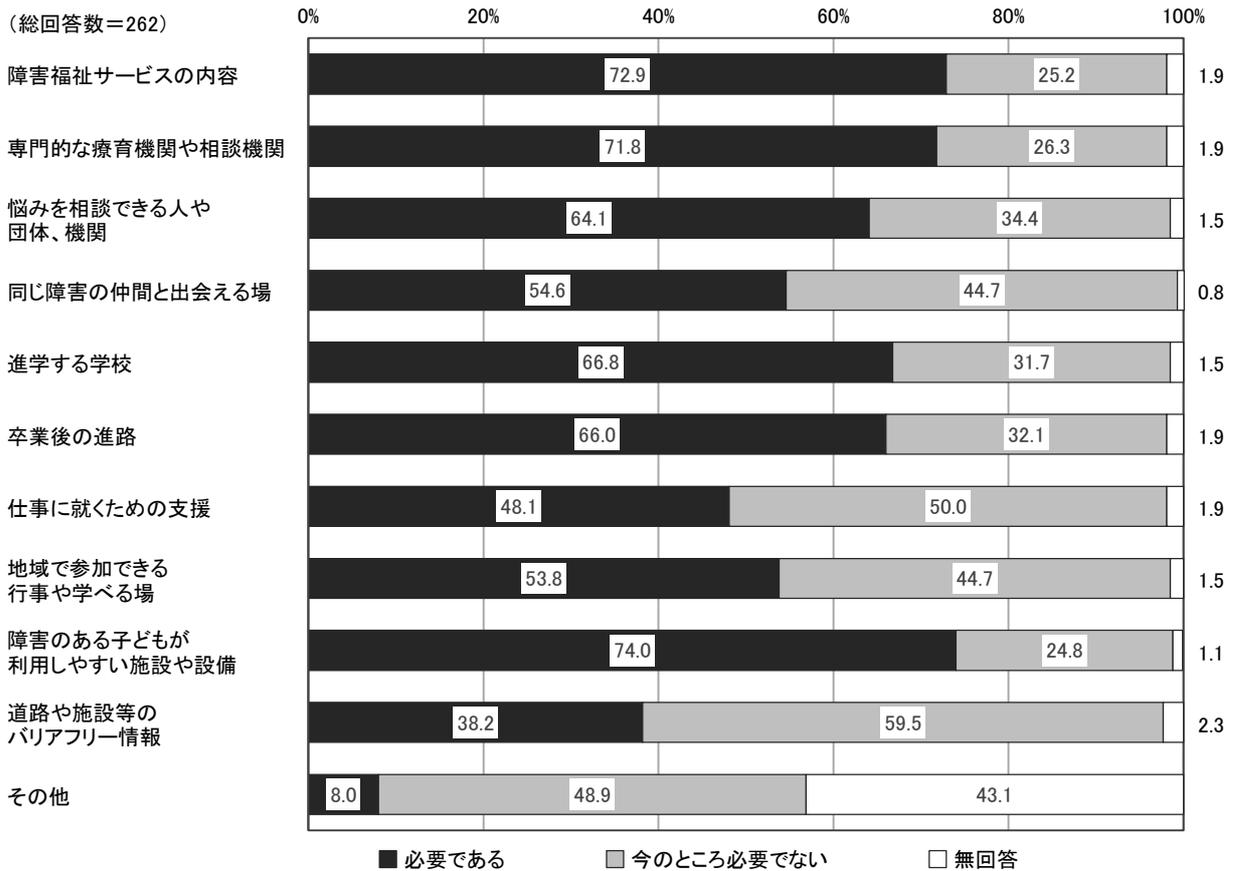
18歳以上の障害福祉サービス未利用者の情報の充足度は、「ホームヘルパーなど在宅サービスの情報」、「医療機関の情報」、「相談できる場所の情報」が高くなっていますが、「ホームヘルパーなど在宅サービスの情報」以外は「やや不十分」、「不十分」とする回答の方が上回っています。



(3) 情報の必要性 (18歳未満)

18歳未満の障害のある市民 (調査③)

18歳未満の障害のある市民では、「必要である」とされる情報は、「障害のある子どもが利用しやすい施設や設備」が74.0%で最も多く、次いで「障害福祉サービスの内容」が72.9%、「専門的な療育機関や相談機関」が71.8%となっています。一方、「今のところ必要でない」とされる情報は、「道路や施設等のバリアフリー情報」が59.5%で最も多く、「仕事に就くための支援」が50.0%、「地域で参加できる行事や学べる場」、「同じ障害の仲間と出会える場」がいずれも44.7%となっています。

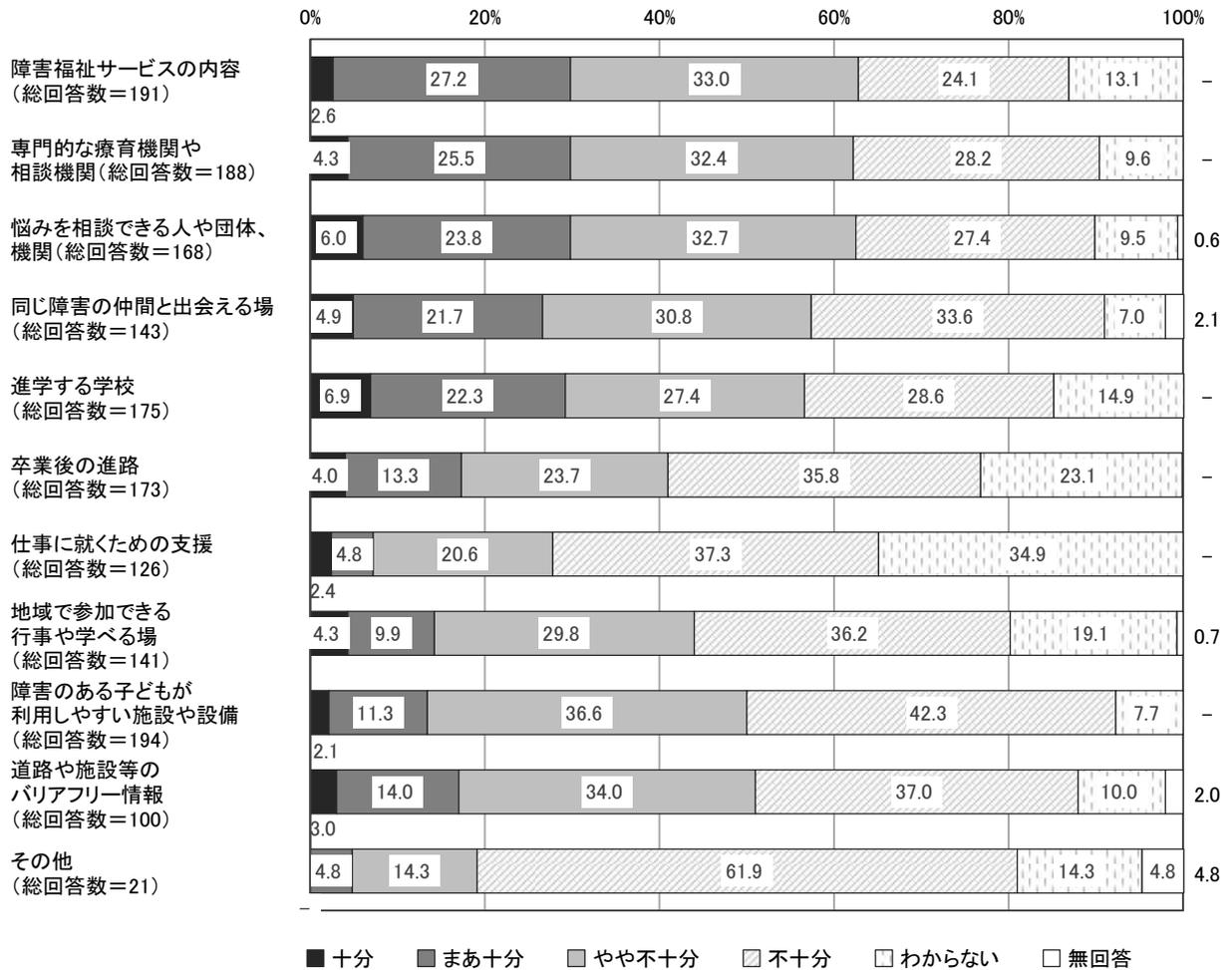


(4) 情報の充足度 (18歳未満)

* 『(3) 情報の必要性 (18歳未満)』で「1. 必要である」と回答された方

18歳未満の障害のある市民 (調査③)

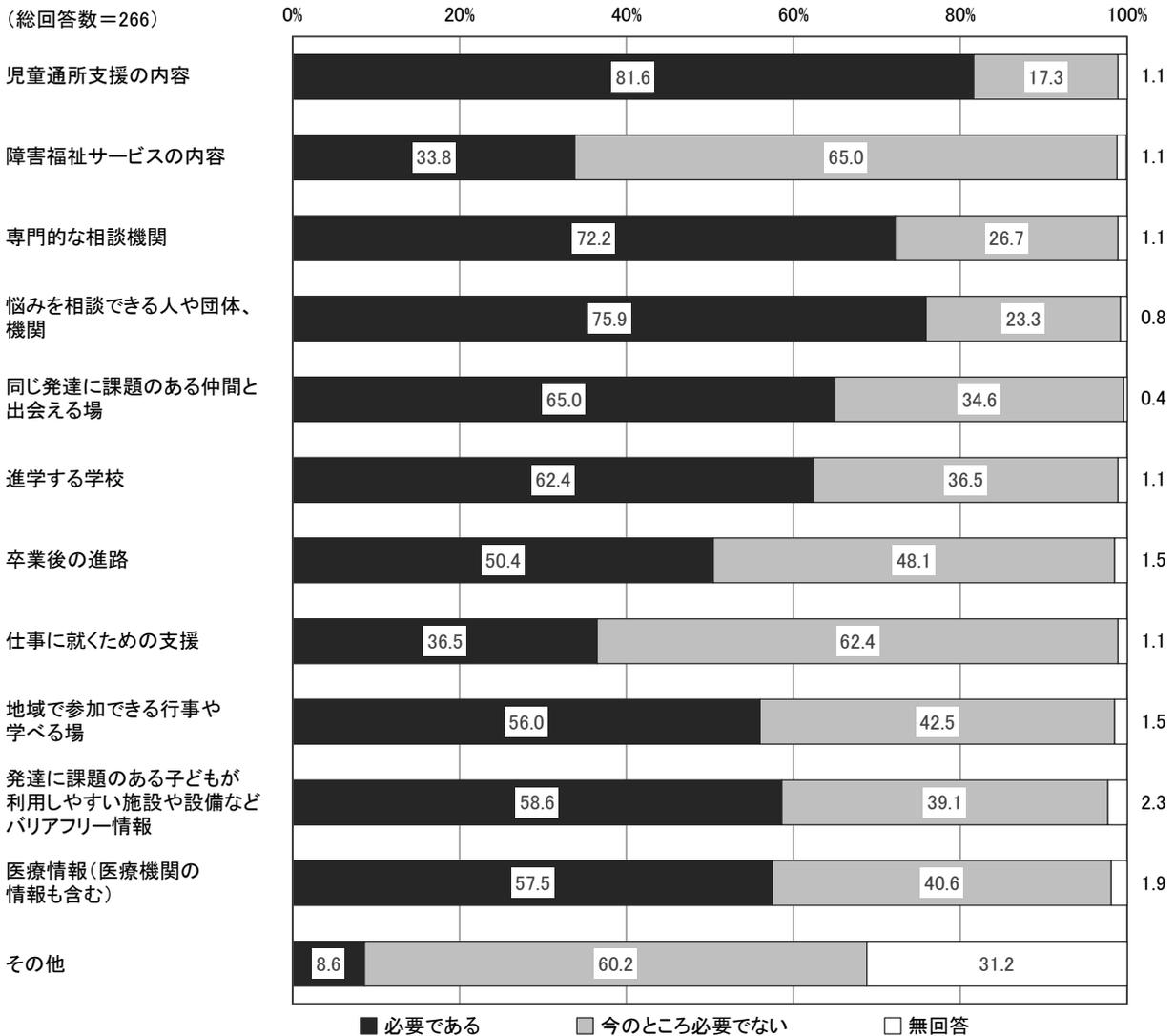
18歳未満の障害のある市民の充足度は、「障害福祉サービスの内容」、「専門的な療育機関や相談機関」、「悩みを相談できる人や団体、機関」が高くなっていますが、いずれも「やや不十分」、「不十分」とする回答の方が上回っています。



(5) 情報の必要性 (児童)

通所支援受給者証を持つ児童 (調査⑥)

通所支援受給者証を持つ児童で「必要である」とされる情報は、「児童通所支援の内容」が81.6%で最も多く、次いで「悩みを相談できる人や団体、機関」が75.9%、「専門的な相談機関」が72.2%となっています。一方、「今のところ必要でない」とされる情報は、「障害福祉サービスの内容」が65.0%で最も多く、「仕事に就くための支援」が62.4%、「その他」が60.2%となっています。

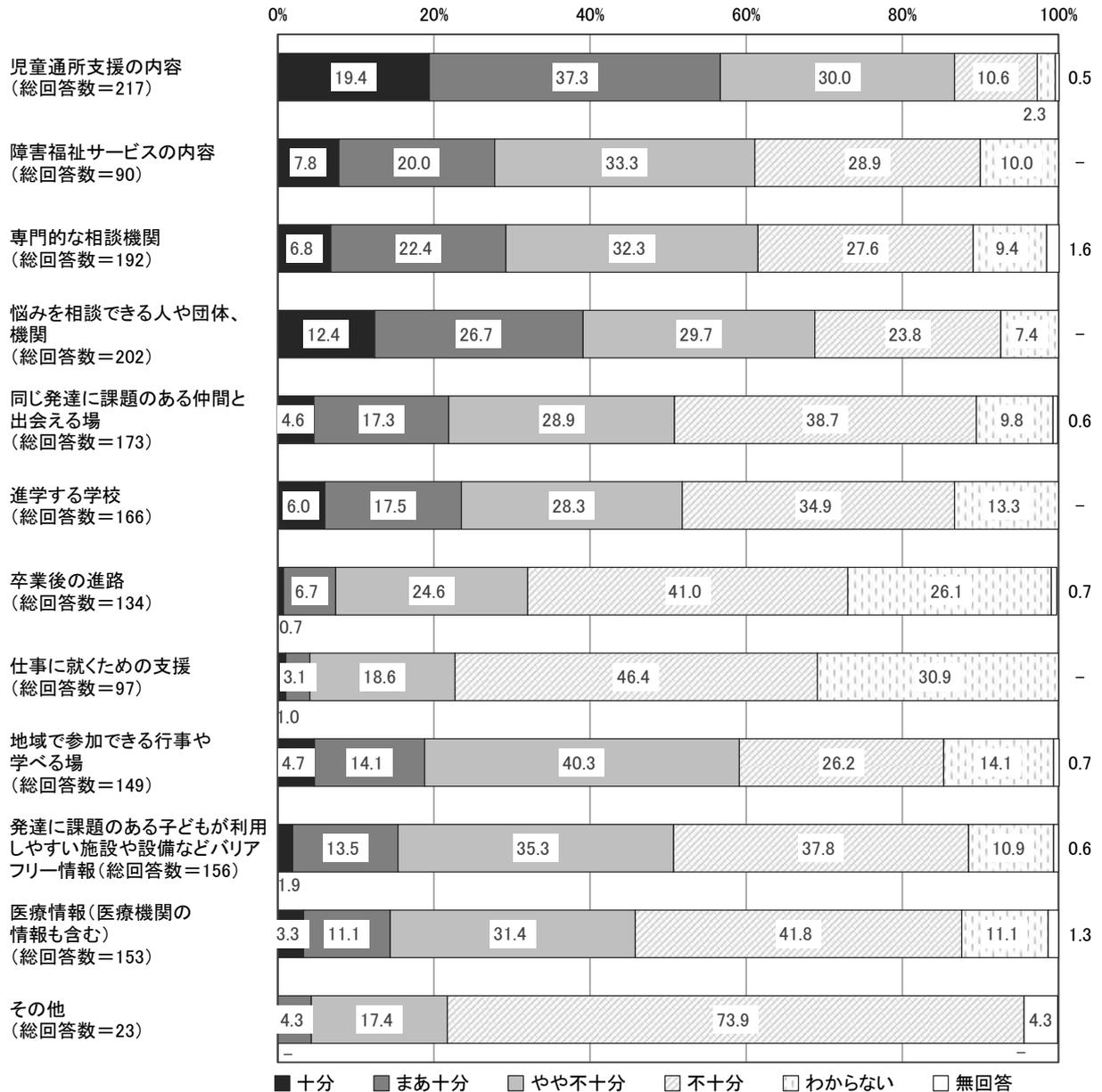


(6) 情報の充足度 (児童)

* 『(5) 情報の必要性 (児童)』で「1. 必要である」と回答された方

通所支援受給者証を持つ児童 (調査⑥)

通所支援受給者証を持つ児童の情報の充足度は、「児童通所支援の内容」、「悩みを相談できる人や団体、機関」、「専門的な相談機関」が高くなっていますが、「児童通所支援の内容」を除いていずれも「やや不十分」、「不十分」とする回答の方が上回っています。



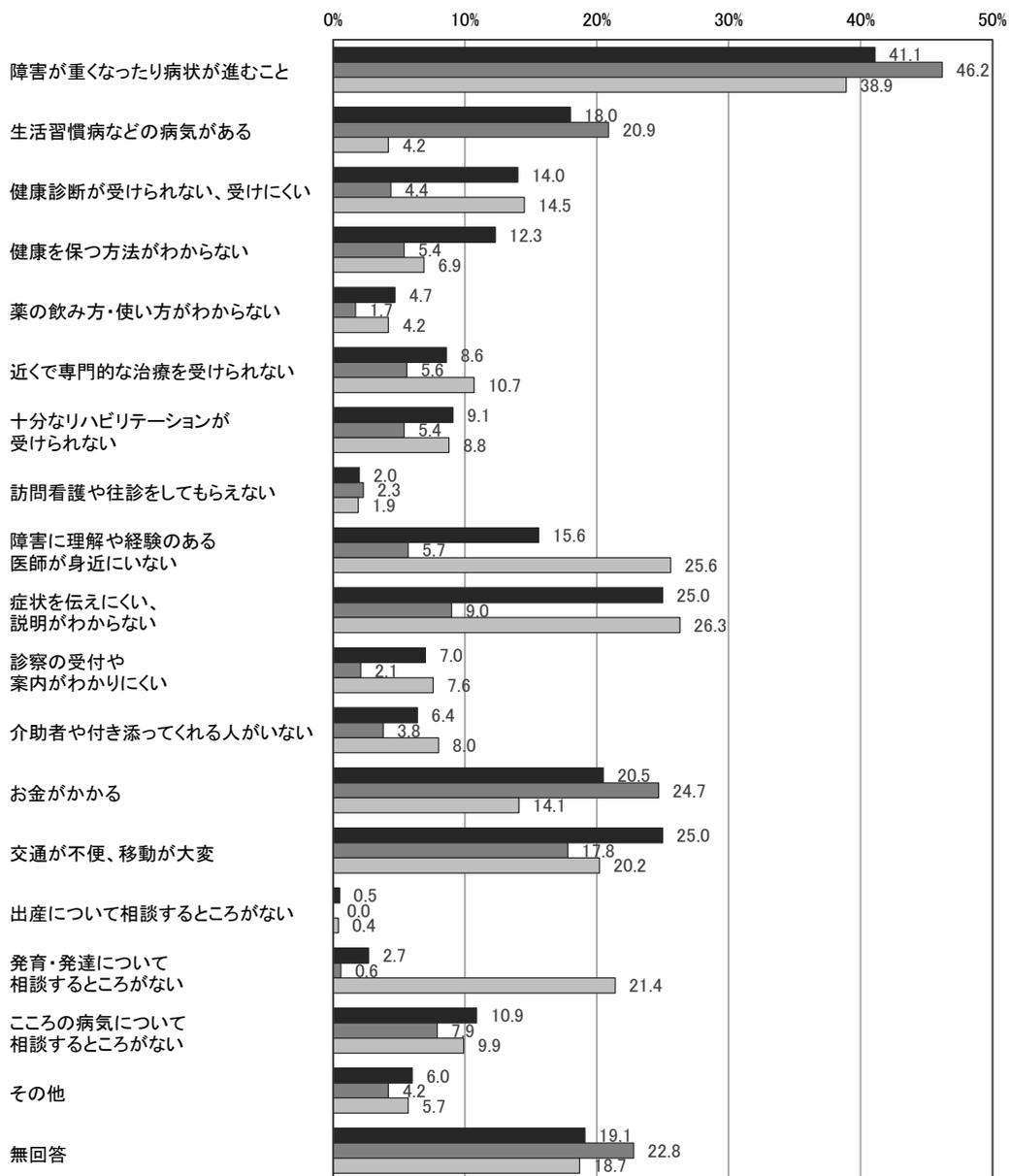
(7) 健康や医療面で不安に思ったり、困っていること〔複数回答〕

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「障害が重くなったり病状が進むこと」が41.1%で最も多く、次いで「症状を伝えにくい、説明がわからない」、「交通が不便、移動が大変」がいずれも25.0%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「障害が重くなったり病状が進むこと」が46.2%で最も多く、次いで「お金がかかる」が24.7%、「生活習慣病などの病気がある」が20.9%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「障害が重くなったり病状が進むこと」が38.9%で最も多く、次いで「症状を伝えにくい、説明がわからない」が26.3%、「障害に理解や経験のある医師が身近にいない」が25.6%となっています。

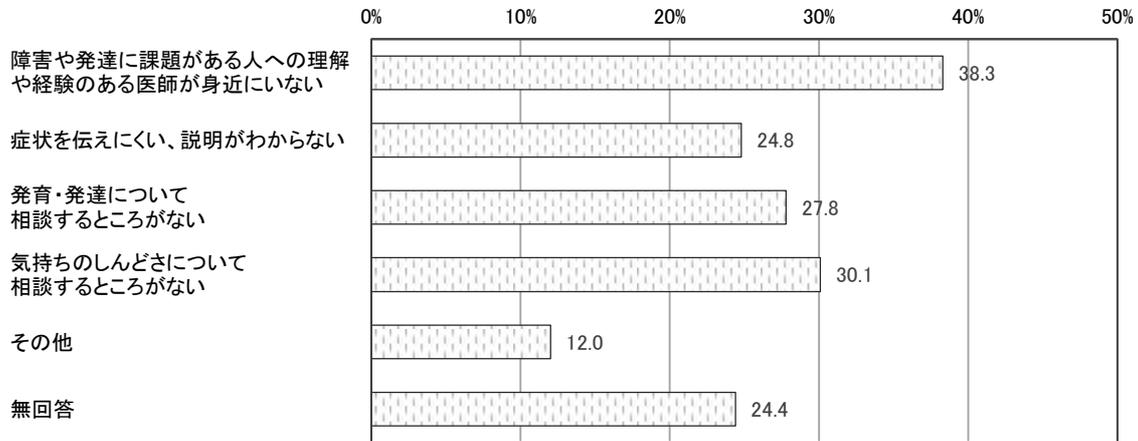


■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)
 ■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

(8) 健康や医療に関する情報の入手や相談で困っていること〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「障害や発達に課題がある人への理解や経験のある医師が身近にいない」が38.3%で最も多く、次いで「気持ちのしんどさについて相談するところがない」が30.1%、「発育・発達について相談するところがない」が27.8%となっています。



□ 通所支援受給者証を持つ児童（総回答数=266）

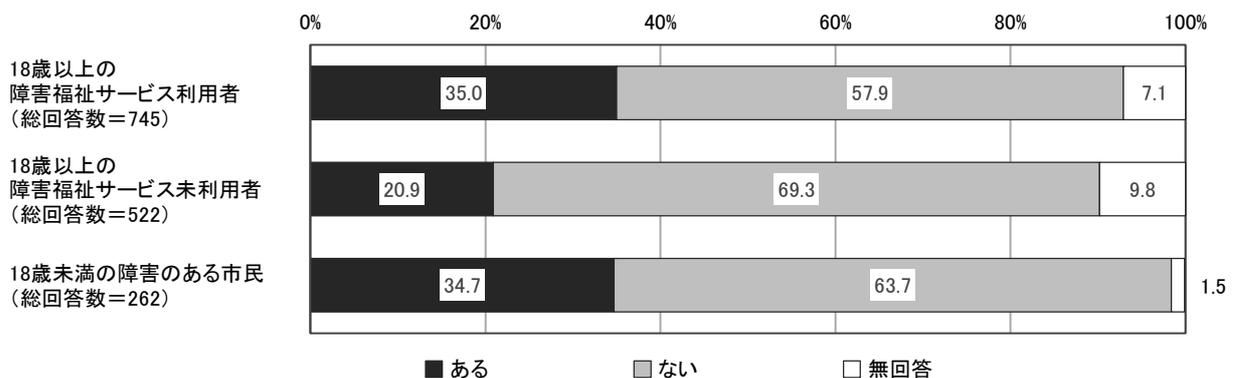
(9) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、相談したことが「ある」が35.0%、「ない」が57.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「ある」が20.9%、「ない」が69.3%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「ある」が34.7%、「ない」が63.7%となっています。



(10) 今、気にかかっていること〔複数回答〕

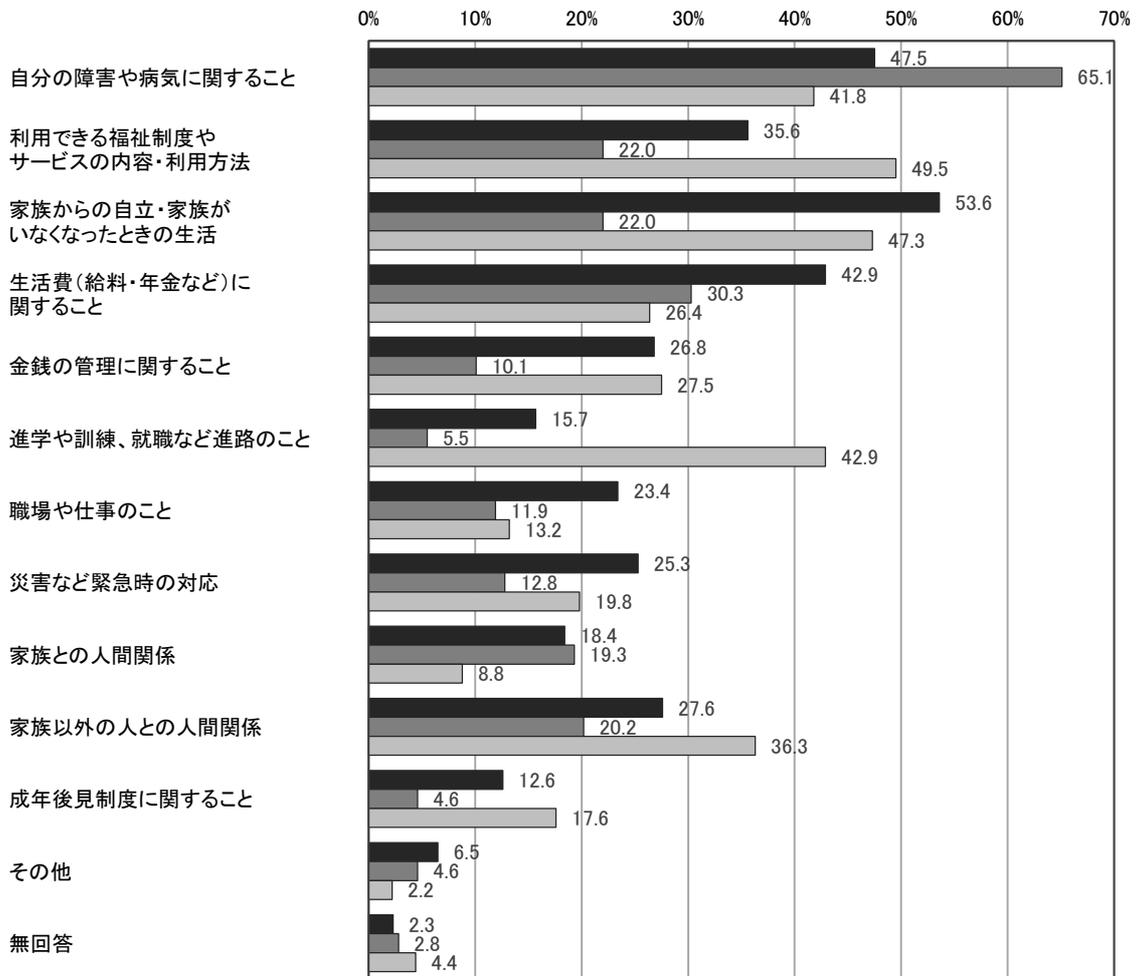
*『(9) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況』で「1.ある」と回答された方

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」が53.6%で最も多く、次いで「自分の障害や病気に関すること」が47.5%、「生活費（給料・年金など）に関すること」が42.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「自分の障害や病気に関すること」が65.1%で最も多く、次いで「生活費（給料・年金など）に関すること」が30.3%、「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」、「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」がいずれも22.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」が49.5%で最も多く、次いで「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」が47.3%、「進学や訓練、就職など進路のこと」が42.9%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=261)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=109)
 ■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=91)

(11) 相談した際の評価

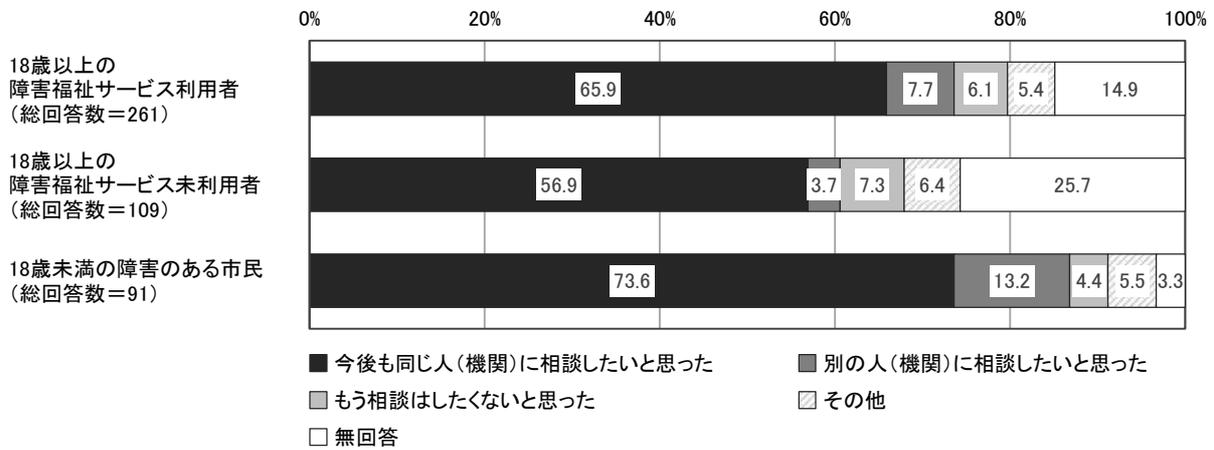
* 『(9) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況』で「1. ある」と回答された方

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」が65.9%で、「別の人（機関）に相談したいと思った」が7.7%、「もう相談はしたくないと思った」が6.1%、「その他」が5.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」が56.9%で、「別の人（機関）に相談したいと思った」が3.7%、「もう相談はしたくないと思った」が7.3%、「その他」が6.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」が73.6%で、「別の人（機関）に相談したいと思った」が13.2%、「もう相談はしたくないと思った」が4.4%、「その他」が5.5%となっています。



(12) 「別の人に相談したい」「もう相談したくない」と思った理由〔複数回答〕

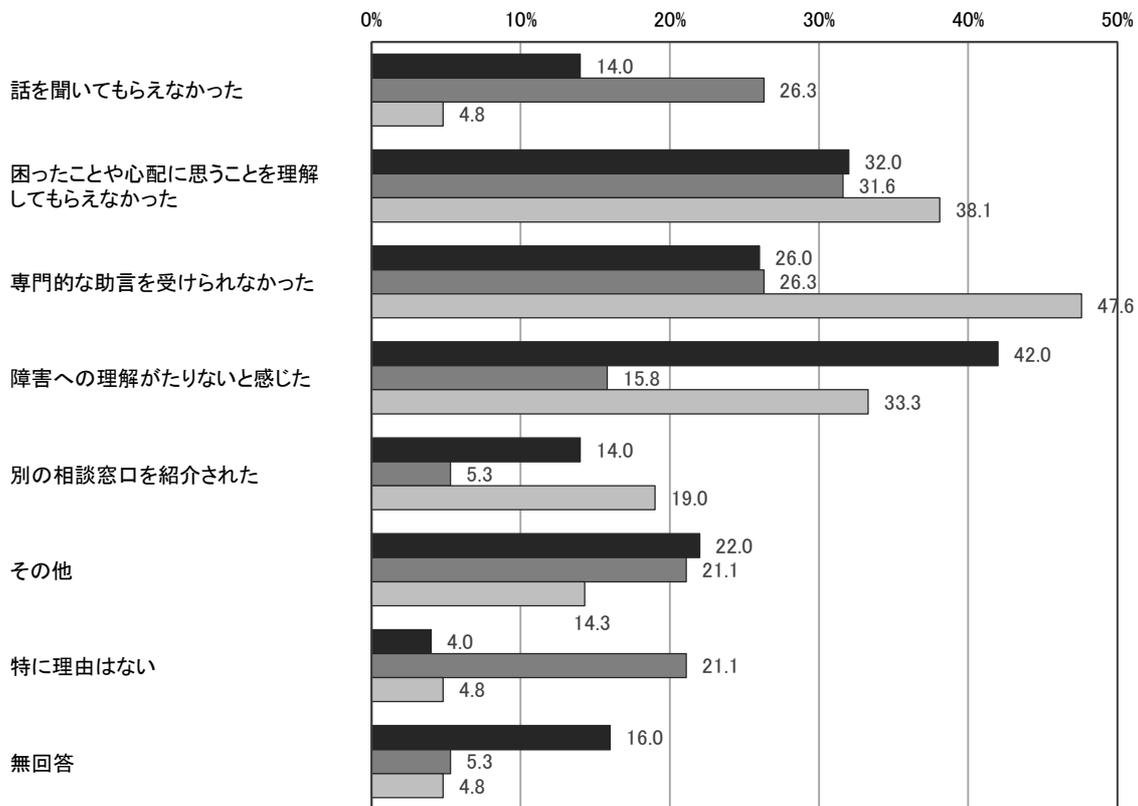
* 『(11) 相談した際の評価』で「2.別の人に相談したい」「3.もう相談したくない」と回答された方

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「障害への理解がたりないと感じた」が42.0%で最も多く、次いで「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」が32.0%、「専門的な助言を受けられなかった」が26.0%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」が31.6%で最も多く、次いで「専門的な助言を受けられなかった」、「話を聞いてもらえなかった」がいずれも26.3%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「専門的な助言を受けられなかった」が47.6%で最も多く、次いで「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」が38.1%、「障害への理解がたりないと感じた」が33.3%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=50)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=19)
 ■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=21)

(13) 相談しない理由〔複数回答〕

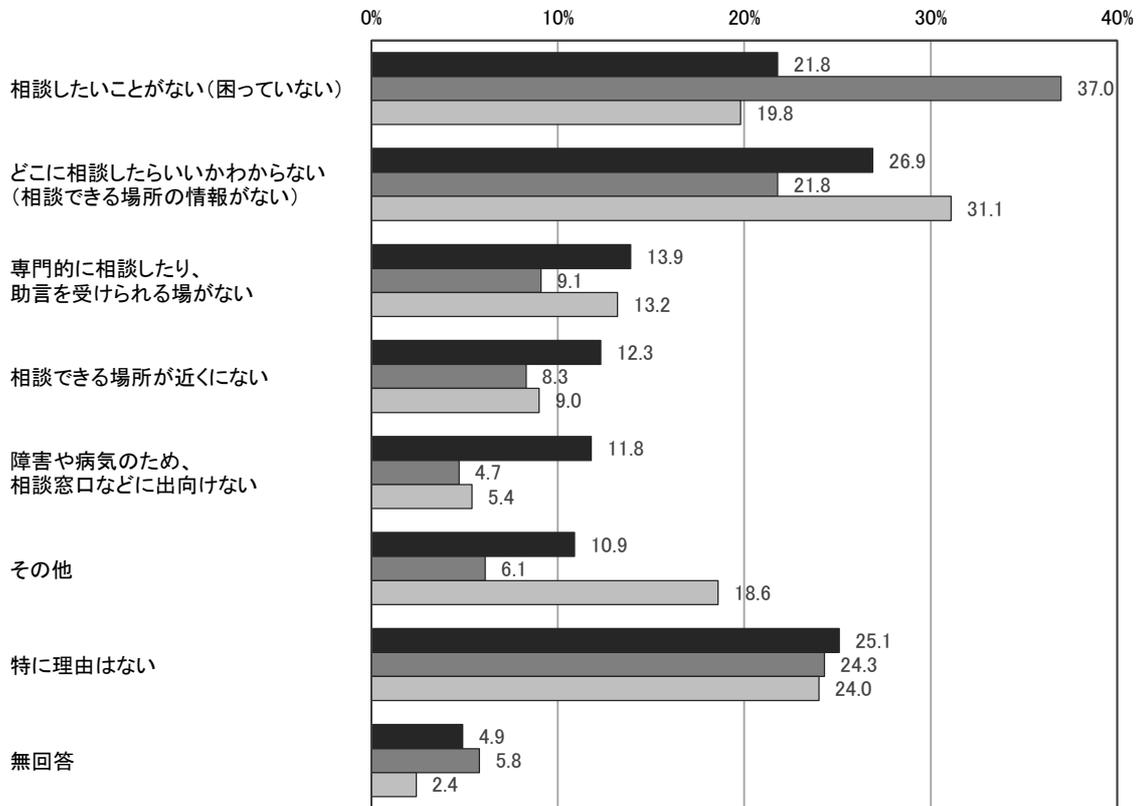
* 『(9) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況』で「ない」と回答された方

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」が26.9%で最も多く、次いで「特に理由はない」が25.1%、「相談したいことがない（困っていない）」が21.8%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「相談したいことがない（困っていない）」が37.0%で最も多く、次いで「特に理由はない」が24.3%、「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」が21.8%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」が31.1%で最も多く、次いで「特に理由はない」が24.0%、「相談したいことがない（困っていない）」が19.8%となっています。



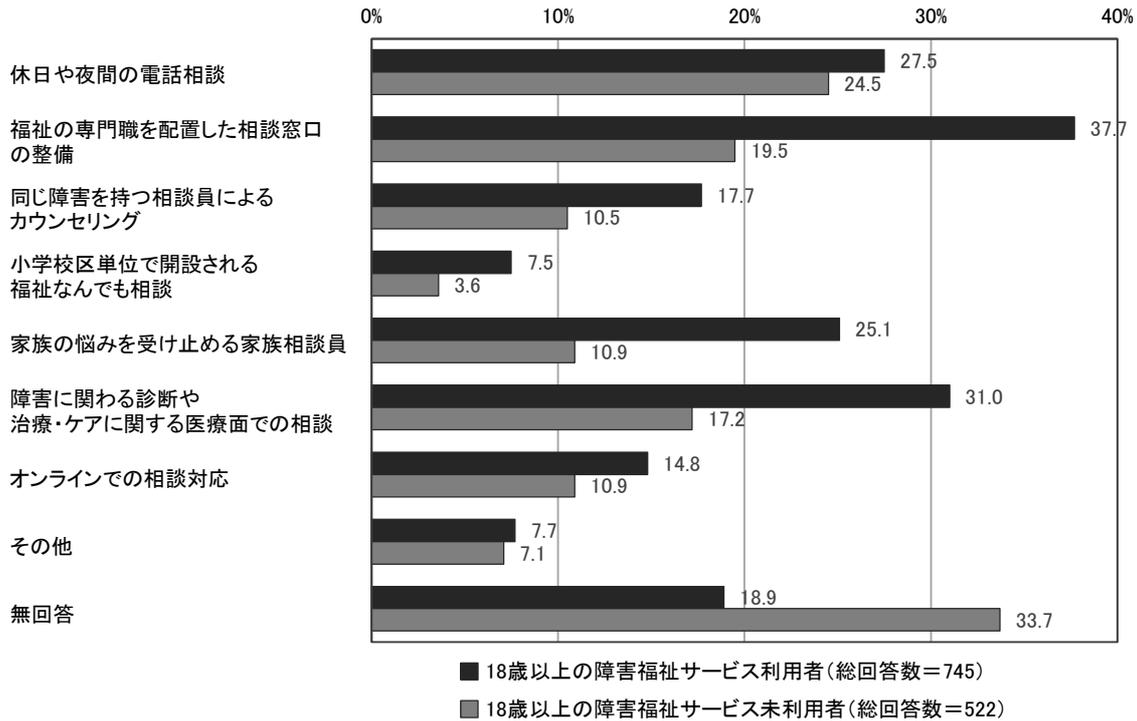
■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=431)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=362)
 ■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=167)

(14) 今後の相談支援体制への希望〔複数回答〕

障害のある市民（調査①②）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「福祉の専門職を配置した相談窓口の整備」が37.7%で最も多く、次いで「障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が31.0%、「休日や夜間の電話相談」が27.5%となっています。

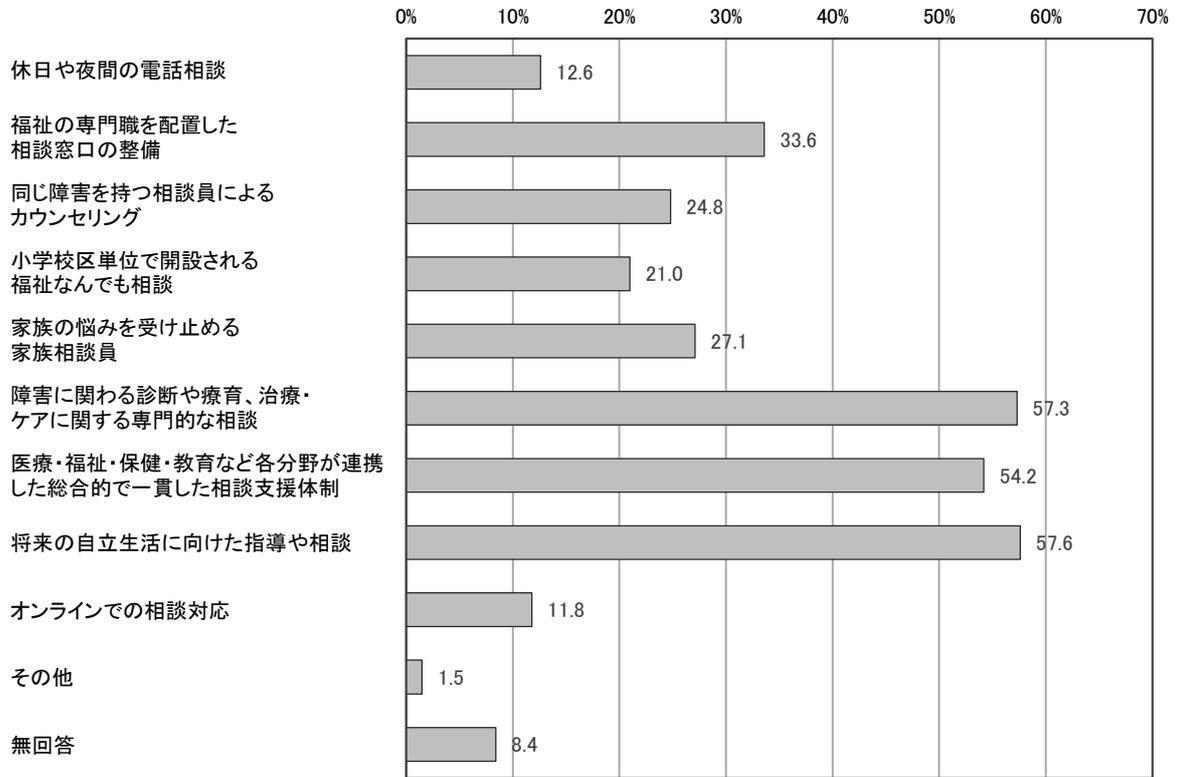
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「休日や夜間の電話相談」が24.5%で最も多く、次いで「福祉の専門職を配置した相談窓口の整備」が19.5%、「障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が17.2%となっています。



(15) 今後の相談支援体制への希望（18歳未満）〔複数回答〕

18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「将来の自立生活に向けた指導や相談」が57.6%で最も多く、次いで「障害に関わる診断や治療・ケアに関する専門的な相談」が57.3%、「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談支援体制」が54.2%となっています。

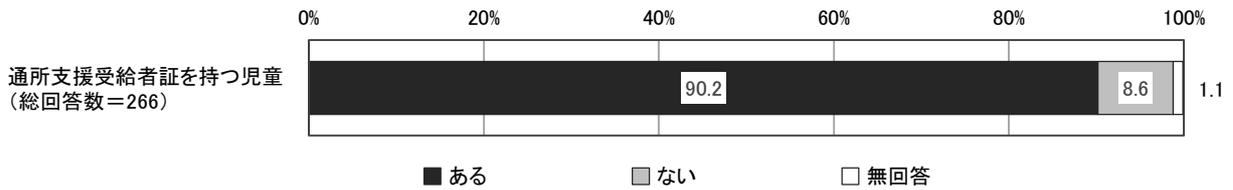


■ 18歳未満の障害のある市民（総回答数=262）

(16) 家族・親戚以外への相談状況（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

相談したことが「ある」が90.2%、「ない」が8.6%となっています。

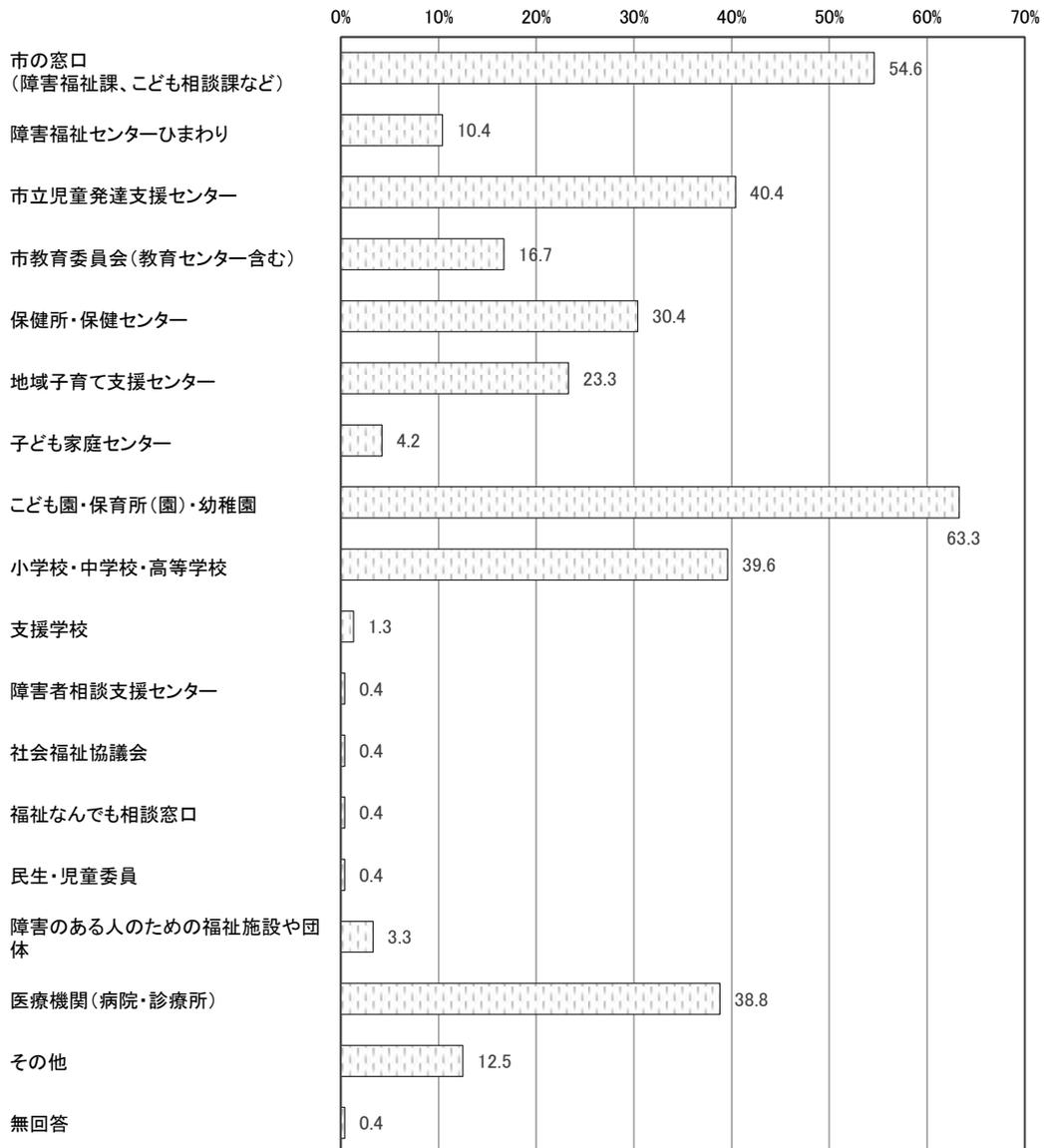


(17) 相談先（児童）〔複数回答〕

* 『(16) 家族・親戚以外への相談状況（児童）』で「1. あり」と回答された方

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

「こども園・保育所（園）・幼稚園」が63.3%で最も多く、次いで「市の窓口（障害福祉課、こども相談課など）」が54.6%、「市立児童発達支援センター」が40.4%となっています。



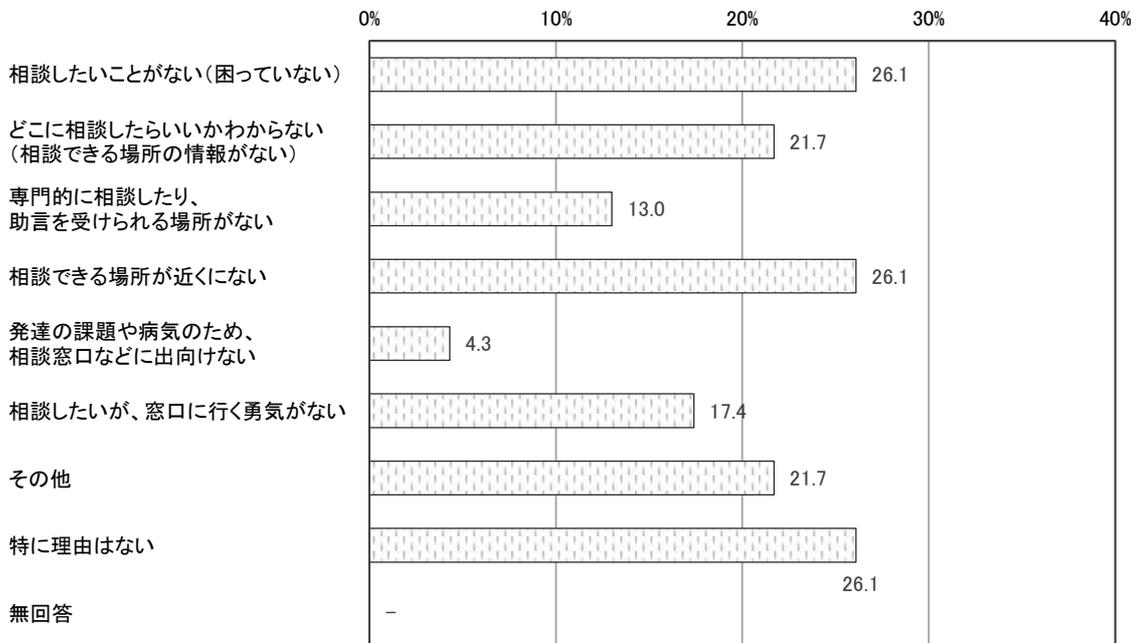
□ 通所支援受給者証を持つ児童（総回答数=240）

(18) 相談しない理由（児童）〔複数回答〕

* 『(16) 家族・親戚以外への相談状況』で「2. ない」と回答された方

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

「相談したいことがない（困っていない）」、「相談できる場所が近くにない」、「特に理由はない」がいずれも 26.1%で最も多く、次いで「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」、「その他」がいずれも 21.7%となっています。

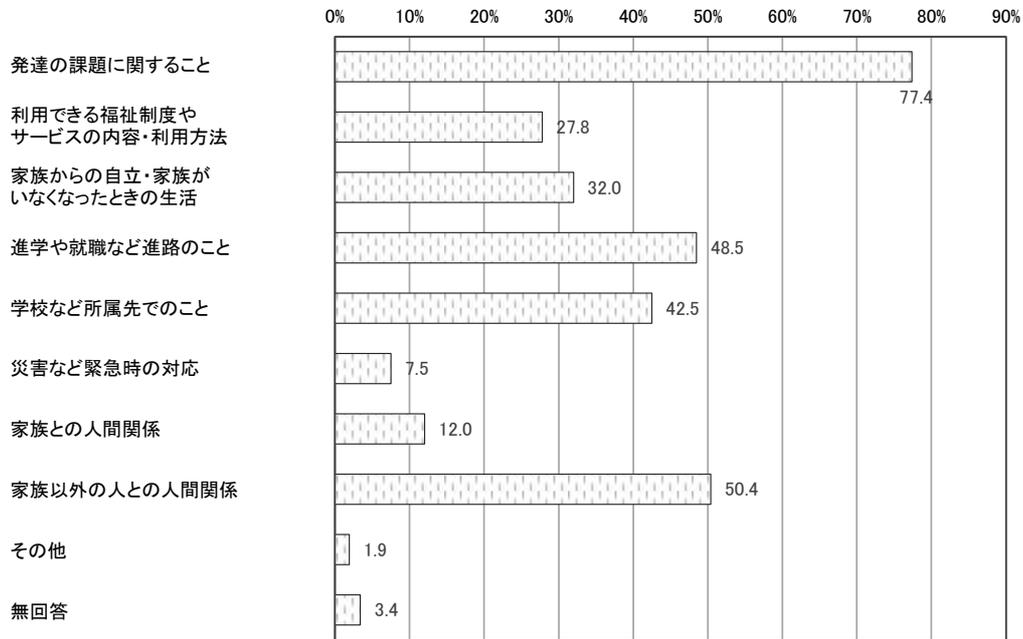


□ 通所支援受給者証を持つ児童(総回答数=23)

(19) 今、気にかかっていること（児童）〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

「発達の課題に関すること」が77.4%で最も多く、次いで「家族以外の人との人間関係」が50.4%、「進学や訓練、就職などの進路のこと」が48.5%となっています。

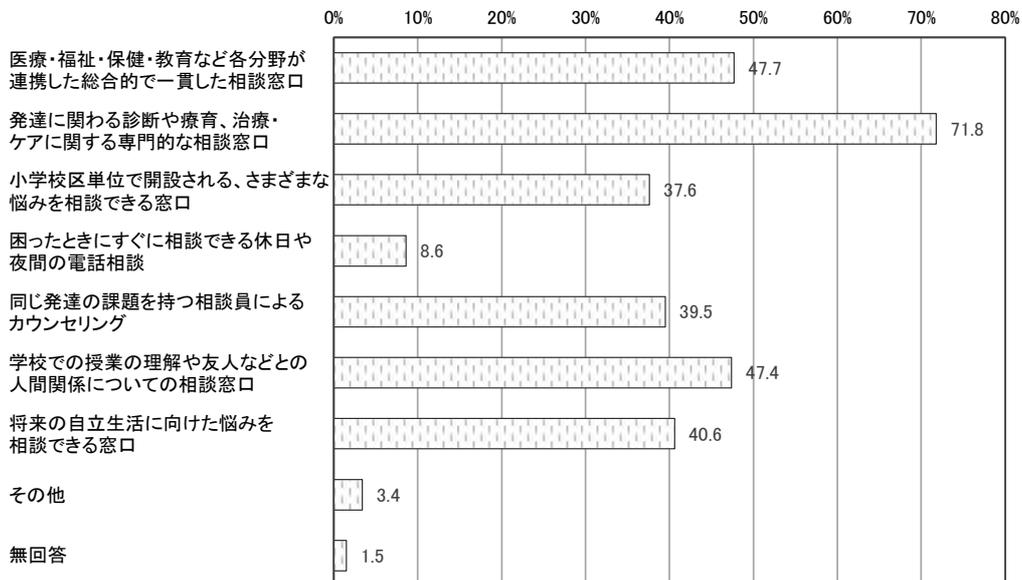


□ 通所支援受給者証を持つ児童（総回答数=266）

(20) 今後の相談支援体制への希望（児童）〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

「発達に関わる診断や療育、治療・ケアに関する専門的な相談窓口」が71.8%で最も多く、次いで「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談窓口」が47.7%、「学校での授業の理解や友人などとの人間関係についての相談窓口」が47.4%となっています。



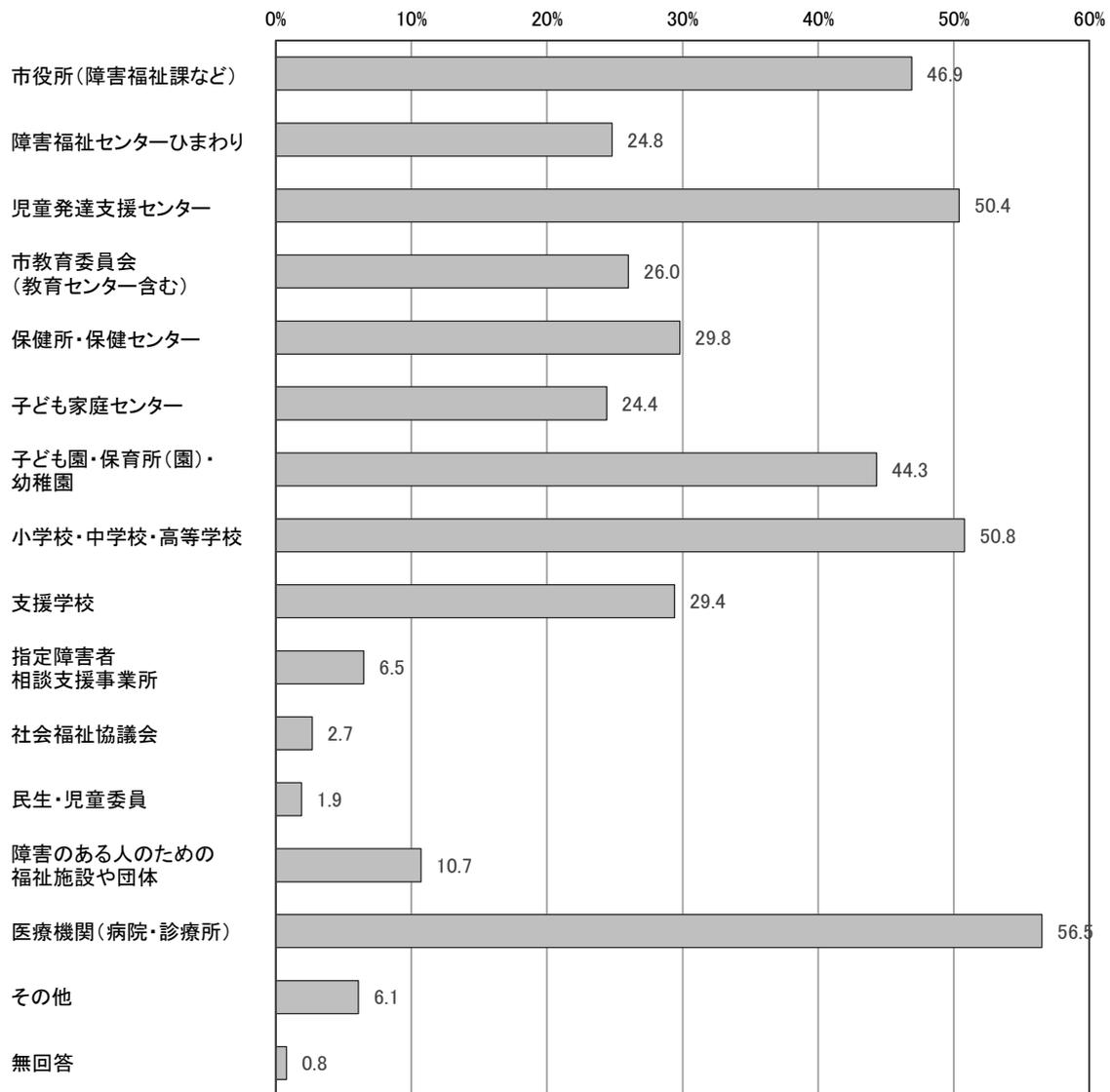
□ 通所支援受給者証を持つ児童（総回答数=266）

4. 療育・教育について

(1) 療育や教育に関する相談先〔複数回答〕

18歳未満の障害のある市民（調査③）

「医療機関（病院・診療所）」が56.5%で最も多く、次いで「小学校・中学校・高等学校」が50.8%、「児童発達支援センター」が50.4%となっています。

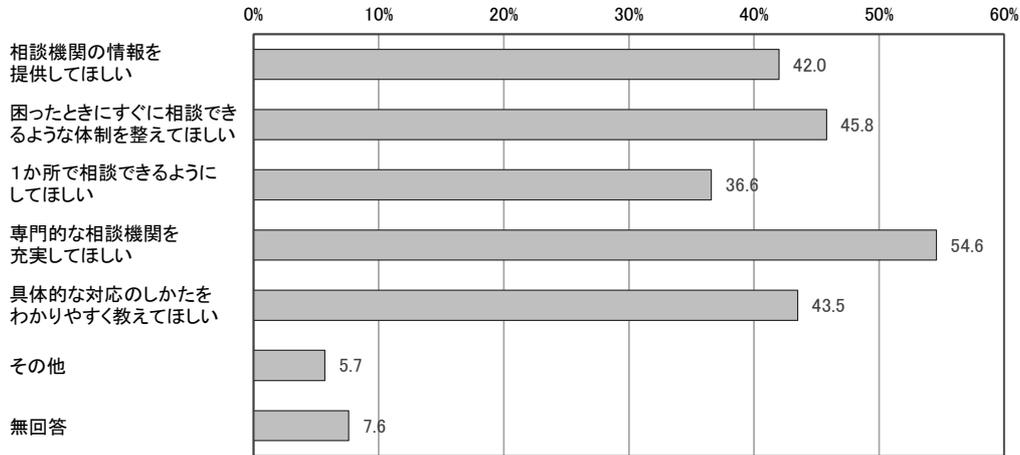


■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

(2) 療育や教育に関する相談への希望〔複数回答〕

18歳未満の障害のある市民（調査③）

「専門的な相談機関を充実してほしい」が54.6%で最も多く、次いで「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」が45.8%、「具体的な対応のしかたをわかりやすく教えてほしい」が43.5%となっています。



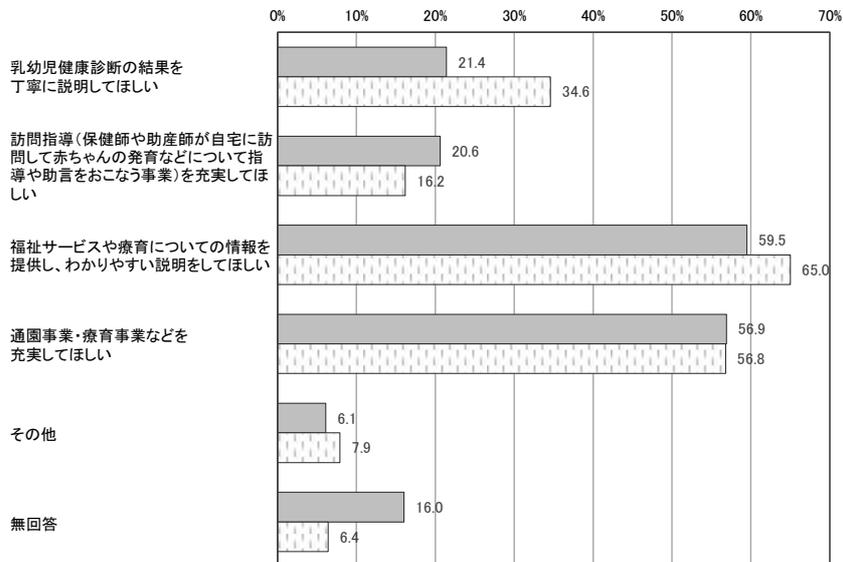
■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

(3) 乳幼児期における母子保健や療育に関わる事への希望〔複数回答〕

18歳未満の障害のある市民、通所支援受給者証を持つ児童（調査③⑥）

18歳未満の障害のある市民では、「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい」が59.5%で最も多く、次いで「通園事業・療育事業などを充実してほしい」が56.9%、「乳幼児健康診断の結果を丁寧に説明してほしい」が21.4%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい」が65.0%で最も多く、次いで「通園事業・療育事業などを充実してほしい」が56.8%、「乳幼児健康診断の結果を丁寧に説明してほしい」が34.6%となっています。



■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

□ 通所支援受給者証を持つ児童(総回答数=266)

(4) 児童通所支援内容への満足度

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

児童通所支援内容に満足しているかについて、「はい」が69.2%、「いいえ」が3.8%、「どちらともいえない」が18.4%、「わからない」が2.3%、「現在は利用していない」が5.3%となっています。

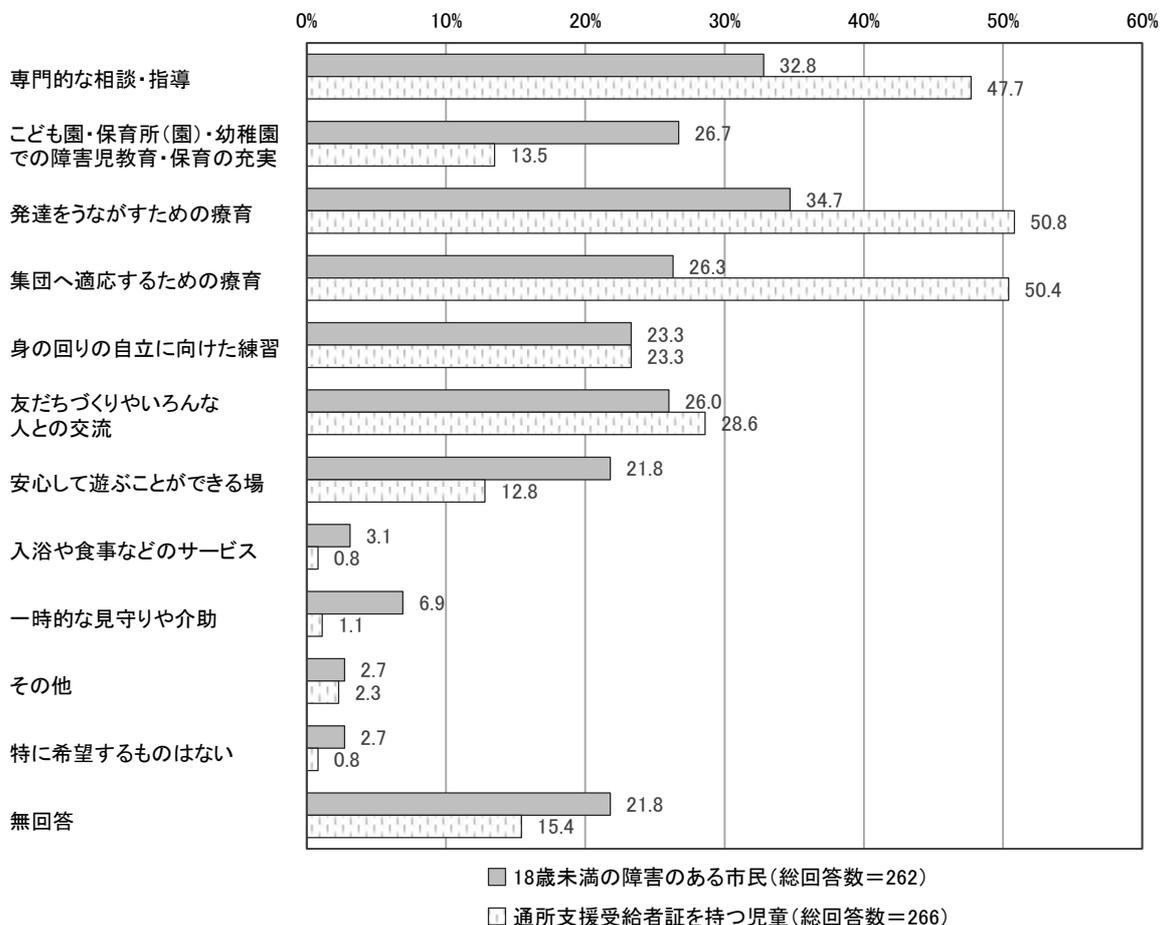


(5) 希望する療育やサービス〔複数回答〕

18歳未満の障害のある市民、通所支援受給者証を持つ児童（調査③⑥）

18歳未満の障害のある市民では「発達をうながすための療育」が34.7%で最も多く、次いで「専門的な相談・指導」が32.8%、「こども園・保育所（園）・幼稚園での障害児教育・保育の充実」が26.7%となっています。

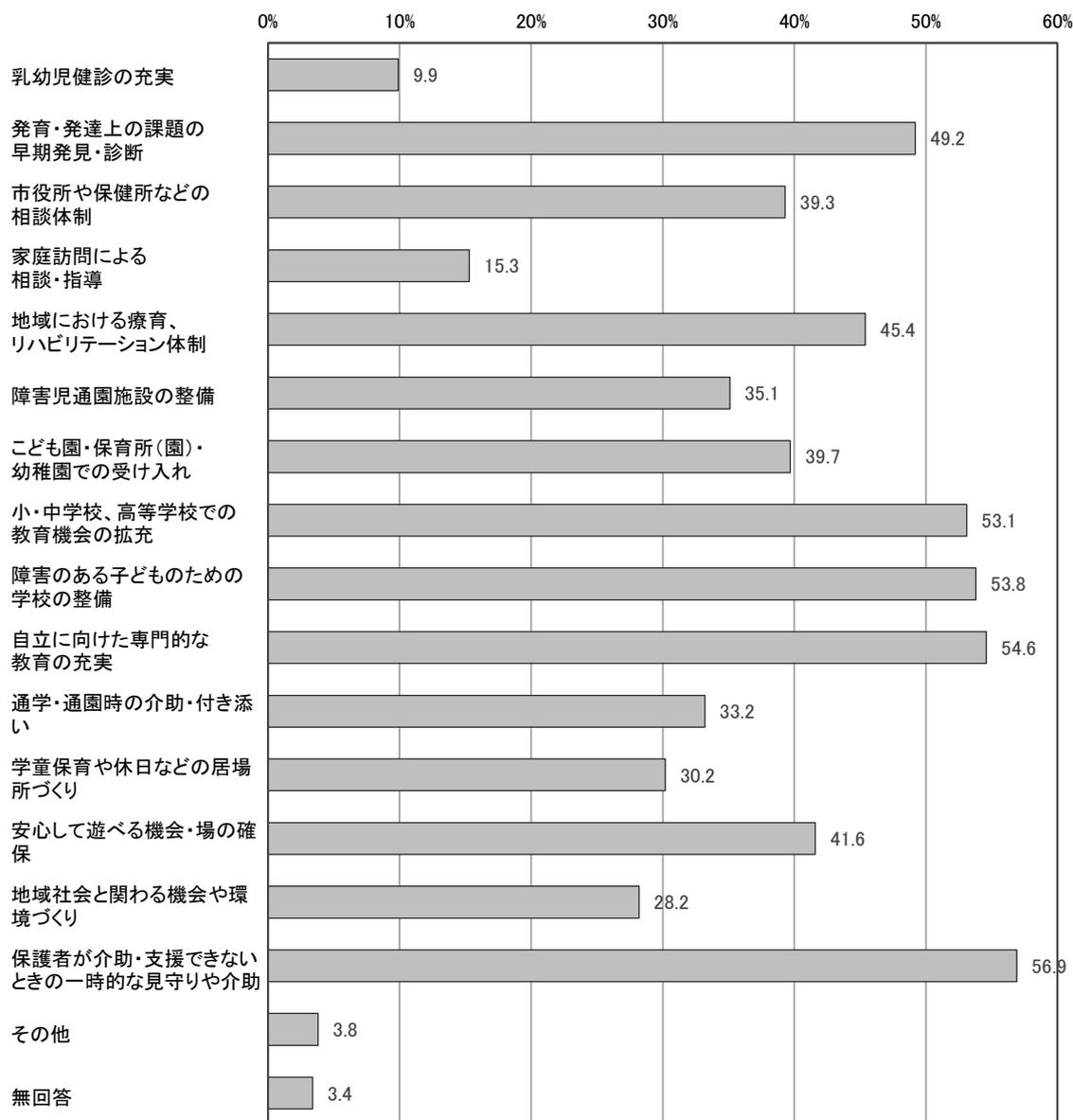
通所支援受給者証を持つ児童では、「発達をうながすための療育」が50.8%で最も多く、次いで「集団へ適応するための療育」が50.4%、「専門的な相談・指導」が47.7%となっています。



(6) 充実が必要だと思う施策やサービス（18歳未満）〔複数回答〕

18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「保護者が介助・支援できないときの一時的な見守りや介助」が56.9%で最も多く、次いで「自立に向けた専門的な教育の充実」が54.6%、「障害のある子どものための学校の整備」が53.8%となっています。

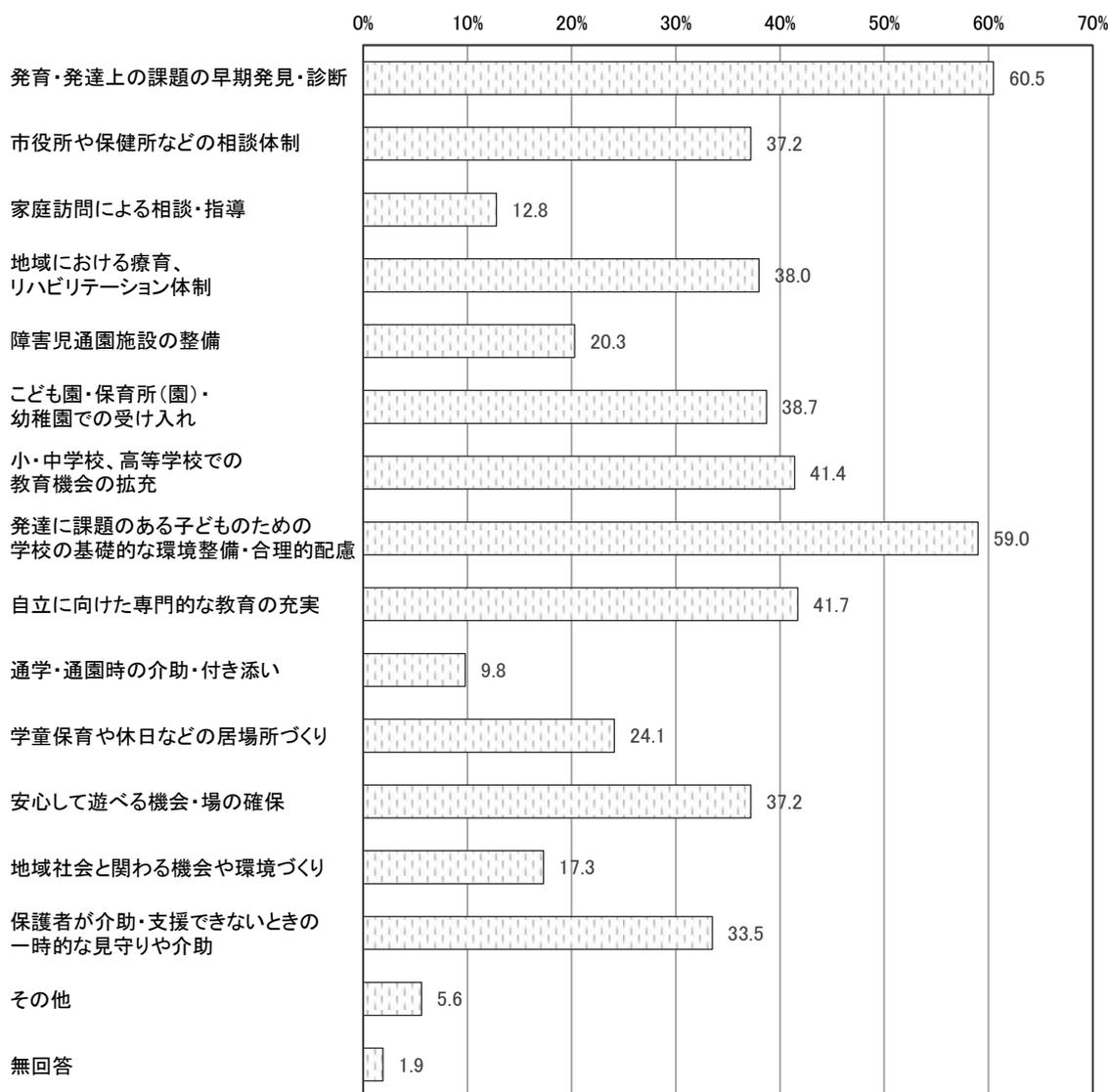


■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

(7) 充実が必要だと思う施策やサービス（児童）〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「発育・発達上の課題の早期発見・診断」が 60.5%で最も多く、次いで「発達に課題のある子どものための学校の基礎的な環境整備・合理的配慮」が 59.0%、「自立に向けた専門的な教育の充実」が 41.7%となっています。



□ 通所支援受給者証を持つ児童(総回答数=266)

5. 災害など緊急時の対応について

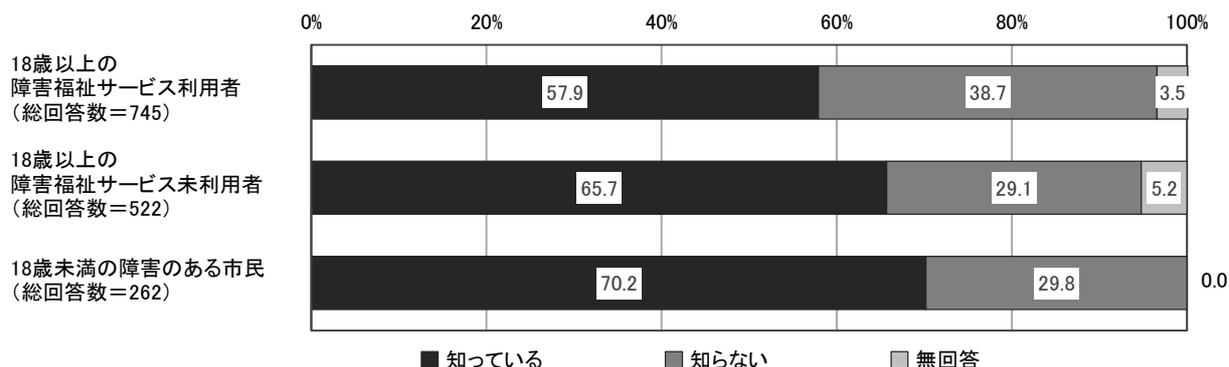
(1) 最寄の避難場所の認知状況

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「知っている」が57.9%、「知らない」が38.7%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「知っている」が65.7%、「知らない」が29.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「知っている」が70.2%、「知らない」が29.8%となっています。



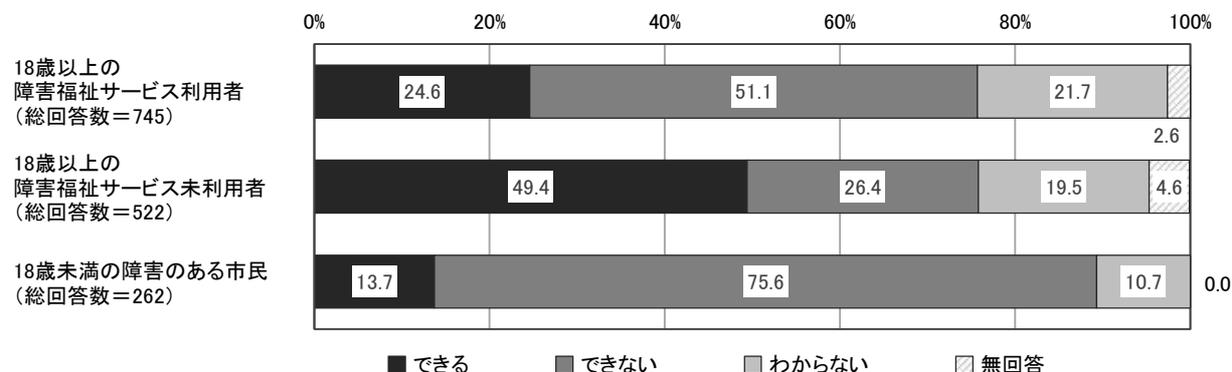
(2) 災害時における一人での避難ができるか

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「できる」が24.6%、「できない」が51.1%、「わからない」が21.7%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「できる」が49.4%、「できない」が26.4%、「わからない」が19.5%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「できる」が13.7%、「できない」が75.6%、「わからない」が10.7%となっています。



(3) 避難等の援助を頼める人

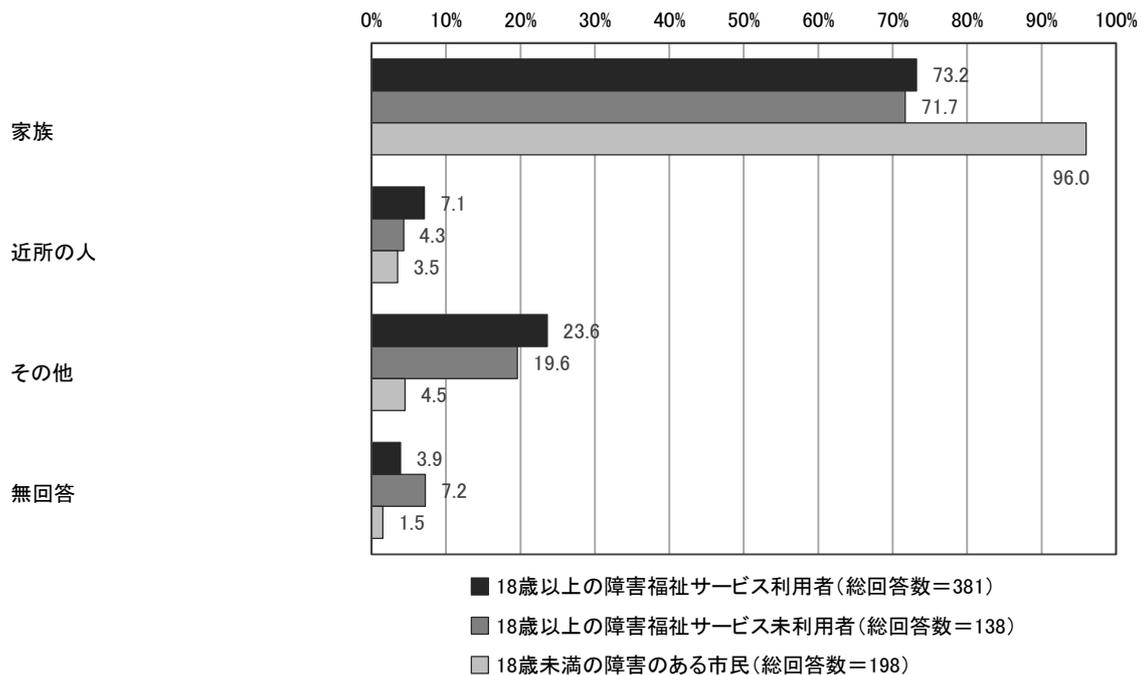
* 『(2) 災害時における一人での避難ができるか』で「2. できない」と回答された方

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「家族」が73.2%で最も多く、次いで「その他」が23.6%、「近所の人」が7.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「家族」が71.7%で最も多く、次いで「その他」が19.6%、「近所の人」が4.3%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「家族」が96.0%で最も多く、次いで「その他」が4.5%、「近所の人」が3.5%となっています。



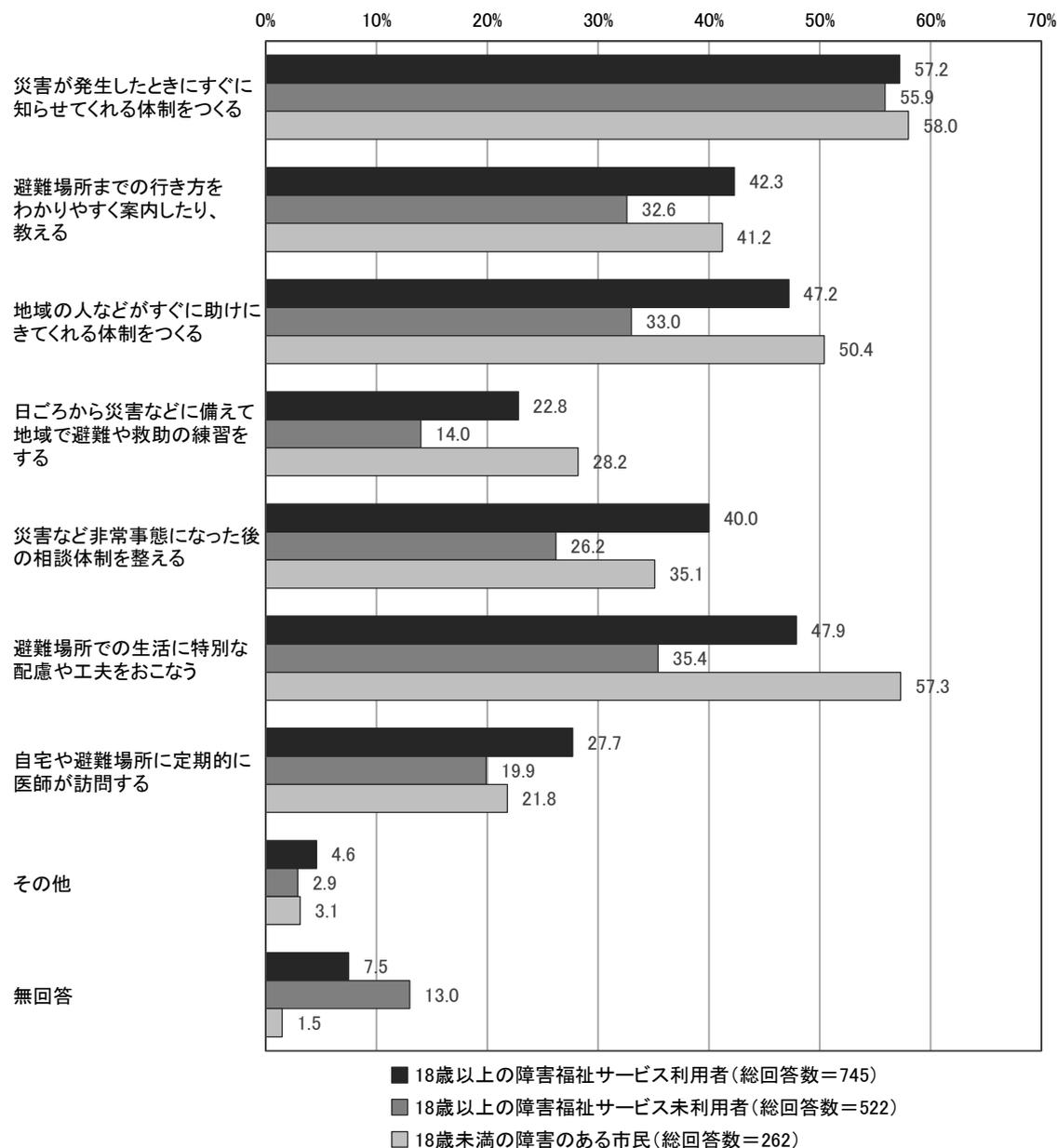
(4) 緊急時の対応について、重要だと思うこと

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる」が57.2%で最も多く、次いで「避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう」が47.9%、「地域の人などがすぐに助けにきてくれる体制をつくる」が47.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる」が55.9%で最も多く、次いで「避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう」が35.4%、「地域の人などがすぐに助けにきてくれる体制をつくる」が33.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる」が58.0%で最も多く、次いで「避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう」が57.3%、「地域の人などがすぐに助けにきてくれる体制をつくる」が50.4%となっています。



6. 障害や難病のある人の人権・理解促進について

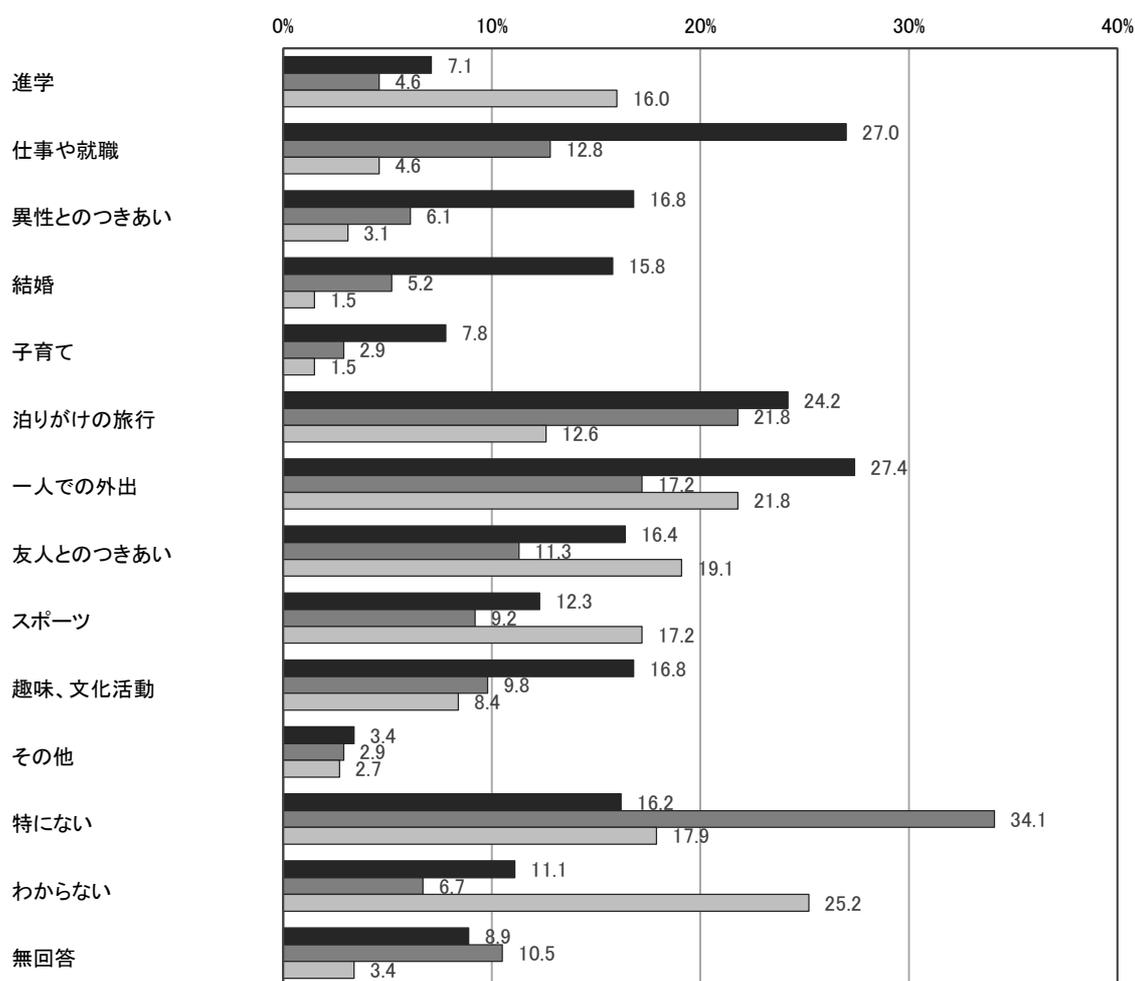
(1) 障害や難病があるためにあきらめたこと〔複数回答〕

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「一人での外出」が27.4%で最も多く、次いで「仕事や就職」が27.0%、「泊りがけの旅行」が24.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「特にない」が34.1%で最も多く、次いで「泊りがけの旅行」が21.8%、「一人での外出」が17.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「わからない」が25.2%で最も多く、次いで「一人での外出」が21.8%、「友人とのつきあい」が19.1%となっています。

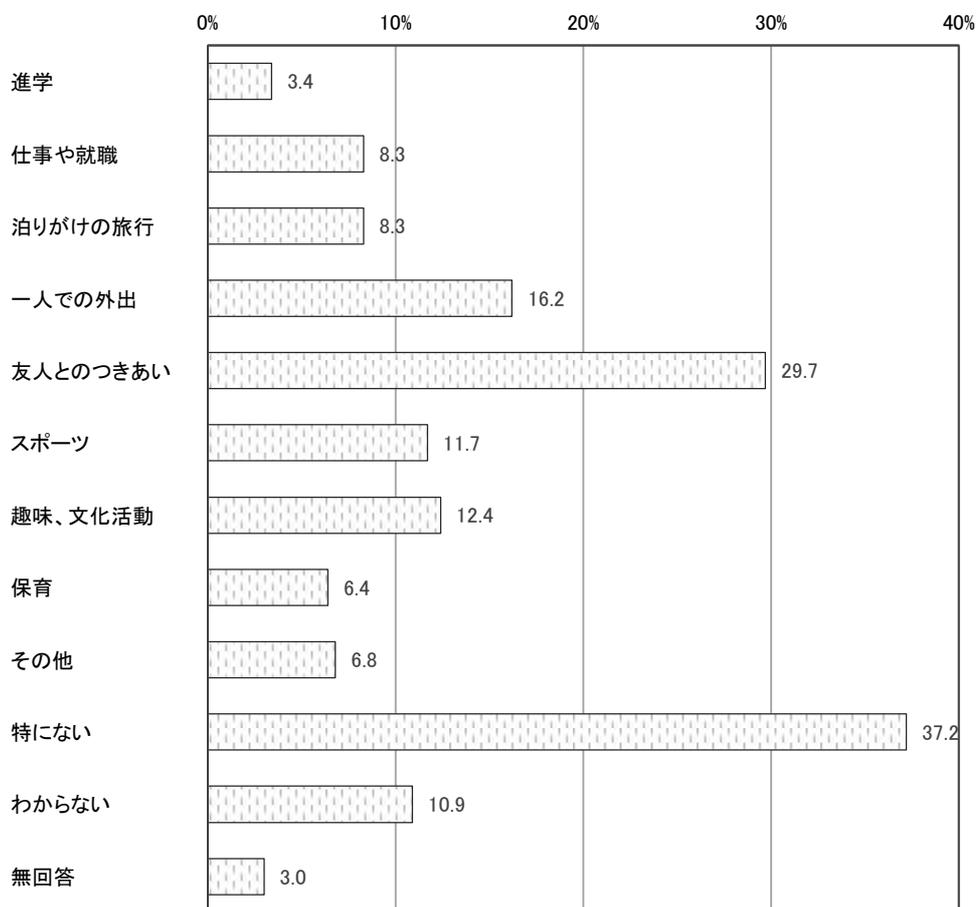


- 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
- 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)
- 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

(2) 発達に課題があるためにあきらめたこと〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「特にない」が 37.2%で最も多く、次いで「友人とのつきあい」が 29.7%、「一人での外出」が 16.2%となっています。



□ 通所支援受給者証を持つ児童（総回答数=266）

(3) ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと

障害のある市民、施設入所者、通所支援受給者証を持つ児童（調査①②③⑤⑥）

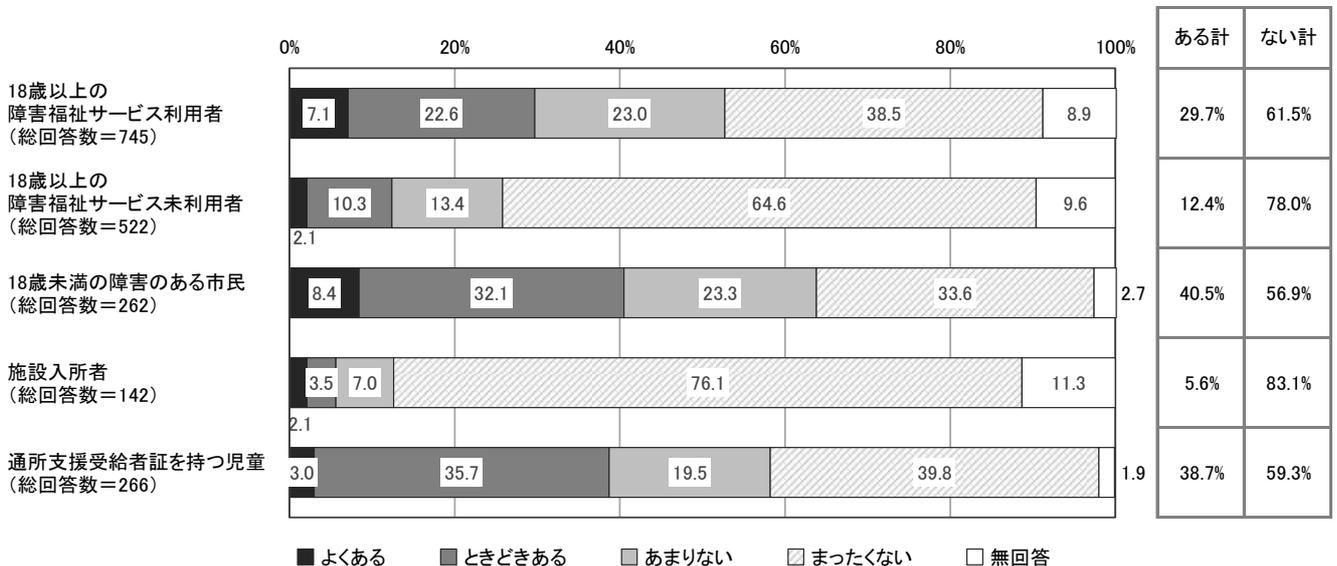
18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「よくある」+「ときどきある」の「ある計」が29.7%、「あまりない」+「まったくない」の「ない計」が61.5%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「よくある」+「ときどきある」の「ある計」が12.4%、「あまりない」+「まったくない」の「ない計」が78.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「よくある」+「ときどきある」の「ある計」が40.5%、「あまりない」+「まったくない」の「ない計」が56.9%となっています。

施設入所者では、「よくある」+「ときどきある」の「ある計」が5.6%、「あまりない」+「まったくない」の「ない計」が83.1%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、「よくある」+「ときどきある」の「ある計」が38.7%、「あまりない」+「まったくない」の「ない計」が59.3%となっています。



(4) 差別を受けた場面〔複数回答〕

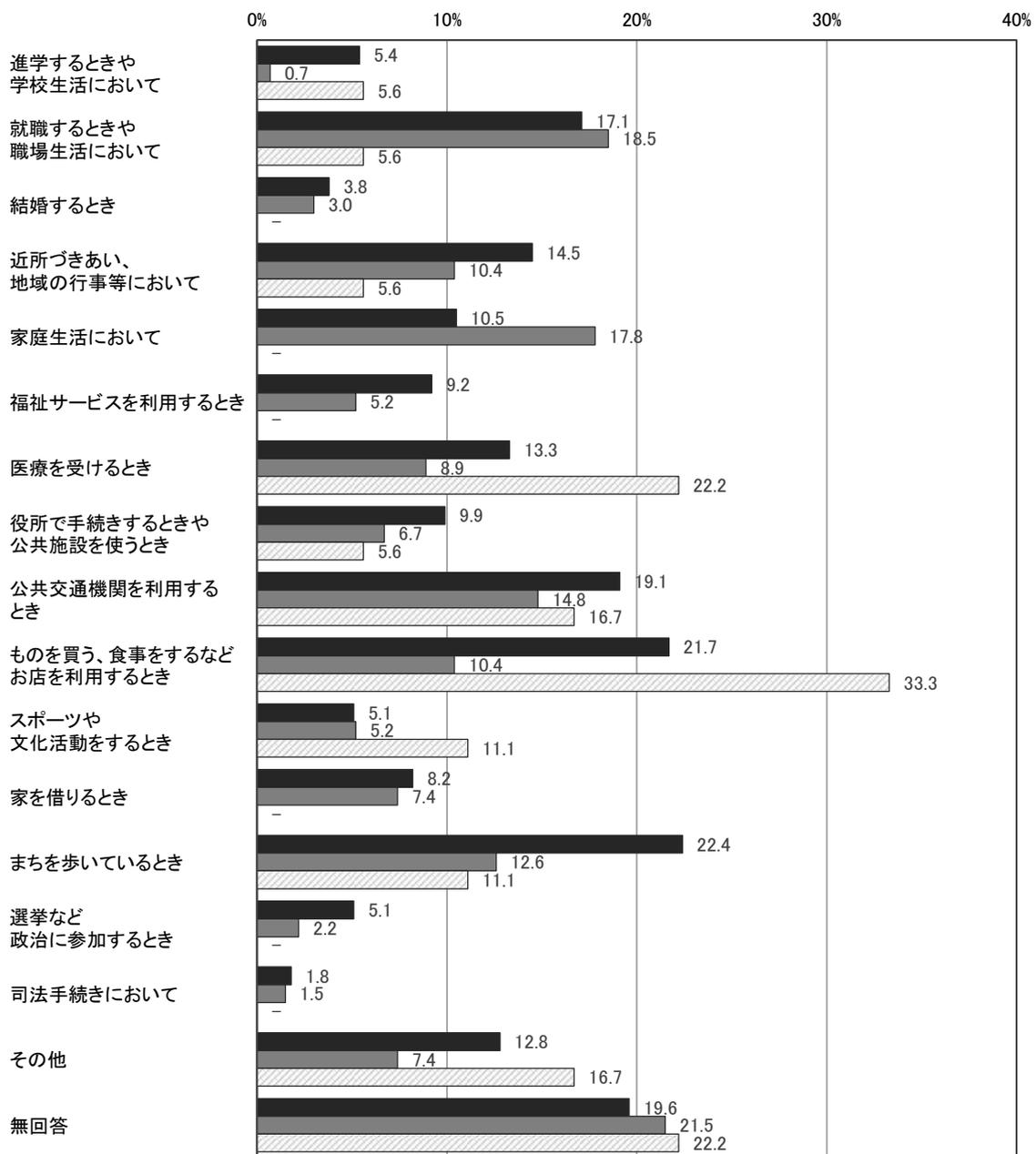
* 『(3) ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと』で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方

18歳以上の障害のある市民、施設入所者（調査①②⑤）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「まちを歩いているとき」が22.4%で最も多く、次いで「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」が21.7%、「公共交通機関を利用するとき」が19.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「就職するときや職場生活において」が18.5%で最も多く、次いで「家庭生活において」が17.8%、「公共交通機関を利用するとき」が14.8%となっています。

施設入所者では、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」が33.3%で最も多く、次いで「医療を受けるとき」が22.2%、「公共交通機関を利用するとき」、「その他」がいずれも16.7%となっています。



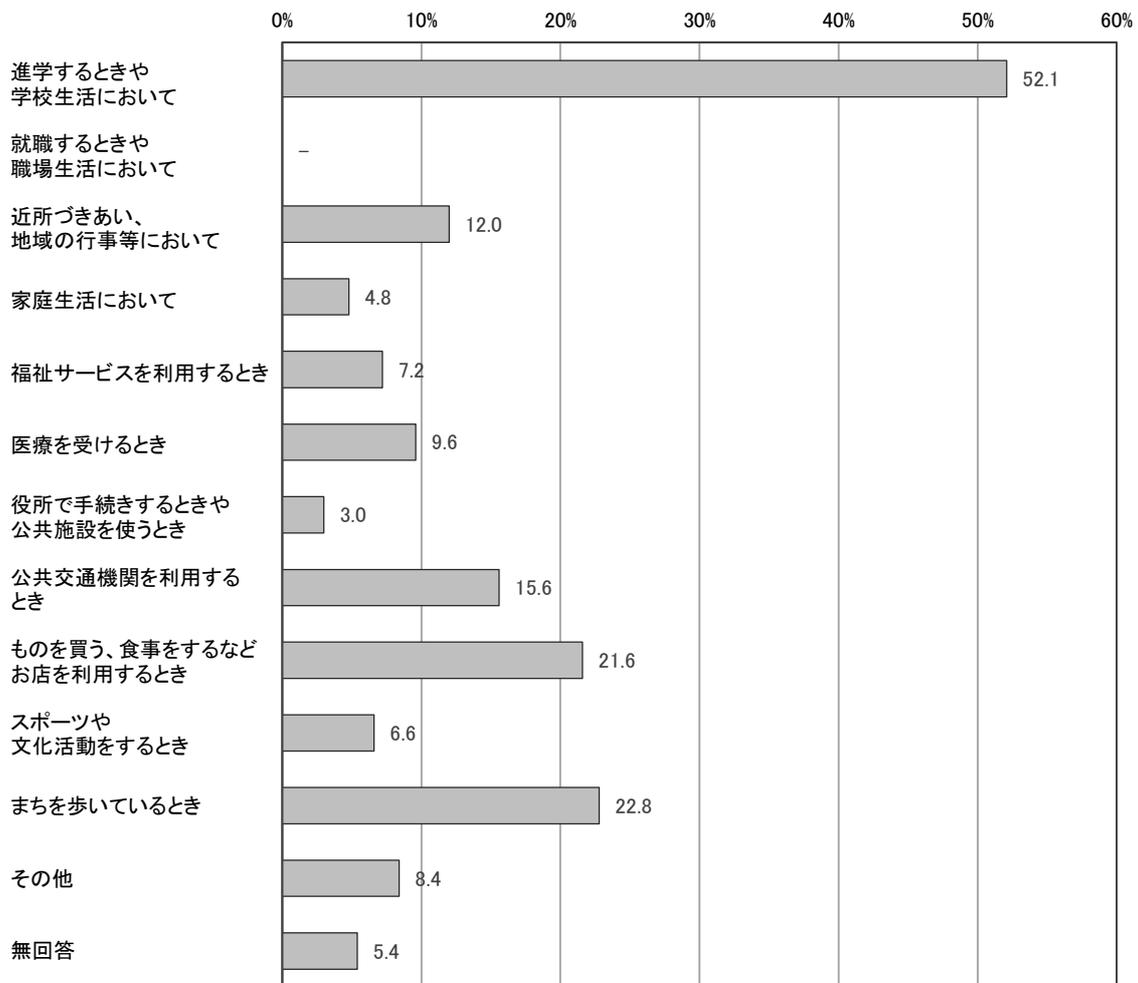
■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=392)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=135)
 □ 施設入所者(総回答数=18)

(5) 差別を受けた場面 (18歳未満) [複数回答]

* 『(3) ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと』で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方

18歳未満の障害のある市民 (調査③)

18歳未満の障害のある市民では、「進学するときや学校生活において」が52.1%で最も多く、次いで「まちを歩いているとき」が22.8%、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」が21.6%となっています。



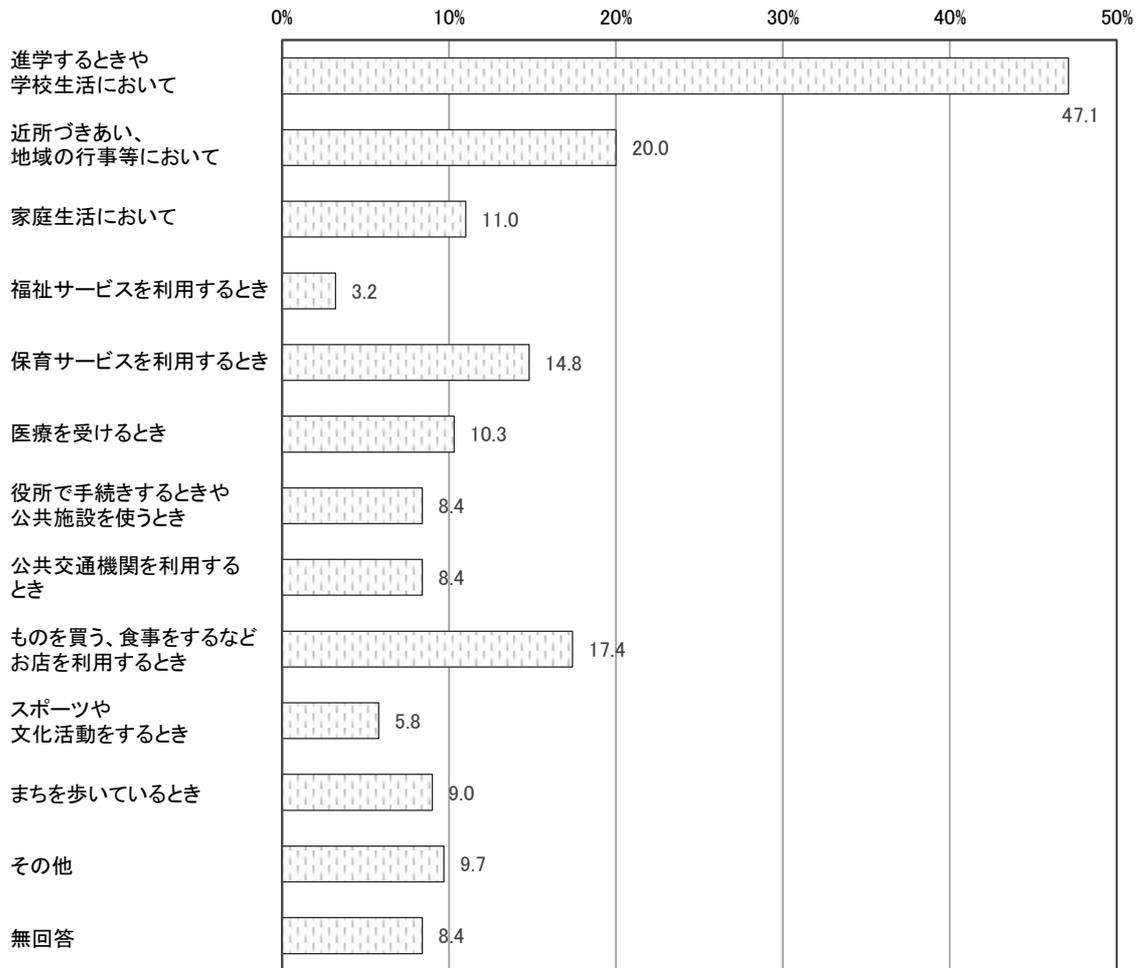
■ 18歳未満の障害のある市民 (総回答数=167)

(6) 差別を受けた場面（児童）〔複数回答〕

* 『(3) ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと』で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「進学するときや学校生活において」が47.1%で最も多く、次いで「近所づきあい、地域の行事等において」が20.0%、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するなどお店を利用するとき」が17.4%となっています。



□ 通所支援受給者証を持つ児童(総回答数=155)

(7) 受けた差別の内容〔複数回答〕

* 『(3) ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと』で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方

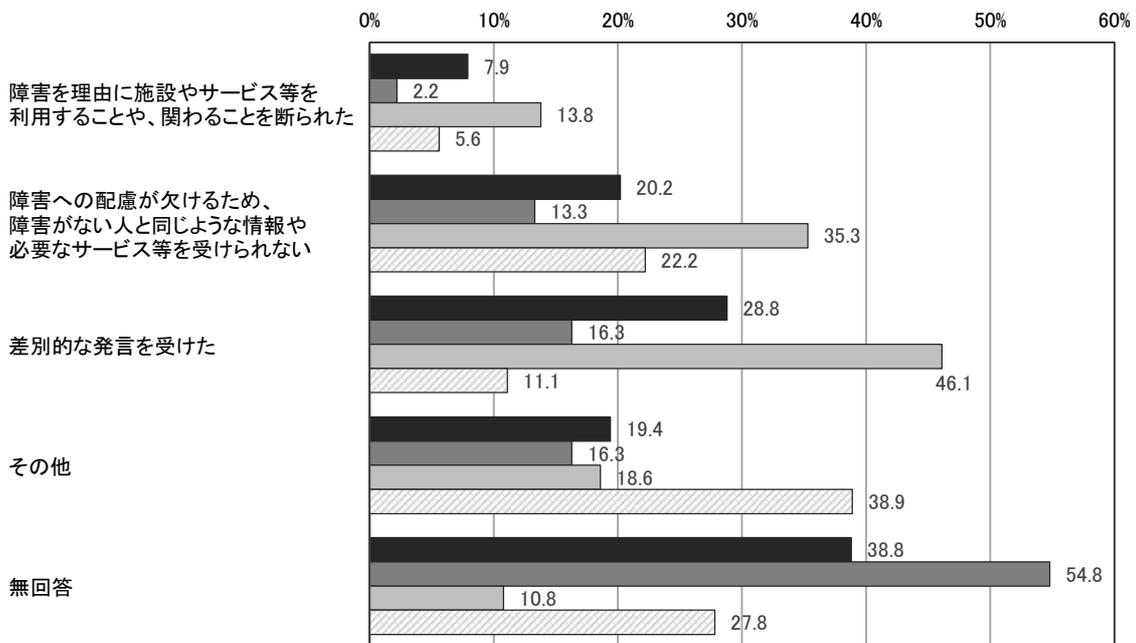
障害のある市民、施設入所者（調査①②③⑤）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「差別的な発言を受けた」が28.8%で最も多く、次いで「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が20.2%、「その他」が19.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「差別的な発言を受けた」、「その他」がいずれも16.3%で最も多く、次いで「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が13.3%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「差別的な発言を受けた」が46.1%で最も多く、次いで「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が35.3%、「その他」が18.6%となっています。

施設入所者では、「その他」が38.9%で最も多く、次いで「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が22.2%、「差別的な発言を受けた」が11.1%となっています。



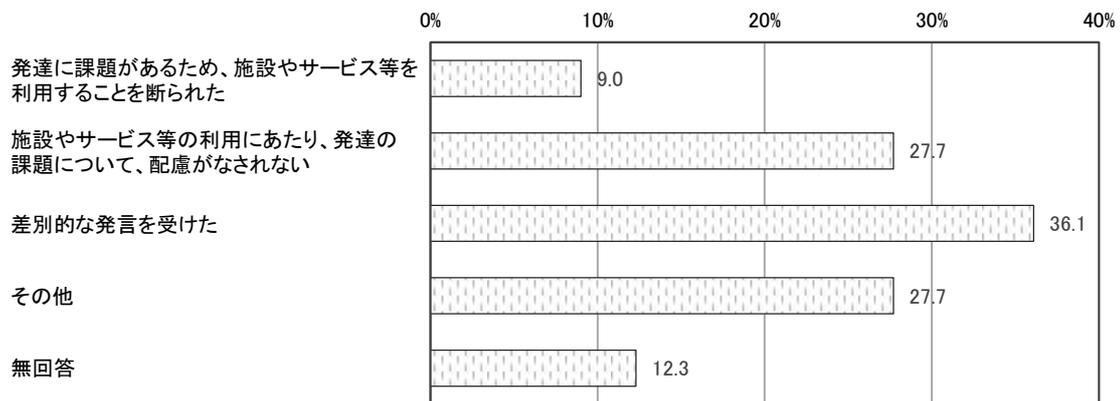
- 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=392)
- 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=135)
- 18歳未満の障害のある市民(総回答数=167)
- 施設入所者(総回答数=18)

(8) 受けた差別の内容（児童）〔複数回答〕

* 『(3) ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと』で「1.よくある」「2.ときどきある」「3.あまりない」と回答された方

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「差別的な発言を受けた」が 36.1%で最も多く、次いで「施設やサービス等の利用にあたり、発達に課題があることについて、配慮がなされない」、「その他」がいずれも 27.7%、「発達に課題があるため、施設やサービス等を利用することを断られた」が 9.0%となっています。



□ 通所支援受給者証を持つ児童（総回答数=155）

(9) 権利を守るために必要だと思う手助けや取り組み〔複数回答〕

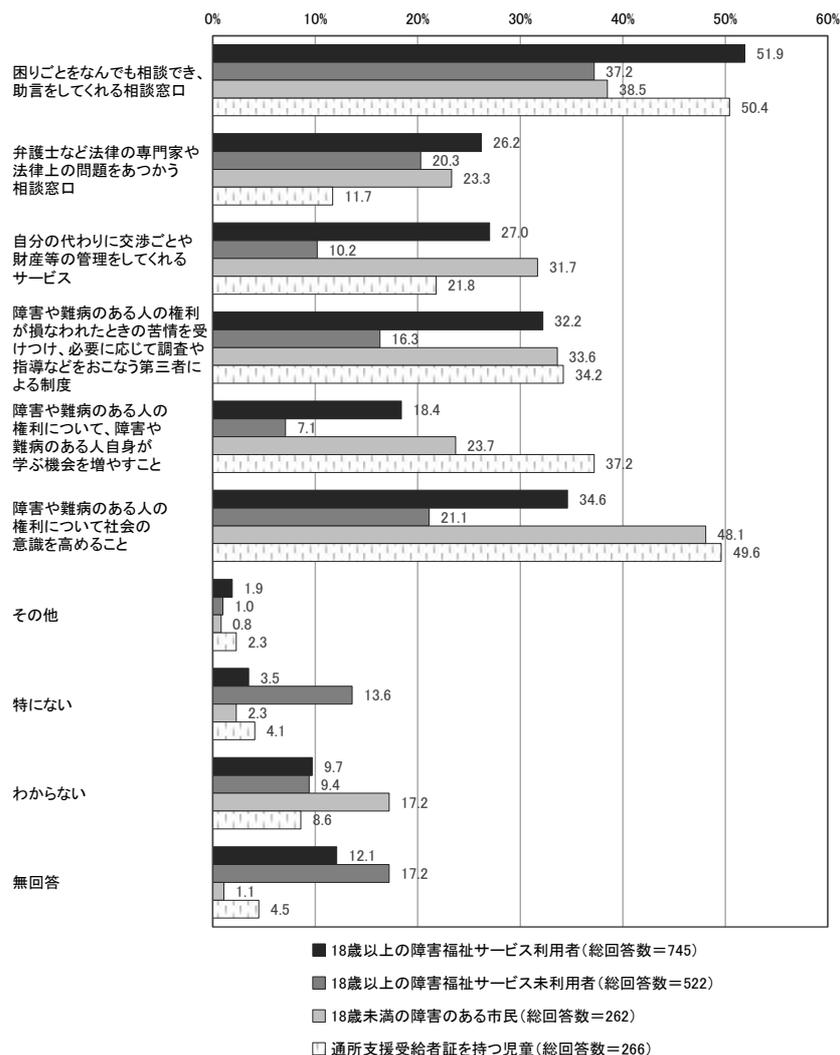
障害のある市民、通所支援受給者証を持つ児童（調査①②③⑥）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が51.9%で最も多く、次いで「障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること」が34.6%、「障害や難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」が32.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が37.2%で最も多く、次いで「障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること」が21.1%、「弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口」が20.3%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること」が48.1%で最も多く、次いで「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が38.5%、「障害や難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」が33.6%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が50.4%で最も多く、次いで「障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること」が49.6%、「障害や難病のある人の権利について、障害や難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと」が37.2%となっています。



(10) 「障害」「発達課題」「難病」に対する市民の理解
(3年前と比べて)

障害のある市民、障害のない市民、通所支援受給者証を持つ児童（調査①②③④⑥）

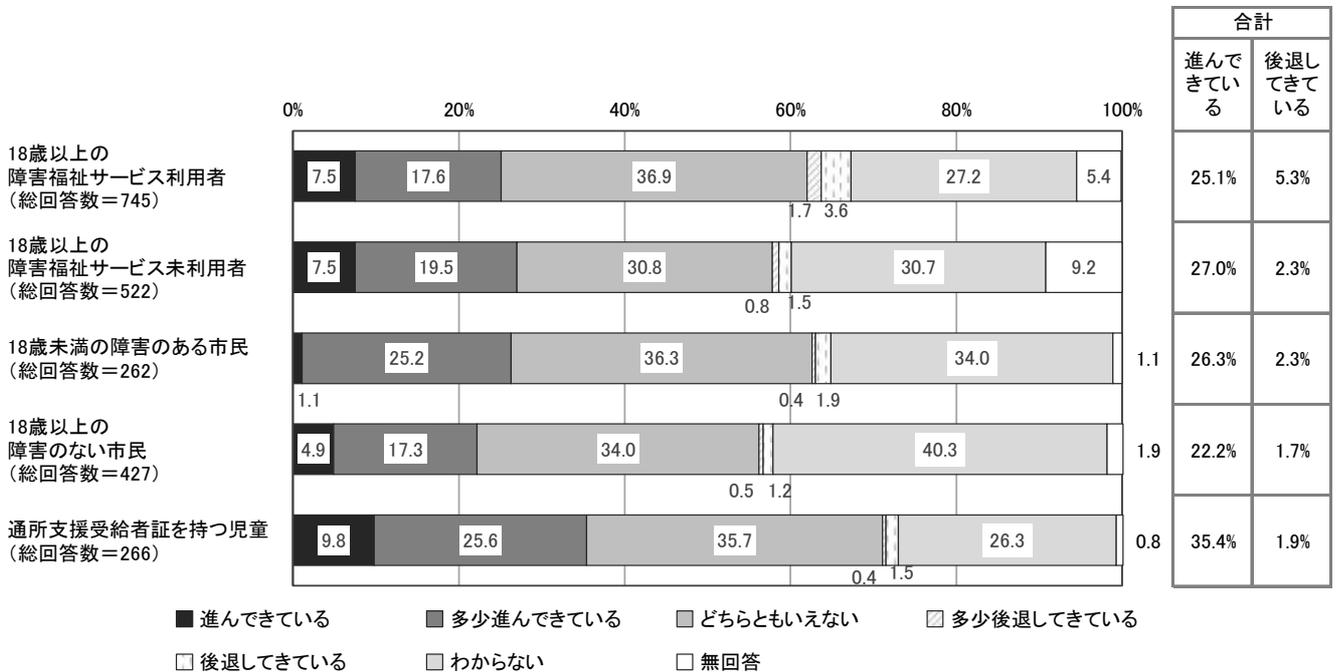
18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、市民の理解は3年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が25.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、市民の理解は3年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が27.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、市民の理解は3年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が26.3%となっています。

18歳以上の障害のない市民では、市民の理解は3年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が22.2%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、市民の理解は3年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が35.4%となっています。



(10年前と比べて)

障害のある市民、障害のない市民、通所支援受給者証を持つ児童（調査①②③④⑥）

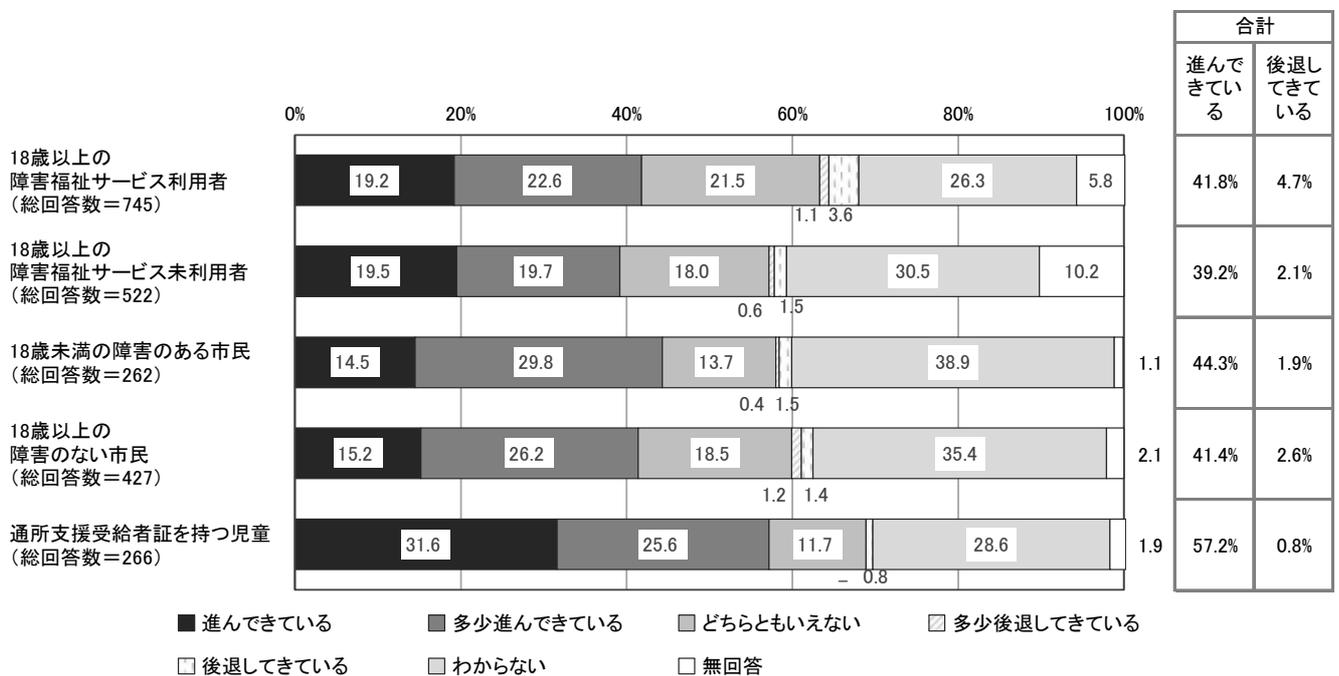
18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、市民の理解は10年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が41.8%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、市民の理解は10年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が39.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、市民の理解は10年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が44.3%となっています。

18歳以上の障害のない市民では、市民の理解は10年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が41.4%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、市民の理解は10年前と比べると、「進んできている」+「多少進んできている」の合計が57.2%となっています。



(11) 市による「障害」「難病」の理解促進のための広報への参加有無〔複数回答〕

障害のある市民、障害のない市民、通所支援受給者証を持つ児童（調査①②③④⑥）

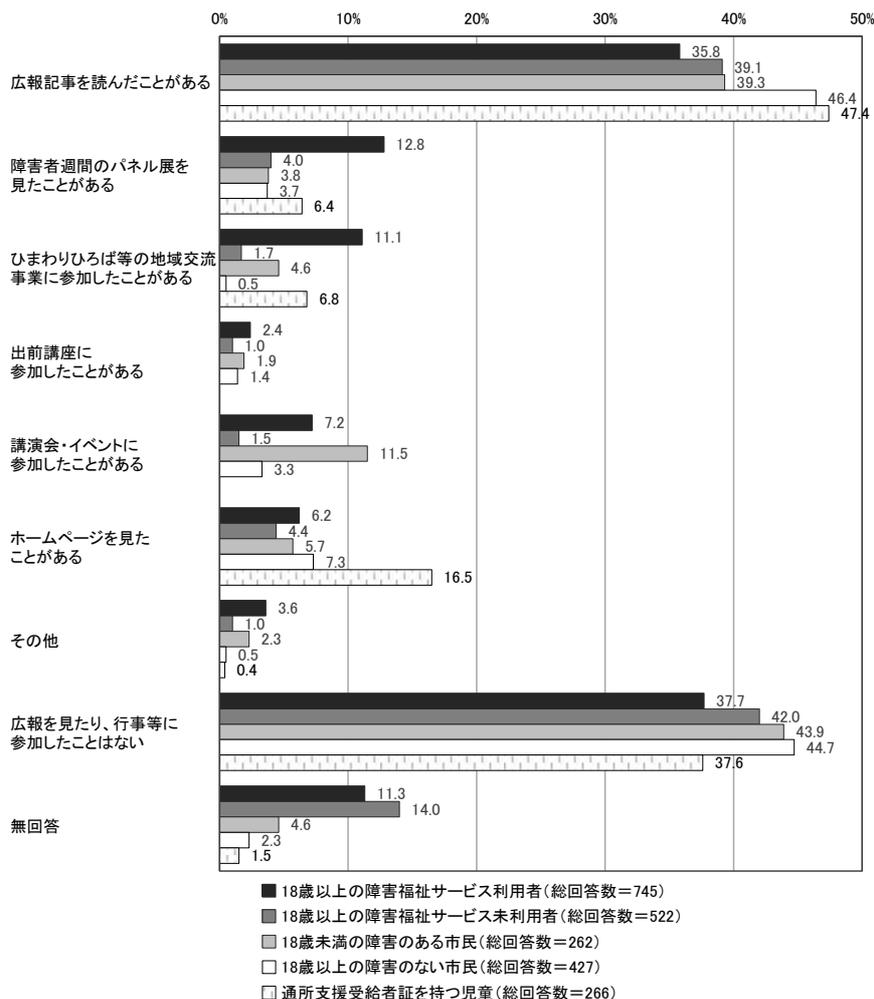
18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が37.7%で最も多く、次いで「広報記事を読んだことがある」が35.8%、「障害者週間のパネル展を見たことがある」が12.8%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が42.0%で最も多く、次いで「広報記事を読んだことがある」が39.1%、「ホームページを見たことがある」が4.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が43.9%で最も多く、次いで「広報記事を読んだことがある」が39.3%、「講演会・イベントに参加したことがある」が11.5%となっています。

18歳以上の障害のない市民では、「広報記事を読んだことがある」が46.4%で最も多く、次いで「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が44.7%、「ホームページを見たことがある」が7.3%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、「広報記事を読んだことがある」が47.4%で最も多く、次いで「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が37.6%、「ホームページを見たことがある」が16.5%となっています。



(12) 情報の取得方法・媒体〔複数回答〕

障害のある市民、障害のない市民、通所支援受給者証を持つ児童（調査①②③④⑥）

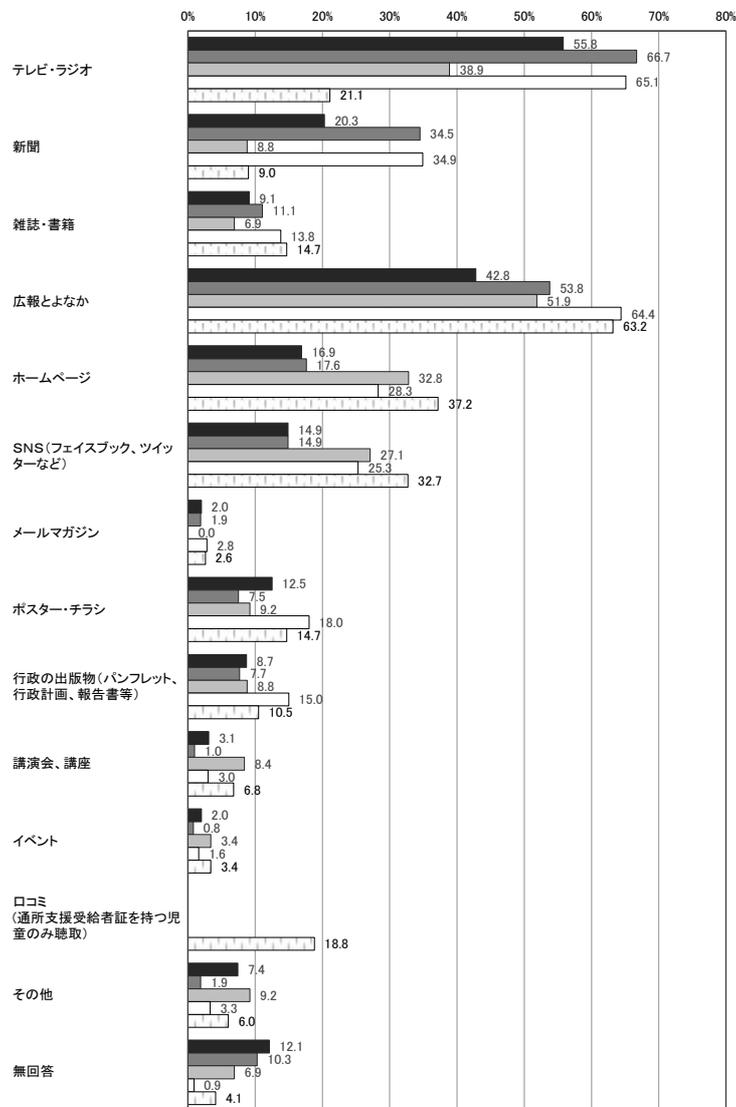
18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「テレビ・ラジオ」が55.8%で最も多く、次いで「広報とよなか」が42.8%、「新聞」が20.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「テレビ・ラジオ」が66.7%で最も多く、次いで「広報とよなか」が53.8%、「新聞」が34.5%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「広報とよなか」が51.9%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が38.9%、「ホームページ」が32.8%となっています。

18歳以上の障害のない市民では、「テレビ・ラジオ」が65.1%で最も多く、次いで「広報とよなか」が64.4%、「新聞」が34.9%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、「広報とよなか」が63.2%で最も多く、次いで「ホームページ」が37.2%、「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」が32.7%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)
 ■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)
 □ 18歳以上の障害のない市民(総回答数=427)
 □ 通所支援受給者証を持つ児童(総回答数=266)

(13) 「障害者差別解消法」の認知状況

障害のある市民、障害のない市民、施設入所者、通所支援受給者証を持つ児童（調査①②③④⑤⑥）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「名前も内容も知っている」が5.2%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が19.7%、「名前も内容も知らない」が68.3%となっています。

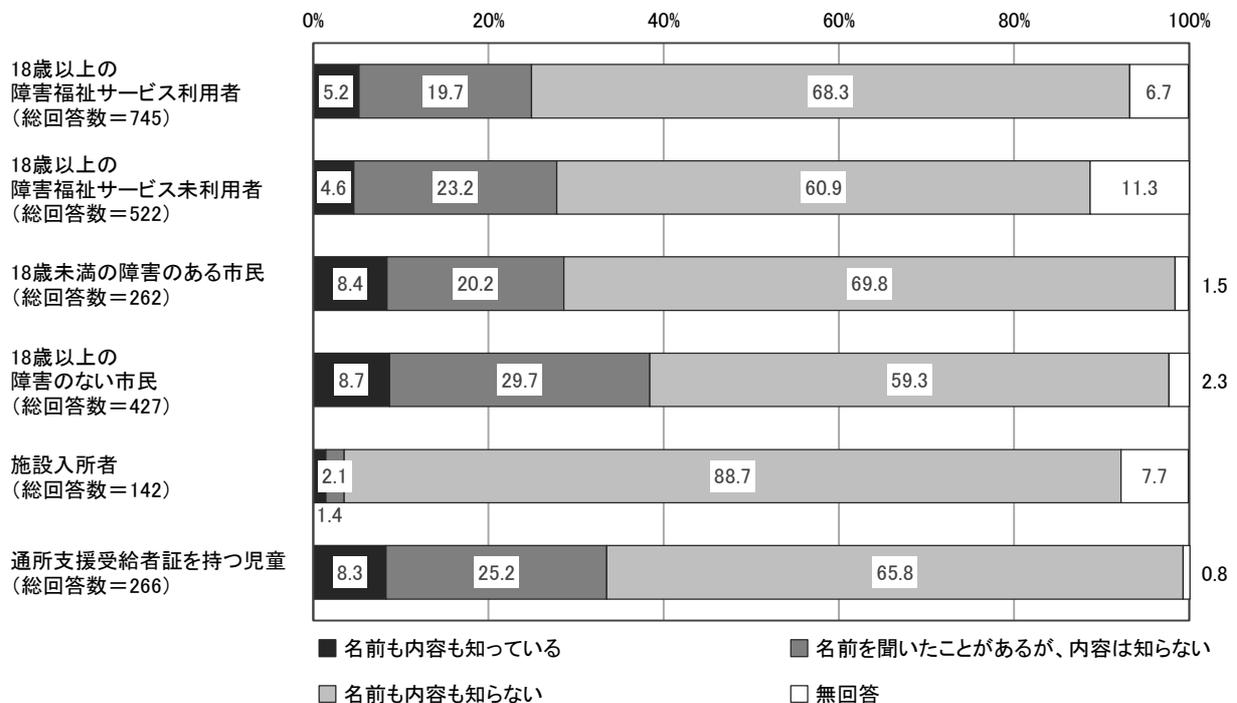
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「名前も内容も知っている」が4.6%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が23.2%、「名前も内容も知らない」が60.9%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「名前も内容も知っている」が8.4%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が20.2%、「名前も内容も知らない」が69.8%となっています。

18歳以上の障害のない市民では、「名前も内容も知っている」が8.7%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が29.7%、「名前も内容も知らない」が59.3%となっています。

施設入所者では、「名前も内容も知っている」が1.4%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が2.1%、「名前も内容も知らない」が88.7%となっています。

通所支援受給者証を持つ児童では、「名前も内容も知っている」が8.3%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が25.2%、「名前も内容も知らない」が65.8%となっています。



(14) 手話が言語であるという認識について

障害のある市民、障害のない市民、施設入所者（調査①②③④⑤）

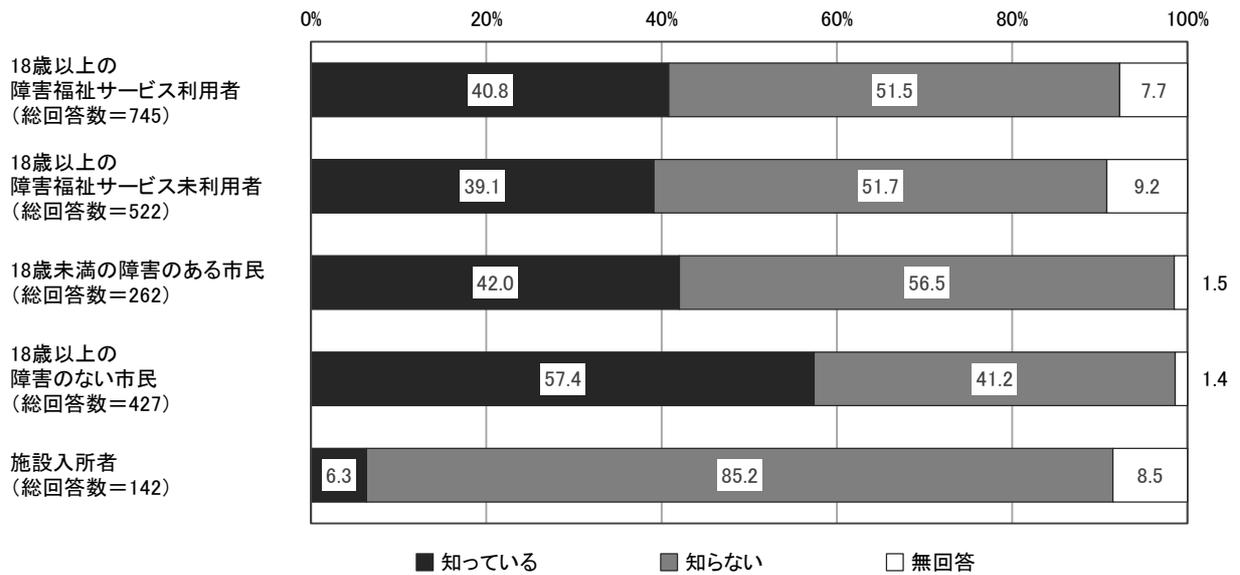
18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「知っている」が40.8%、「知らない」が51.5%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では「知っている」が39.1%、「知らない」が51.7%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「知っている」が42.0%、「知らない」が56.5%となっています。

18歳以上の障害のない市民では、「知っている」が57.4%、「知らない」が41.2%となっています。

施設入所者では、「知っている」が6.3%、「知らない」が85.2%となっています。

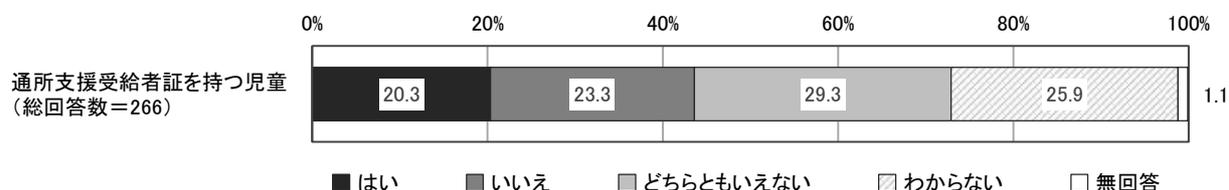


7. 学校等教育現場での障害理解や合理的配慮について

(1) 教育現場における障害理解度

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

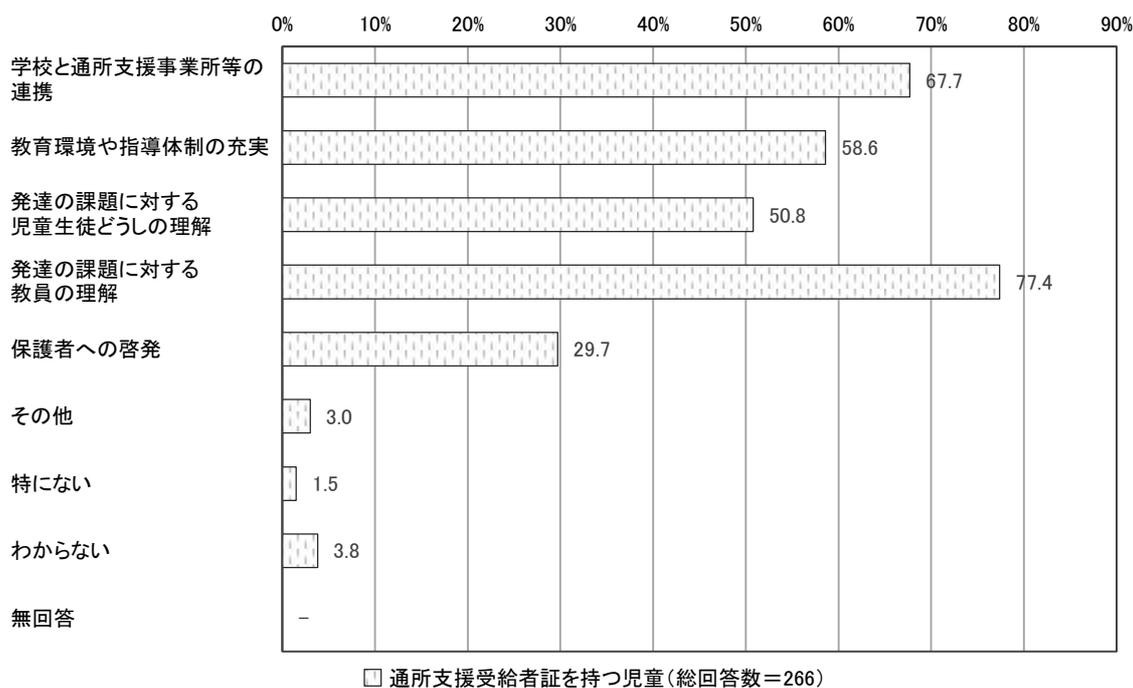
教育現場において、障害理解が十分と考えるかについて、「はい」は20.3%、「いいえ」が23.3%、「どちらともいえない」が29.3%、「わからない」が25.9%となっています。



(2) 「障害」「難病」の理解促進のために教育現場で必要だと思うこと〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

「発達の課題に対する教員の理解」が77.4%で最も多く、次いで「学校と通所支援事業所等の連携」が67.7%、「教育環境や指導體制の充実」が58.6%となっています。



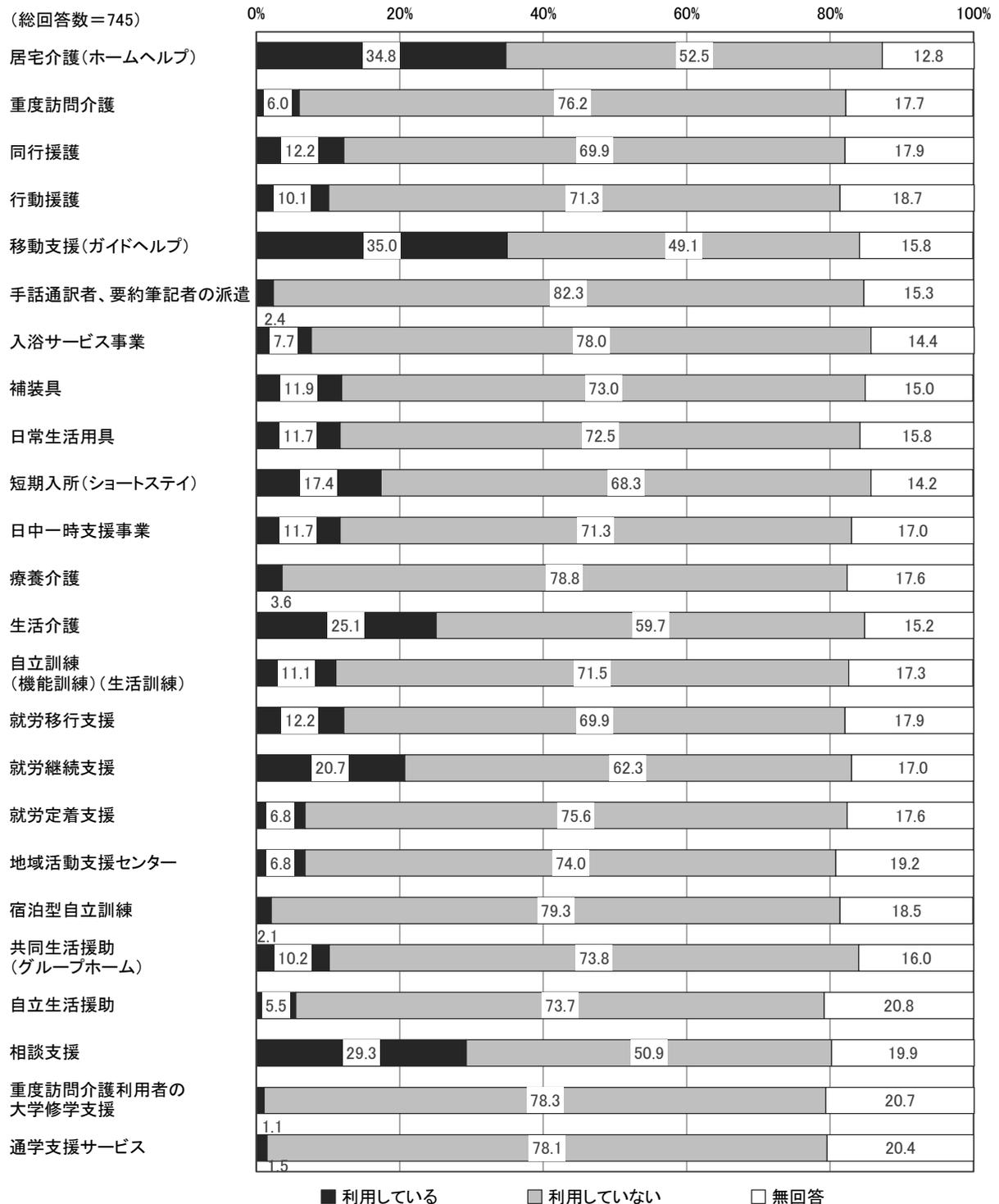
8. 福祉サービスについて

(1) 障害福祉サービスの利用状況

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

「利用している」は「移動支援（ガイドヘルプ）」が35.0%で最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が34.8%、「相談支援」29.3%となっていますが、すべてのサービスで「利用していない」が「利用している」を上回っています。

（総回答数=745）

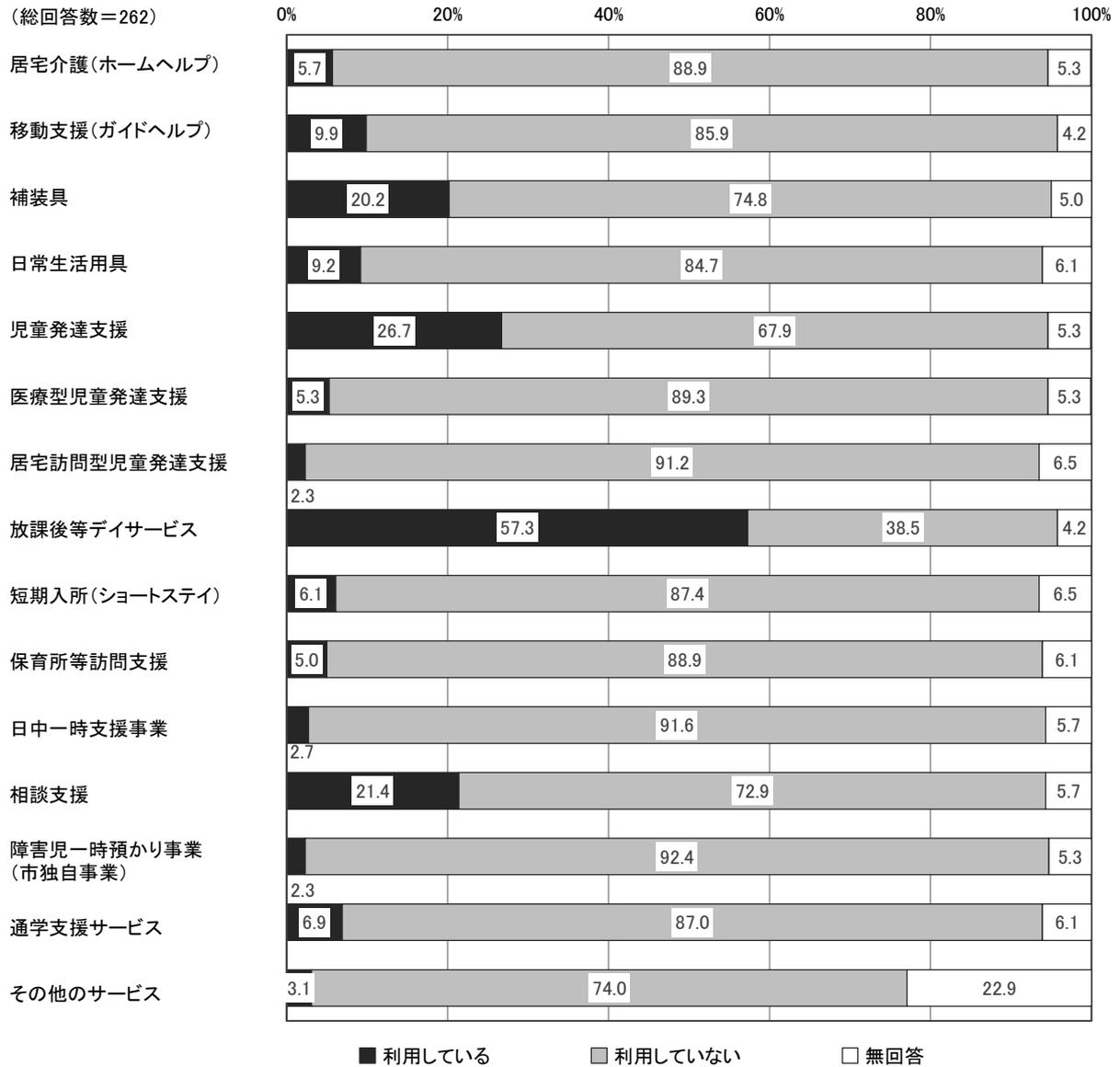


(2) 障害福祉サービスの利用状況 (18歳未満)

18歳未満の障害のある市民 (調査③)

「放課後等デイサービス」は「利用している」が57.3%と最も多いですが、その他のすべてのサービスでは「利用していない」が「利用している」を上回っています。

(総回答数=262)

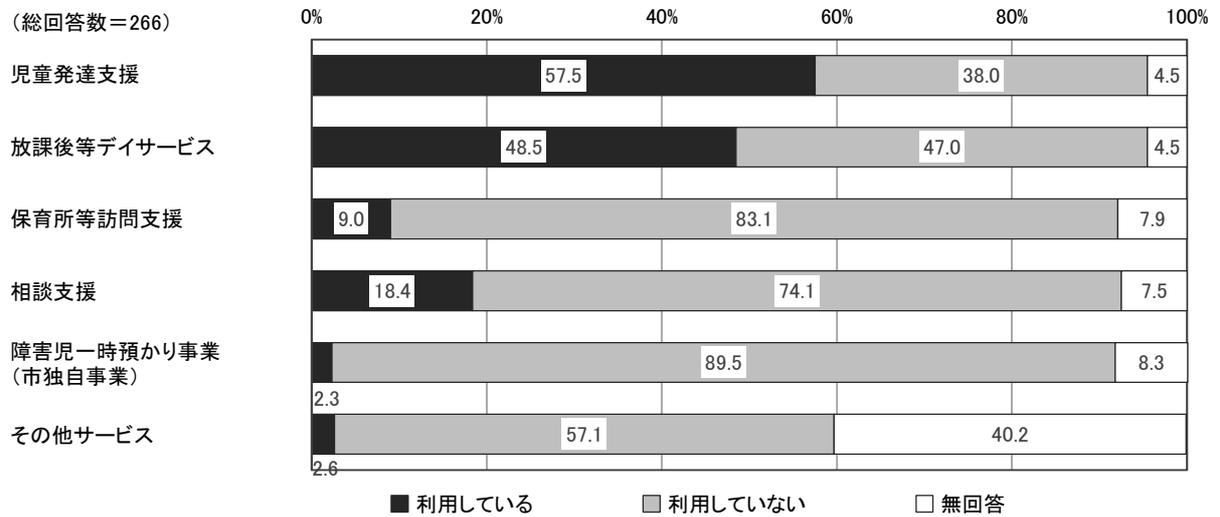


(3) 障害福祉サービスの利用状況（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

「利用している」は「児童発達支援」が 57.5%で最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が 48.5%、「相談支援」が 18.4%となっています。

(総回答数=266)

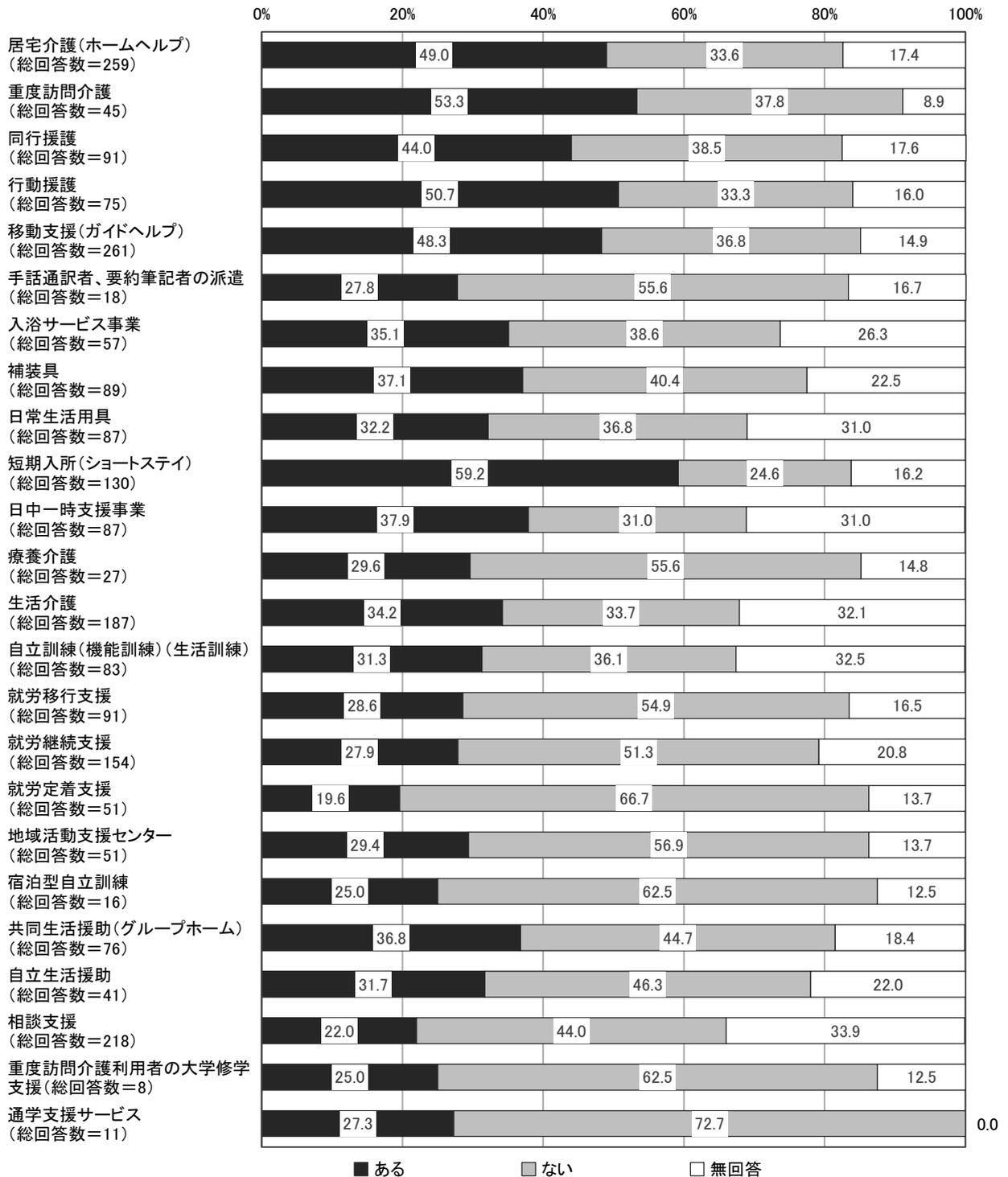


(4) 利用サービスの不満点の有無

*『(1) 障害福祉サービスの利用状況』で「1. 利用している」と回答された方

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、24種のサービスのうち、「短期入所(ショートステイ)」、「行動援護」などを筆頭に8種のサービスにおいて、不満が「ある」が「ない」を上回っています。



(5) 利用サービスの不満内容〔複数回答(3つまで選択)〕

*『(4) 利用サービスの不満点の有無』で「1. ある」と回答された方

18歳以上の障害福祉サービス利用者(調査①)

	全体(人)	身近なところでサービスを利用できない	利用したい日・時間に利用できない	利用回数・時間などに制限がある	サービス事業所に利用を断られることが多い	利用料が高い	ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している	建物や設備が障害に配慮されていない	少ないサービス内容に関する情報が	相談や手続きに時間がかかり面倒くさい	その他	無回答
居宅介護(ホームヘルプ)	127	11.0	50.4	55.9	11.8	3.9	31.5	3.9	13.4	10.2	7.1	1.6
重度訪問介護	24	20.8	45.8	45.8	8.3	4.2	29.2	8.3	12.5	12.5	16.7	4.2
同行援護	40	20.0	60.0	42.5	10.0	15.0	20.0	17.5	10.0	7.5	10.0	2.5
行動援護	38	13.2	50.0	42.1	18.4	5.3	15.8	5.3	23.7	7.9	5.3	2.6
移動支援(ガイドヘルプ)	126	10.3	52.4	49.2	8.7	5.6	25.4	9.5	20.6	6.3	3.2	2.4
手話通訳者、要約筆記者の派遣	5	40.0	40.0	40.0	-	-	40.0	20.0	-	-	40.0	-
入浴サービス事業	20	15.0	50.0	45.0	10.0	5.0	20.0	5.0	5.0	5.0	10.0	5.0
補装具	33	6.1	6.1	21.2	3.0	30.3	9.1	3.0	18.2	54.5	6.1	6.1
日常生活用具	28	7.1	14.3	28.6	3.6	21.4	3.6	3.6	10.7	53.6	14.3	3.6
短期入所(ショートステイ)	77	13.0	55.8	29.9	11.7	10.4	28.6	6.5	18.2	13.0	10.4	3.9
日中一時支援事業	33	30.3	57.6	24.2	12.1	6.1	24.2	6.1	21.2	12.1	3.0	6.1
療養介護	8	12.5	12.5	25.0	-	12.5	37.5	-	-	-	12.5	25.0
生活介護	64	15.6	21.9	40.6	1.6	12.5	46.9	10.9	21.9	9.4	17.2	1.6
自立訓練(機能訓練)(生活訓練)	26	23.1	38.5	42.3	-	11.5	23.1	7.7	11.5	3.8	3.8	3.8
就労移行支援	26	15.4	15.4	19.2	-	19.2	30.8	15.4	34.6	11.5	19.2	3.8
就労継続支援	43	14.0	18.6	25.6	2.3	18.6	44.2	16.3	23.3	11.6	18.6	2.3
就労定着支援	10	20.0	60.0	40.0	-	-	20.0	10.0	-	10.0	30.0	-
地域活動支援センター	15	20.0	53.3	33.3	-	-	13.3	20.0	26.7	13.3	13.3	6.7
宿泊型自立訓練	4	25.0	25.0	50.0	-	25.0	-	50.0	75.0	-	25.0	-
共同生活援助(グループホーム)	28	3.6	10.7	10.7	-	28.6	57.1	14.3	28.6	3.6	21.4	7.1
自立生活援助	13	23.1	38.5	53.8	-	7.7	46.2	-	15.4	-	7.7	-
相談支援	48	18.8	18.8	8.3	2.1	-	33.3	-	33.3	25.0	14.6	4.2
重度訪問介護利用者の大学修学支援	2	-	50.0	100.0	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-
通学支援サービス	3	-	66.7	33.3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-

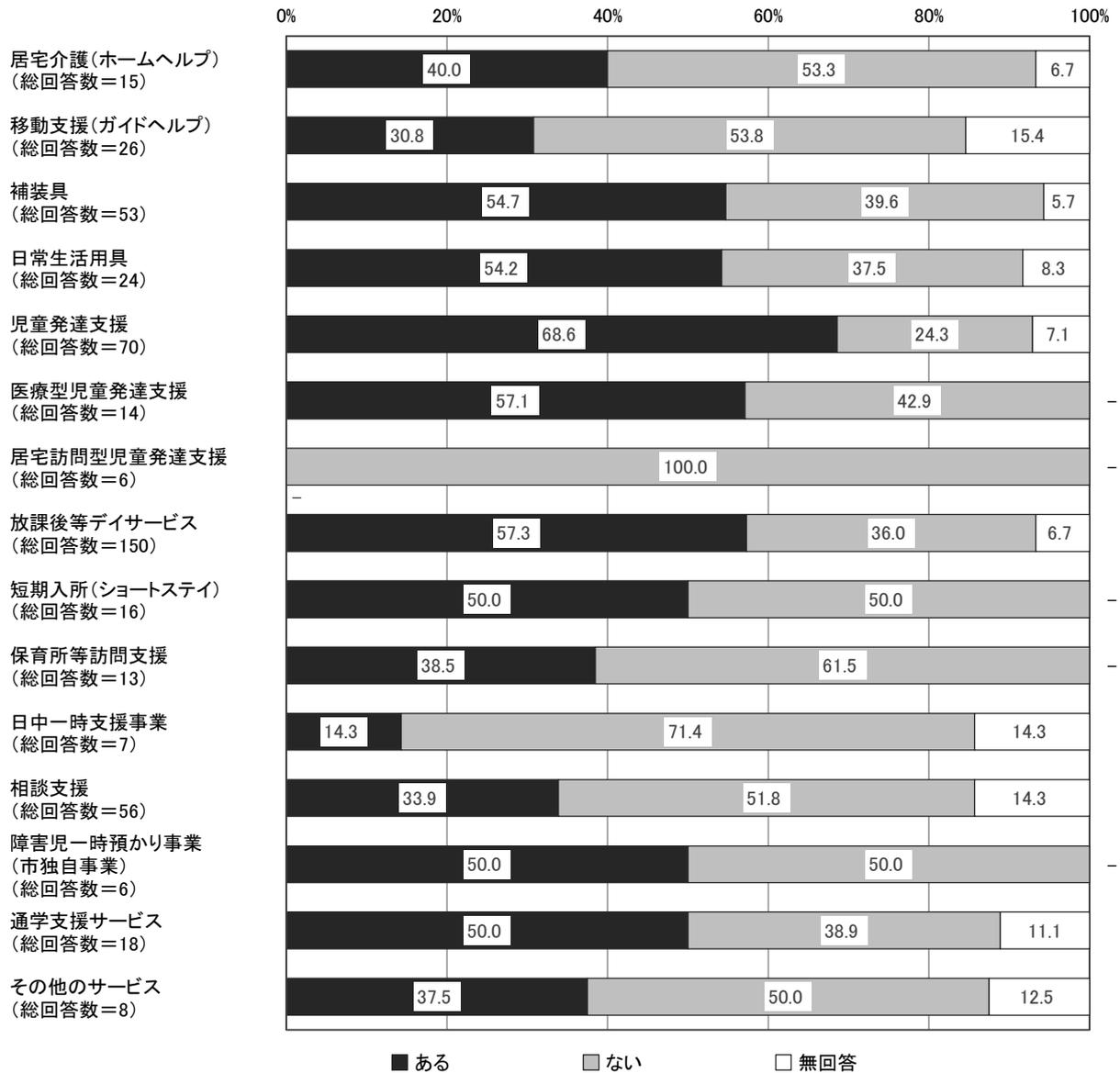
(6) 利用サービスの不満点の有無 (18 歳未満)

* 『(2) 障害福祉サービスの利用状況 (18 歳未満)』で「1. 利用している」と回答された方

18 歳未満の障害のある市民 (調査③)

18 歳未満の障害のある市民では、15 種のサービスのうち、「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」などを筆頭に6種のサービスにおいて、不満が「ある」が「ない」を上回っています。

※総回答数が 10 サンプル未満のサービスを除く。



(7) 利用サービスの不満内容 (18 歳未満) [複数回答 (3 つまで選択)]

* 『(6) 利用サービスの不満点の有無 (18 歳未満)』で「1. ある」と回答された方

18 歳未満の障害のある市民 (調査③)

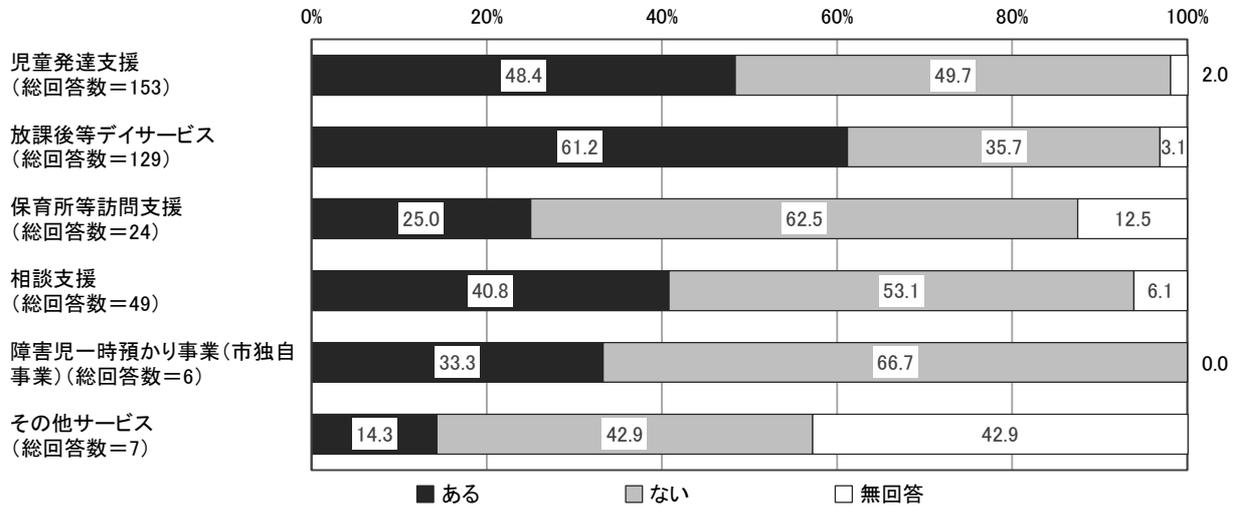
	全体 (人)	身 近 な と こ ろ で サ ー ビ ス を 利 用 し な い	利 用 し た い 日 ・ 時 間 に 利 用 で き な い	利 用 回 数 ・ 時 間 な ど に 制 限 が あ る	サ ー ビ ス 事 業 所 に 利 用 を 断 ら れ る こ と が 多 い	利 用 料 が 高 い	ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している	建物や設備が障害に配慮されていない	少ないサービス内容に関する情報が少ない	相談や手続きに時間がかかり面倒くさい	その他	無回答
居宅介護(ホームヘルプ)	6	-	16.7	33.3	-	16.7	33.3	-	16.7	16.7	16.7	16.7
移動支援(ガイドヘルプ)	8	-	37.5	62.5	12.5	25.0	50.0	-	-	25.0	-	-
補装具	29	6.9	6.9	6.9	-	31.0	3.4	-	27.6	65.5	13.8	-
日常生活用具	13	-	7.7	7.7	7.7	38.5	7.7	-	38.5	46.2	7.7	7.7
児童発達支援	48	33.3	45.8	56.3	2.1	8.3	25.0	2.1	20.8	18.8	2.1	2.1
医療型児童発達支援	8	25.0	25.0	62.5	12.5	-	12.5	-	12.5	37.5	-	-
居宅訪問型児童発達支援	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
放課後等デイサービス	86	22.1	41.9	52.3	10.5	14.0	32.6	2.3	17.4	9.3	8.1	3.5
短期入所(ショートステイ)	8	37.5	62.5	37.5	12.5	25.0	12.5	-	37.5	12.5	12.5	-
保育所等訪問支援	5	20.0	-	60.0	-	-	-	-	40.0	40.0	-	-
日中一時支援事業	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-
相談支援	19	31.6	31.6	26.3	5.3	-	10.5	-	26.3	47.4	5.3	5.3
障害児一時預かり事業(市独自事業)	3	33.3	100.0	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
通学支援サービス	9	11.1	11.1	33.3	11.1	11.1	33.3	-	11.1	11.1	33.3	-
その他のサービス	3	-	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-

(8) 利用サービスの不満点の有無（児童）

* 『(3) 障害福祉サービスの利用状況（児童）』で「1.利用している」と回答された方

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「放課後等デイサービス」で不満が「ある」が「ない」を上回っています。※総回答数が10サンプル未満のサービスを除く。



(9) 利用サービスの不満内容（児童）〔複数回答（3つまで選択）〕

* 『(8) 利用サービスの不満点の有無（児童）』で「1.ある」と回答された方

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

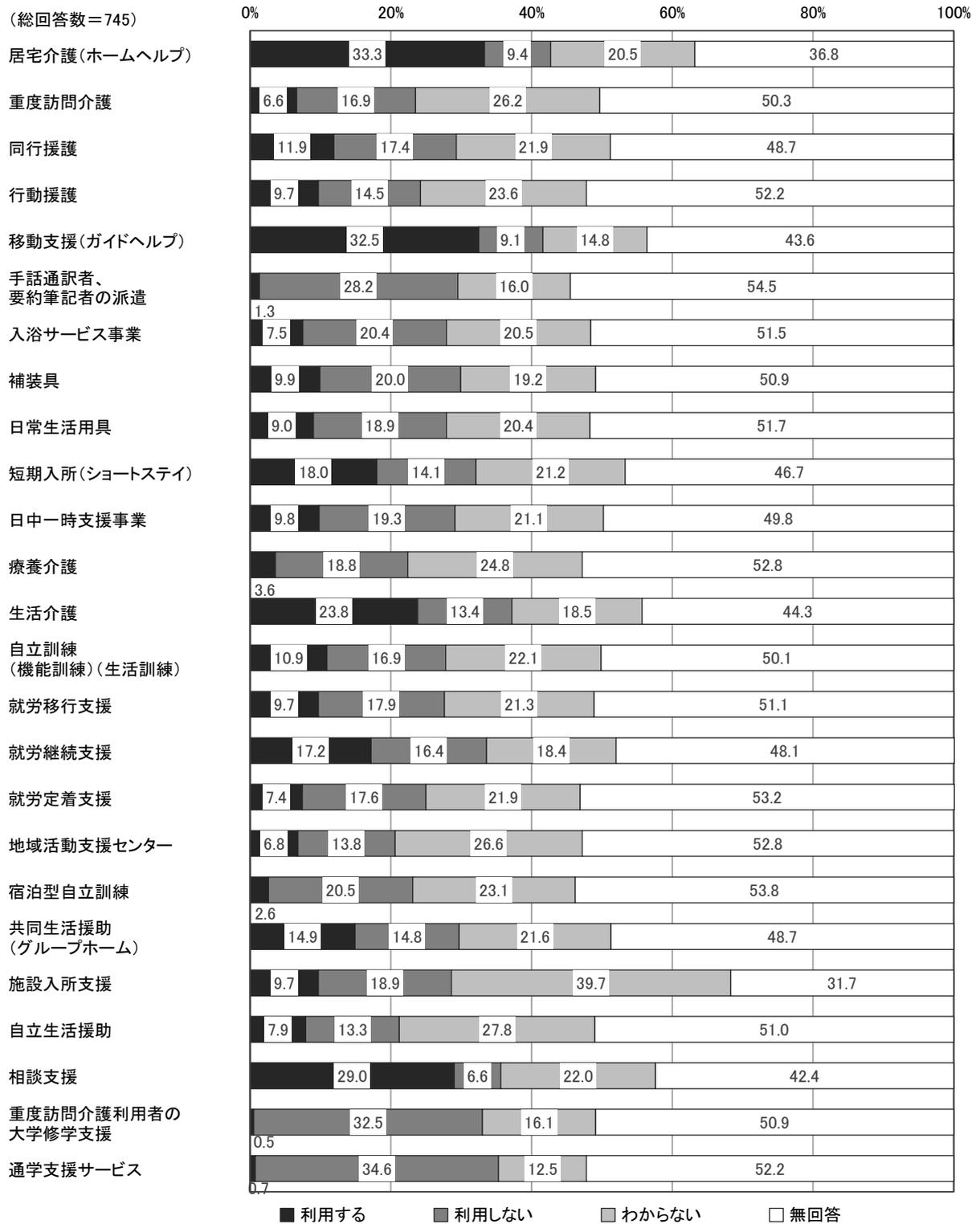
	全体（人）	身近なところでサービスを利用できない	利用したい日・時間に利用できない	利用回数・時間などに制限がある	事業所に利用を断られることが多い	利用料が高い	指導員など支援者の知識・経験が不足している	建物や設備が発達の課題に配慮されていない	サービス内容に関する情報が少ない	面談や手続きに時間がかかり面倒	その他	無回答 (%)
児童発達支援	74	35.1	40.5	35.1	4.1	4.1	23.0	4.1	36.5	13.5	10.8	1.4
放課後等デイサービス	79	35.4	35.4	25.3	7.6	5.1	31.6	7.6	34.2	11.4	15.2	1.3
保育所等訪問支援	6	16.7	16.7	33.3	16.7	-	33.3	16.7	-	-	50.0	-
相談支援	20	20.0	30.0	10.0	-	-	15.0	-	40.0	25.0	5.0	10.0
障害児一時預かり事業(市独自事業)	2	50.0	50.0	100.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-
その他サービス	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

(10) 今後の利用希望

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「居宅介護（ホームヘルプ）」が33.3%で最も高く、「移動支援（ガイドヘルプ）」が32.5%、「相談支援」が29.0%で続いています。

（総回答数=745）

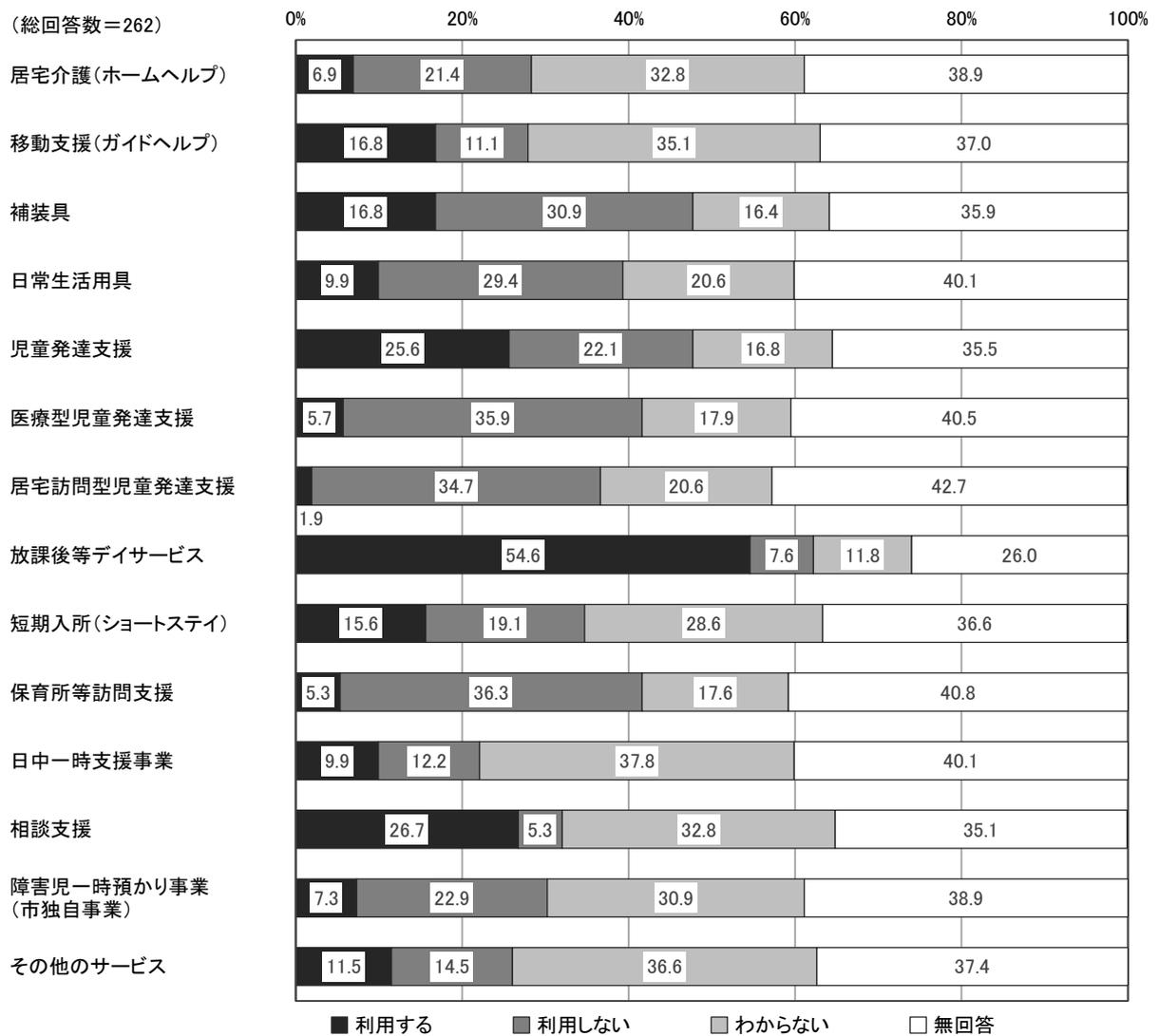


(11) 今後の利用希望 (18歳未満)

18歳未満の障害のある市民 (調査③)

18歳未満の障害のある市民では、「放課後等デイサービス」が54.6%で最も高く、「相談支援」が26.7%、「児童発達支援」が25.6%が続いています。

(総回答数=262)

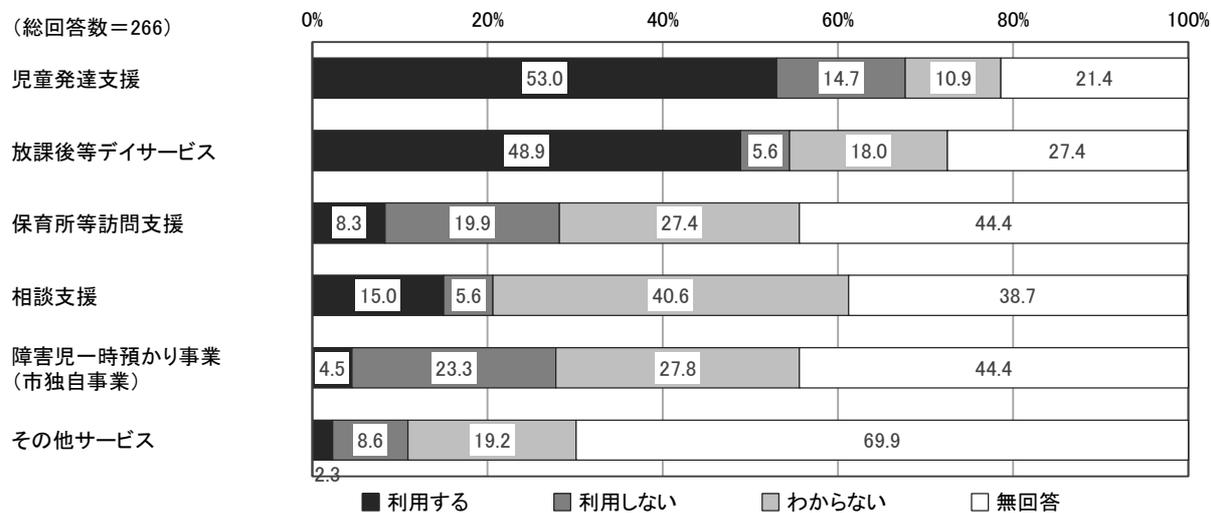


(12) 今後の利用希望（児童）

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「児童発達支援」が53.0%で最も高く、「放課後等デイサービス」が48.9%、「相談支援」が15.0%で続いています。

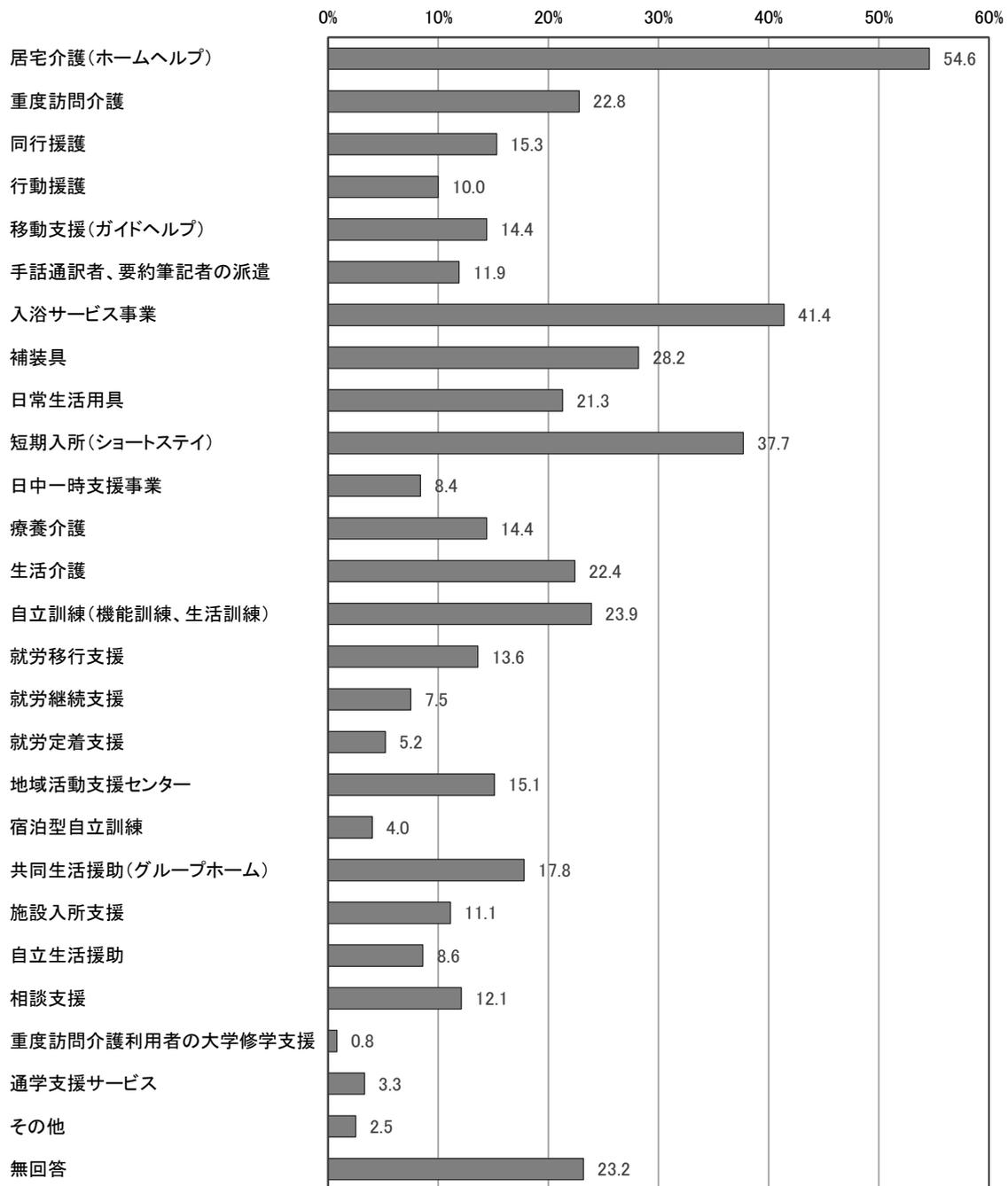
（総回答数=266）



(13) 障害福祉サービスの認知状況〔複数回答〕

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

「居宅介護（ホームヘルプ）」が54.6%で最も多く、次いで「入浴サービス事業」が41.4%、「短期入所（ショートステイ）」が37.7%となっています。



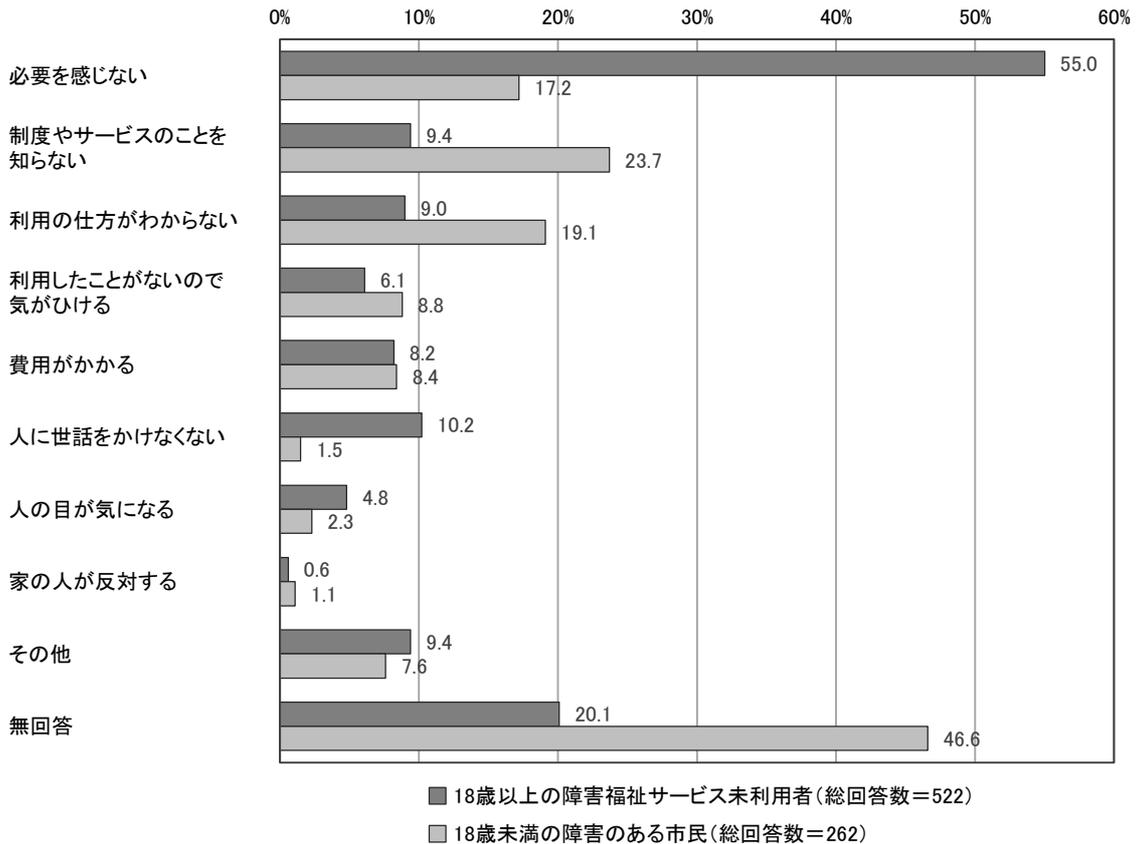
■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)

(14) 障害福祉サービスを利用しない理由〔複数回答〕

18歳以上の障害福祉サービス未利用者、18歳未満の障害のある市民（調査②③）

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「必要を感じない」が55.0%で最も多く、次いで「人に世話をかけたくない」が10.2%、「制度やサービスのことを知らない」、「その他」がいずれも9.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「制度やサービスのことを知らない」が23.7%で最も多く、次いで「利用の仕方がわからない」が19.1%、「必要を感じない」が17.2%となっています。



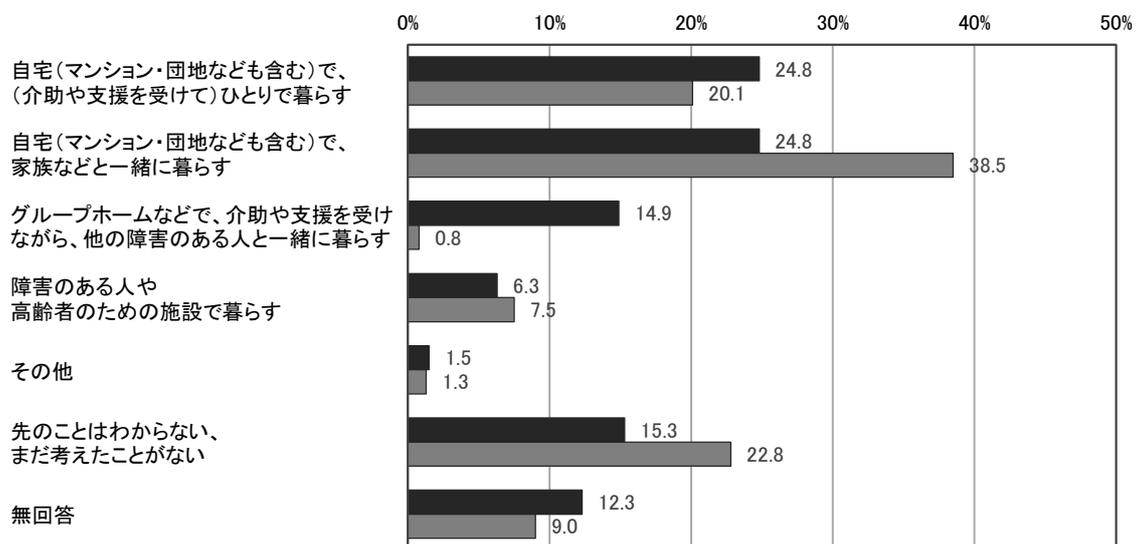
9. 将来の暮らしについて

(1) 希望する10年後の暮らし

18歳以上の障害のある市民（調査①②）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「自宅(マンション・団地なども含む)で、(介助や支援を受けて)ひとりで暮らす」、「自宅(マンション・団地なども含む)で、家族などと一緒に暮らす」がいずれも24.8%で最も多く、次いで「先のことはわからない、まだ考えたことがない」が15.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「自宅(マンション・団地なども含む)で、家族などと一緒に暮らす」が38.5%で最も多く、次いで「先のことはわからない、まだ考えたことがない」が22.8%、「自宅(マンション・団地なども含む)で、(介助や支援を受けて)ひとりで暮らす」が20.1%となっています。



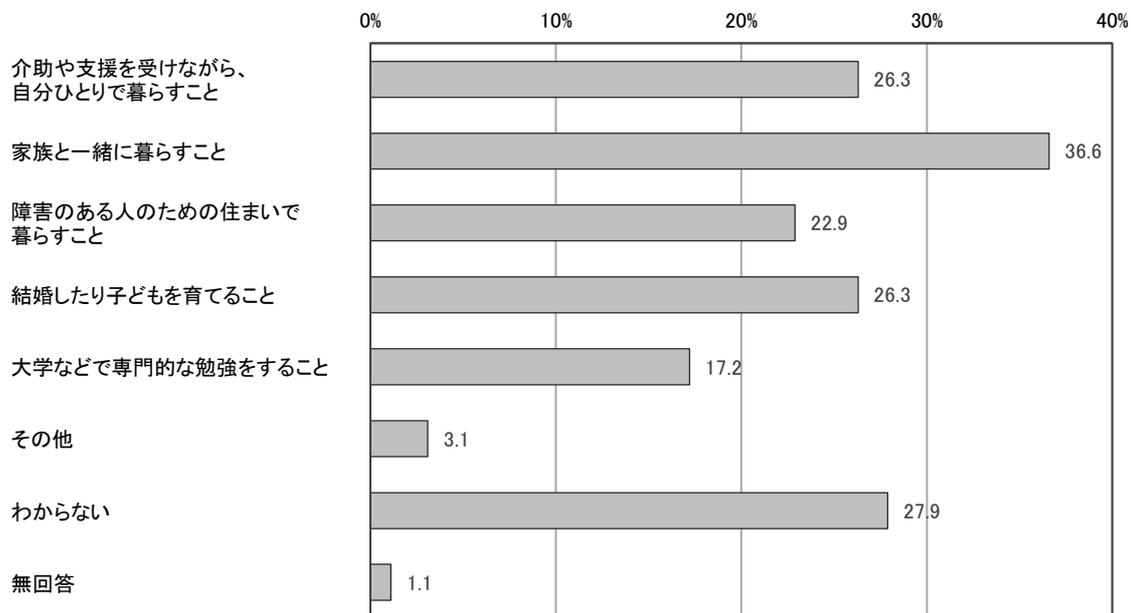
■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)

■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)

(2) 大人になったらしてみたいこと〔複数回答〕

18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「家族と一緒に暮らすこと」が36.6%で最も多く、次いで「わからない」が27.9%、「結婚したり子どもを育てること」、「介助や支援を受けながら、自分ひとりで暮らすこと」がいずれも26.3%となっています。



■ 18歳未満の障害のある市民（総回答数=262）

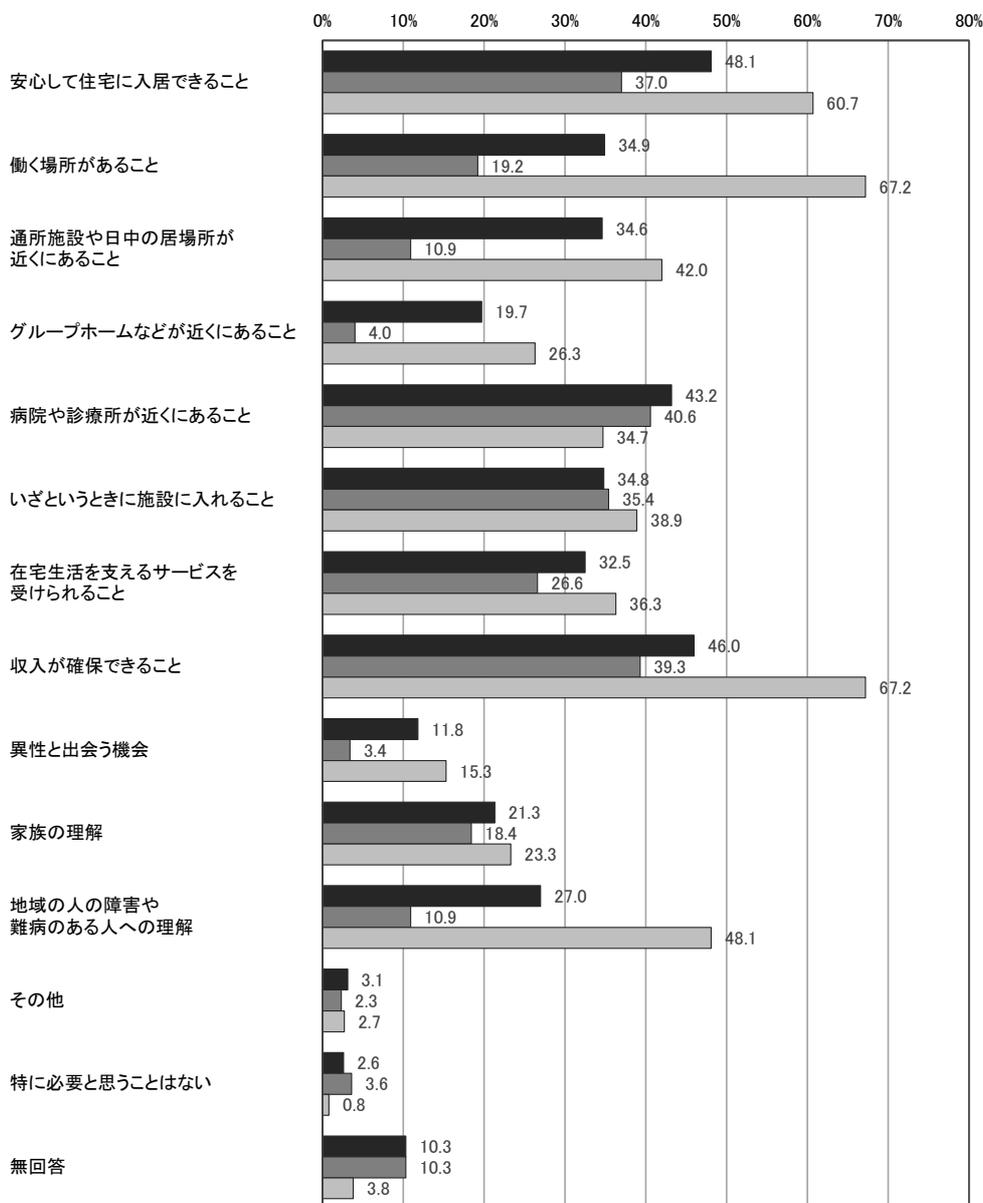
(3) 将来の希望する生活に必要なとする支援〔複数回答〕

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「安心して住宅に入居できること」が48.1%で最も多く、次いで「収入が確保できること」が46.0%、「病院や診療所が近くにあること」が43.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「病院や診療所が近くにあること」が40.6%で最も多く、次いで「収入が確保できること」が39.3%、「安心して住宅に入居できること」が37.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「収入が確保できること」、「働く場所があること」がいずれも67.2%で最も多く、次いで「安心して住宅に入居できること」が60.7%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)
 ■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

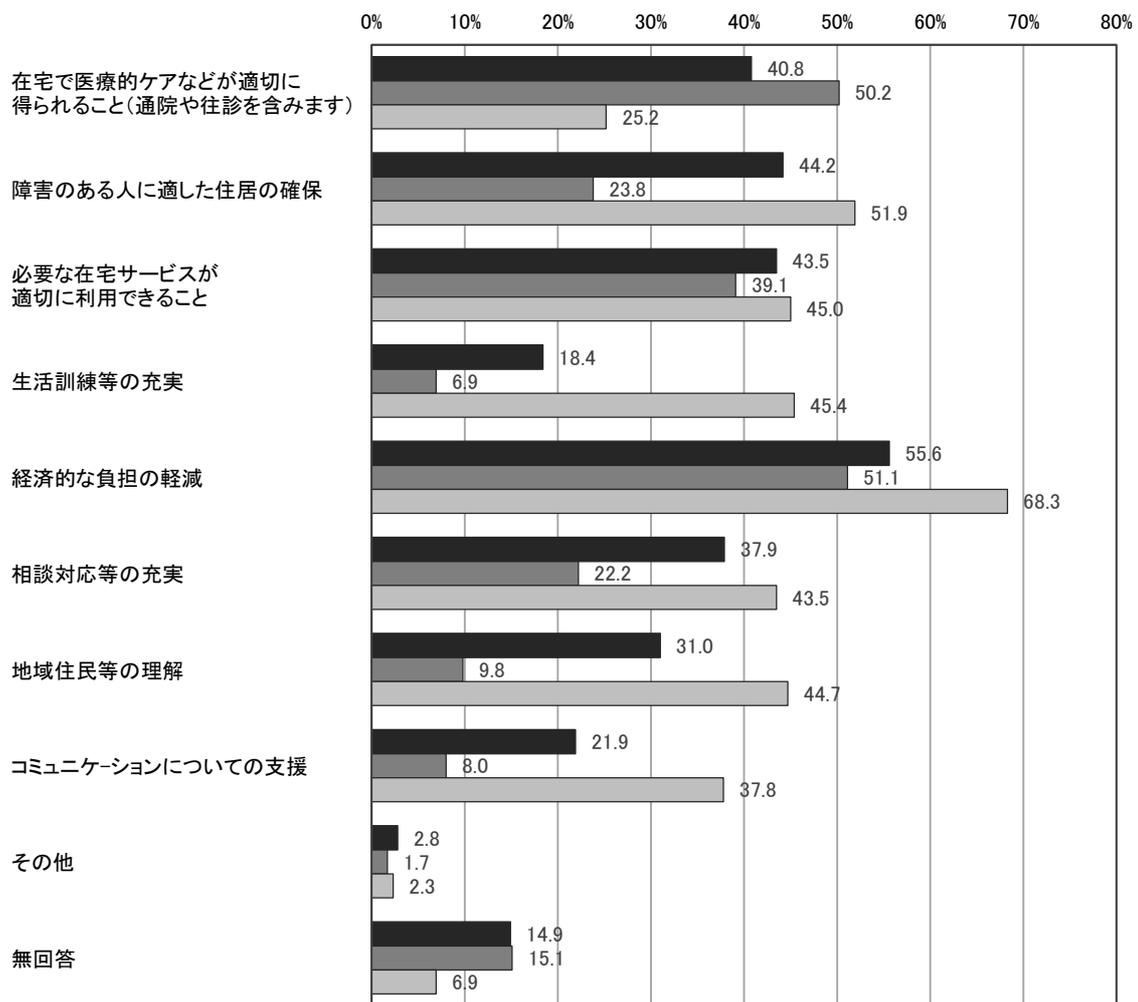
(4) 地域での生活に必要なとする支援〔複数回答〕

障害のある市民（調査①②③）

18歳以上の障害福祉サービスを利用する市民では、「経済的な負担の軽減」が55.6%で最も多く、次いで「障害のある人に適した住居の確保」が44.2%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が43.5%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「経済的な負担の軽減」が51.1%で最も多く、次いで「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含みます）」が50.2%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が39.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「経済的な負担の軽減」が68.3%で最も多く、次いで「障害のある人に適した住居の確保」が51.9%、「生活訓練等の充実」が45.4%となっています。

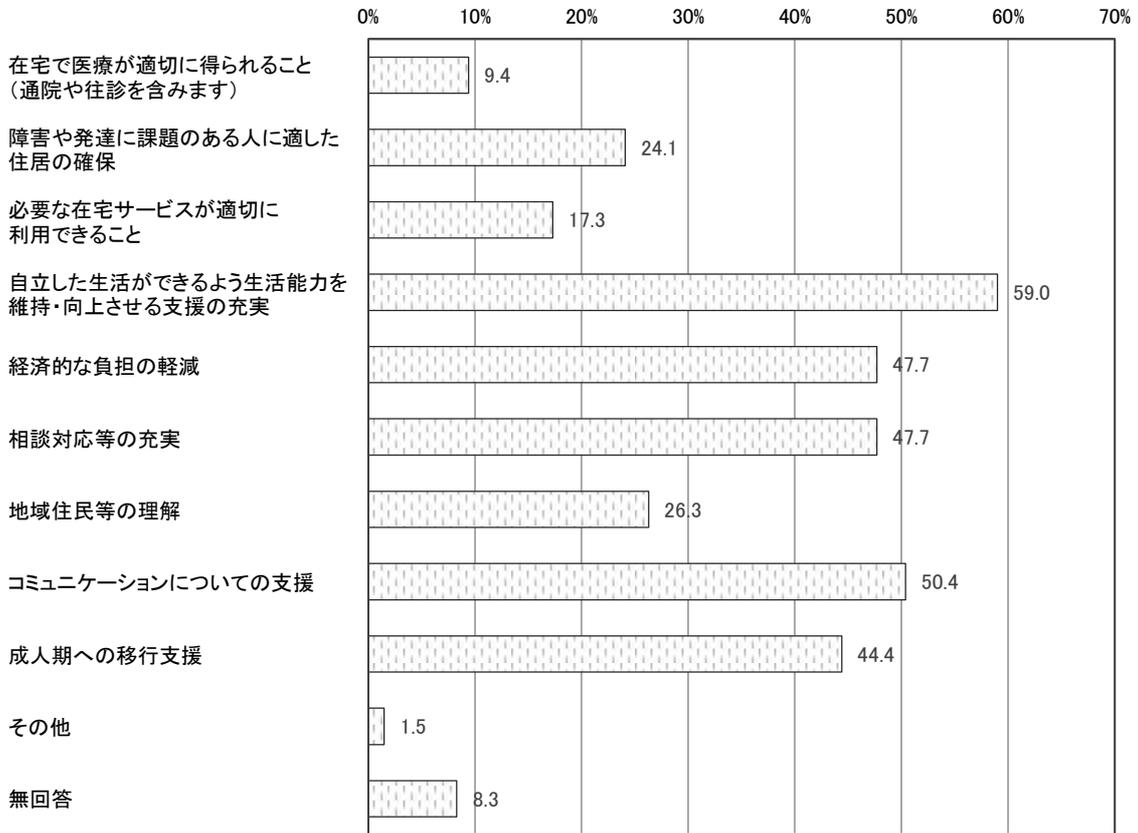


■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者(総回答数=745)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者(総回答数=522)
 ■ 18歳未満の障害のある市民(総回答数=262)

(5) 地域での生活に必要なとする支援（児童）〔複数回答〕

通所支援受給者証を持つ児童（調査⑥）

通所支援受給者証を持つ児童では、「自立した生活ができるよう生活能力を維持・向上させる支援の充実」が59.0%で最も多く、次いで「コミュニケーションについての支援」が50.4%、「経済的な負担の軽減」「相談対応等の充実」がいずれも47.7%となっています。

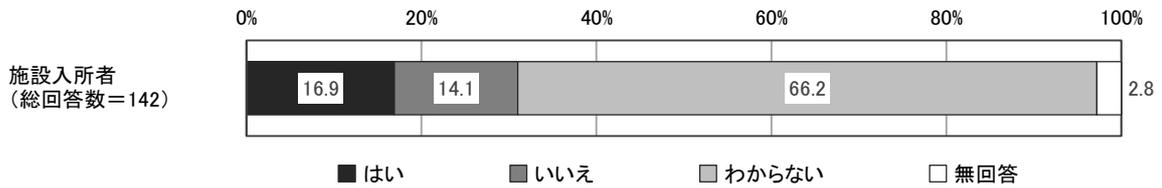


□ 通所支援受給者証を持つ児童(総回答数=266)

(6) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無

施設入所者（調査⑤）

「はい」が16.9%、「いいえ」が14.1%、「わからない」が66.2%となっています。

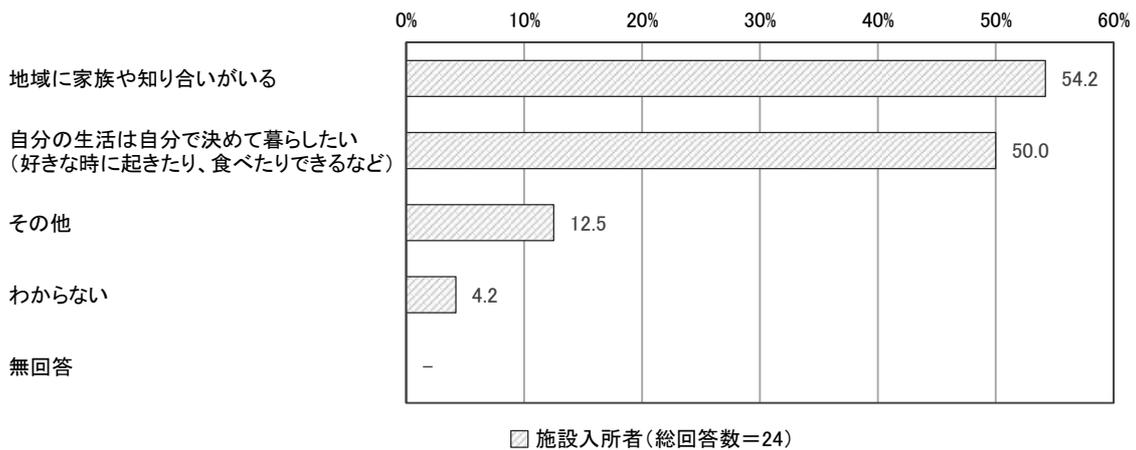


(7) 退所したい理由〔複数回答〕

* 『(6) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

施設入所者（調査⑤）

「地域に家族や知り合いがいる」が54.2%で最も多く、次いで「自分の生活は自分で決めて暮らしたい（好きな時に起きたり、食べたりできるなど）」が50.0%、「その他」が12.5%となっています。

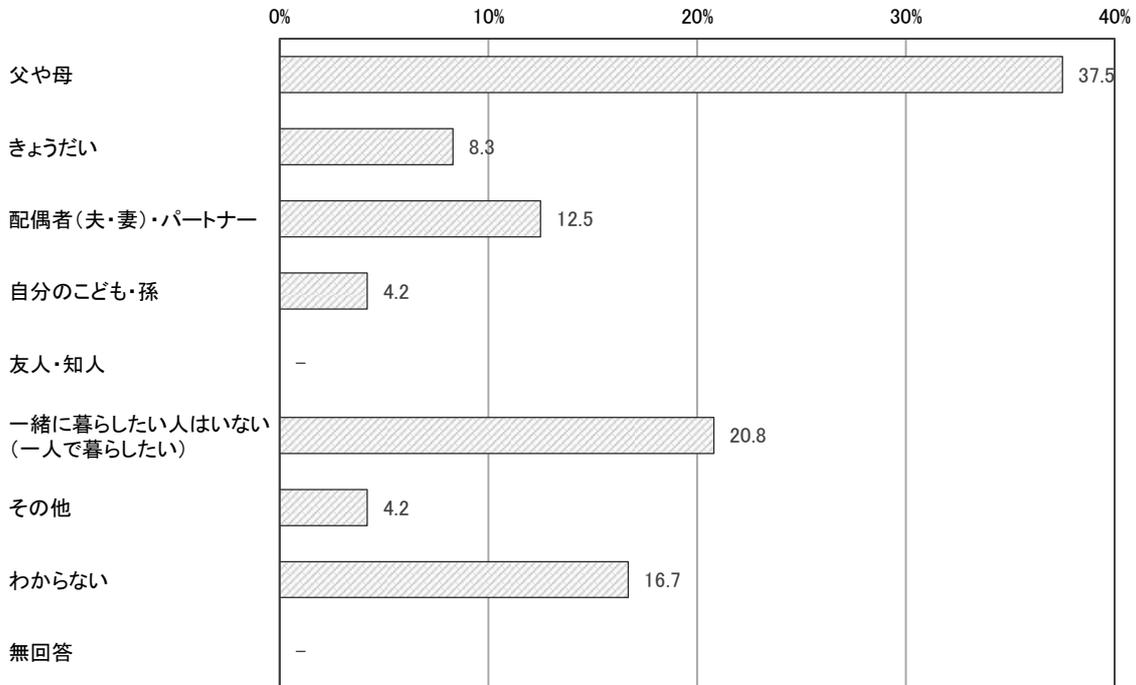


(8) 一緒に暮らしたい人〔複数回答〕

* 『(6) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

施設入所者（調査⑤）

「父や母」が 37.5%で最も多く、次いで「一緒に暮らしたい人はいない（一人で暮らしたい）」が 20.8%、「わからない」がいずれも 16.7%となっています。



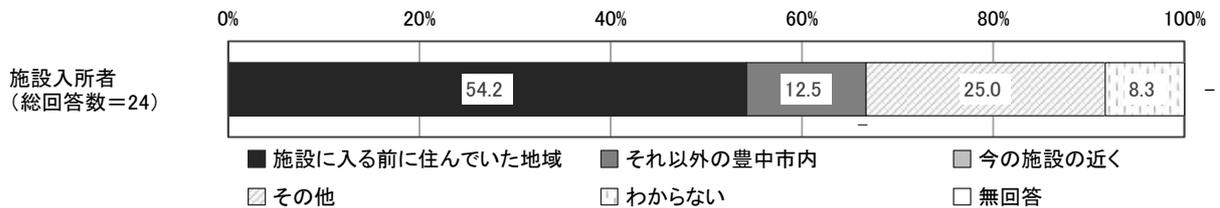
施設入所者（総回答数=24）

(9) 暮らす場所への希望

* 『(6) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

施設入所者（調査⑤）

「施設に入る前に済んでいた地域」が 54.2%で最も多く、次いで「今の施設の近く」が 25.0%、「それ以外の豊中市内」が 12.5%となっています。

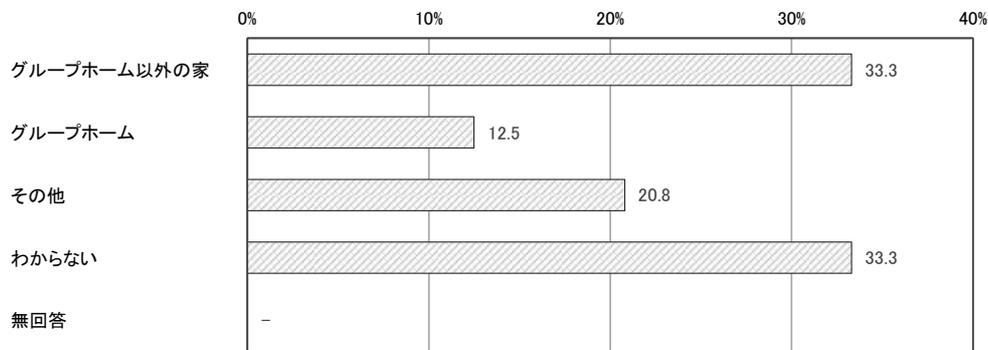


(10) 住まいへの希望

* 『(6) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

施設入所者（調査⑤）

「グループホーム以外の家」、「わからない」がいずれも 33.3%で最も多く、「その他」が 20.8%となっています。



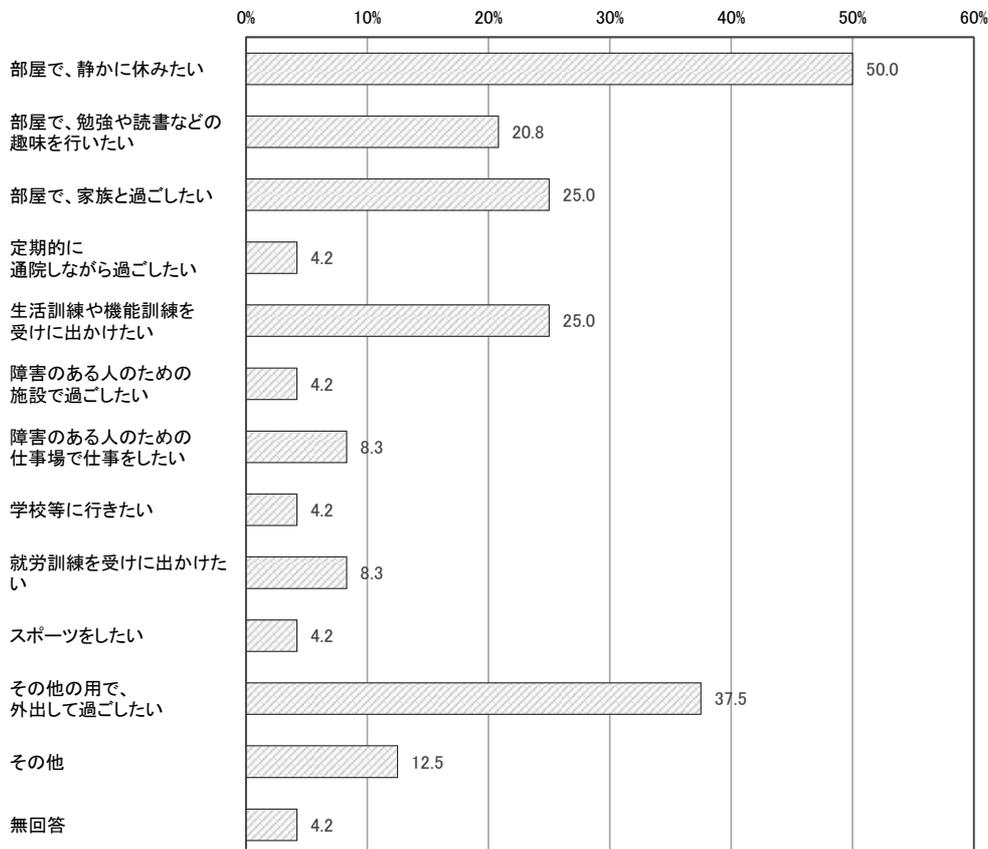
□ 施設入所者（総回答数=24）

(11) 日ごろの昼間の過ごし方への希望〔複数回答〕

* 『(6) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

施設入所者（調査⑤）

「部屋で、静かに休みたい」が 50.0%で最も多く、次いで「その他の用で、外出して過ごしたい」が 37.5%、「部屋で、家族と過ごしたい」、「生活訓練や機能訓練を受けに出かけたい」がいずれも 25.0%となっています。



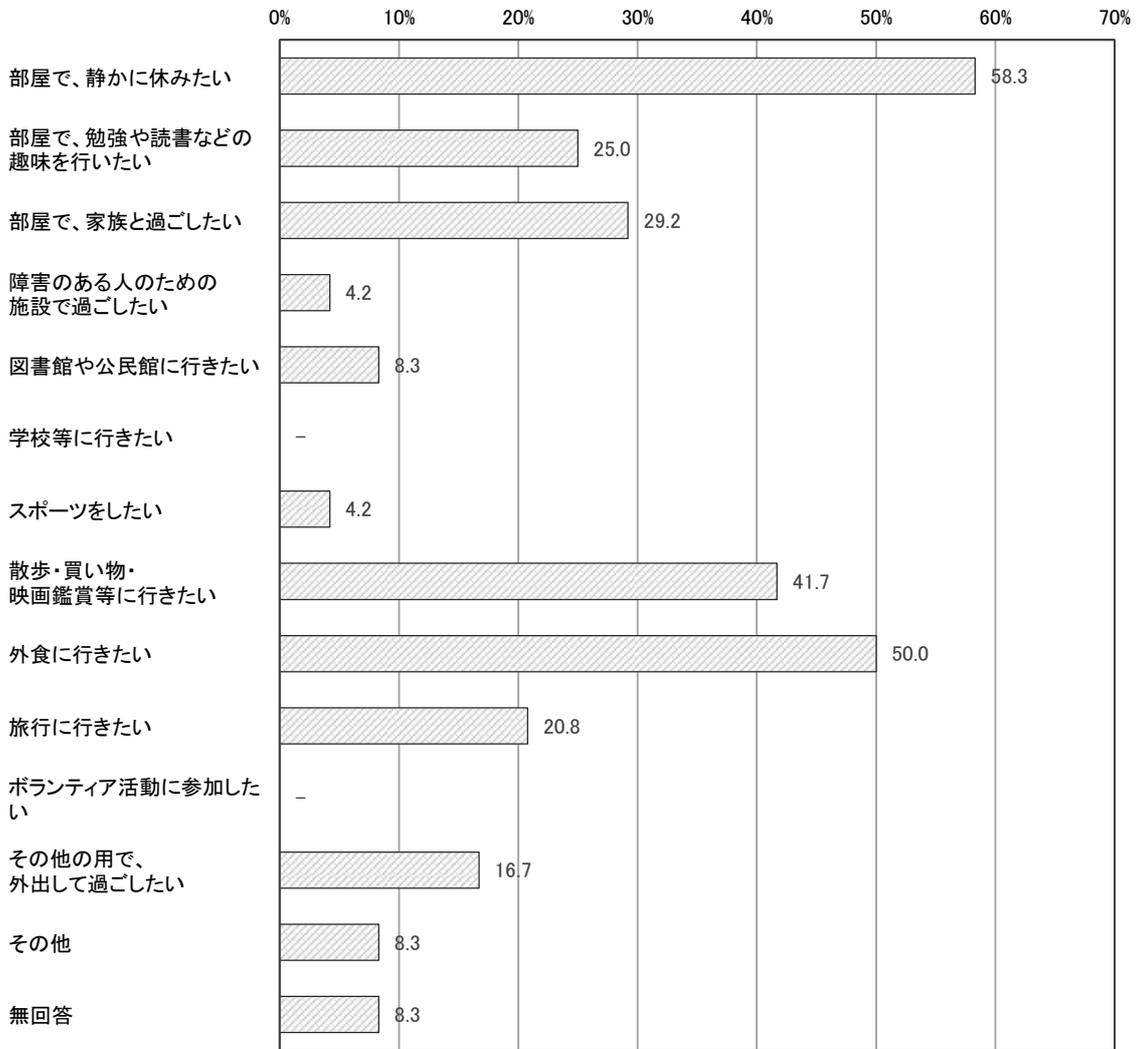
□ 施設入所者（総回答数=24）

(12) 平日の夜間や休みの日の過ごし方への希望〔複数回答〕

* 『(6) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

施設入所者（調査⑤）

「部屋で、静かに休みたい」が58.3で最も多く、次いで「外食に行きたい」が50.0%、「散歩・買い物・映画鑑賞等に行きたい」が41.7%となっています。

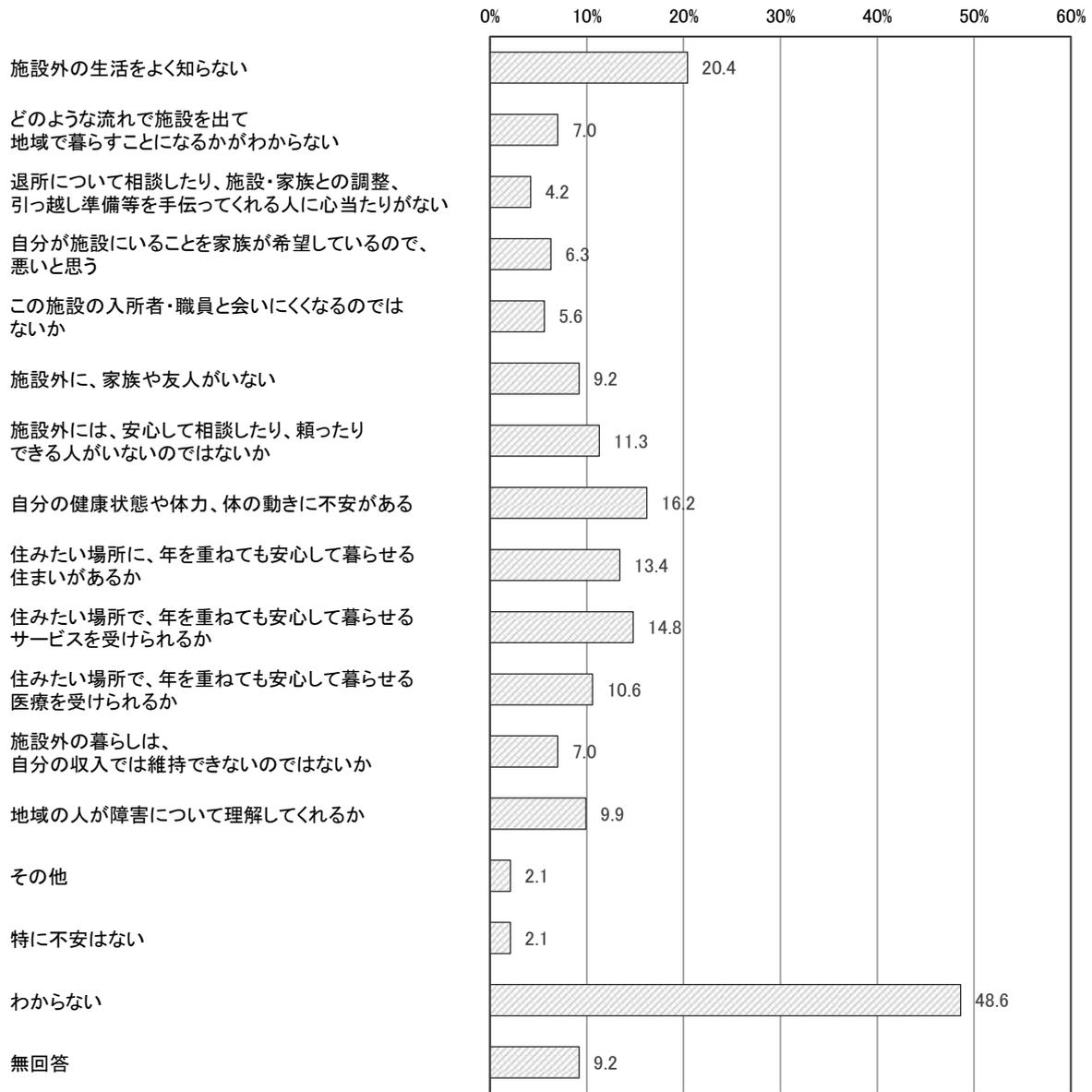


施設入所者（総回答数=24）

(13) 地域での生活に不安に思うこと〔複数回答〕

施設入所者（調査⑤）

「わからない」が48.6%で最も多く、次いで「施設外の生活をよく知らない」が20.4%、「自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある」が16.2%となっています。

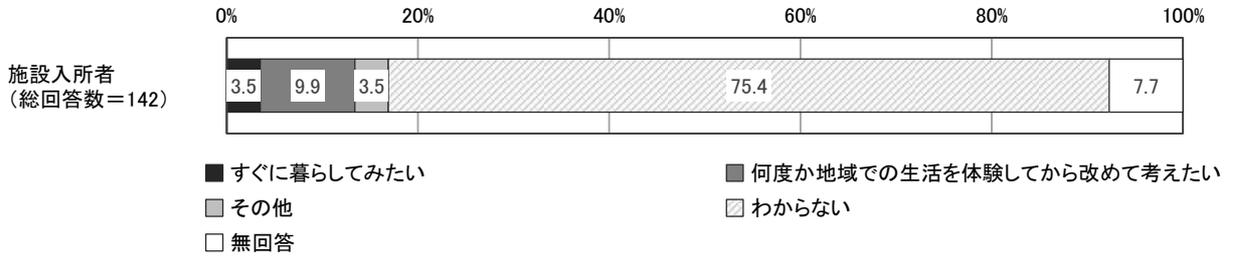


■ 施設入所者（総回答数=142）

(14) 地域生活への移行等に対する意識

施設入所者（調査⑤）

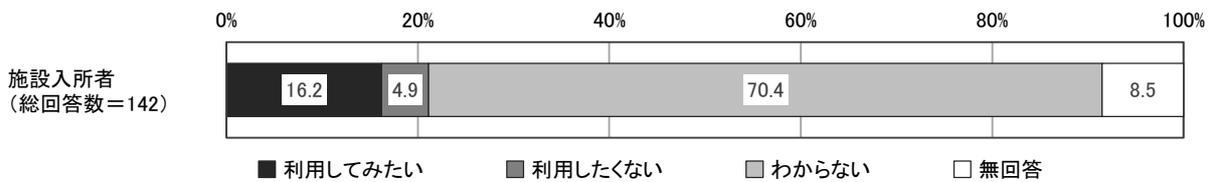
「すぐに暮らしてみたい」が3.5%、「何度か地域での生活を体験してから改めて考えたい」が9.9%、「その他」が3.5%、「わからない」が75.4%となっています。



(15) 地域移行支援の利用意向

施設入所者（調査⑤）

「利用してみたい」が16.2%、「利用したくない」が4.9%、「わからない」が70.4%となっています。

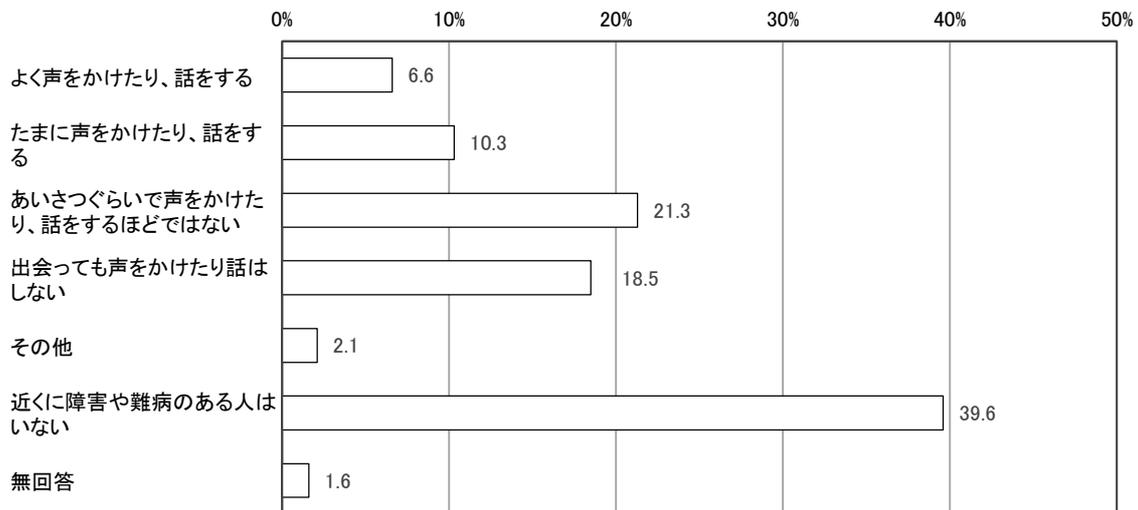


10. 障害や難病のある人に対する意識、かかわりについて

(1) 障害や難病がある人と話をする機会について〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

「近くに障害や難病のある人はいない」が39.6%で最も多く、次いで「あいさつぐらいで声をかけたり、話をするほどではない」が21.3%、「出会っても声をかけたり話ほしない」が18.5%となっています。

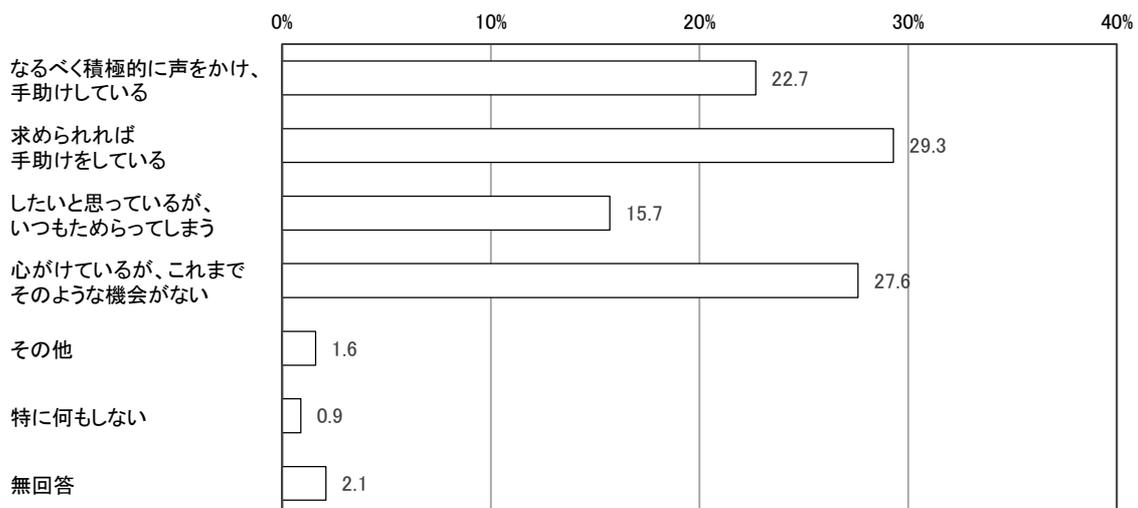


□ 18歳以上の障害のない市民(総回答数=427)

(2) 障害や難病がある人への手助けについて〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

「求められれば手助けをしている」が29.3%で最も多く、次いで「心がけているが、これまでそのような機会がない」が27.6%、「なるべく積極的に声をかけ、手助けしている」が22.7%となっています。



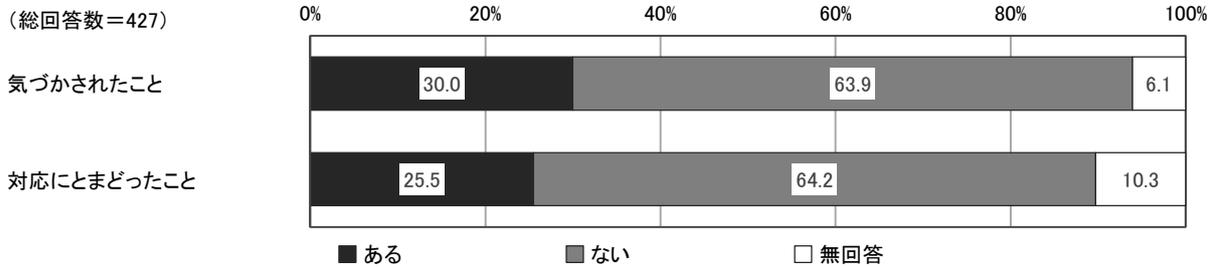
□ 18歳以上の障害のない市民(総回答数=427)

(3) 障害や難病がある人とのかかわりで気づかされたこと・対応にとまどったこと

障害のない市民（調査④）

障害や難病がある人とのかかわりで気づかされたことが「ある」は30.0%、「ない」が63.9%となっています。

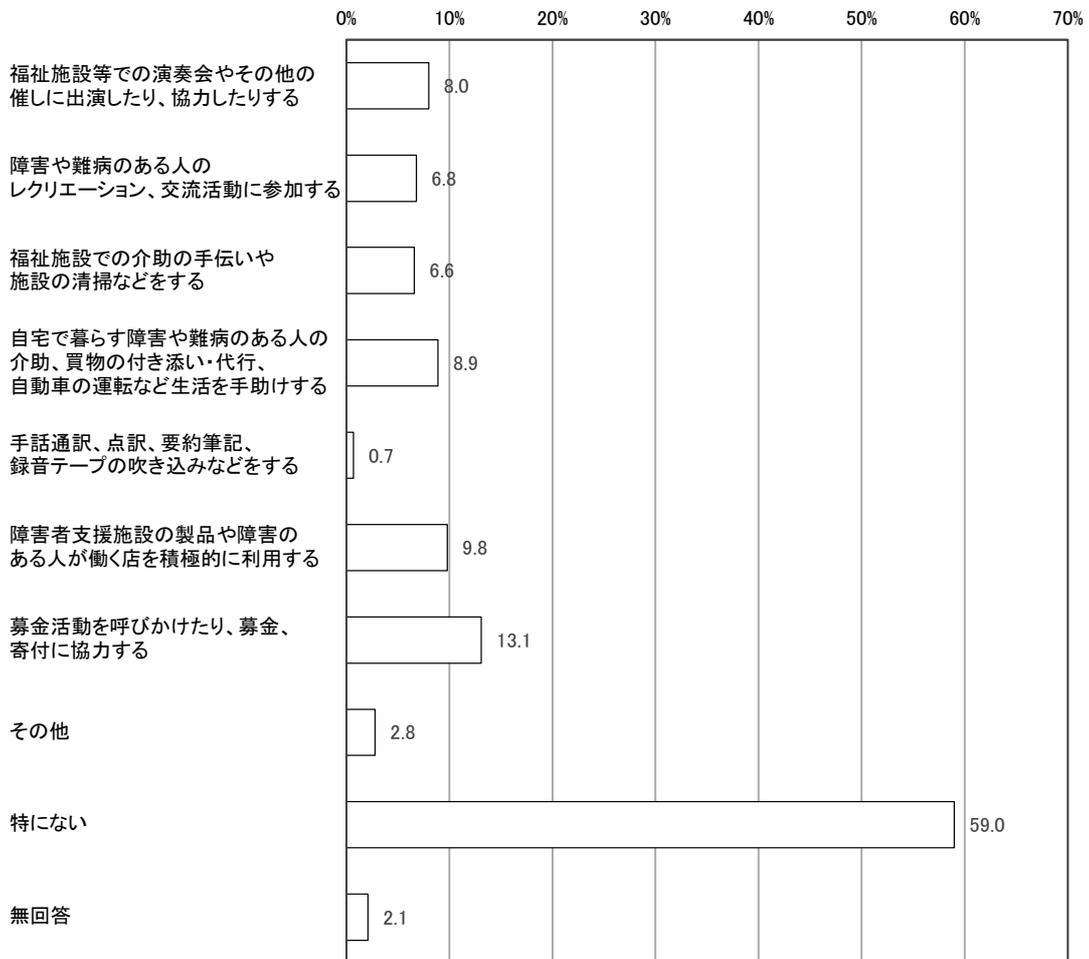
また、対応にとまどったことが「ある」は25.5%、「ない」は64.2%となっています。



(4) 障害や難病のある人への支援活動への参加状況〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

「特にない」が59.0%で最も多く、次いで「募金活動と呼びかけたり、募金、寄付に協力する」が13.1%、「障害者支援施設の製品や障害のある人が働く店を積極的に利用する」が9.8%となっています。

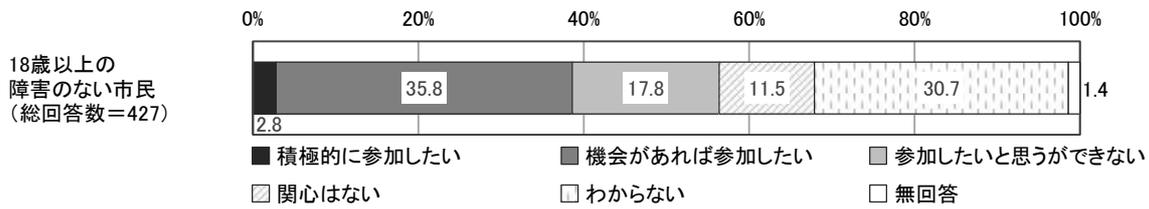


□ 18歳以上の障害のない市民(総回答数=427)

(5) 支援活動への参加意向

障害のない市民（調査④）

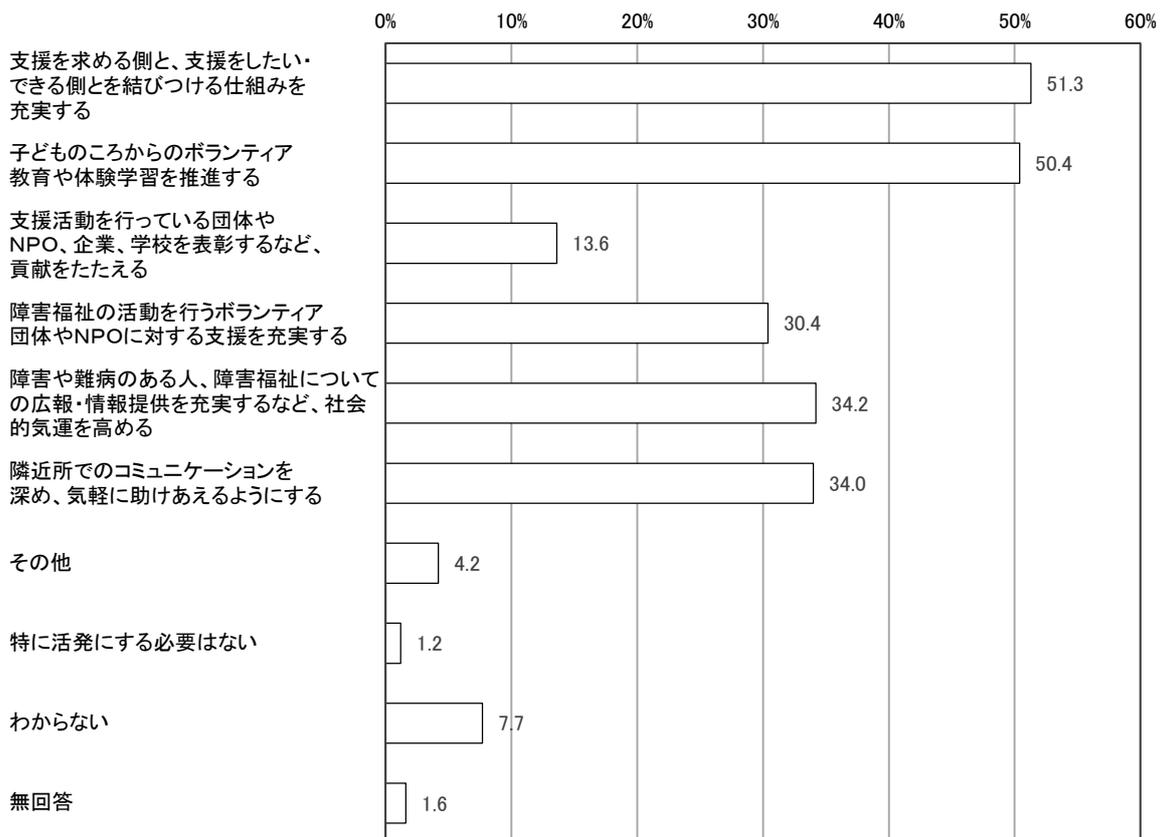
「積極的に参加したい」が2.8%、「機会があれば参加したい」が35.8%、「参加したいと思うができない」が17.8%、「関心はない」が11.5%、「わからない」が30.7%となっています。



(6) 支援活動を活発にするために必要なこと〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

「支援を求める側と、支援をしたい・できる側とを結びつける仕組みを充実する」が51.3%で最も多く、次いで「子どものころからのボランティア教育や体験学習を推進する」が50.4%、「障害や難病のある人、障害福祉についての広報・情報提供を充実するなど、社会的気運を高める」が34.2%となっています。

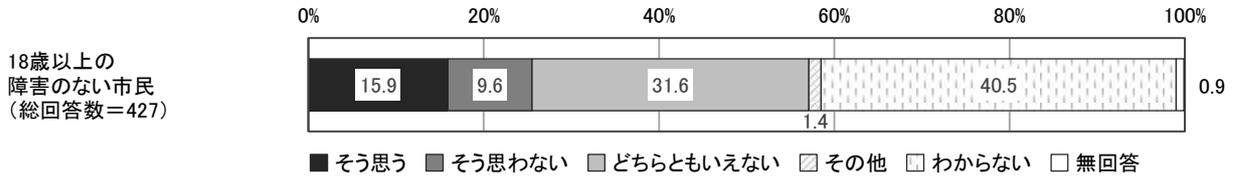


□ 18歳以上の障害のない市民(総回答数=427)

(7) 障害や難病にある人にとって暮らしやすいまちと思うか

障害のない市民（調査④）

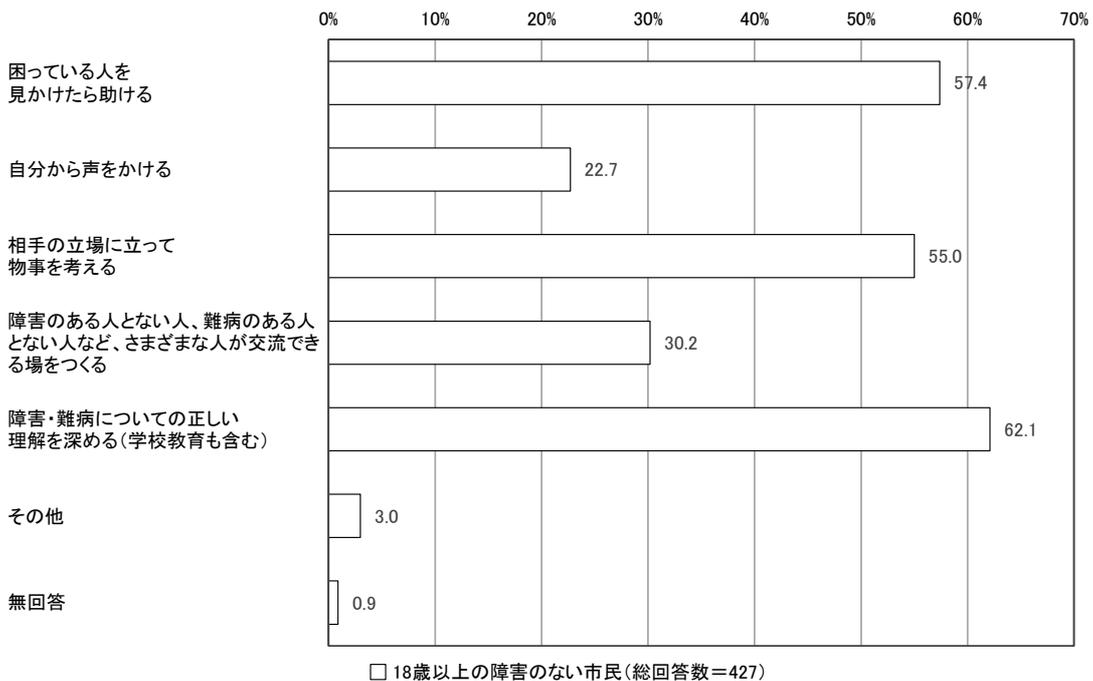
「そう思う」が15.9%、「そう思わない」が9.6%、「どちらともいえない」が31.6%、「その他」が1.4%、「わからない」が40.5%となっています。



(8) 暮らしやすいまちにするために必要だと思うこと（行動）〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

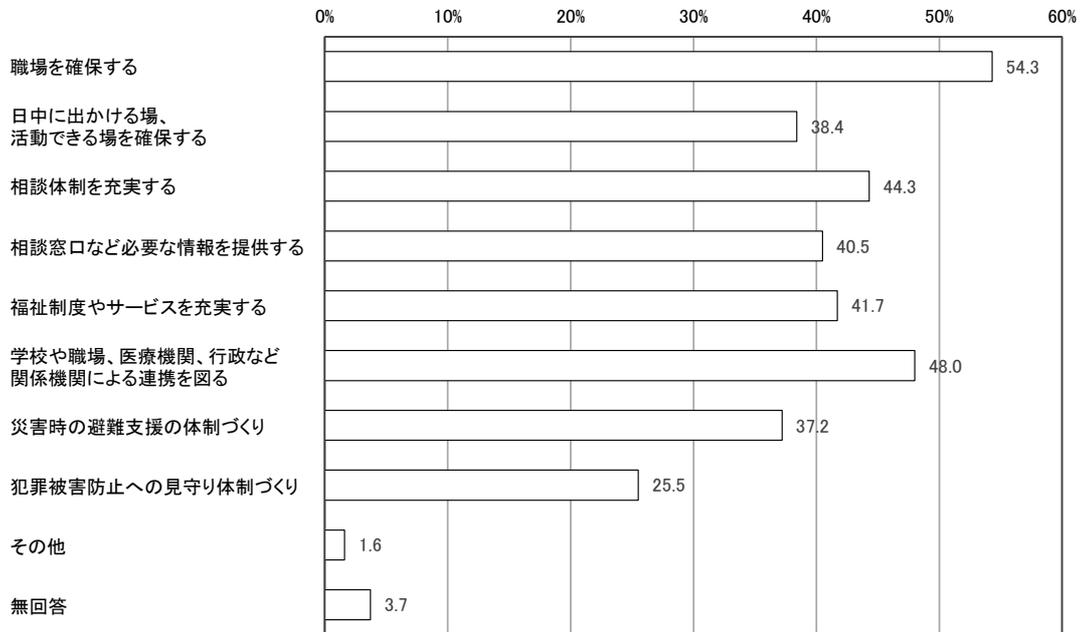
暮らしやすいまちするために必要だと思う行動は、「障害・難病についての正しい理解を深める（学校教育も含む）」が62.1%で最も多く、次いで「困っている人を見かけたら助ける」が57.4%、「相手の立場に立って物事を考える」が55.0%となっています。



(9) 暮らしやすいまちにするために必要だと思うこと（社会）〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

暮らしやすいまちにするために必要だと思う社会は、「職場を確保する」が54.3%で最も多く、次いで「学校や職場、医療機関、行政など関係機関による連携を図る」が48.0%、「相談体制を充実する」が44.3%となっています。

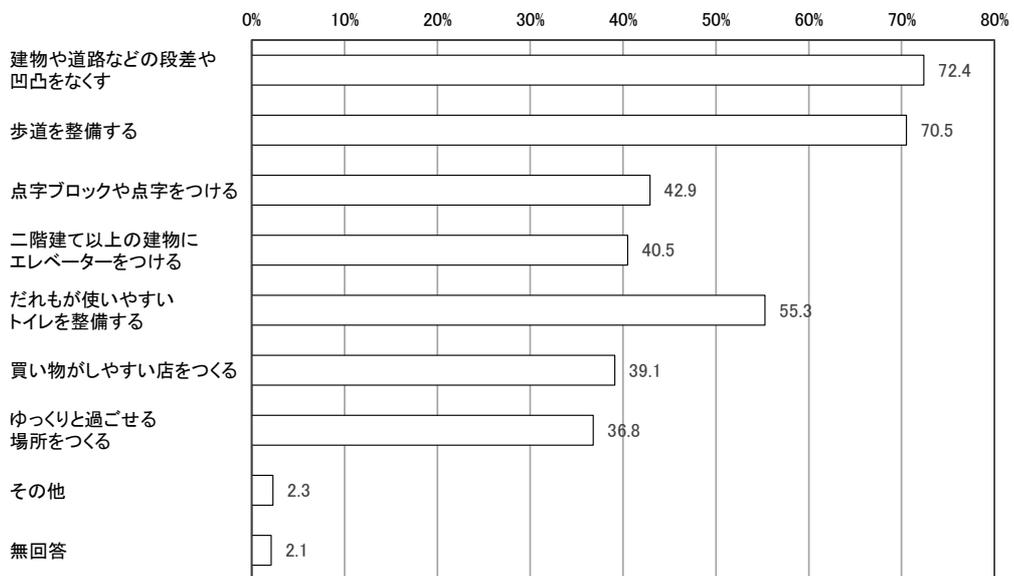


□ 18歳以上の障害のない市民（総回答数=427）

(10) 暮らしやすいまちにするために必要だと思うこと（環境）〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

暮らしやすいまちにするために必要だと思う環境は、「建物や道路などの段差や凹凸をなくす」が72.4%で最も多く、次いで「歩道を整備する」が70.5%、「だれもが使いやすいトイレを整備する」が55.3%となっています。

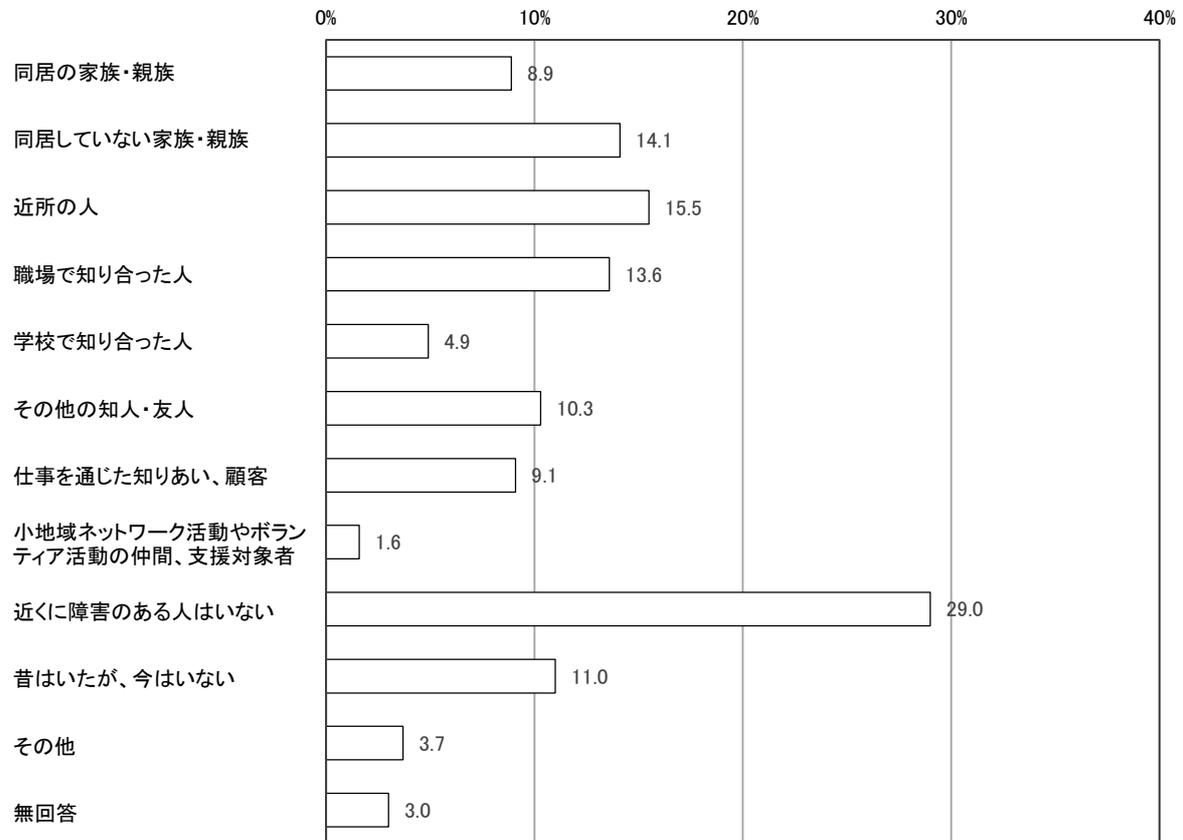


□ 18歳以上の障害のない市民（総回答数=427）

(11) 近くにいる障害や難病がある人〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

「近くに障害のある人はいない」が29.0%で最も多く、次いで「近所の人」が15.5%、「同居していない家族・親族」が14.1%となっています。

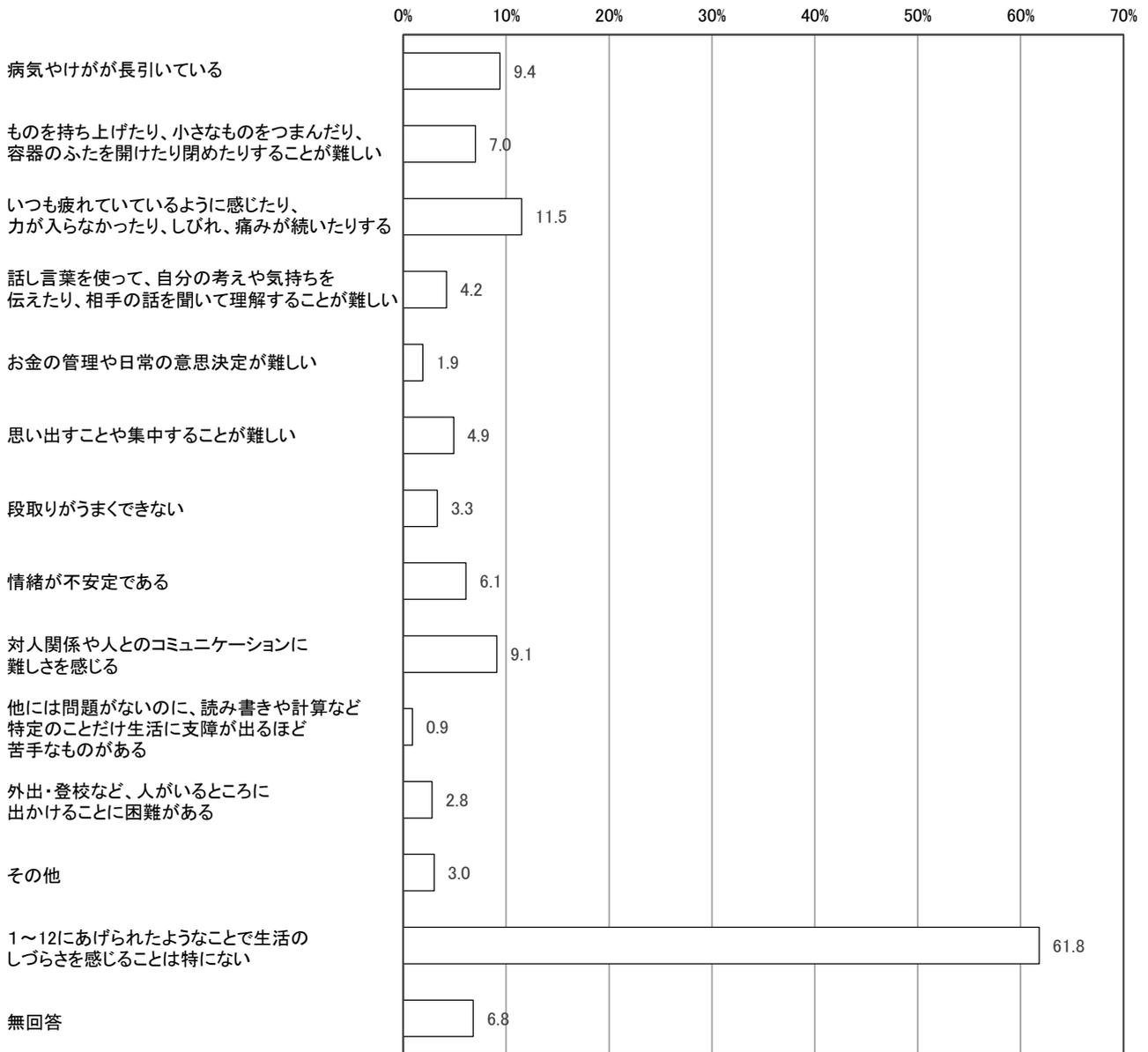


□ 18歳以上の障害のない市民(総回答数=427)

(12) 生活のしづらさを感じること〔複数回答〕

障害のない市民（調査④）

「1～12にあげられたようなことで生活のしづらさを感じることは特にない」が61.8%で最も多く、次いで「いつも疲れているように感じたり、力が入らなかつたり、しびれ、痛みが続いたりする」が11.5%、「病気やけがが長引いている」が9.4%となっています。



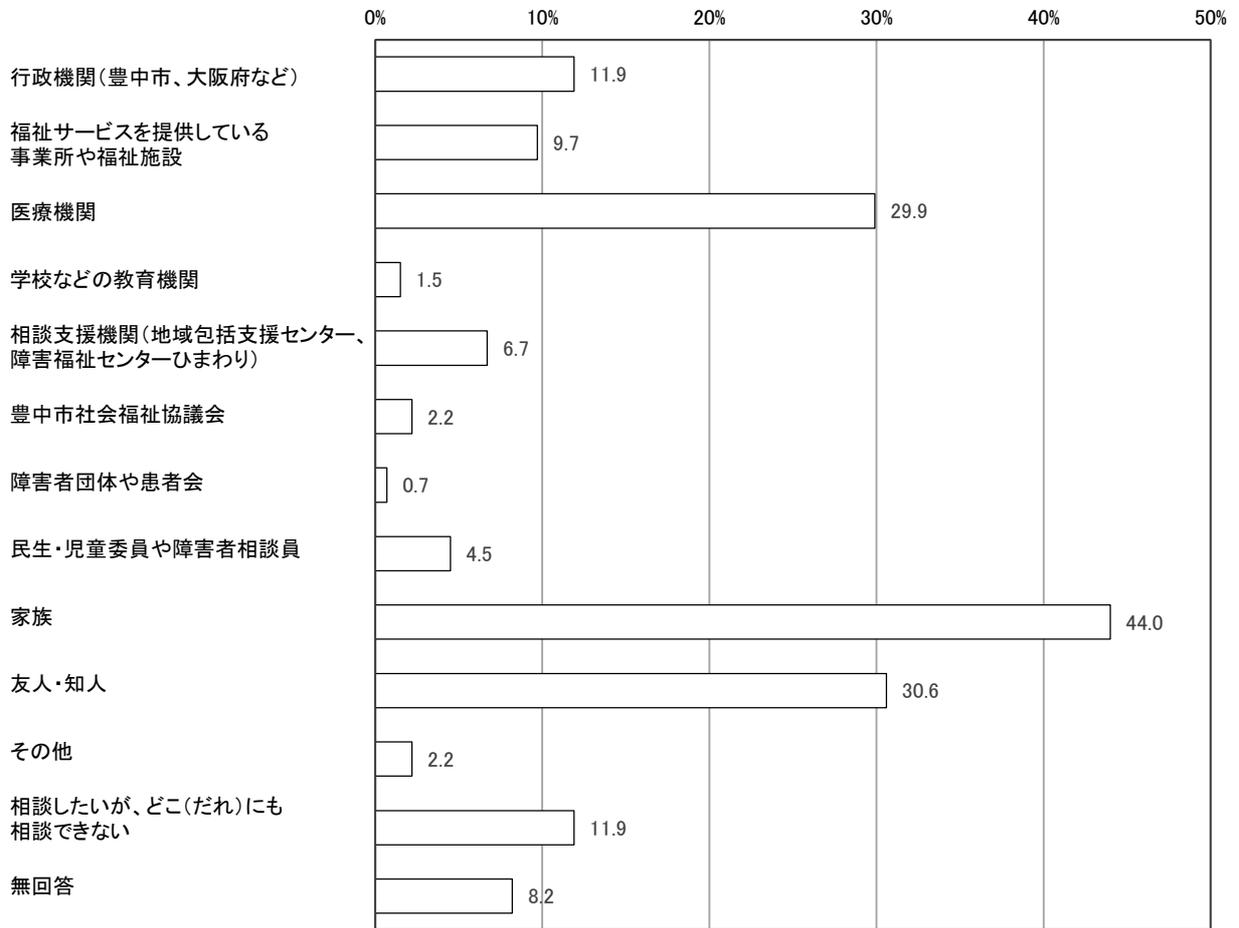
□ 18歳以上の障害のない市民（総回答数=427）

(13) 生活のしづらさに関する相談先〔複数回答〕

*『(12) 生活のしづらさを感じること』で「1. 病気やけがが長引いている」～「12. その他」と回答された方

障害のない市民（調査④）

「家族」が44.0%で最も多く、次いで「友人・知人」が30.6%、「医療機関」が29.9%となっています。



□ 18歳以上の障害のない市民(総回答数=134)

詳細 INDEX

I 調査の実施概要	1
1 調査の目的・対象・方法・期間	1
2 回収状況	1
3 調査結果を見る上での留意点	2
II 調査の結果概要	4
1 回答者の属性	4
1. 回答者、年齢、障害種別、住まい、その他	4
2. 介助・支援を必要とする人の介護・支援状況	5
2 政策指標に関わる状況	6
(1) ライフスタイルに応じた生活ができているか(調査①②③)	6
3 長期計画の施策に関わる状況	9
(1) 相談支援	9
1. 家族・親戚以外への相談状況(調査①②③)	9
2. 今、気にかかっていること(調査①②③)	12
3. 相談した際の評価(調査①②③)	15
4. 評価理由(調査①②③)	18
5. 相談しない理由(調査①②③)	21
6. 家族・親戚以外への相談状況(児童)(調査⑥)	24
7. 相談しない理由(児童)(調査⑥)	25
(2) 権利擁護	26
1. 権利を守るために必要だと思う手助けや取り組み(調査⑥)	26
(3) 障害者差別解消の取組・啓発交流	27
1. ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと(調査①②③⑤⑥)	27
2. 差別を受けた場面(調査①②⑤)	32
3. 差別を受けた場面(18歳未満)(調査③)	33
4. 差別を受けた場面(児童)(調査⑥)	34
5. 受けた差別の内容(調査①②③⑤)	35
6. 受けた差別の内容(児童)(調査⑥)	38
7. 「障害」「発達」の課題「難病」に対する市民の理解(児童)(調査⑥)	39
8. 情報の取得方法・媒体(児童)(調査⑥)	41
9. 「障害者差別解消法」の認知状況(調査①②③⑤⑥)	42
(4) 療育・教育	47
1. 教育現場における発達の課題についての理解度(調査⑥)	47
(5) 雇用・就労	48
1. 働くことへの意識(調査①②③)	48
2. 希望する支援(調査①②)	51
3. 働き続けるのに必要な支援(調査⑥)	53
(6) 生涯学習、文化・スポーツ活動	54
1. 休日などの過ごし方(調査①②)	54
2. 休日などの過ごし方(18歳未満)(児童)(調査③⑥)	56
3. 希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方(調査①②③)	58
(7) 自立した生活の支援	61
1. 希望する10年後の暮らし(調査①②)	61
2. 大人になったらしてみたいこと(調査③)	63
3. 地域での生活に必要なとする支援(調査①②③)	64
4. 暮らし方(退所して地域で生活したいと思った経験の有無)(調査⑤)	67
5. 退所したい理由(調査⑤)	68
6. 一緒に暮らしたい人(調査⑤)	68
7. 暮らす場所への希望(調査⑤)	69
8. 住まいへの希望(調査⑤)	69
9. 日ごろの昼間の過ごし方への希望(調査⑤)	70
10. 平日の夜間や休みの日の過ごし方への希望(調査⑤)	70
11. 地域での生活に不安に思うこと(調査⑤)	71
12. 地域生活移行等への意識(調査⑤)	72
(8) 生活環境	73
1. 外出の頻度(調査①②③)	73
2. 日中の過ごし方(18歳未満)(調査③)	76

(9)障害児支援の提供体制の整備等	77
1. 児童通所支援内容への満足度	77
2. 障害福祉サービスの利用状況(児童)(調査⑥)	78
3. 利用サービスの不満点の有無(児童)(調査⑥)	78
4. 不満内容(児童)(調査⑥)	79
5. 今後の利用希望(児童)(調査⑥)	80
6. 障害福祉サービスを利用しない理由(調査②③)	81
Ⅲ 調査の結果の詳細	83
1. あなたやご家族について	83
(1) 回答者の属性(調査①②③④⑤⑥)	83
(2) コミュニケーション方法(調査①②③⑤)	84
(3) 新型コロナウイルスにより困ったもの(調査①②③④⑤)	85
2. あなたの生活環境について	86
(1) 生活環境について(調査①②③④)	86
(2) ライフスタイルに応じた生活ができていますか(調査①②③)	90
(3) 外出の頻度(調査①②③)	91
(4) 外出時に困ること(調査①②③)	92
(5) ご近所とのつきあい方(調査①②③④)	93
(6) 日中の過ごし方(調査①②)	94
(7) 日中の過ごし方(18歳未満)(調査③)	95
(8) 休日などの過ごし方(調査①②)	96
(9) 休日などの過ごし方(18歳未満)(児童)(調査③⑥)	97
(10) 希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方(調査①②③)	98
(11) 希望する休日の過ごし方(調査⑥)	99
(12) 卒業後の進路(18歳未満)(調査③)	100
(13) 卒業後の進路(児童)(調査⑥)	100
(14) 働くことに対する意識(調査①②③)	101
(15) 希望する支援(調査①②)	102
(16) 仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援(調査①②③)	103
(17) 仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援(調査⑥)	104
3. 情報の入手と相談について	105
(1) 情報の必要性(調査①②)	105
(2) 情報の充足度(調査①②)	107
(3) 情報の必要性(18歳未満)(調査③)	109
(4) 情報の充足度(18歳未満)(調査③)	110
(5) 情報の必要性(児童)(調査⑥)	111
(6) 情報の充足度(児童)(調査⑥)	112
(7) 健康や医療面で不安に思ったり、困っていること(調査①②③)	113
(8) 健康や医療に関する情報の入手や相談で困っていること(調査⑥)	114
(9) 家族・親戚や日頃通う場所以外への相談状況(調査①②③)	114
(10) 今、気にかかっていること(調査①②③)	115
(11) 相談した際の評価(調査①②③)	116
(12) 「別の人に相談したい」「もう相談したくない」と思った理由(調査①②③)	117
(13) 相談しない理由(調査①②③)	118
(14) 今後の相談支援体制への希望(調査①②)	119
(15) 今後の相談支援体制への希望(18歳未満)(調査③)	120
(16) 家族・親戚以外への相談状況(児童)(調査⑥)	121
(17) 相談先(児童)(調査⑥)	121
(18) 相談しない理由(児童)(調査⑥)	122
(19) 今、気にかかっていること(調査⑥)	123
(20) 今後の相談支援体制への希望(児童)(調査⑥)	123

4. 療育・教育について	124
(1) 療育や教育に関する相談先(調査③)	124
(2) 療育や教育に関する相談への希望(調査③)	125
(3) 乳幼児期における母子保健や療育に関わることへの希望(調査③⑥)	125
(4) 児童通所支援内容への満足度(調査⑥)	126
(5) 希望する療育やサービス(調査③⑥)	126
(6) 充実が必要だと思う施策やサービス(18歳未満)(調査③)	127
(7) 充実が必要だと思う施策やサービス(児童)(調査⑥)	128
5. 災害など緊急時の対応について	129
(1) 最寄の避難場所の認知状況(調査①②③)	129
(2) 災害時における一人での避難ができるか(調査①②③)	129
(3) 避難等の援助を頼める人(調査①②③)	130
(4) 緊急時の対応について、重要だと思うこと(調査①②③)	131
6. 障害や難病のある人の人権・理解促進について	132
(1) 障害や難病があるためにあきらめたこと(調査①②③)	132
(2) 発達に課題があるためにあきらめたこと(調査⑥)	133
(3) ここ3年で、障害や難病のため差別を受けたこと(調査①②③⑤⑥)	134
(4) 差別を受けた場面(調査①②⑤)	135
(5) 差別を受けた場面(18歳未満)(調査③)	136
(6) 差別を受けた場面(児童)(調査⑥)	137
(7) 受けた差別の内容(調査①②③⑤)	138
(8) 受けた差別の内容(児童)(調査⑥)	139
(9) 権利を守るために必要だと思う手助けや取り組み(調査①②③⑥)	140
(10) 「障害」「発達の課題」「難病」に対する市民の理解(調査①②③④⑥)	141
(11) 市による「障害」「難病」の理解促進のための広報への参加有無(調査①②③④⑥)	143
(12) 情報の取得方法・媒体(調査①②③④⑥)	144
(13) 「障害者差別解消法」の認知状況(調査①②③④⑤⑥)	145
(14) 手話が言語であるという認識について(調査①②③④⑤)	146
7. 学校等教育現場での障害理解や合理的配慮について	147
(1) 教育現場における障害理解度(調査⑥)	147
(2) 「障害」「難病」の理解促進のために教育現場で必要だと思うこと(調査⑥)	147
8. 福祉サービスについて	148
(1) 障害福祉サービスの利用状況(調査①)	148
(2) 障害福祉サービスの利用状況(18歳未満)(調査③)	149
(3) 障害福祉サービスの利用状況(児童)(調査⑥)	150
(4) 利用サービスの不満点の有無(調査①)	151
(5) 利用サービスの不満内容(調査①)	152
(6) 利用サービスの不満点の有無(18歳未満)(調査③)	153
(7) 利用サービスの不満内容(18歳未満)(調査③)	154
(8) 利用サービスの不満点の有無(児童)(調査⑥)	155
(9) 利用サービスの不満内容(児童)(調査⑥)	155
(10) 今後の利用希望(調査①)	156
(11) 今後の利用希望(18歳未満)(調査③)	157
(12) 今後の利用希望(児童)(調査⑥)	158
(13) 障害福祉サービスの認知状況(調査②)	159
(14) 障害福祉サービスを利用しない理由(調査②③)	160

9. 将来の暮らしについて	161
(1) 希望する10年後の暮らし(調査①②)	161
(2) 大人になったらしてみたいこと(調査③)	162
(3) 将来の希望する生活に必要とする支援(調査①②③)	163
(4) 地域での生活に必要とする支援(調査①②③)	164
(5) 地域での生活に必要とする支援(児童)(調査①②③)	165
(6) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無(調査⑤)	166
(7) 退所したい理由(調査⑤)	166
(8) 一緒に暮らしたい人(調査⑤)	167
(9) 暮らす場所への希望(調査⑤)	167
(10) 住まいへの希望(調査⑤)	168
(11) 日ごろの昼間の過ごし方への希望(調査⑤)	168
(12) 平日の夜間や休みの日の過ごし方への希望(調査⑤)	169
(13) 地域での生活に不安に思うこと(調査⑤)	170
(14) 地域生活への移行等に対する意識(調査⑤)	171
(15) 地域移行支援の利用意向(調査⑤)	171
10. 障害や難病のある人に対する意識、かかわりについて	172
(1) 障害や難病がある人と話をする機会について(調査④)	172
(2) 障害や難病がある人への手助けについて(調査④)	172
(3) 障害や難病がある人とのかかわりで気づかされたこと・対応にとまどったこと(調査④)	173
(4) 障害や難病のある人への支援活動への参加状況(調査④)	173
(5) 支援活動への参加意向(調査④)	174
(6) 支援活動を活発にするために必要なこと(調査④)	174
(7) 障害や難病にある人にとって暮らしやすいまちと思うか(調査④)	175
(8) 暮らしやすいまちするために必要だと思うこと(行動)(調査④)	175
(9) 暮らしやすいまちするために必要だと思うこと(社会)(調査④)	176
(10) 暮らしやすいまちするために必要だと思うこと(環境)(調査④)	176
(11) 近くにいる障害や難病がある人(調査④)	177
(12) 生活のしづらさを感じること(調査④)	178
(13) 生活のしづらさに関する相談先(調査④)	179